

漁獲物價格 (內地)

昭和二年

種類別割合

魚類

藻類

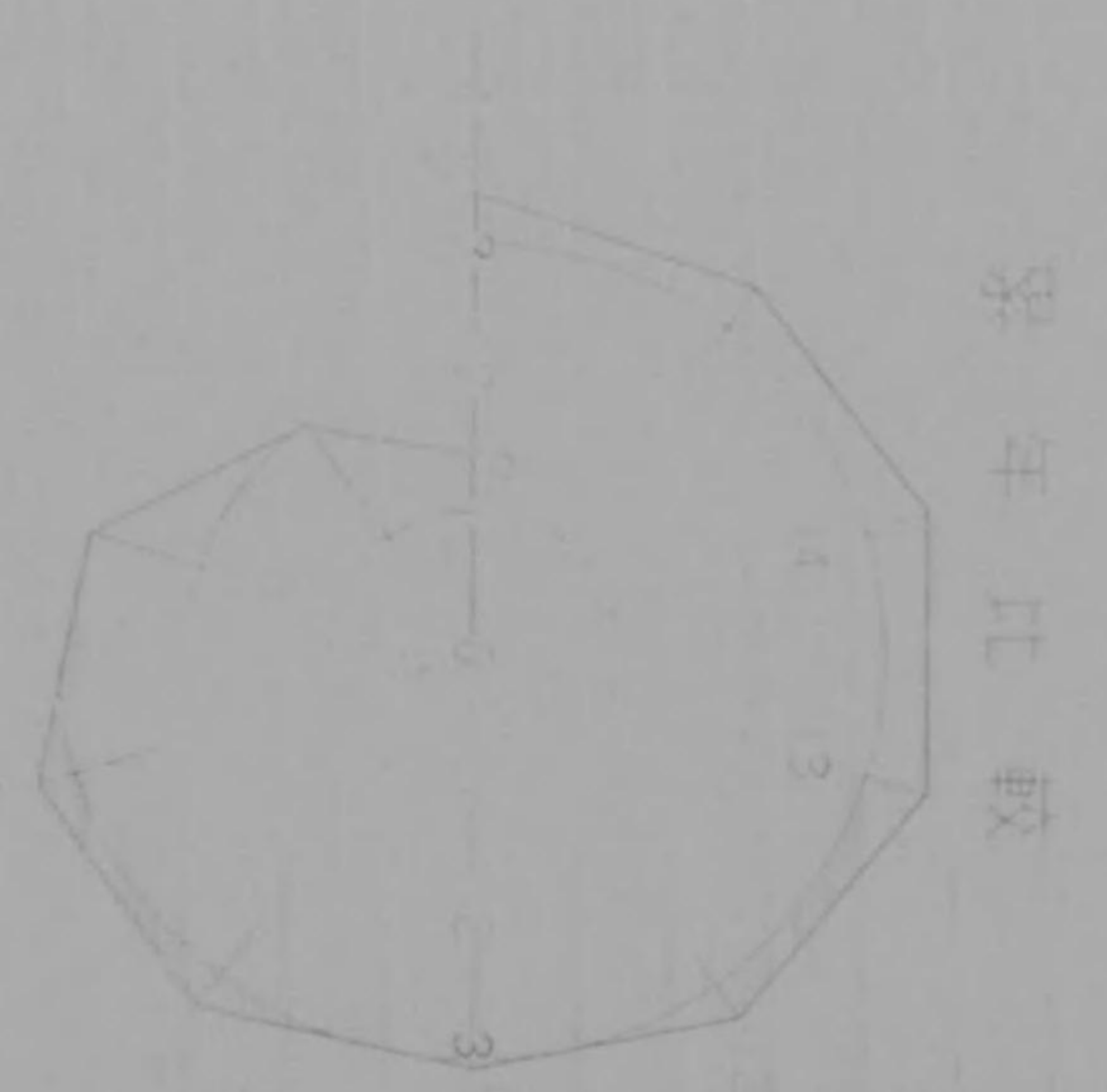
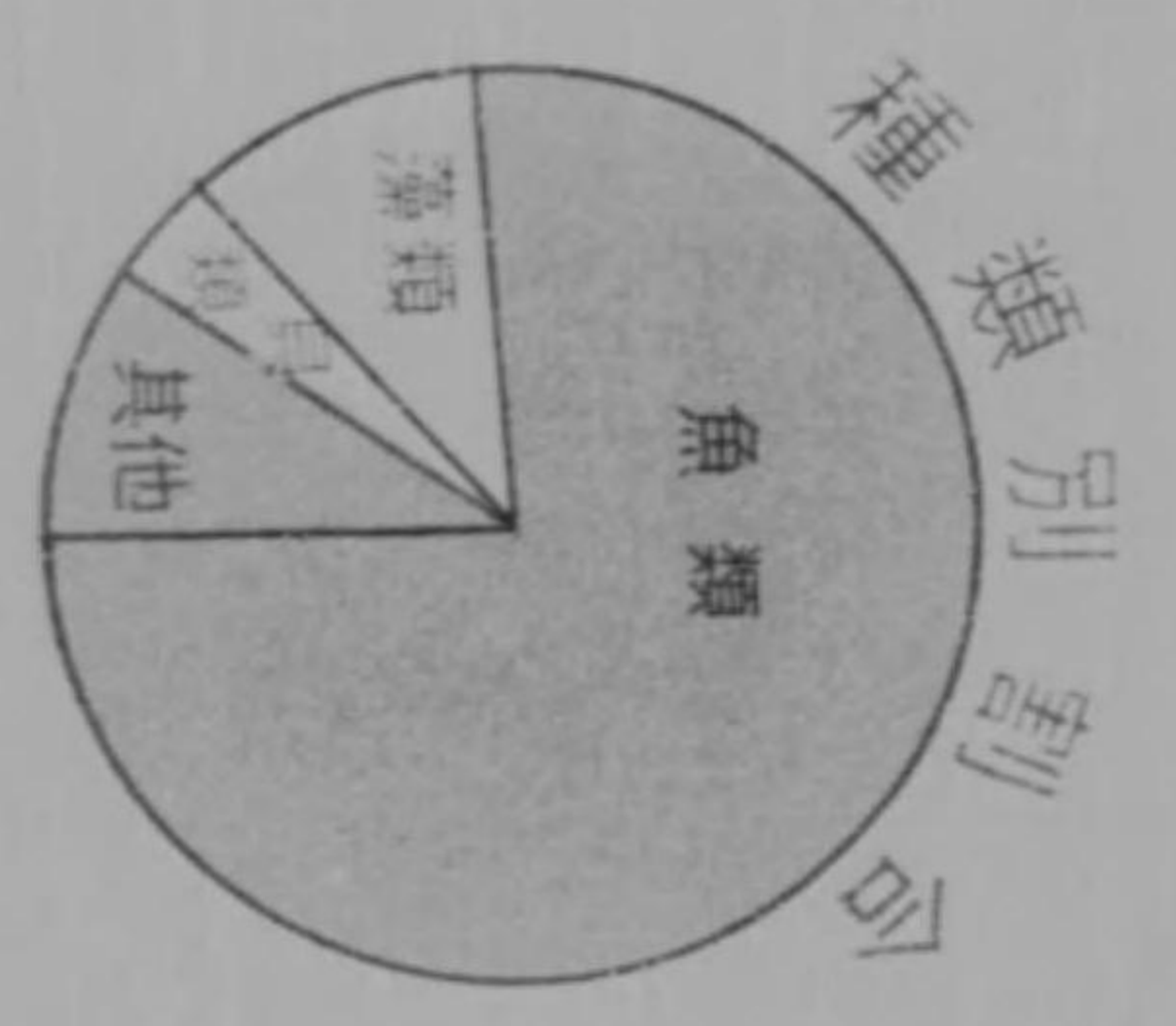
其他

年比較

漁獲物價格

漁獲物價格 (內地)

昭和二年



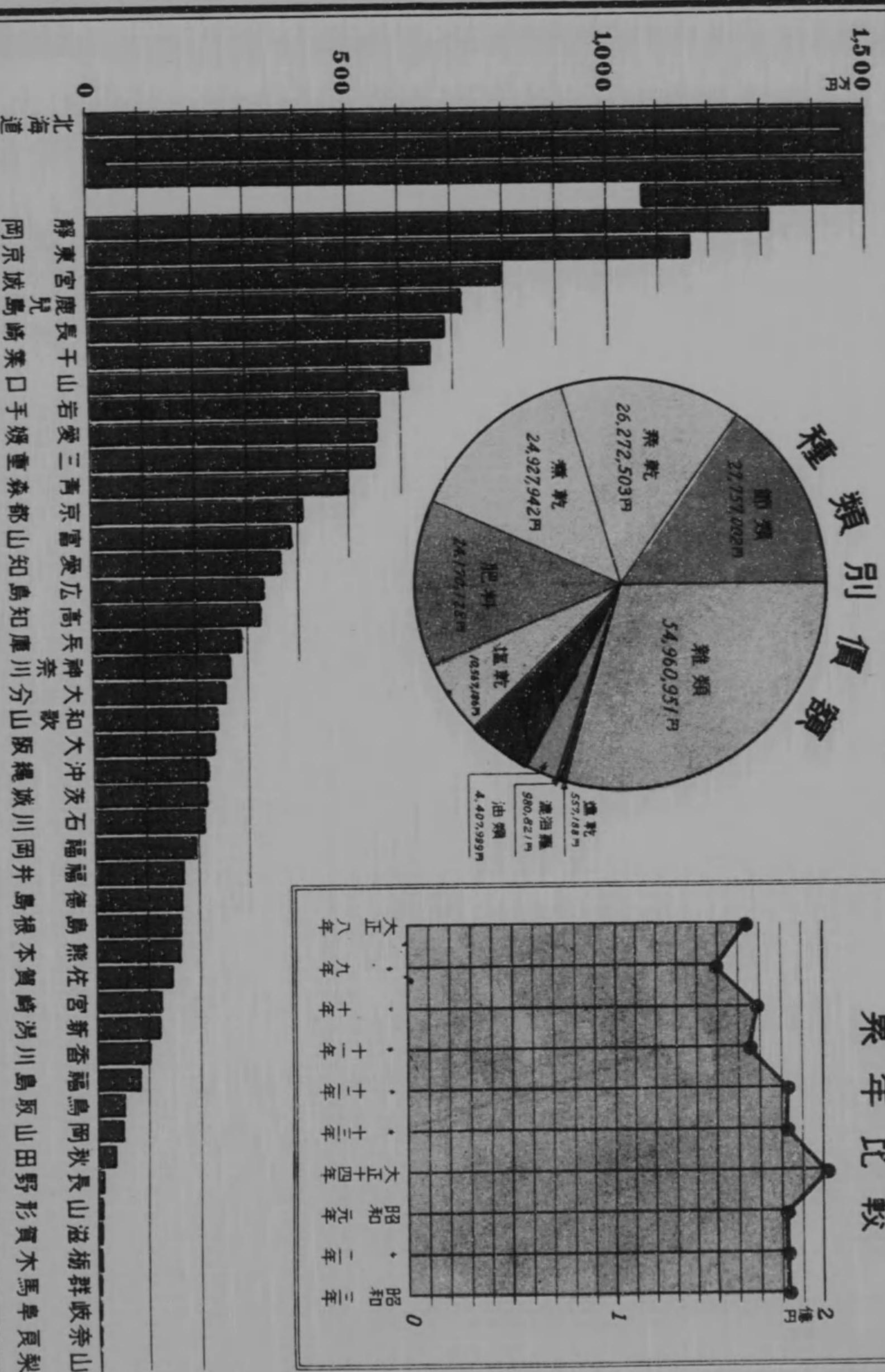
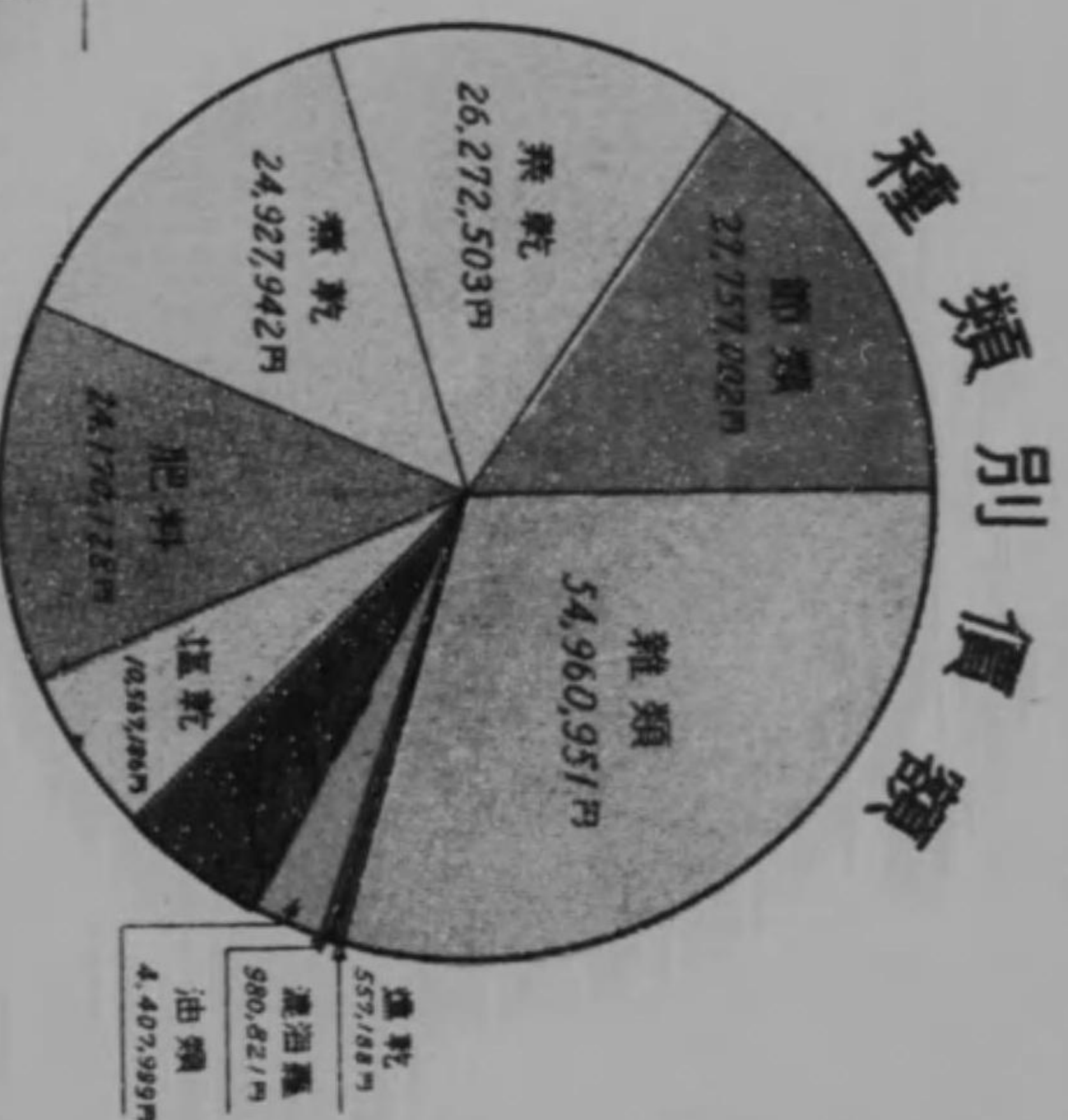
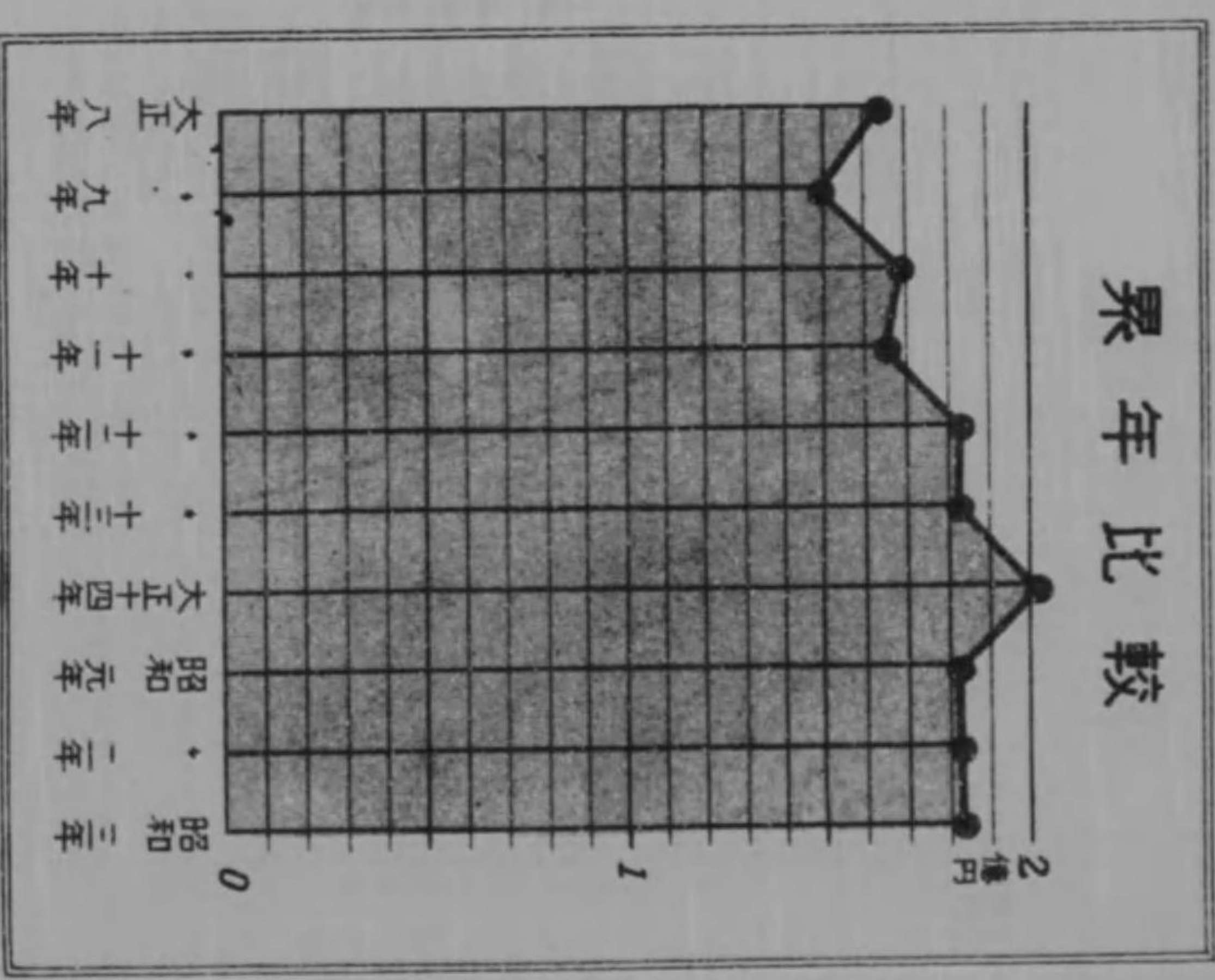
水産製造物價格

水産加工物としての價格は、生魚と同様之を年序を逐うて次第に増加を來し、ある。大正四年以來の趨勢を一瞥するも、驚くべき製造高を現出し、八年の一六〇萬圓、十四年には實に一九〇萬圓と計上せられた。製品の分類を一覽するとやはり筋類が一番多い、昭和三年度の上り高七、七五、七〇二四、素乾の二六、二七二、五〇三四之に強き、素乾が三位となつて居る。雑類合計が五四、三六〇、九五二四、であるが此の内には蒲鉾付輪の三〇、〇〇萬圓乾海苔の一五、〇〇萬圓等が含まれて居るのである。水産製造物一切の總計が一八三、九四二、八〇〇圓といふのは此の生産の大なる將來を提示して居るものであつて、地方別としては何といふでも北海道が第一位を占め、昭和三年度の額四九、二七五、七四四とあつて依然として他を抜くの概がある。静岡の素乾の生産は内地府縣別中の冠たるもので静岡の水産製造物中の殆ど九割を占め居るのである。加工の技術に優れた傳統に於て第二位の一三、一五五、九一四圓を示して居る。

水産製造物價額

昭和三年

累年比較



(農 林 省)

水产製造物價格

本圖顯示了水产製造物價格的年度比較。從圖中可以看出，價格在過去幾年中呈現出波動上升的趨勢。這反映了市場需求和生產成本的变化。具體的數據點將在圖例中詳細列出。

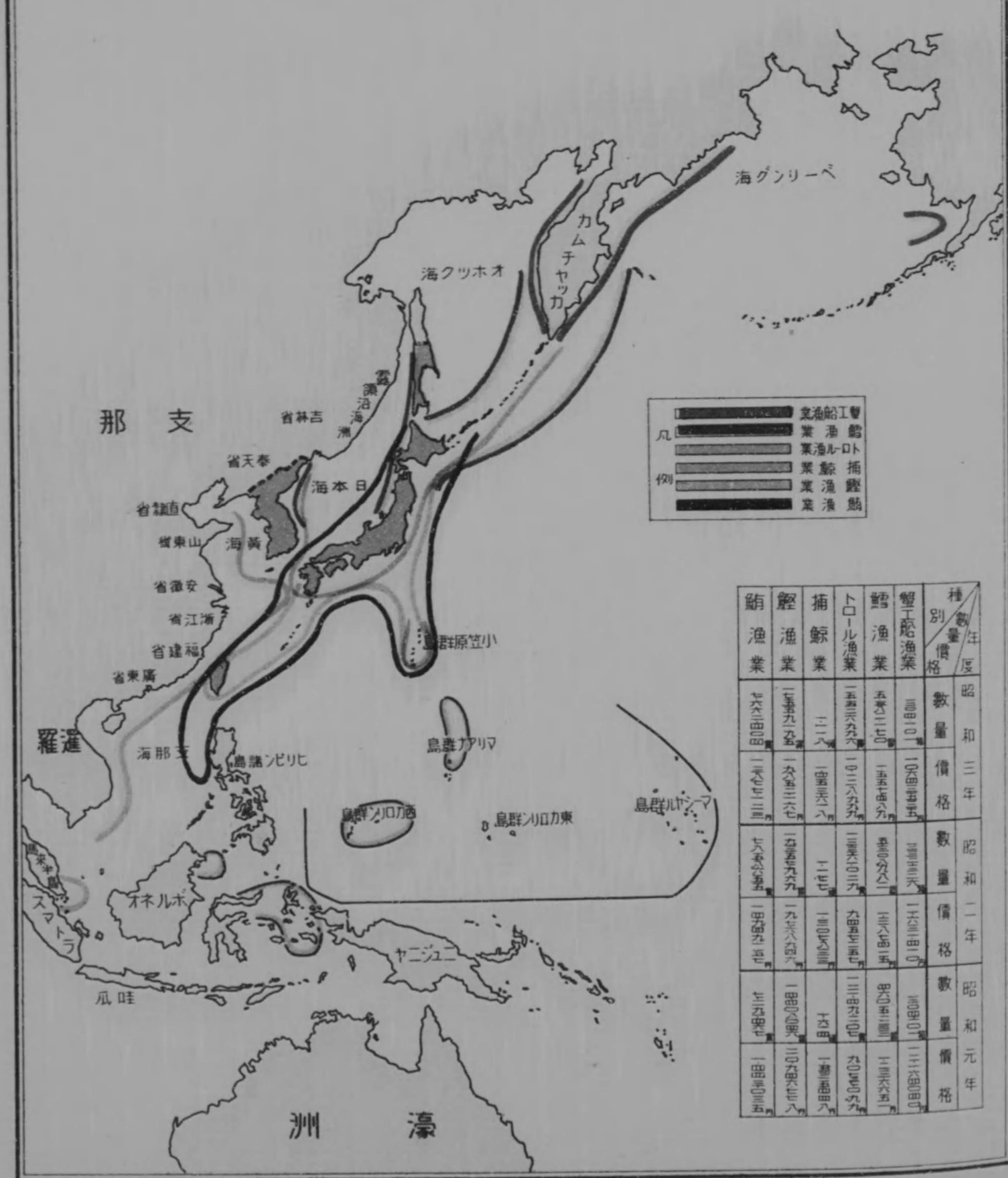
水产製造物價額

昭和二十一年



本圖顯示了水产製造物價額的年度比較。從圖中可以看出，價格在過去幾年中呈現出波動上升的趨勢。這反映了市場需求和生產成本的变化。具體的數據點將在圖例中詳細列出。

日本外洋漁業一覽表

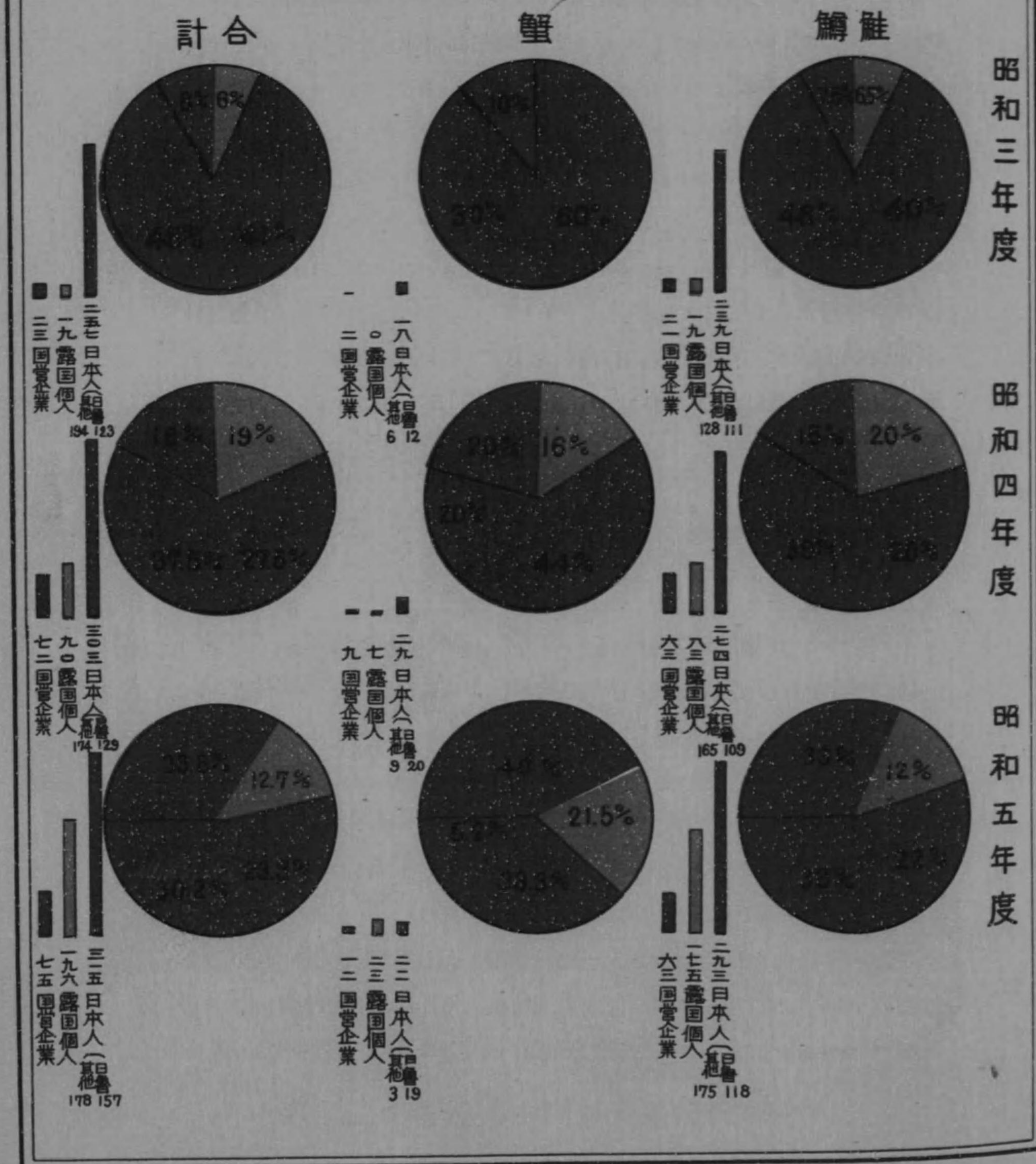


大日本水産會調查

日本外洋漁業一覽

これ即ち普通に言ふ遠洋漁業なのであつて、海國日本の生活技術が、斯ういふ點にもよく表現せられて居るのは、何といつても勇壯であり悦喜である。魚屬の海流に乗つて游行することは、立派な周期的現象となつて居るが、それを目指して遠く外洋に出漁することは大なる進歩で、此の経験と實際とでは世界の漁業家が遠く及ばない。北のベーリング海の奥深く、一方オホツク海を迂り、南は支那海から多島の南海に迄潮を乗切るのである。それ故に昭和元年以後の極めて短き期間の漁獲數量と價格とを一覽しても、確に増加する傾向にあるのは事實である。漁は其の中での最たるもので、トロール漁業はとかく難問題を惹起しながらも益々多く獲るばかりである。この漁業は法で禁ずるといふやかましい議論もあるが、果して外洋の魚を絶滅させるほゞ捕れるか否か、少しく問題が残さる方が研究になるであらう。かうして豊富の漁獲に伴ひ加工生産も増す譯である。

日露兩國經營漁區數比較圖



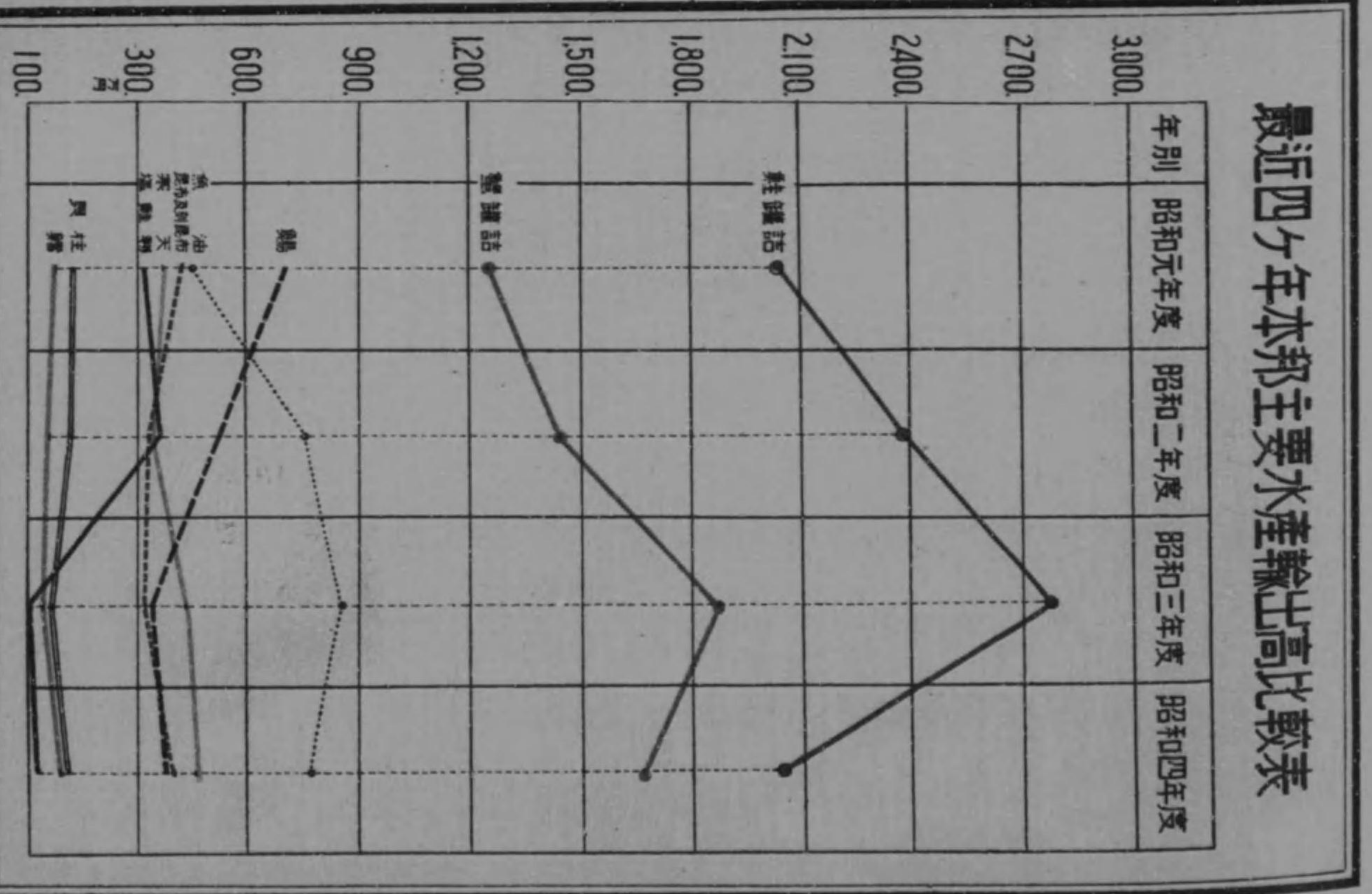
日露兩國經營漁區數比較

日魯漁業會社の北海極地近い漁區に於ける活動ぶりは、かういふ簡單なる圖面の數字の上からでもよく窺はれるものであつて、第一に場所が露國の沿岸であるだけに、この間の經營には兩國屢々争ひの形を見せて居るのは、當然のやうではあるが何となく落居せぬ心持であつた。つい近頃にも流血沙汰が、漁場に出稼する日露兩國漁民の間に起つた程である。かうした事態は覺悟の前だと言はぬばかりに出て行くが、こゝに掲げた昭和三年度からの比較を一見しても魯國は地理と經費の加減でこんなに日本人には負けて居るのである。天産の海幸を握ることの巧妙な日本人は、既に蟹は手の内にしてしまつて、今や色紅き鮭と鱒とに向つて躍進を企てさうして行つて居る。三年の日本人一三九人といふに四年二七四となり五年には二九三人となつたこれに五年の蟹の人間を加けて三一五人となり、魯の一九八を何のそのとばかり相手にしながら盛んに經營してゐるのは洵に勇しいかぎりではあつた。

紅鯨の名は二十年前までは、寧ろ珍品視せられたものの代名詞もなつたのであるが、航路の往復が繁くなると同時に、是を罐詰にする方法に革命が起つて、世界的漁業を有する地たとへばアラスカ・加拿大・米國・シベリア等の大産地では、これを加工し製造して世界の市場に送り出すやうになつた。これは近々十年この方の非常なる發達であつて、この製造事業は勿論かなり以前から小規模には在つたけれども、世の市場に比肩し出したのは恐らく日本の大正期に入つてからであつたらう。試みに大正九年アラスカの製品を見ても、百五十萬圓を唱へて居るのが、十一年二百萬圓となり、昭和元年二百二十萬圓の位置に辿りかゝして居る。大正十四年の不況は日本とは正反對であつて、歐洲大戰直後の反動がこの事業の進出を、すべての方面で一時阻止したのである。然しながら紅鯨の需用は米國物の冠群を以て、全世界の隅々に行はれて居る。英のコロンビアの數

大正十四年に於ける日本内地沿岸の漁獲高二億五千八百萬圓、水産養殖場の收穫一千八百萬圓と算せられたが、この年が最近に於ける巨額ともなつて居る。内國の消費が重で、この内他へ輸出は四千萬圓内外のみであつた。今近い年代の昭和元年度から四ヶ年間に於ける主要なる水産物の輸出高を一見すると、鯨の罐詰が最も多くて即ち加工品としての輸出となり、昭和三年の如きは價格の遠く蟹罐詰ともにより結果を齎らしたものであつた。これに比すると漁油などは至り少額で、其の他の加工品はもはや同日の論ではない。鯨も蟹も北海が最も巨額を出して居る。雜加工品も漁油と同時に販路が擴大されると支那などへも遣々入込むことであらう。南洋諸島領國にして以來は、この島々がよりとして更に一層大なる漁業が行はれんとして居る。此の結果はこゝ數年後に期待すべきものであらうと考へる。

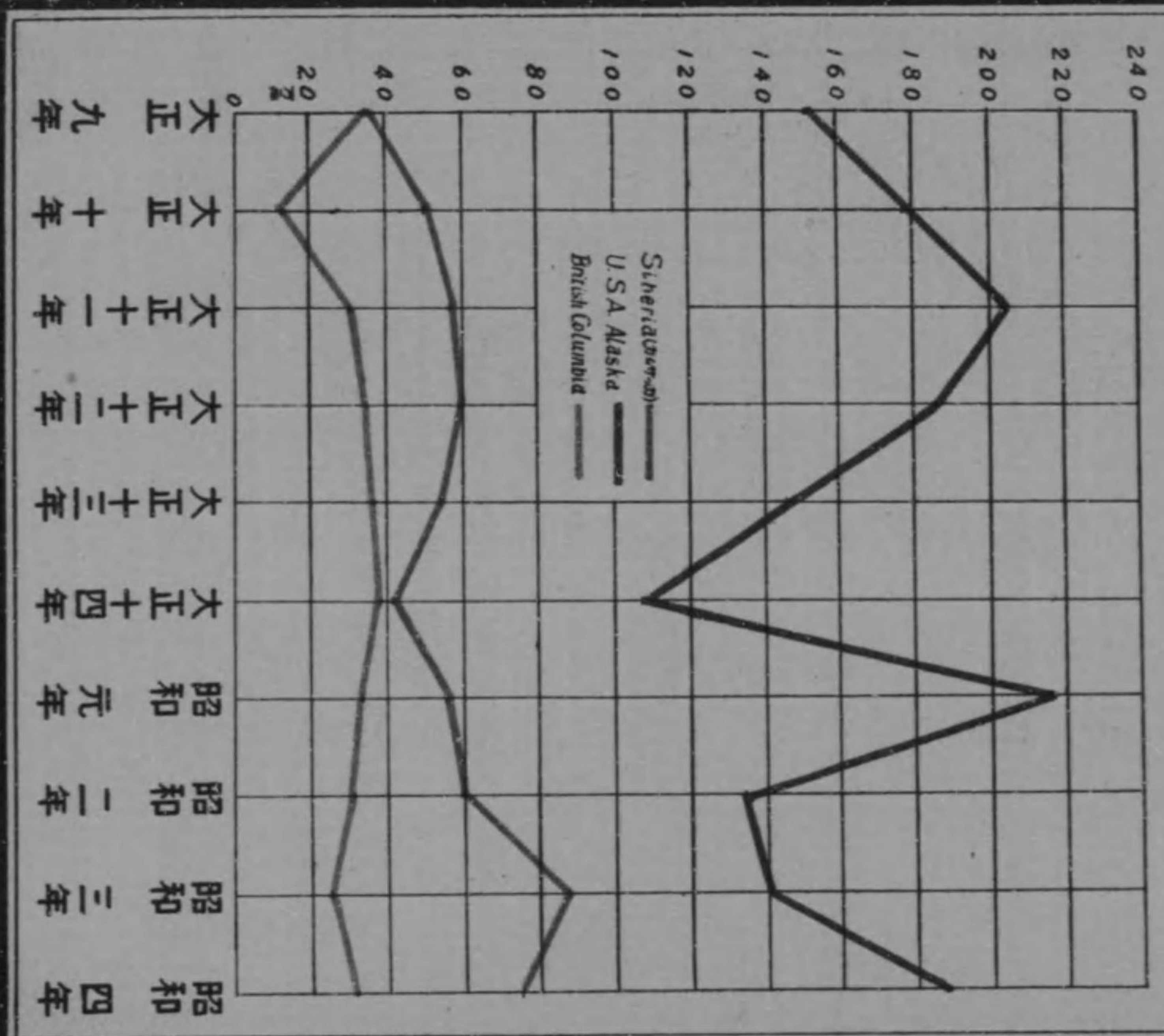
最近四ヶ年本邦主要水産輸出高比較



最近四ヶ年本邦主要水産輸出高比較表

紅鯨罐詰製造高表

米國、アラスカ、加拿大、並シベリア最近十ヶ年間



力二罐詰輸出對照表

ANNUAL EXPORTS OF CANNED CRAB

年度別 YEAR	大正十四年 1925	大正十五年 1926	昭和二年 1927	昭和三年 1928	昭和四年 1929	昭和五年 1930
北米合衆國 U.S.A.	165.856	182.106	217.756	284.704	231.288	
加拿大 CANADA	0	1.673	3.250	5.395	6.068	
布哇 HAWAII	3.965	2.919	6.207	3.882	3.258	
英吉利 ENGLAND	35.716	69.745	112.125	163.120	91.554	
濠洲 AUSTRALIA	4.885	9.313	13.827	18.212	23.995	
佛蘭西 FRANCE	1.129	1.03	2.816	10.447	12.767	
獨逸 GERMANY	0	4.544	4.361	3.949	4.478	
丁抹 DENMARK	0	4.252	9.247	7.934	8.156	
瑞典 SWEDEN	0	300	1.552	141	413	
和蘭 NETHERLANDS	0	0	705	1.114	1.443	
白耳義 BELGIUM	0	0	1.322	4.263	5.122	
希臘 GREECE	0	0	2.926	1.621	4.428	
中南米 CENTRAL AMERICA	0	0	1.170	1.187	1.492	
南洋 OCEANIA	0	0	2.034	500	357	
支那 CHINA	0	0	1.821	1.831	1.672	
其他 OTHERS	6.166	3.426	347	614	947	
計 TOTAL	217.717	278.381	381.470	508.912	389.433	
對比指數 INDEX NUMBER	100	128	175	233	183	

備考 一箱 48 ILB tins or 96 LB. tins or 96 1/2 LB. tins

蟹罐詰輸出對照表

蟹工船の名が時に陰影を伴ふものと見做されることほき、北海の漁業は荒々しく、さうして北海特産としての蟹は無盡蔵であつた。蟹の罐詰にはもはやかなりの経歴も伴つて居るのであるが、是れが販路の世界的進出については、歩調がなかくに揃はず、現に隣邦支那への輸出なきは、昭和も二年になつてから、目ほしい品を送る様になつて居る。支那は食品として蟹を用ひること恐らく歐米人にも劣らぬが、對日本の罐詰より以前に、自國産の生食の外に、米國邊から飛越えて入來する物もあつた。米國が第一の華客であつて、是れはアラスカの漁場を有しては居るが、やはり日本品をよく賞美するのであつた。輸出の逐年数は此の表に基いて更に將來をも豫測すべく、布哇の一島が佛蘭西よりも常に多いのは、太平洋中の是非とも寄航すべき位置にある利便からであつて、もし佛國が増大するならそれより先に英國へ尙一段と嵩じて行くだらう。南洋諸島なきは早い話がこれからの仕事である。

力二罐詰輸出對照表
ANNUAL EXPORTS OF CANNED CRAB

年度別 仕向國別 YEAR DIRECTION	大正十四年 1925	大正十五年 1926	昭和二年 1927	昭和三年 1928	昭和四年 1929	昭和五年 1930
北米合衆國 U. S. A.	165.856	182.106	217.756	284.704	233.283	
加 拿 大 CANADA	0	1.673	3.250	5.393	6.068	
布 哇 HAWAII	3.965	2.919	6.207	3.882	3.258	
英 吉 利 ENGLAND	35.716	69.745	112.125	163.120	91.554	
濠 洲 AUSTRALIA	4.885	9.313	13.827	18.212	23.995	
佛 蘭 西 FRANCE	1.129	103	2.816	10.447	12.767	
獨 逸 GERMANY	0	4.544	4.361	3.949	4.478	
丁 扶 DENMARK	0	4.252	9.247	7.934	8.156	
瑞 典 SWEDEN	0	300	1.552	141	413	
和 蘭 NETHERLANDS	0	0	705	1.114	1.443	
白 耳 義 BELGIUM	0	0	1.322	4.263	5.122	
希 臘 GREECE	0	0	2.926	1.621	4.428	
中 南 米 CENTRAL AMERICA	0	0	1.170	1.187	1.492	
南 洋 OCEANIA	0	0	2.034	500	357	
支 那 CHINA	0	0	1.821	1.831	1.672	
其 他 OTHERS	6.166	3.426	347	614	947	
計 TOTAL	217.717	278.381	381.470	508.912	399.433	
對比指數 INDEX NUMBER	100	128	175	233	183	

備考 單位 兩 一兩、半封度罐八打入 四分一封度罐八打入 又、一全度罐四打入
One case contains 48 1LB tins, 96 1/2LB tins or 96 1/4LB tins.

蟹 罐 詰 輸 出 對 照 表

蟹王船の名が時に陰影を伴ふものと見做されることは、北海の漁業は定々しく、さうして北海特産としての蟹は無盡蔵であつた。蟹の罐詰にはもはやかなりの経験も伴つて居るのであるが、それが販路の世界的進出については、少詞がなかりに擯はず、現に隣邦支那への輸出などは、昭和も二年になつてから、日ほしい品を送る様になつて居る。支那は食品として蟹を用ひること恐らく歐米人にも劣らぬが、對日本の罐詰より以前に、自國産の生食の外に、米國邊から飛越えて入米する物もあつた。米國が第一の華客であつて、是れはアラスカの漁場を有しては居るが、やはり日本品をよく賞美するのであつた。輸出の逐年数は此の表に基いて更に將來をも推測すべく、布哇の一角が佛蘭西よりも常に多いのは、太平洋中の是非とも寄航すべき位置にある利便からであつて、もし佛國が増大するならば、それより先に英國へ向一段と嵩じて行くだらう。南洋諸島などは早い話がこれからの仕事である。

内地鹽產地圖

明治三十九年の製鹽國營は、煙草と同様財政上の稼源にはなつたが、鹽その物の性質が社會政策の見地からしていつまでも嚴重なことはかりは言つて居られず、殆ど無利益で拂下けるやうになり稍々緊縛からと脱したが全部が海水より製する如き日本では、券銀や燃料の關係から至て賤いものにつき、日常生活唯一の必需品ながら随分高價鹽を用ひて居るのである。それに十州鹽田を保護しては政府は高價に賣つて居るのである。昭和四年度の本邦内地産額は六四四、一四九、八〇〇噸を算せられた。世界各地方の産額と比較しては、勿論佛國の少額にも及ばぬが、日本内地では最も瀬戸内海に面する兩州沿岸がよく發達して居る。即ち香川の昭和四年一七、七、四三〇、二〇〇噸を筆頭として、山口の九九、二六五、二〇〇噸が之に亞き兵庫が三位で八五、四一八、〇〇〇噸上であつた。關東以北では獨り宮城あるのみで、山鹽を産せぬからとすると内地産を買ふよりは、外鹽を輸入する心が起り易いのである。

内地鹽產地

(昭和四年度)

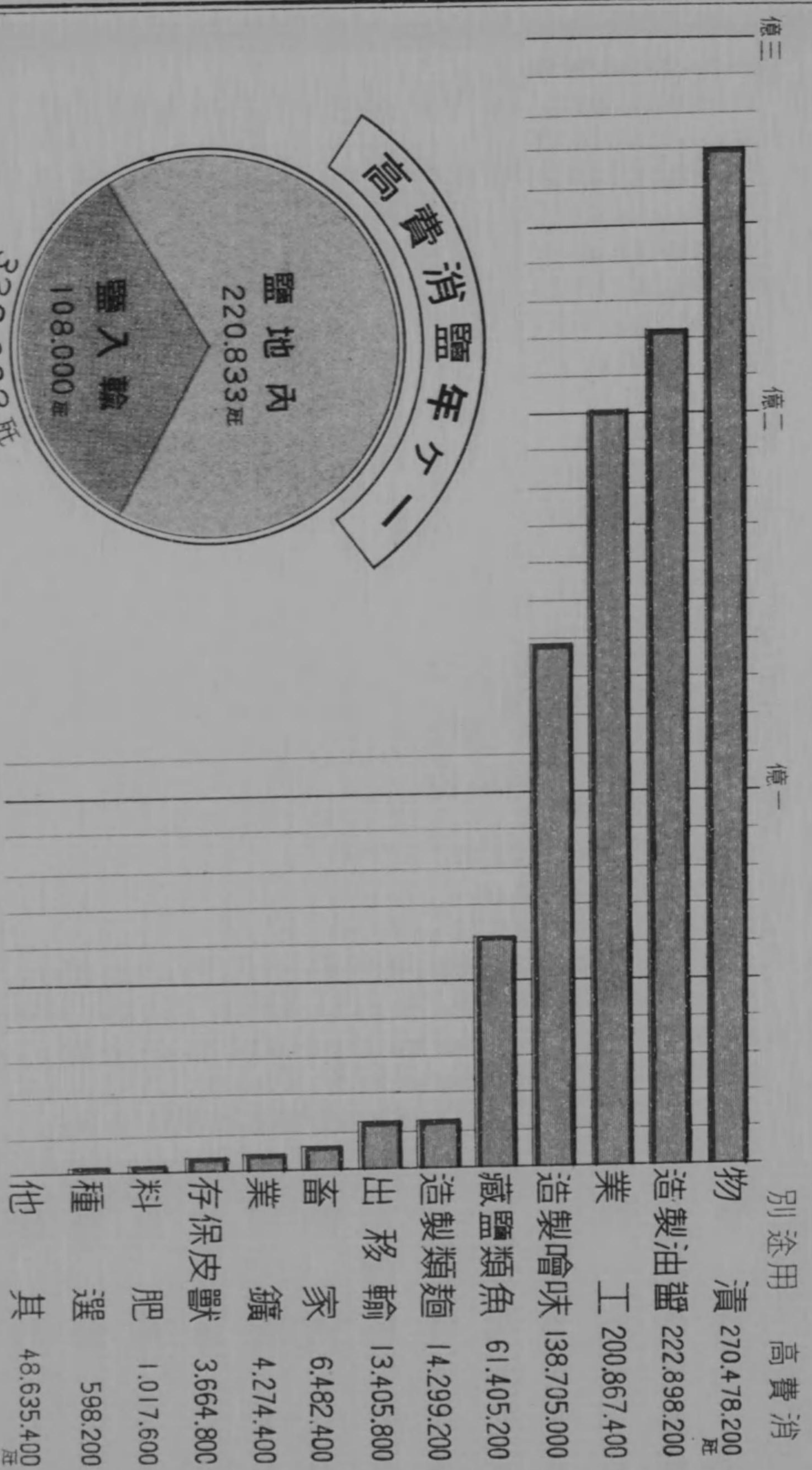
香川縣	七、〇〇〇、〇〇〇
兵庫縣	六、〇〇〇、〇〇〇
山口縣	九、九〇〇、〇〇〇
岡山縣	六、〇〇〇、〇〇〇
廣島縣	五、〇〇〇、〇〇〇
德島縣	三、〇〇〇、〇〇〇
愛媛縣	四、〇〇〇、〇〇〇
大分縣	五、〇〇〇、〇〇〇
愛知縣	三、〇〇〇、〇〇〇
福岡縣	六、〇〇〇、〇〇〇
鹿児島縣	五、〇〇〇、〇〇〇
宮城縣	五、〇〇〇、〇〇〇
沖繩縣	二、〇〇〇、〇〇〇
石川縣	三、〇〇〇、〇〇〇
其他	五、〇〇〇、〇〇〇
計	六、四、四、一、四、九、〇、〇



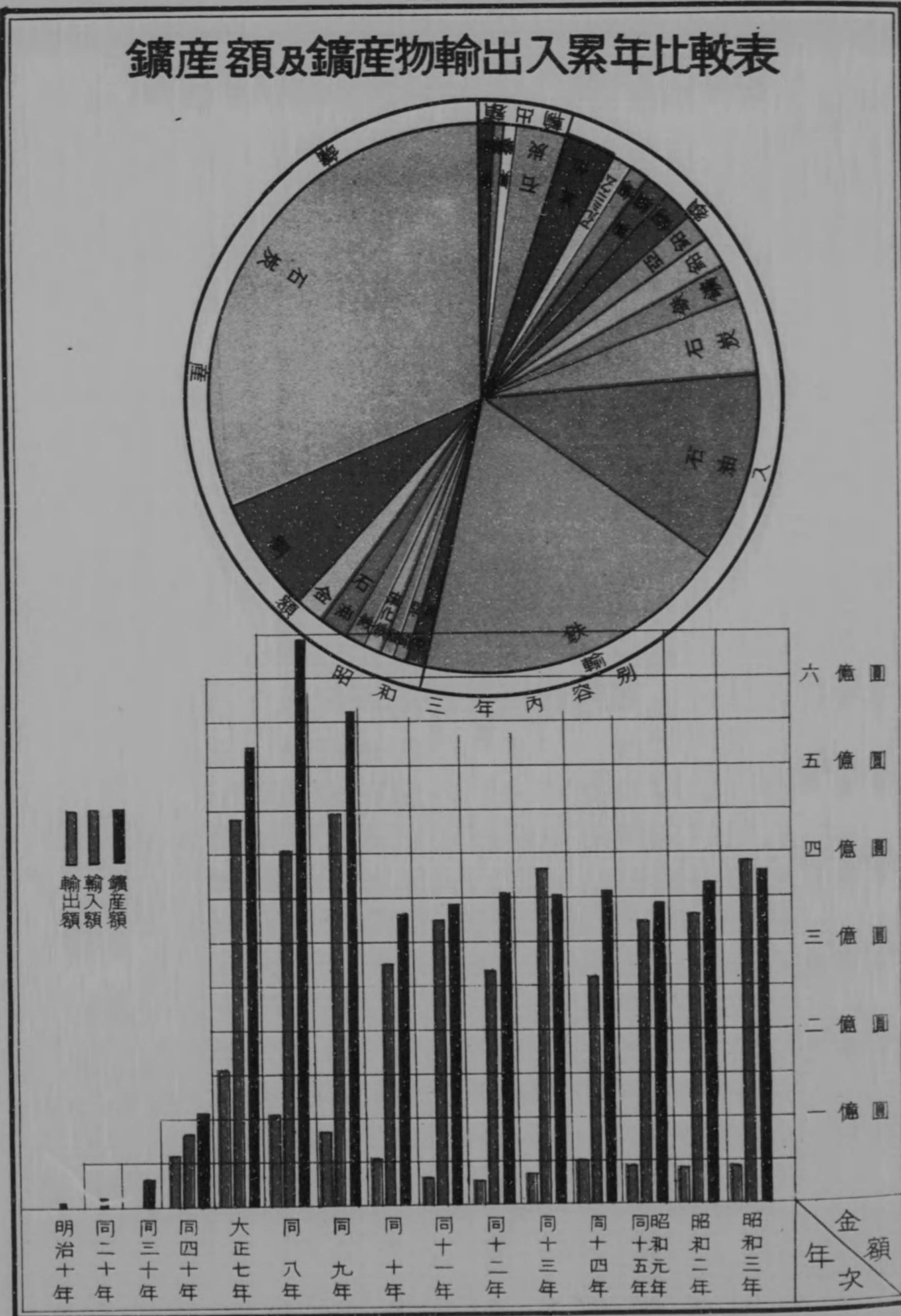
鹽用途別消費高

平常に於ける曹達工業の獨立を見ても、内地産鹽を保護することは、確かに一つの研究問題たるを失はねばならぬと思ふ。外鹽を輸入しやすいこと及び必ず輸入を俟たねばならぬ事は、たとへば昭和四年度の消費高三二八、八三三抵のうち、輸入鹽が一〇八、〇〇〇抵といふを見ても、亦頗ける事實である。鹽が生活物資中の必需第一品たることは、改めて言ふ必要もなからうが、およそ鹽が我々の周圍で、きういふ風に消費せられるものは、恐らく何人も間かんさする處であつた。其の切實なる質問に答へるのが此の圖表なのである。日本人の漬物嗜好が、先づ用途別消費の第一等といふに至っては、少し突然さする處が無いであらうか。昭和四年に漬物用となつた高が二七〇、四七八、二〇〇抵、醬油製造用が或は一位かと思ふが、漬物には及ばなかつた。工業用、味噌製造用、何れも醬油にさへ及ばず、其の他の用途に至ては消費と云つても知れたものである。これなきも實は意外なる知識なのである。

鹽用途別消費高
(度 年 四 和 昭)



鑛産額及鑛産物輸出入累年比較表



商工省鑛山局

鑛産額及鑛産物輸出入累年比較

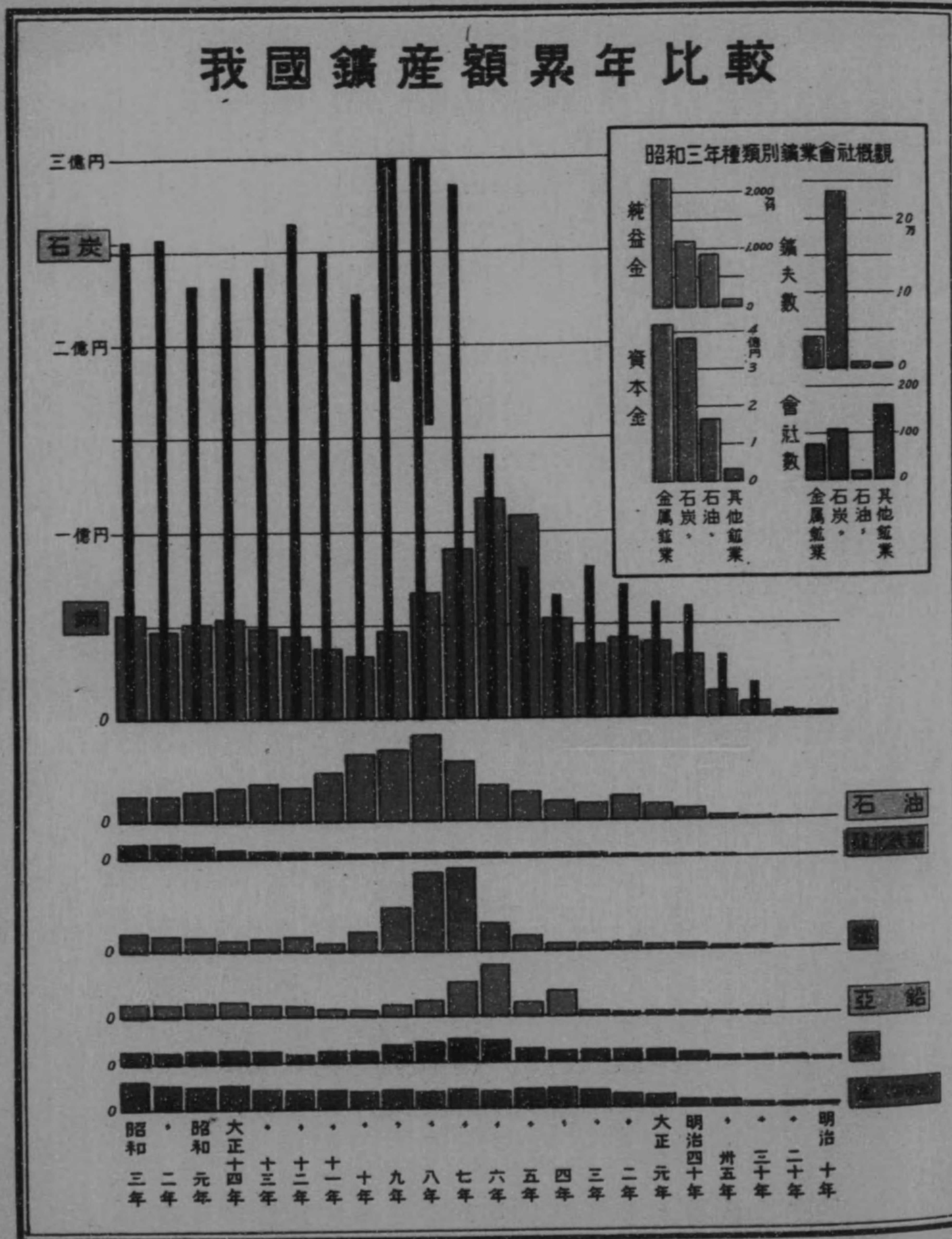
日本の地下埋藏の鑛物も種類は多いが、其の量に至ては洵に貧弱なものである。土石と石炭位が國內の需要の一部を稍々充たす位である、石炭の産額は約三十萬噸といはれ、二百萬噸程を輸出するが、之と同時に殆ど同數若しくはそれ以上の額を輸入して居る。昭和三年度に於ける鑛産中やはり石炭が最も巨額に産出して居り、銅は量こそ石炭に劣るが此の價額は世界中第四位を占めて居る。同年の輸入を検すると、最も供給を仰がねばならぬ物は鐵で、棉花と同じくこれには累年困却するものであつた。最近の需要額は一ヶ年約二百萬噸と算せられ、米・英・佛・獨其の他から輸入せねば増加する需要を充たす譯には行かぬ。石油も亦然りである。これは國內油井の凋渴を言ふよりは、寧ろ其生産費と油質の上に於て敢て輸入品に對抗が出来ぬのではあるまいかといふ現狀である。此の趨勢を觀察すべき一切の事實は此の統計圖が頼りに説明を試みて居るのである。

鑛產額及鑛產物輸出入累年比較表



石油
 鐵
 煤
 錳
 錫
 鋅
 鉛
 銅
 其他

我國鑛産額累年比較

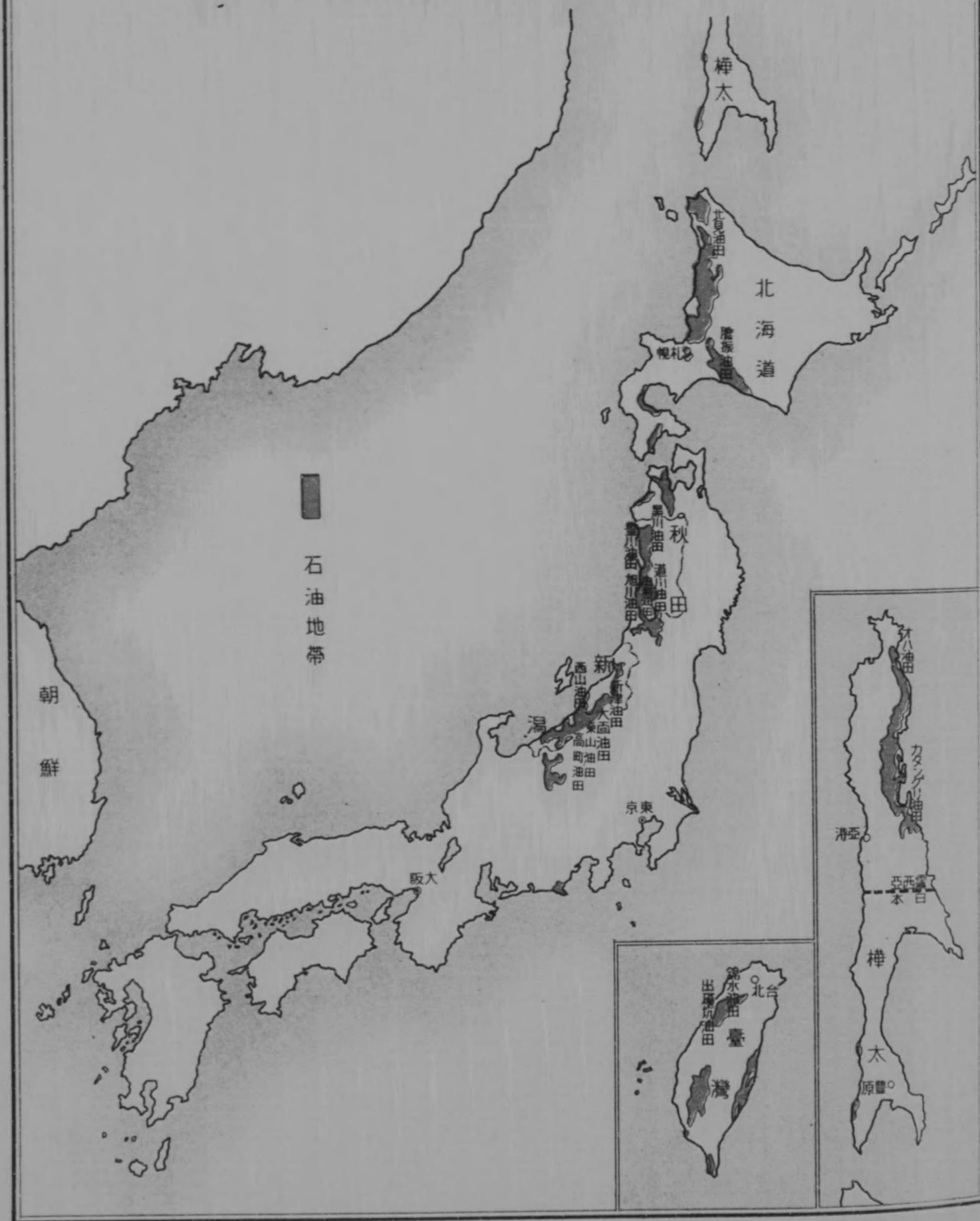


(商工省鉱山局)

我國鑛産額累年比較

早い話が日本は地積も狭いし、他の列國に比しても天然地下埋藏物の量の豊富といふことには断ぜられぬ。石炭、鐵石、油それらも年を逐うて需用の割す割には、國內使用の量をたつぷりと充してやることが出来ず、勢ひ他から澤山の輸入を仰ぐと、かういふ譯になるのである。明治十年以來の本國を眺めると、古く珍しいといふ心以外に何となく人を撲つ氣の出でることを感ぜずには居られぬ。石炭は大正六年の採掘額一四〇、〇〇九、五九一圓であつたものが、世界の需用が愈然として日本に向つて來た爲に、七年二八六、〇三二、四九八圓、八年に及んで四四二、五四〇、九四一圓と算せられ、正に日本探炭史上の一餉を飾るやうになつた。しかし其の後の趨勢は、必ずしもこの好況を持続する譯には行かず、他の石油も鐵も大略はこれと似た経過を示して居るのは、世相の變轉が國の一切の産業に波及する現象を、今更ながら熟々と察せざるを得ない。錫も亞鉛も大戰時代に擡頭し來たつたのである。

日本帝國石油分布圖



日本石油株式會社

日本帝國石油分布圖

汽車はともかく石油がなければ大抵の交通機關が止まつてしまふ。船舶なにも歐
 洲戦後は石炭から石油に急激な勢で轉化しつゝある。列國が油田の爭奪に熱中し
 て居るのは尤もな次第であらう。日本の石油分布圖を一見すると、それが全國に
 普遍して居るのではなく、産油の額も先年迄は一億ガロン内外といはれたものが、
 此の頃は減少して來た。反對に需用の方が益々多くなつて居る。國産額の二倍に
 もなつて來た。日本の油田が枯れて出ぬやうになつたかと言へば決してさうでは
 なく、埋藏量尙二三十億バレルはあるといふ。して見ると百年位は大丈夫だら
 うが、只原油採取の費用が高くなり一方勞働賃銀の問題がやかましくなつたりす
 るものだから、低廉な原油をよこす米國物が歡迎せられて、茲ししばらくは日本國
 内の油坑に手をつけぬといふ程居にあるらしい。供給する土地があるからよいが
 苦し來なくなつたらさうするかといふ國內を省みる時の用意としては、この分布
 圖は絶好の資料なのである。

最近五ヶ年間本邦石油需要趨勢

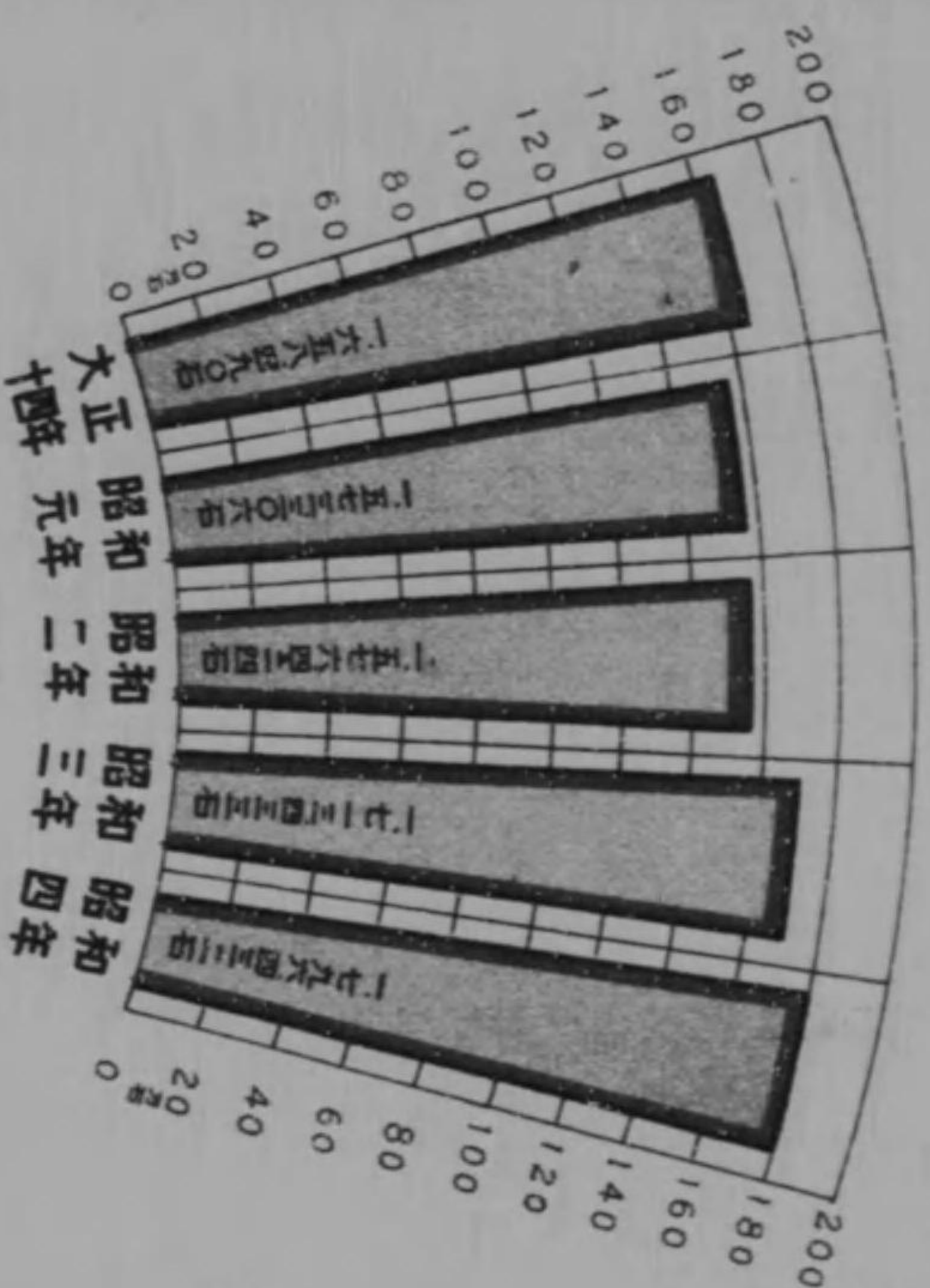
石油の本邦内に於ける分布が、概略明らかになつたから、次に大正十四年以來五ヶ年間に於ける數量の需要があつたかを、觀察するのも決して徒勞ではなかつた。此の圖表に載る種類別五種の油類に就ても、各々各自通り性能があり、而も次第に増加の傾向にあつたことは否まれぬ。重油は近世の之を要する機關が、海陸ともに非常に多くなつたから、趨勢のこゝに及ぶのは當然であつて、大正十四年の五、一二千噸といふのが昭和四年には實に一七、一九千噸と昂騰した。それに純然たる機械油も、之に準じて十四年三、五二八千噸が昭和四年には五、五二千噸と増して居るのである。燈油のさして驚く程も増加せぬのは、一面電燈の普及が石油用途の費用と同様か又はそれ以下に歸するからである、揮發油の巨額化するのでも充分想像がつくのである。空中を翔る機關までが地上海上よりも多くこれを要求する世の中となり畢せられたからである。

石油の近年大に需用が高まつて來たことは、他の圖の條下にも説述した樺太の油田に注目し出したのは尤もな次第で、日本本土の天然埋藏油葉が尙後百年間位は支へ得るといふ話もあるがそれにしても本邦の産油がさういふ産額を示して居るかを知つて置かねばならぬ。そこで此の趨勢を大正十四年以來昭和四年に至る近々五ヶ年間の成績に見ると、十四年一、六五八、四九石〇と算せられたものが、昭和に入るとや少しく減石となり、昭和三年にして漸く一、七三三、四三石、同四年には一七九六、四三石と昂上した。石油鑛區の坪數は、下圖の數字が採掘並に試掘の二項に分別して示して居るから、併せて之を本邦石油分布圖に照應すると、一袋の智識であらうと思ふ。

最近五ヶ年間本邦産油趨勢

最近五ヶ年間本邦産油趨勢

(臺灣ヲ含ム)



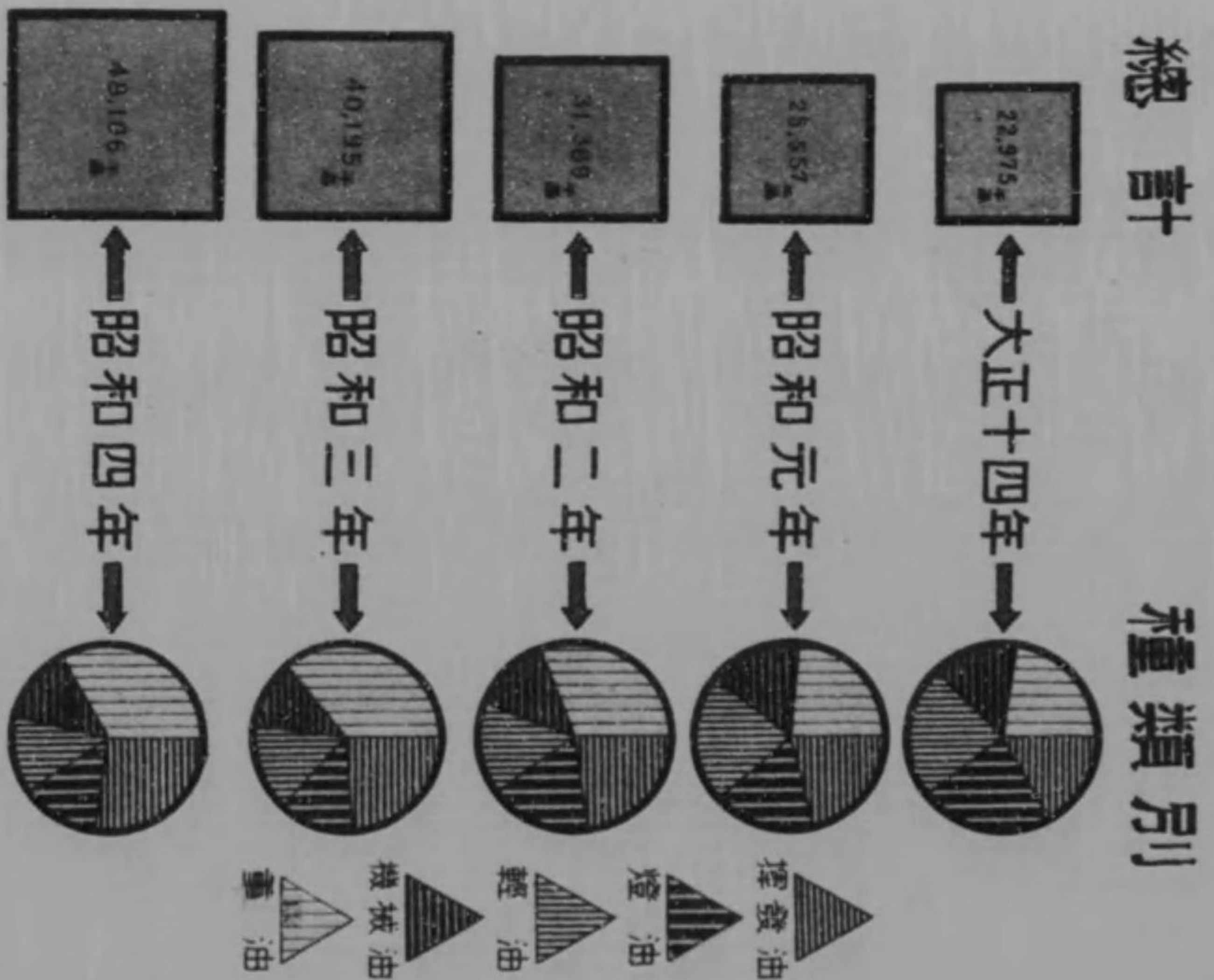
本邦石油鑛區坪數

(昭和四年七月現在)

總坪數	938,088,770坪
探掘坪數	116,233,518坪
試掘坪數	821,855,252坪

最近五ヶ年間本邦石油需要趨勢

(殖民地ヲ含ム)

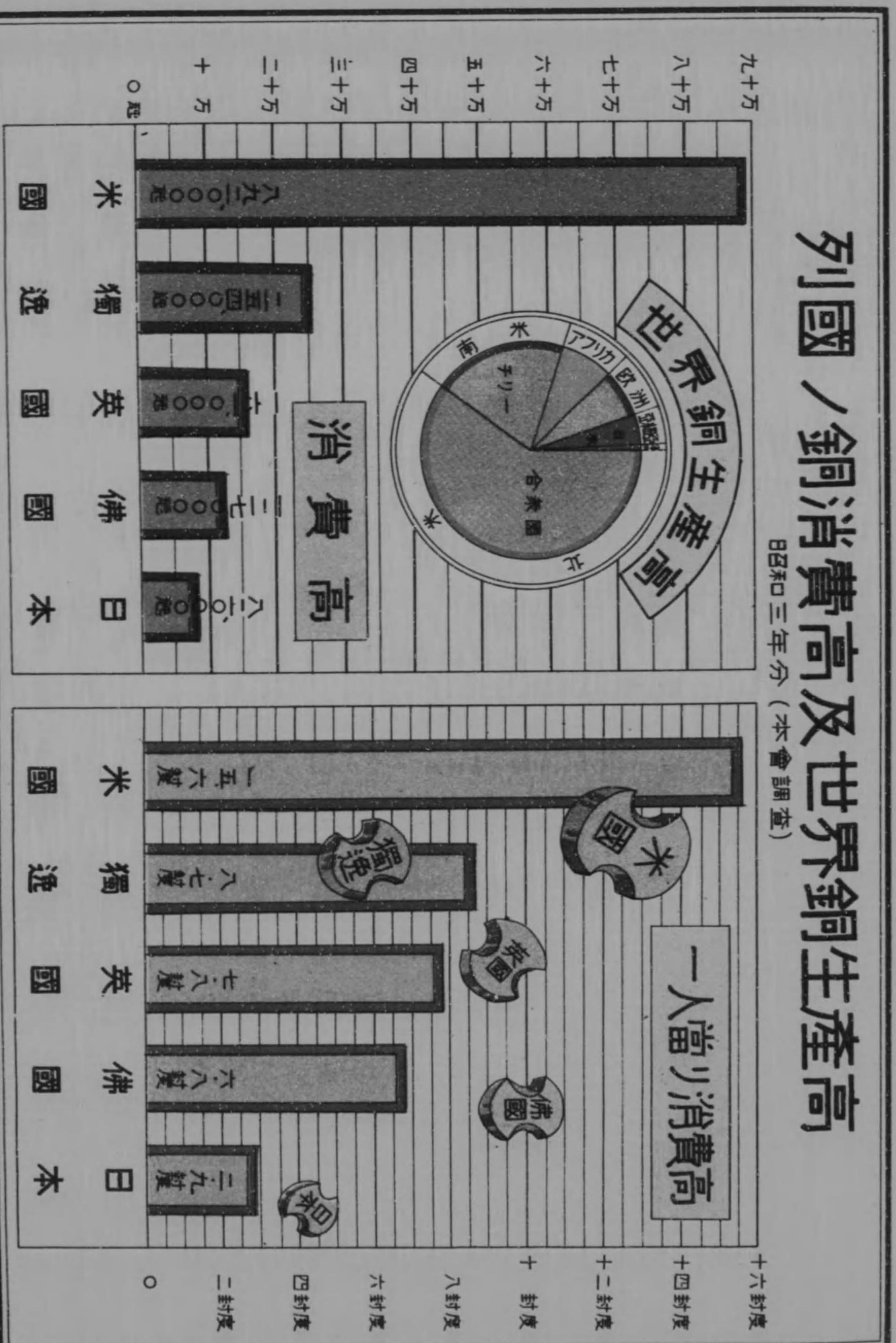


列國の銅消費高及世界銅生産高

世界に於ける銅の生産は指を先づ米國に屈せねばならず、昭和三年度の額を見る
 と實に八九一、〇〇〇噸の巨多を産して居る。米國の銅は恐らく一數年間實際
 限に生産した傾向にあつたので、近來は銅の米國に於ける大勢力たる銅協會なき
 では、相場を調整するには是非とも剩餘銅を整理せねばならず、そこで各自は銅
 の生産を少く手控へて欲しいといふ協議が起り、やがて可決せられたといふ話
 も傳はつた。獨逸の二五四、〇〇〇噸は、日本の八一、〇〇〇噸に比してこそ
 大なる差ではあるが、米には到底足へもよりつけぬのであつた。南米の生産も
 チリその他で近來は鋭意努力して居るから、南北ともに世界の王座を競ふ様
 なるであらう。消費としても北米は第一であつた。故に一人當りの消費高に見ても、
 日本とは實にかう差があるので、只注意すべきは獨逸の消費額である。この國は
 かういふ點から見ても偉い。

列國ノ銅消費高及世界銅生産高

昭和三年分(本會調査)



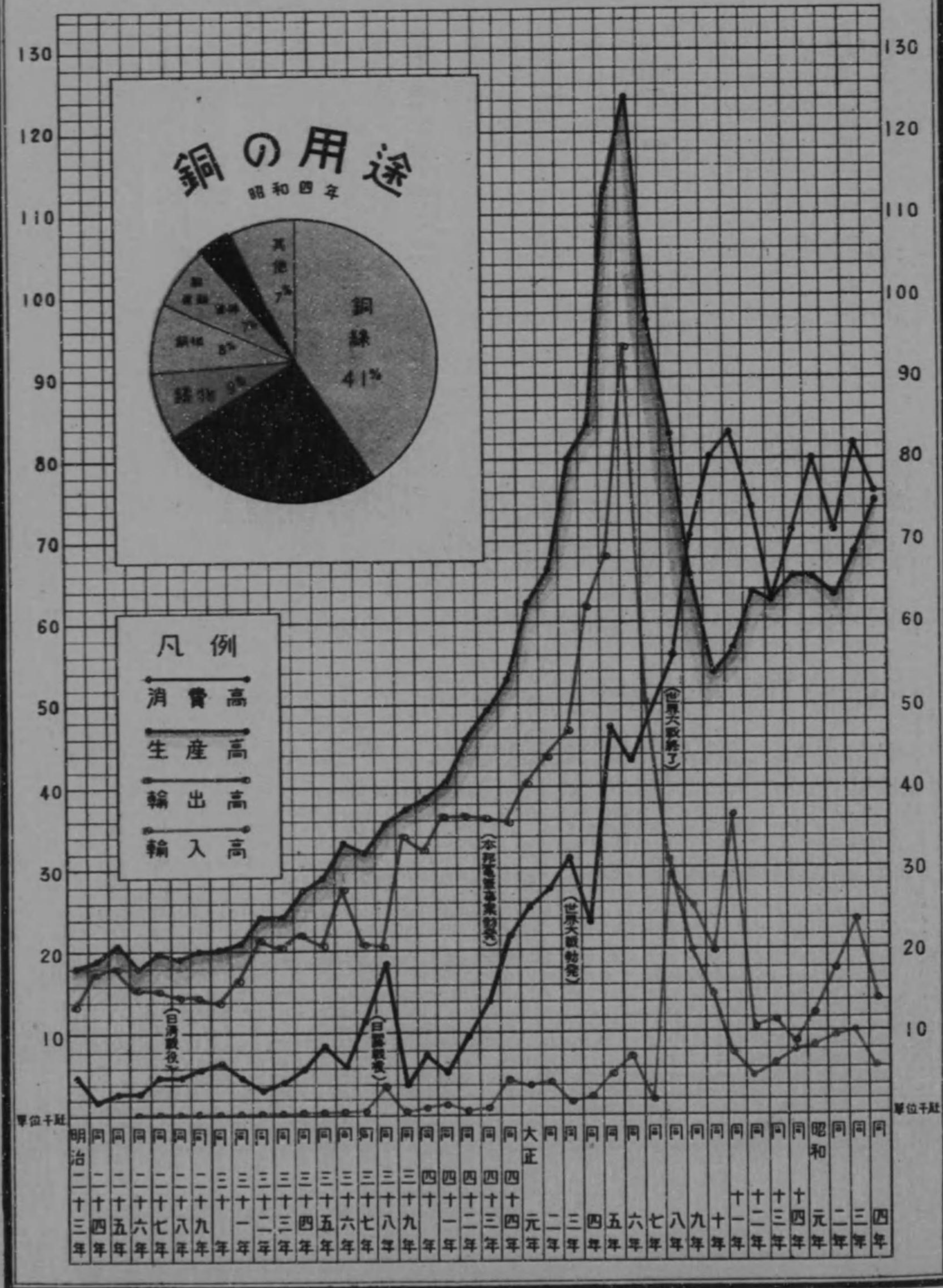
列國の銅消費高及世界銅生産高

世界に於ける銅の生産は物産先進諸國に集中せり。而して年度の額を見る
 上は六五、〇〇〇噸の甚多を占め居り、本國の銅生産も、數年前國際
 限生産した傾向にあたり、從來は銅の本國に於ける人勢力なる銅協會を
 以て、相場を整理するに足る人同額を整理せねばならん、さて各自は銅
 の生産を少くして欲しといふ區域諸國も、それが可換せられたるに當
 り、銅は五、〇〇〇噸、日本は六、〇〇〇噸、日本の六、〇〇〇噸を以てして
 大なる量ではあるが、米に比し則ち五、〇〇〇噸の僅かである。向來の生産も
 あり、その銅で從來は製鐵等をして居るが、向來は世界の生産の大部分は
 なるであらう。消費して米は銅は銅であるが、故に一人當りの消費に見ても、
 日本は他國に於ける多かるが、且其量と共に銅の消費額がある。このほ
 ろい銅を以て見ても、



日本に於ける銅の需要供給

(銅及真鍮銅分)



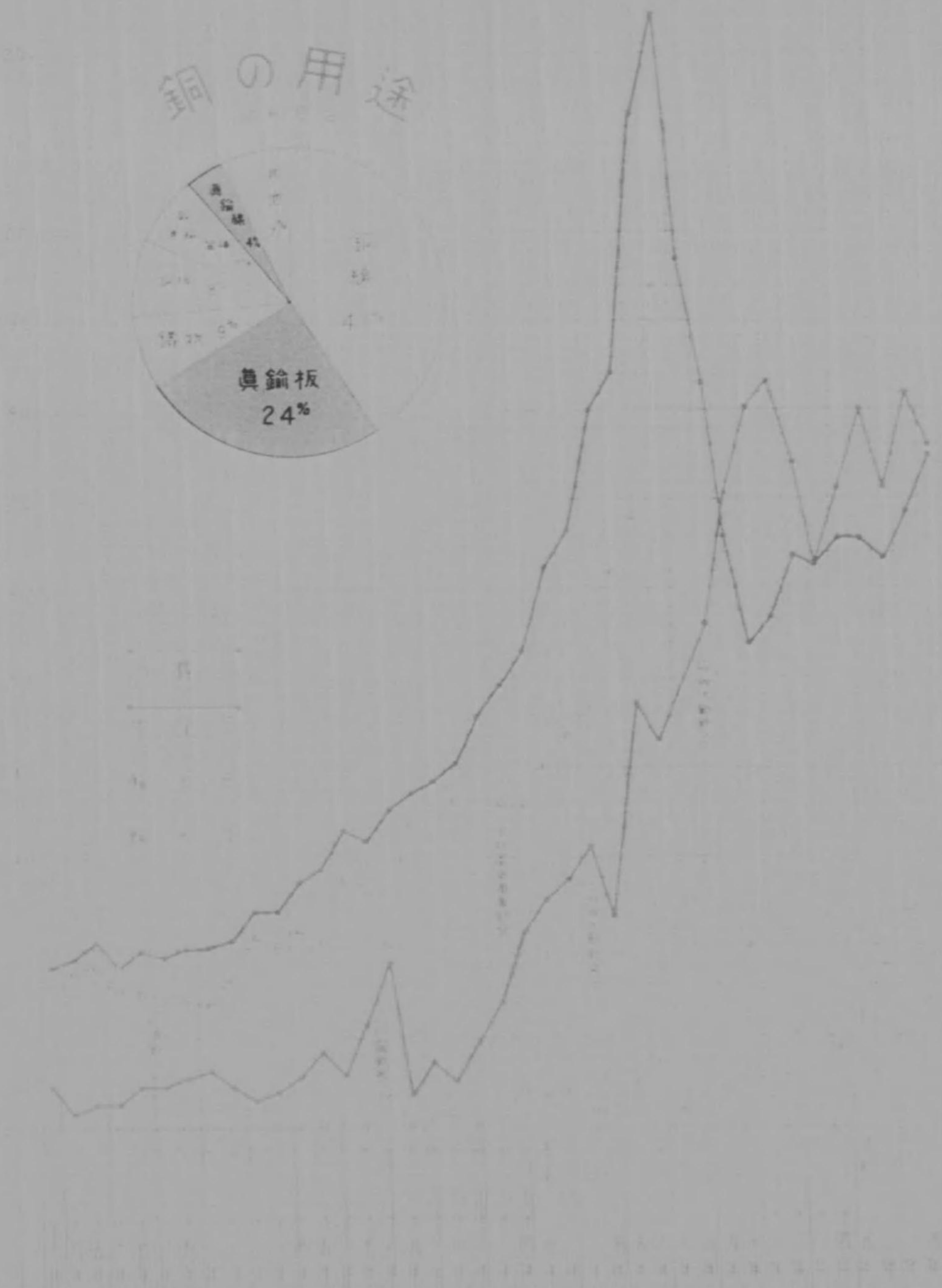
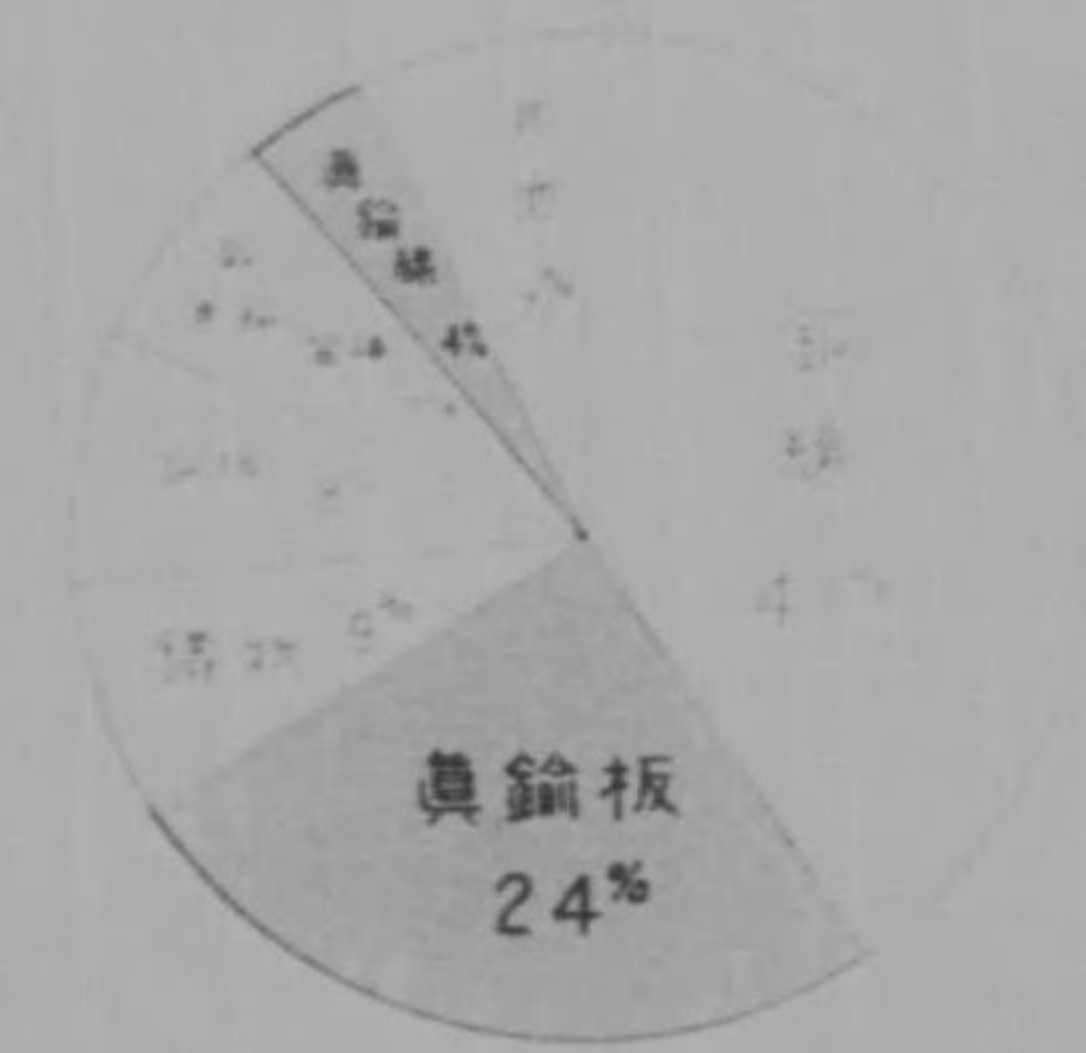
(銅真鍮研究会)

日本に於ける銅の需要供給

明治二十三年以来の銅の生産消費には、言ふ迄もなく輸出入の消長をも傍系的に考覈すべきであるが、このみは世界の全産額中の第四位を占めてあるだけに、優勢を保持して居る事が出来る。世界戦争當時は此の圖の示すが如く大に輸出せられたが、これとは關係ないとしても大正初年からしきりに生産の増加を見せたのである。大正六年の計数なきは恐らく空前の記録であらうが、ともかく大戦後は勞銀高騰の爲に生産費が高くなり、そこへ米國銅が大に輸入したものであるから、一時は此の鑛山を閉坑するといふ騒動も起つた。十一年二月に關稅改革があり、ほとと蘇生の息を吐いたが、残念な事にはそれ以来殆ど輸出は問題にはならなくなつた。今銅の用途を見ると、昭和四年度の計上では銅導線が一等多く全體の四一%、次が眞鍮の二四%、その他といふ事になるが、即ち従來の粗工業から一轉して精工業に進むべき一過程にこの銅が介在するともいへ得るので、銅の生産消費の消長から工業全般の傾向を窺い得るであらふ。

日本に於ける銅の需要供給

銅の用途



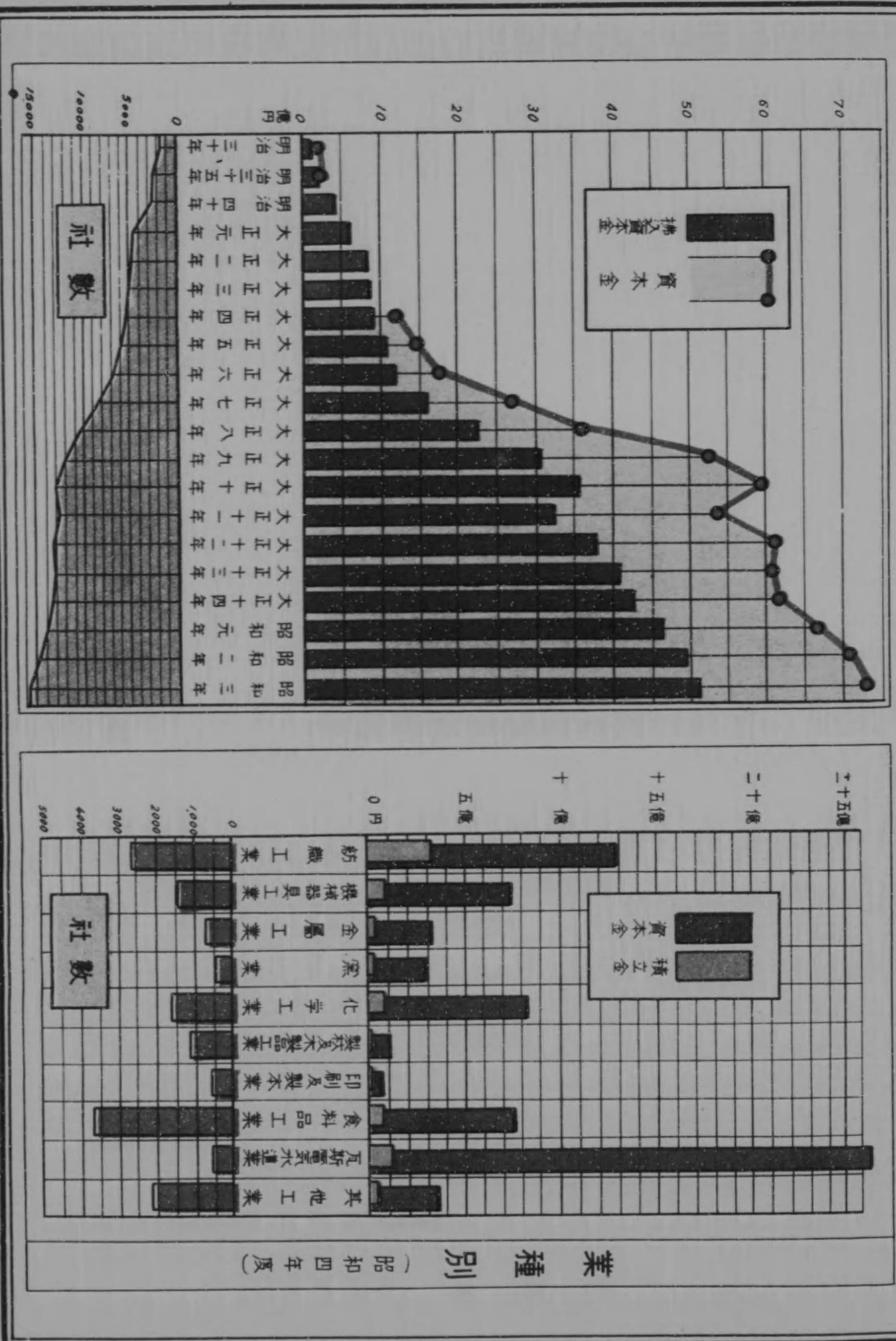
資料提供機関

工業會社數及資本額比較

歐洲大戰の影響が工業的生產の甚い發達を促して、會社を發出せしめたことは、近世産業の餘儀な一劑に屬するものではあるが、之が爲に反動の一度來するや、前の喜悅は後の憂愁となること、平時の順調には見られぬ變轉が示された。明治三十年以來の趨勢は、いかにも六十年間中屈指の勃興を物語る場面が多かつたけれども、概して單なる數の消長以外に、もつと深刻に考へねばならぬ形があるやうである。大正十年の拂込資本金と公稱資本金共に渡り勢で伸展した。會社數

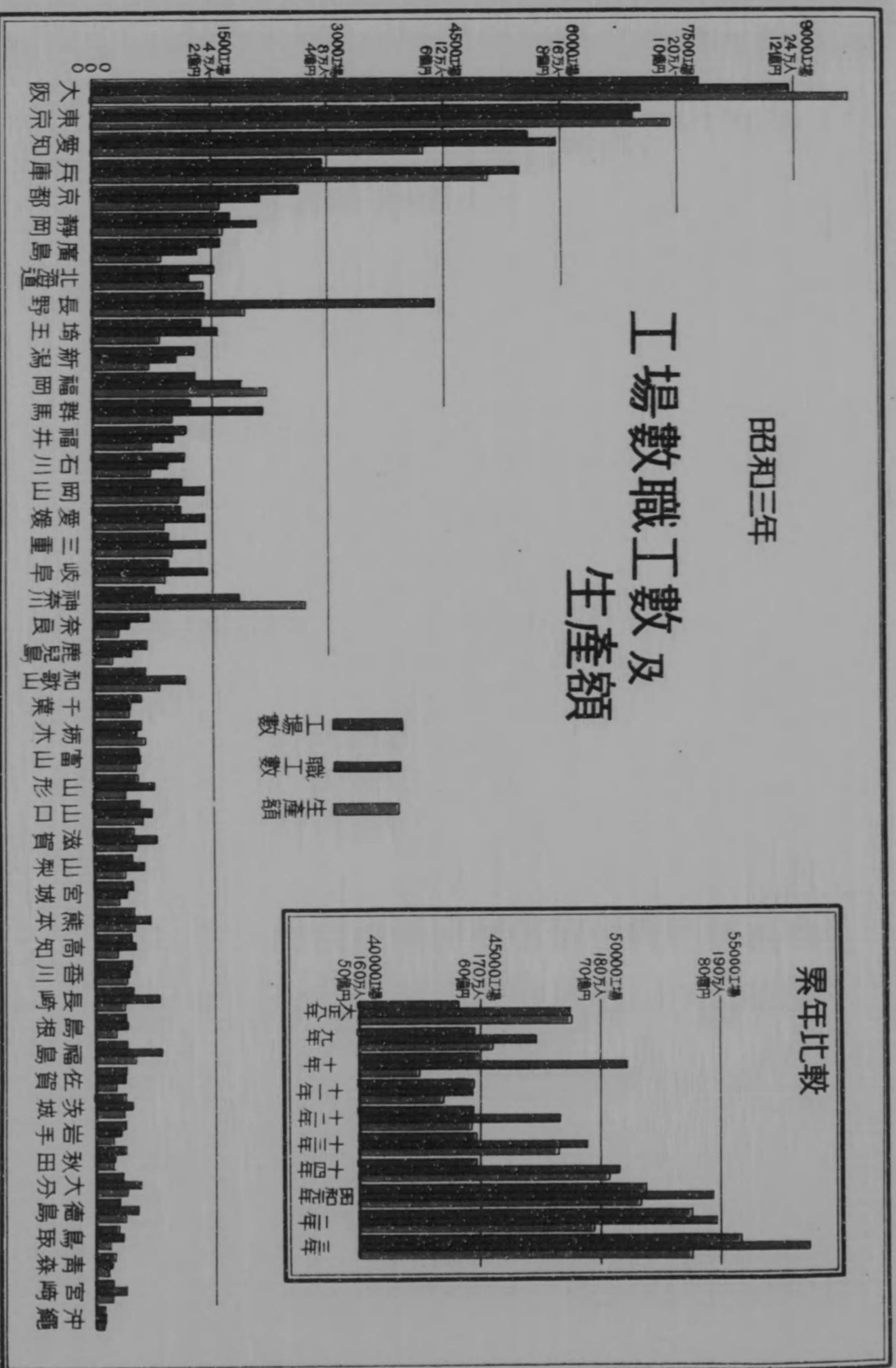
も此の時を劃して追々と整理され、從つて堅實なる物のみが輝はれた姿がある。一轉して工業種別の比較を眺めると、社數に於ての最高は紡織工業で資本金での最高は瓦斯電氣水道業である、將來はあらゆる工業が此の名目から派別して行くのではないかとさへ思惟せられる程である。流石の紡織も其資本金に於ては到底及ばず、化學工業と食料品は尙未だしの感が深い。機械器具も亦行々は獨立して圖を代表する程度にならねばならぬ。

工業會社數及資本額比較



工場數職工數及生産額

此の圖表を一見し直ちに感ずる事は、工業的所作の生産が三特定の地方に限
 定せられて、未だ一般に他方が歩調を整へぬこと年久しいといふ事實である。工
 場數の昭和元年度に於ける確進は三年の五萬五千突破の伏線をなすもので、従つ
 て生産も大正八年度に比して殆ど倍額となつて居るが、職工の數に異常著しき
 移動あり、而も唯一の工業が生絲及絹糸と、此の二者の製品を以て占めて居る處
 から、右の工場・職工・生産の三者が最も秀れて大阪・東京・愛知に存するのであつ
 た。若し日本の工業から此の二製品を奪つたならば、爾餘の世界は大に寂寞とな
 るであらう。職工の陶冶方法も眞に機關が備はらず、不熟練且つ無經驗の大多數
 が、單に模倣するだけで無から有を生ぜんとして居るのである。勢ひ割合粗製に
 して安價な物の出来るのはまことに理の當然であつた。外國原料品が、又は外國
 半製品が輸入せられて、天産資源の僅少なる日本を補ふには、心を濟めて考ふ
 べきである。

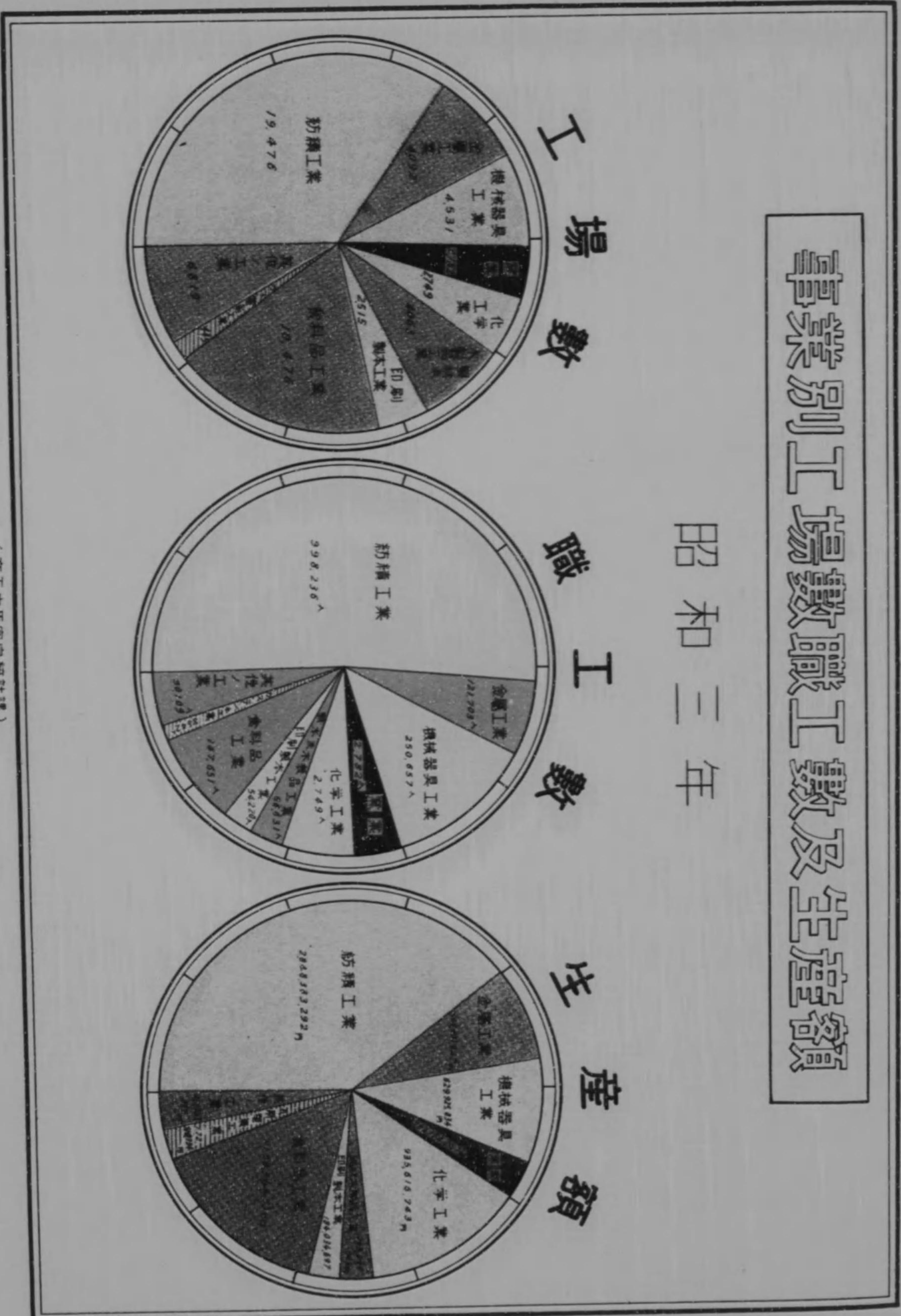


事業別工場数職工数及生産額

本邦に於ける諸種の工業的過程を、大略に分けて其の工場と職工の数並に昭和三年度の生産額を示したものであるが、図表細羅の妙は巧みずしてかういふ點にもよく表はれて居るが、それだけ及引接の苦心も大きい。今の處紡織工業がすべてに於て最も巨大なものであつて、此の事業に關する内容に付ては、既に他圖表に依ても明白となつて居る。工場の数一九、四七六、其の工人九九八、二三八八、此の圖には見えぬが勿論女工の数が極めて多いのである。生産額も従つて堂々と他を壓して居る食料品は工場に比して生産額の割合に少ないのは、恐らく産出する品質に基くのである。機械器具の四、五三工場に六二九、九五、八三四四を生じたのは、金屬の四、〇九二工場、五四四、八〇一、六三二工場と比してやはり性質の差異を認めぬ譯にはゆかぬこれよりも一層望みの多いものは化学工業であつて、機械器具工業に比し半數位の工場で、其生産は紡績、食料品に即つてある。産業立國を唱ふる時節稍興味の多い資料である。

事業別工場数職工数及生産額

昭和三年



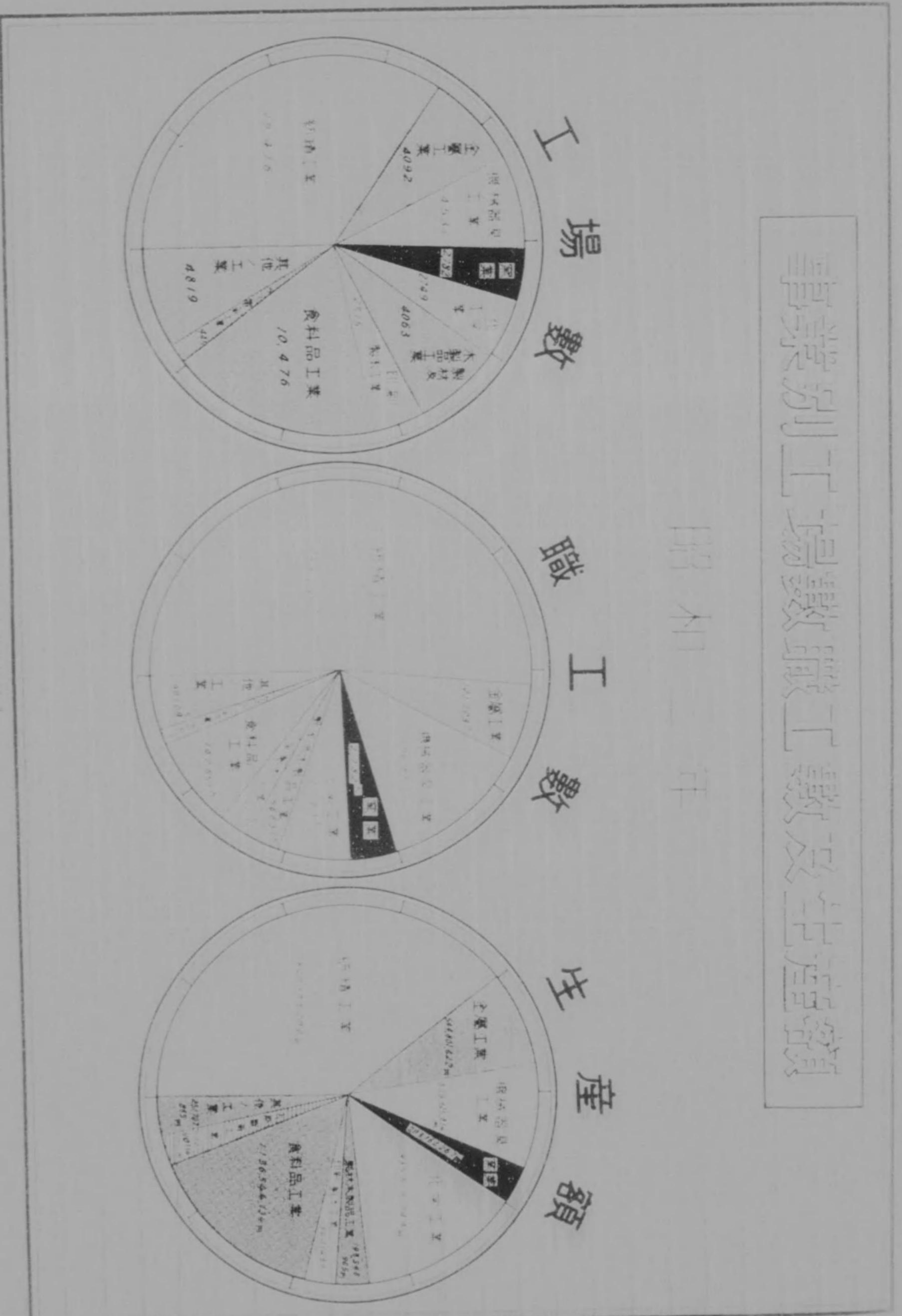
(商工大臣官廳統計課)

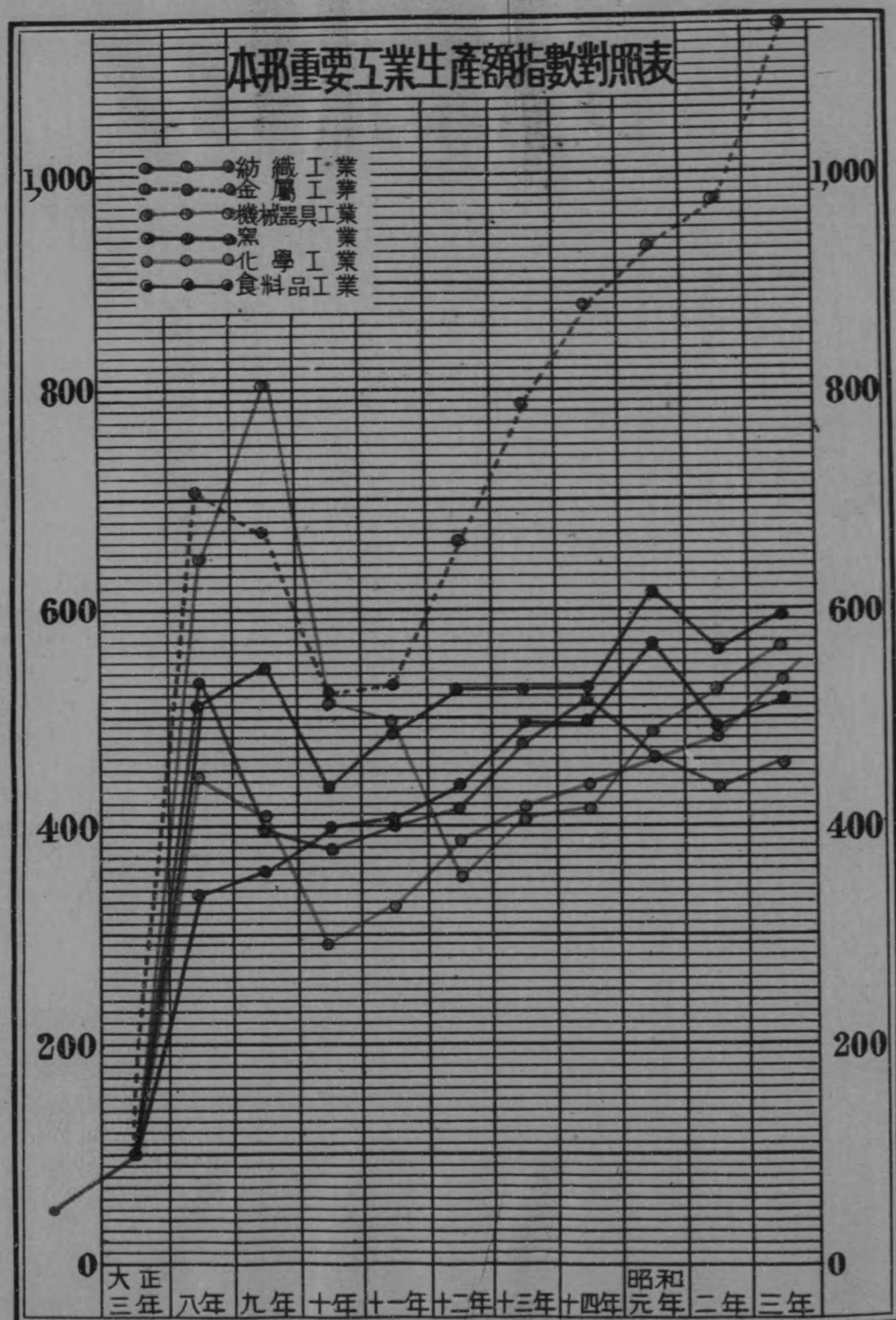
事業別工場職工數及生產額

本邦に於ける製造工業の発展を大略に示して見れば、昭和三年の調査より昭和五年の調査に至るまで、製造工業の發展は著しきものがある。昭和三年の調査より昭和五年の調査に至るまで、製造工業の發展は著しきものがある。昭和三年の調査より昭和五年の調査に至るまで、製造工業の發展は著しきものがある。

事業別工場職工數及生産額

昭和三年



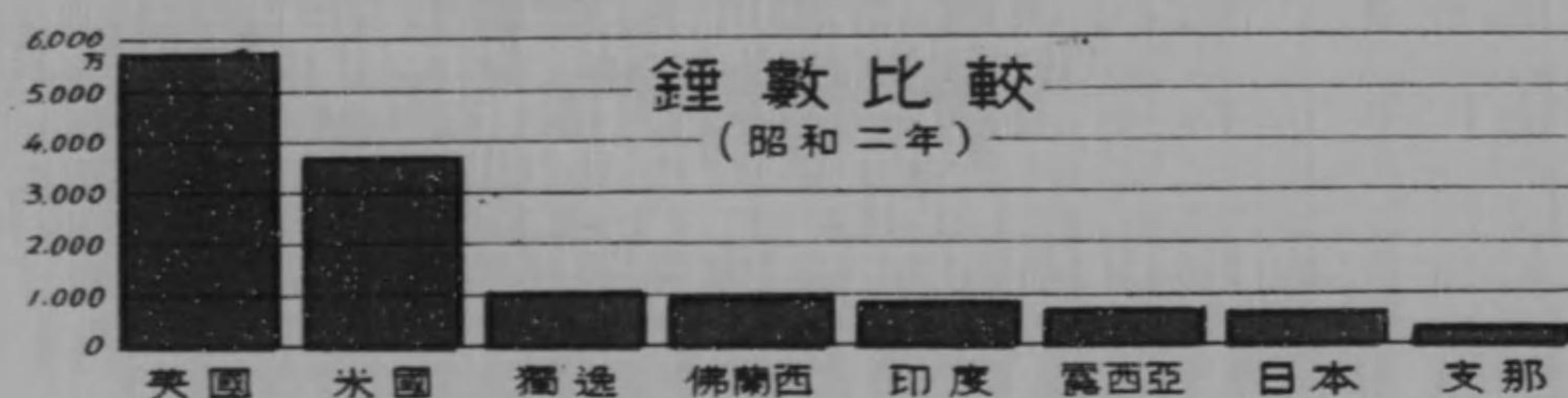


商工大臣官房統計課

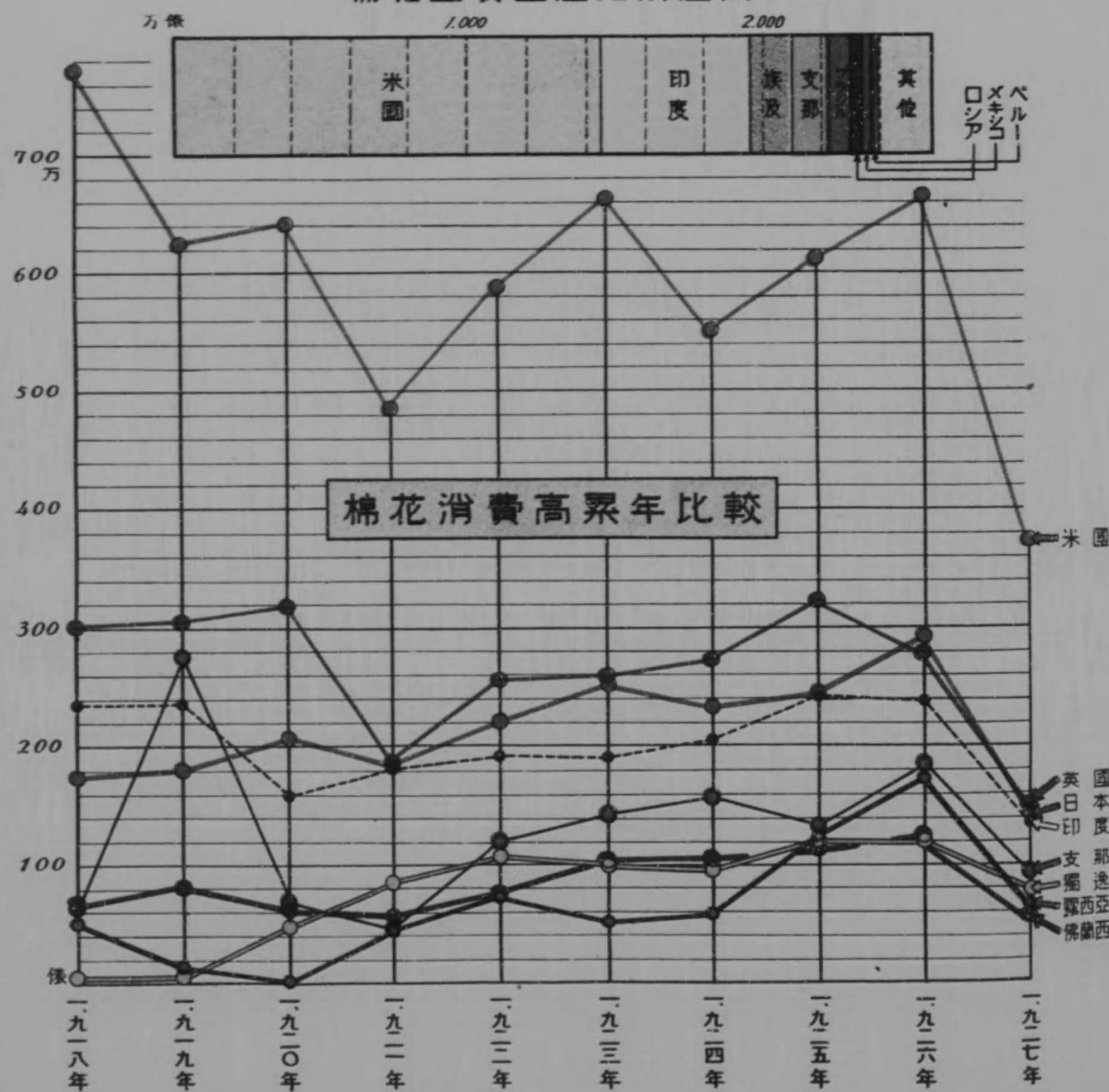
本邦重要工業生産額指數對照表

紡績、金屬、機械器具、窯業、化學工業、食料品の六品種を採つて、生産額の指數を大正三年以來の消長に見たものであるが、假りに大正三年を一〇〇とすると、昭和三年までの視動にあつてはそれはあまりにも激しき變りやうである。中にも金屬工業の飛躍は洵に驚くほゞで、大正九年逸早くも指數八〇〇となり他の生産を脚下に見卸す概があつた。言ふ迄もなく世界戦亂の爲に、本邦の金屬工業が遂に是非とも獨立して生産せねばならぬ立場となり、此の試練がかうした結果を生じたもので、昭和三年實に一、一三〇を超えて超躍的に進んのは正に之れ異常なレコード破りであつた。これには及ばぬが窯業なども極めて見事なる生産で、昭和元年に至ては六〇〇を越え、さうして流石の食料品よりも上位を占めたのである。近頃の進出であるがこれも亦注目するに足るべく、機械器具の順當なる躍進も、我々の凝視を誘ふに充分であつた。紡績は棉花の世界的不況に依り、些かは劣つて居るらしい。

列國紡績業一覽



棉花主要生産地別産高 (1925年)

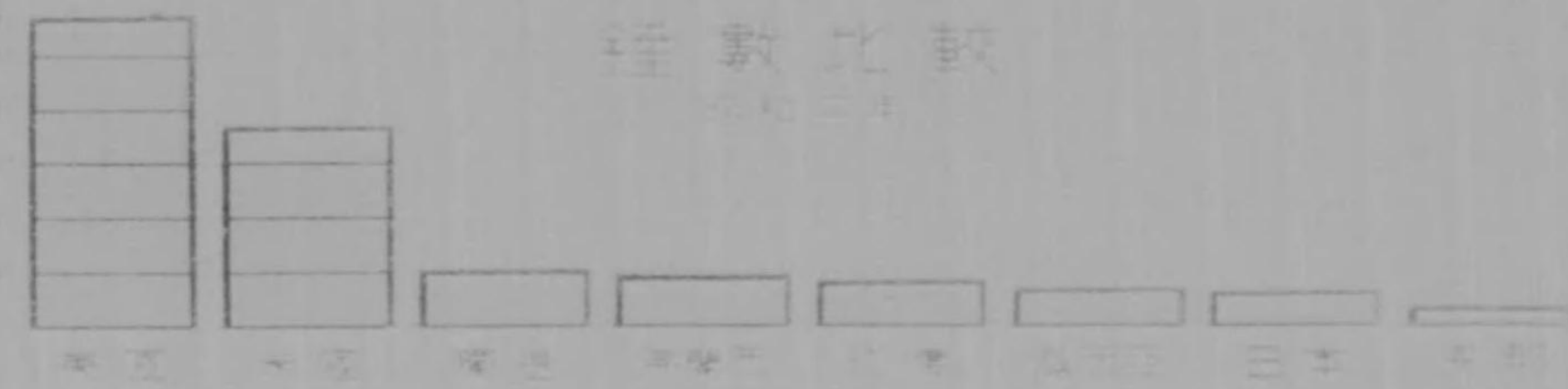


(萬國紡績聯合會)

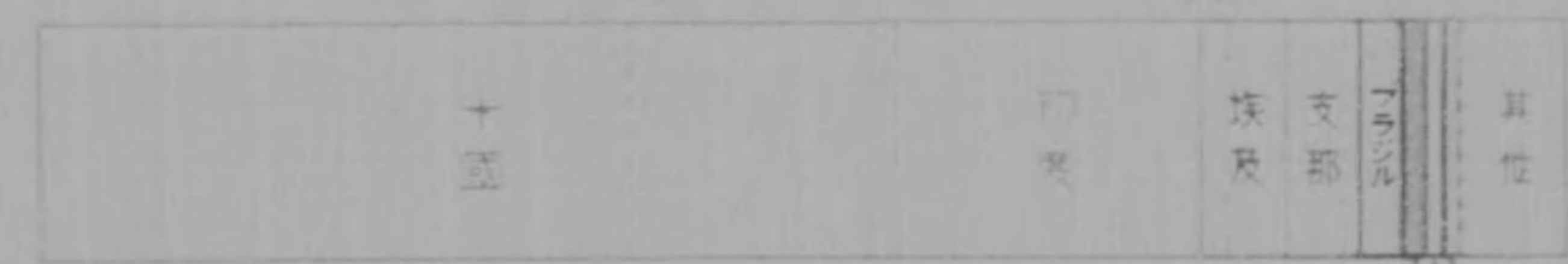
列國紡績業一覽

棉花の生産は何と云うても米國が第一で、流石の印度も是れには遙か劣つて居る。日本は内國産と朝鮮産とを合しても、何處にも足らぬところから止むを得ず他邦から供給を仰いで居るが、消費國としては世界に伍しても耻ぢない程度の位置にあつた。米國は消費に於ても亦第一位で、一九一八年の如きは七、七三九千俵を算し、圖抜けて巨額を使つたがこれ以後は此の額には達して居らず、僅に一九二六年の六、六四五千俵が昔を少し繰返して居る位であつた。日本の消費は圖の如く最近に至て英國を凌駕する程で、支那は國土の廣大な割合には消費が不足で、此の國の紡績業はやはり外人の手に依らねば殆ど發達不可能な状態に置かれて居るのは、戦争ばかりを行つて居る關係上情けない話である。従つて生産なきも埃及よりも少額であつた。紡績業としては錘數から言つても印度、露國が日本より多く、これ亦外人が多く集團して經營するからで、露國の支那に南下する勢は又注目し價する。

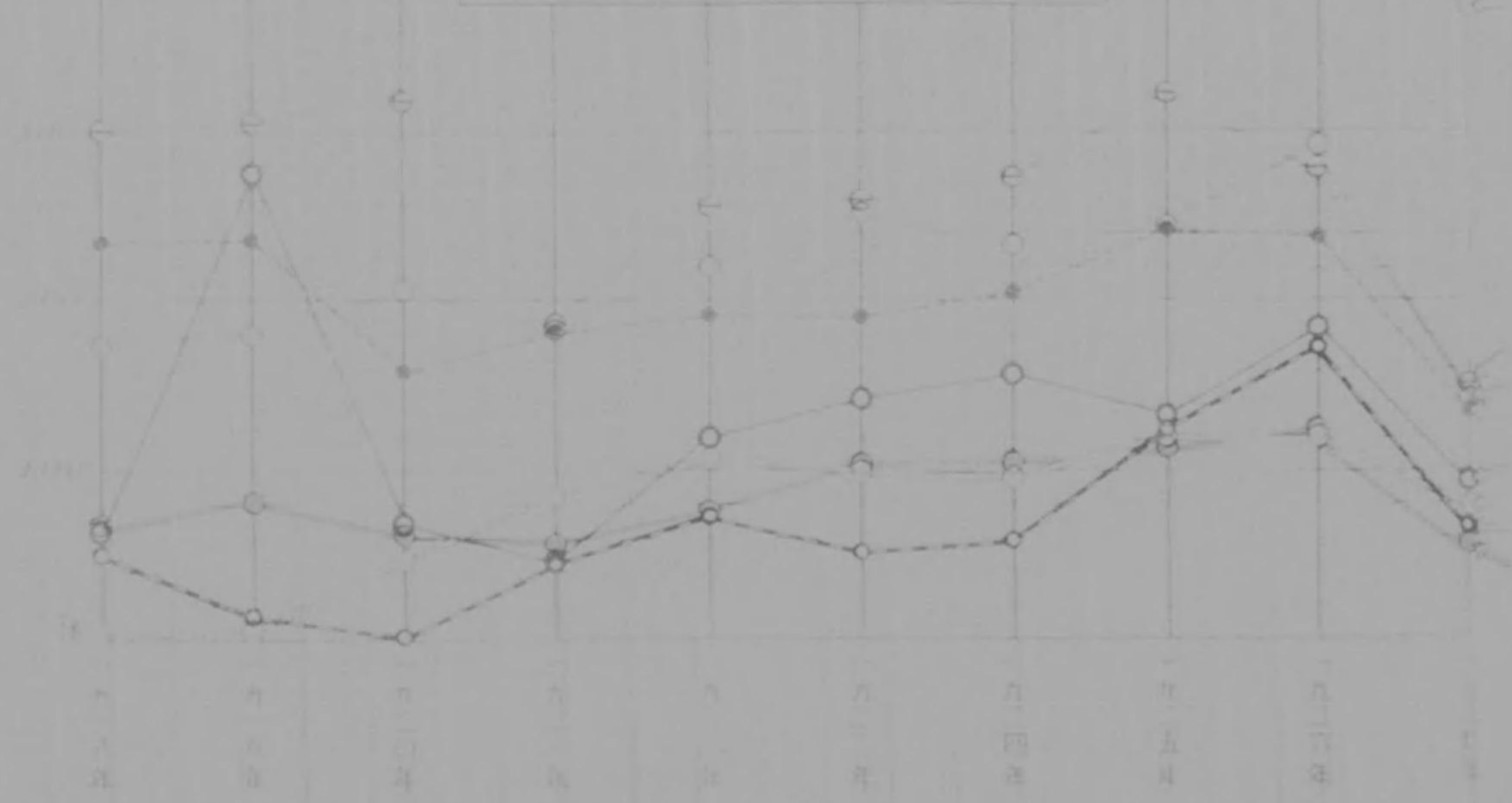
列國紡績業一覽



棉花主要生產地別產高



棉花消費高累年比較



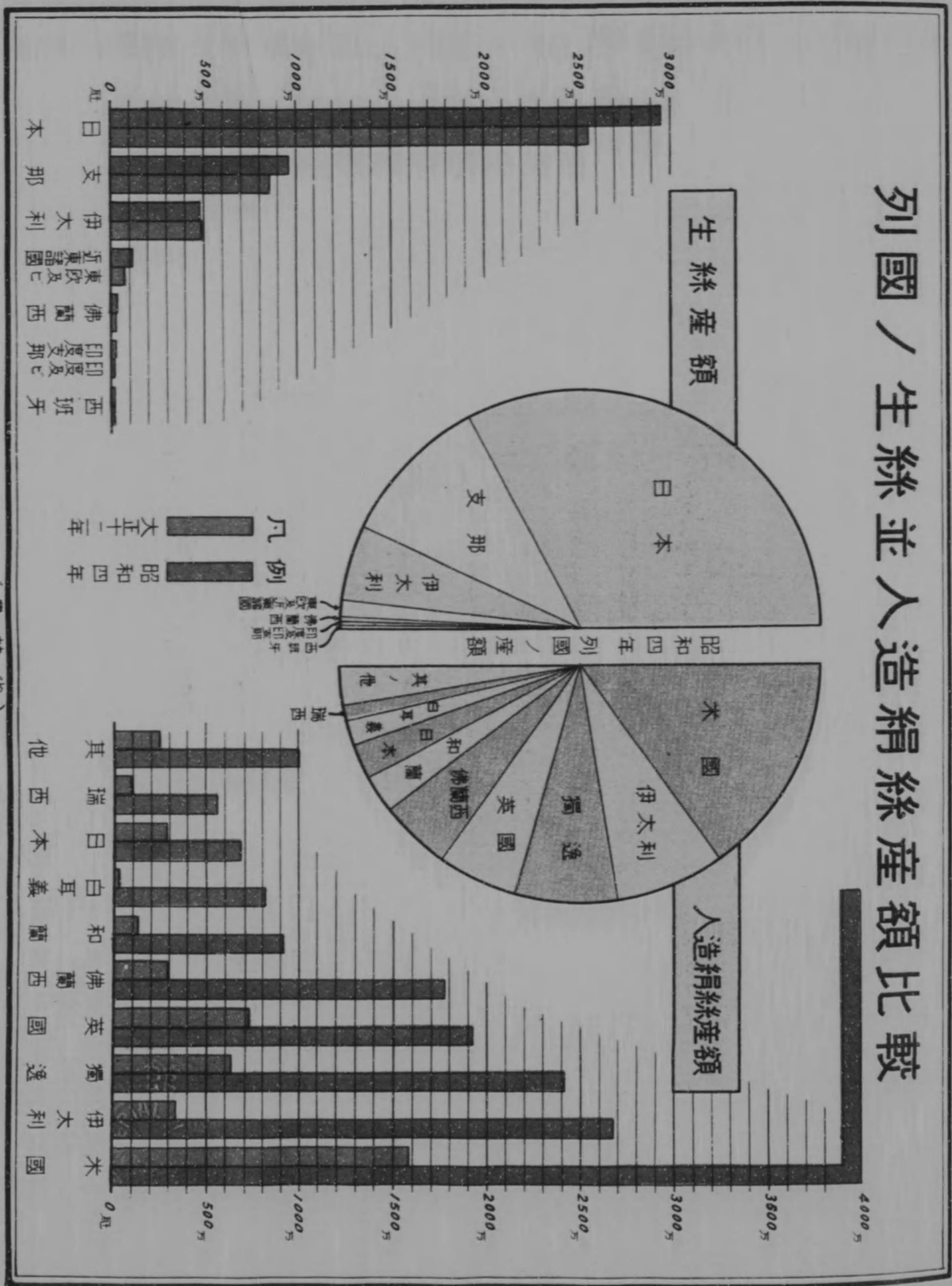
列國紡績業一覽

棉花之消費，以美國為最，其次為英國，法國，德國，日本，印度，中國，埃及，東印度，其他。美國之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達四億八千萬磅。英國之消費，自一九一三年起，逐年減少，至一九二八年，已達三億八千萬磅。法國之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達二億八千萬磅。德國之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達一億八千萬磅。日本之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達八千萬磅。印度之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達四千萬磅。中國之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達二千萬磅。埃及之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達一千萬磅。東印度之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達五百萬磅。其他之消費，自一九一三年起，逐年增加，至一九二八年，已達二百萬磅。

生絲ばかりは日本の傳統ある生産として、今度は世界に誇つて來た。昭和四年度の比較を見ても三九、五〇千疋を算して、さしもの大國支那を脚下に見た居り、國狀の近似する伊太利なきは此の點から言ふと同日の論ではない。然し近代科學の進歩は人造絹糸の發達を非常劇成せしめて世界を風靡せんとして居る。支那の養蠶は近頃自覺しい進歩を示して油斷ならざる景勢である。而も日本内地の勞銀騰貴から來る生産費の問題で、日本の絹糸は従來通り天下の新權を繼續し得るや否かさへ危まれて居る。人絹の工業は日一日と向上して木質パルプ、硫酸消性曹達を主原料とする所謂ケムコス式製法が旺盛になりつゝあるから、全く絹糸代用を如實にして居るので、天然絹糸を次第に壓迫する。米國の人絹生産高のかくばかり列國を壓する數を示すのは、近い將來に日本も少なからぬ脅威を感ずるであらふ。

列國の生絲並人造絹糸産額比較

列國ノ生絲並人造絹糸産額比較



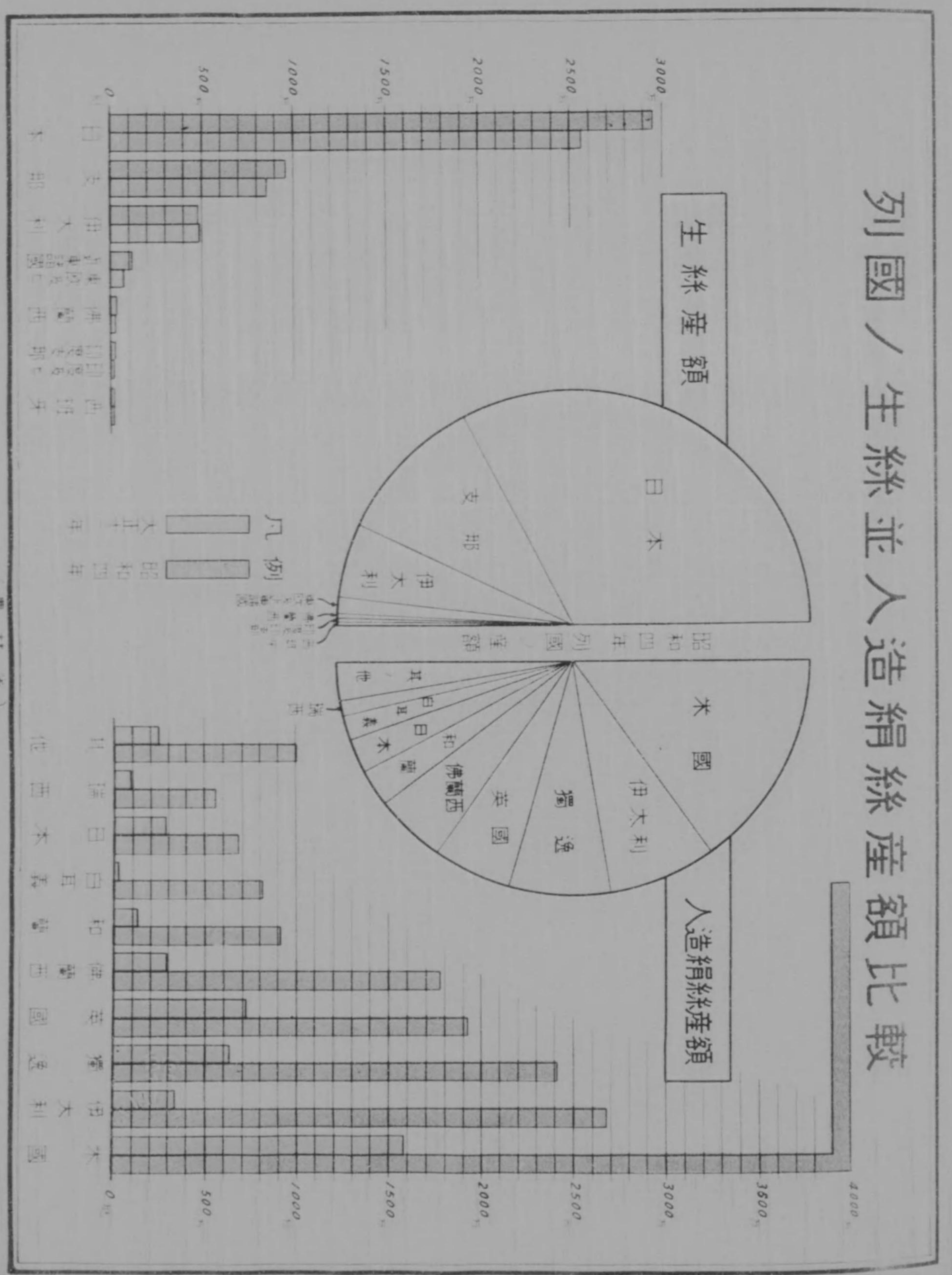
(農林省)

るであらう。

生絲ばかりは日本の傳統ある生産として、今迄は世界に誇つて來た。昭和四年度の比較を見ても三九、五〇千疋を算して、さしもの大國支那を賤下に見たり、國賦の近頃する伊太利なきは此の點から言ふと同日の論ではない。然し産花母學の進歩は人造絹糸の發達を非常劇成せしめて世界を風靡せんとして居る。支那の養蠶は近頃目覺しい進歩を示して油斷ならざる景勢である。而も日本内地の勞銀騰貴から來る生産費の問題で、日本の絹糸は従來通り天下の覇權を握れり得るや否かさへ危まれて居る。人絹の工業は日一日と向上して木質スル、硫酸、苛性曹達を主原料とする所謂「セミ」式製法が旺盛になりつゝあるから、全く綿糸代用を如實にして居るので、天然絹糸を次第に壓迫する。米國の人絹生産のかくばかり列國を壓する數を示すのは、従つて將來に日本も少なからぬ脅威を感ずるであらう。

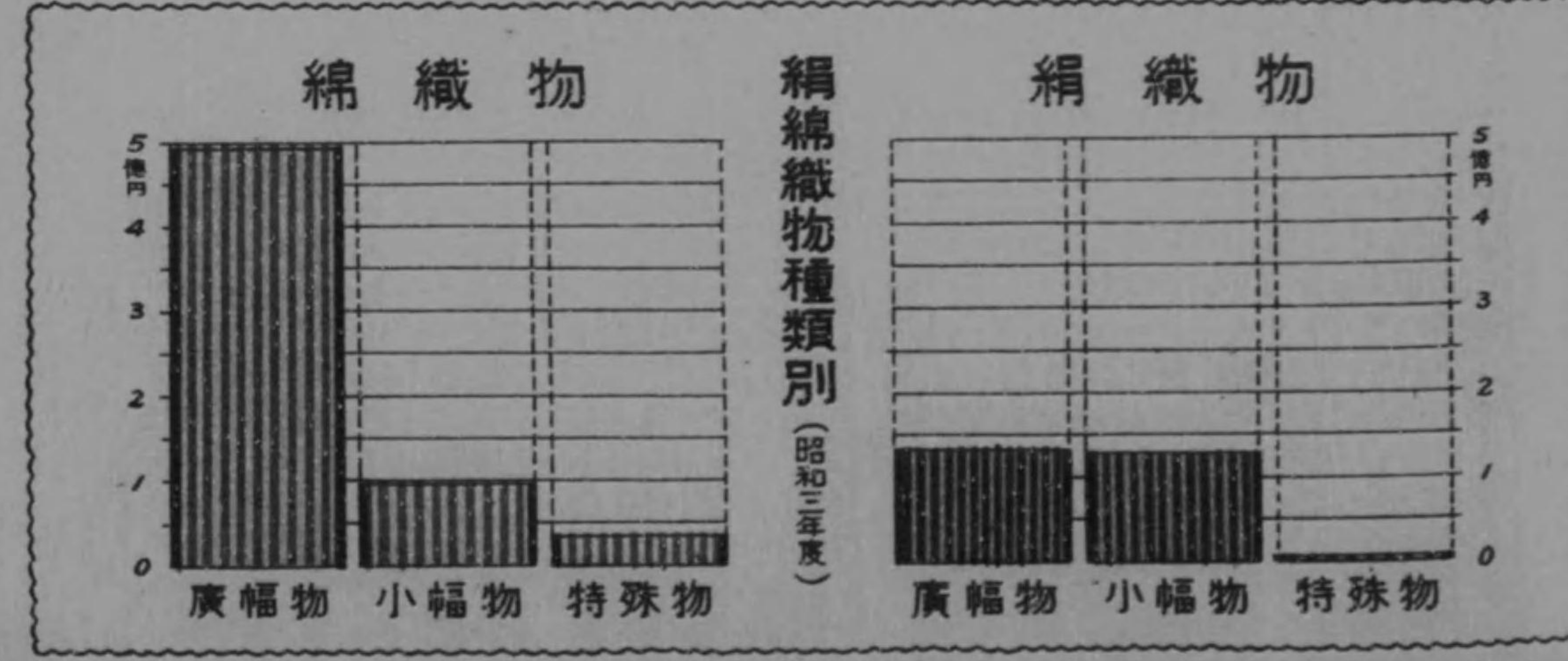
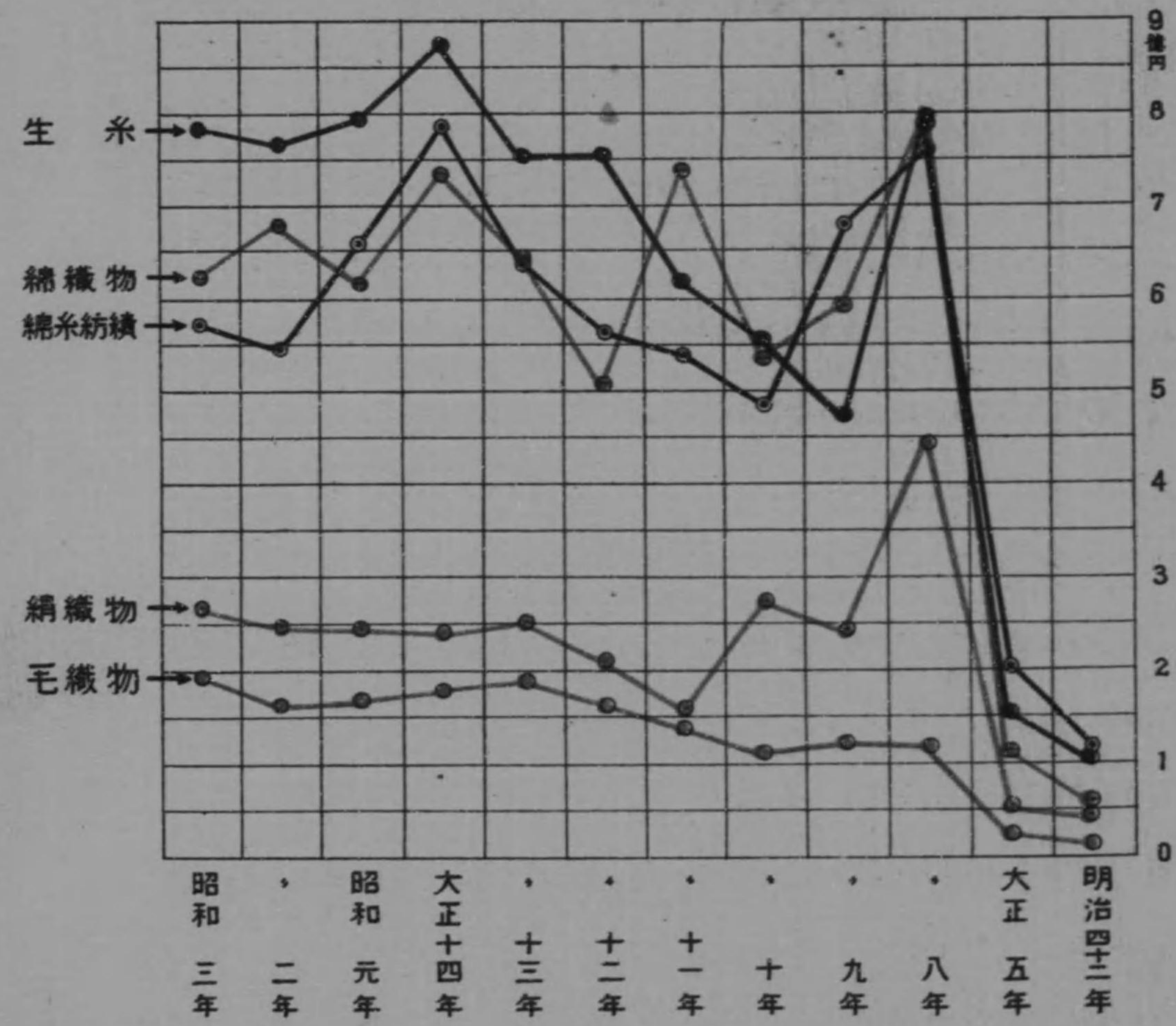
列國の生絲並人造絹糸産額比較

列國ノ生絲並人造絹糸産額比較



(廣 環 編)

最近十ヶ年紡織主要品生産額比較



(商工省)

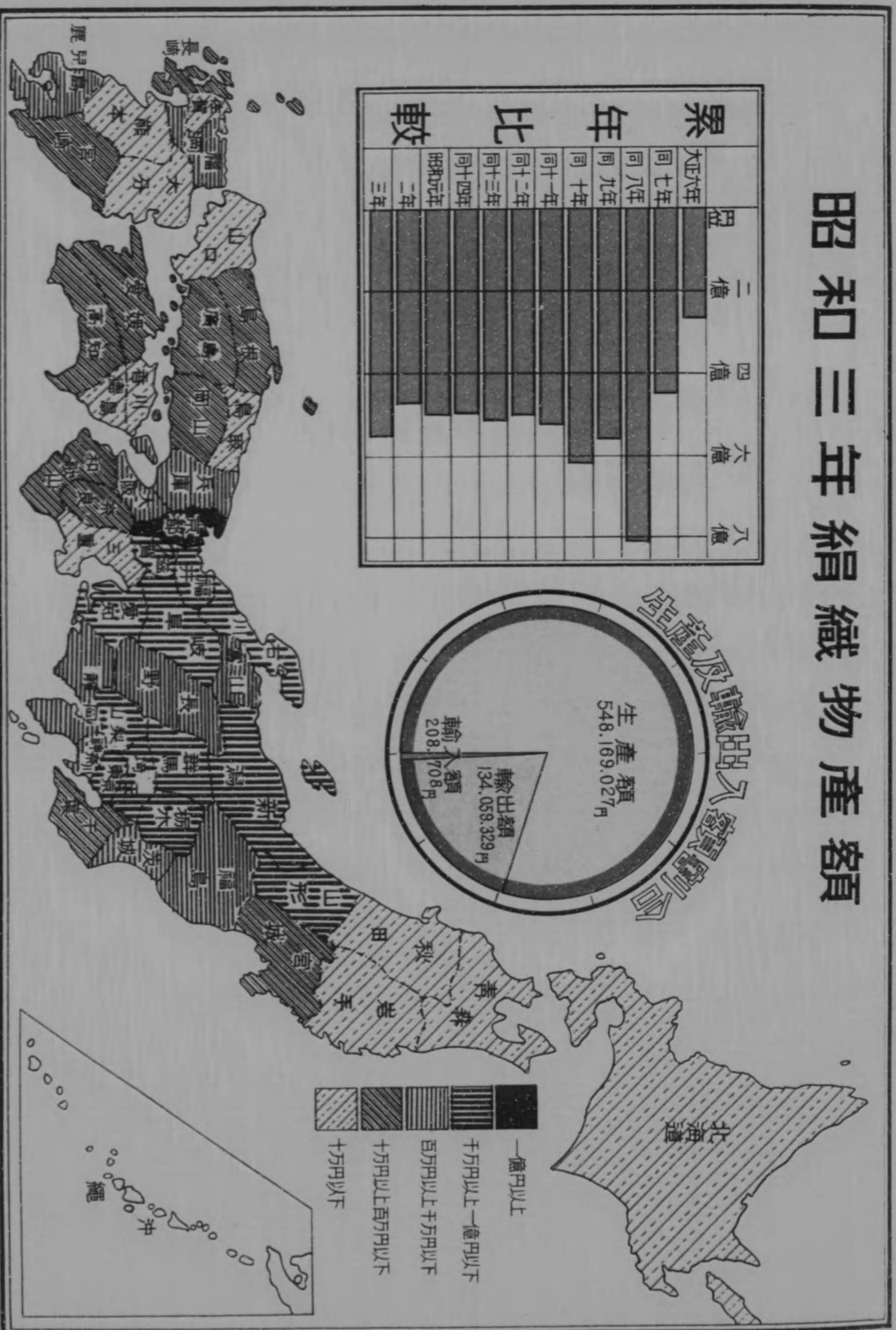
最近十ヶ年間紡織主要品生産額比較

明治四十二年以來十ヶ年、即ち昭和元年に至る迄の紡織主要品の消長を、概観したものであるが、他の廣幅物や小幅物の生産及消費の圖表と照し合せて、一段の常識と化すべきであらう。この織物の躍進は大正年代に入つてからのことであつた。即ち大正三年を一の足溜りとして、恰も尺蠖虫のやうに一伸びに八年度へ来てしまつたのである。昭和三年の足がかりには恰好な條件として例の歐洲大戰が勃發して居る。八年九年の好況時代であつたから、生糸の如きも八年七八〇・一五三、一七三圓といふ前例のない生産で、九年少しく減じたが、爾後次第に増加して、大正十四年には實に八七二・五二四、七四六圓、空前の盛衰を呈したのである。綿糸紡績も絹織物も大體生糸と同じく、十四年を頂點として昭和期に入り、さうして元の平調に復せんとして居るのである。これに比較すると絹織物の方は概して低額であつたこれは八年ほどの隆盛を見ず、人絹に押されて勢力の鈍氣配になつて居るらしい。

昭和三年度絹織物産額

絹織物は單に内地消費の充當以外に、大切なる外國輸出品としての目標が置かれてある。普通は奢侈品のやうに見られる概念を以て内外の人が之に對して居るが、大正八年の生産額實に八億を突破したことは、恐らく前後に稀なる現象であつて是は勿論世界戰亂の好況に乗じての多製多産なのであつた。再び今後これを繰返さんとしても、元より覺來ない問題であらう。昭和三年度に於ける絹織物及絹織物の生産五四八、一六九、〇二七圓、少くも大正十年以來の多額であつて、府縣別に於ては圖の如き現狀であり、従前の通り京都・福井・石川・群馬・東京などが主力となつて居る。輸出も亦昭和年代に入つて、更に濠太刺・英領印度に擴大せられる傾向を示した。米國などは大正年代に比して却つて劣つて居るのである。之は即ち近來の人造絹糸が、非常に精巧を極めるやうになり、格安な生産を以て惜し氣もなく購求せられるからであつて、この趨勢は日本なきにも煽られて來た。三年以後は各人ともに深い注意を要する。

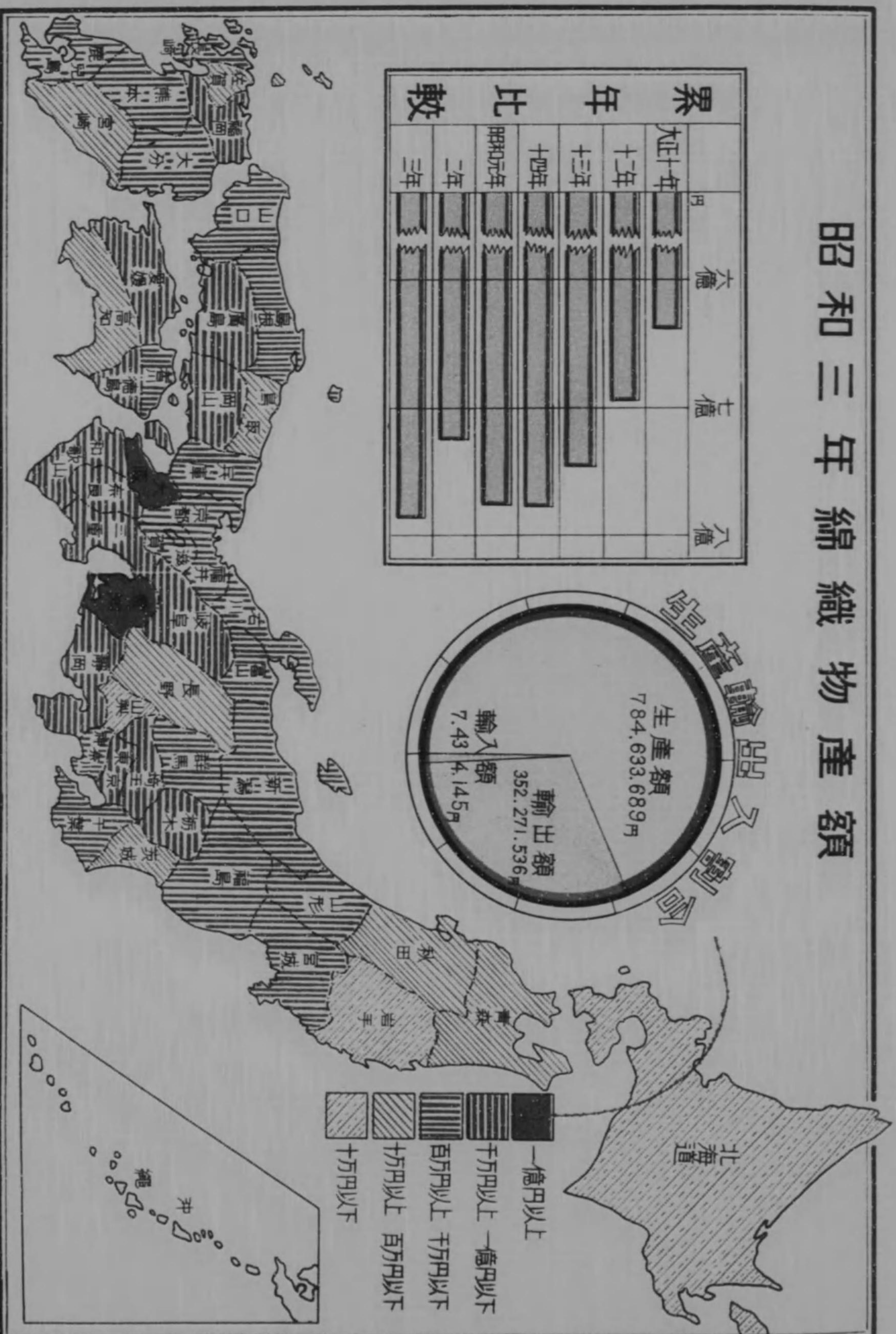
昭和三年絹織物産額



昭和三年綿織物産額

大正十年より昭和三年までの累年比較圖が四位から六億に至る中間を切斷してゐるのは、本来六億から七億までの間に比して、非常に長かるべき道理ではあるが、省略する爲にかうして簡便にしたのである。綿織物は何と言つても本邦の織物工業中第一位を占めるものであつた。之で産額が小幅物に比して用途も多く且つ金額も多かるべき筈であつて、産額の方でも金山なきは毎年数量も多いが、盛産額を利かして居る昭和三年度の生産額七八四、六三三、六八九圓に達し、昨縣別からはやはり大阪・愛知がともに優位に立つて居る。概して小幅が盛高の上といふ處から近來盛に機業家の間に議題となつて居る。聯同の取組を以しても尙大版の足下にも寄つてぬのである。但し原綿が印度、米國、支那、埃及等から輸入するのであるから、もし支那に於て抵抗する事業が企てられたら、大縮事となるであら我國に於ける斯業の打撃は想像以上であらふ。

昭和三年綿織物産額



昭和三年綿織物產額

一、總產額

二、各縣產額

三、各縣產額之比較

四、各縣產額之趨勢

五、各縣產額之分配

六、各縣產額之利用

七、各縣產額之輸出

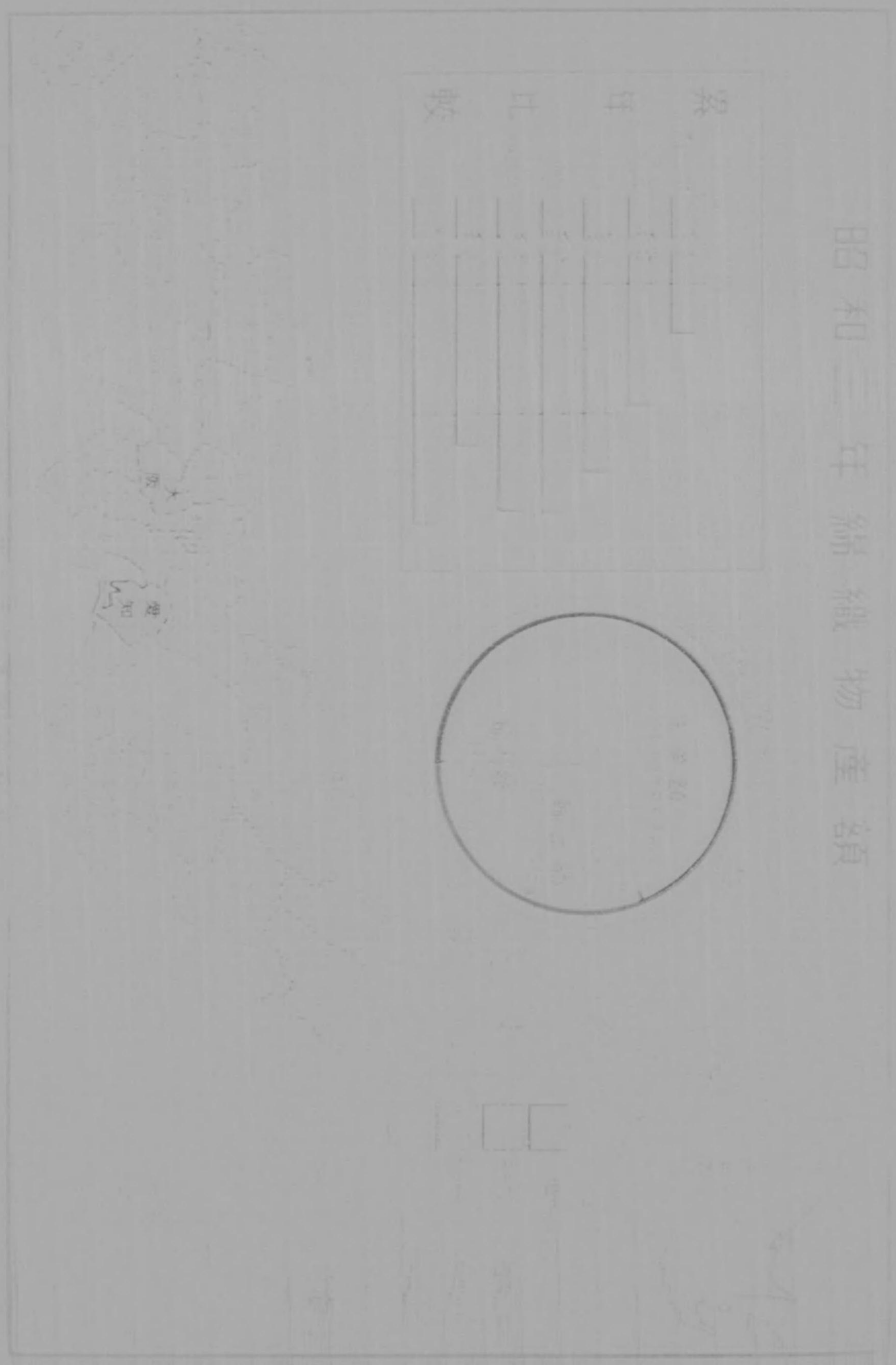
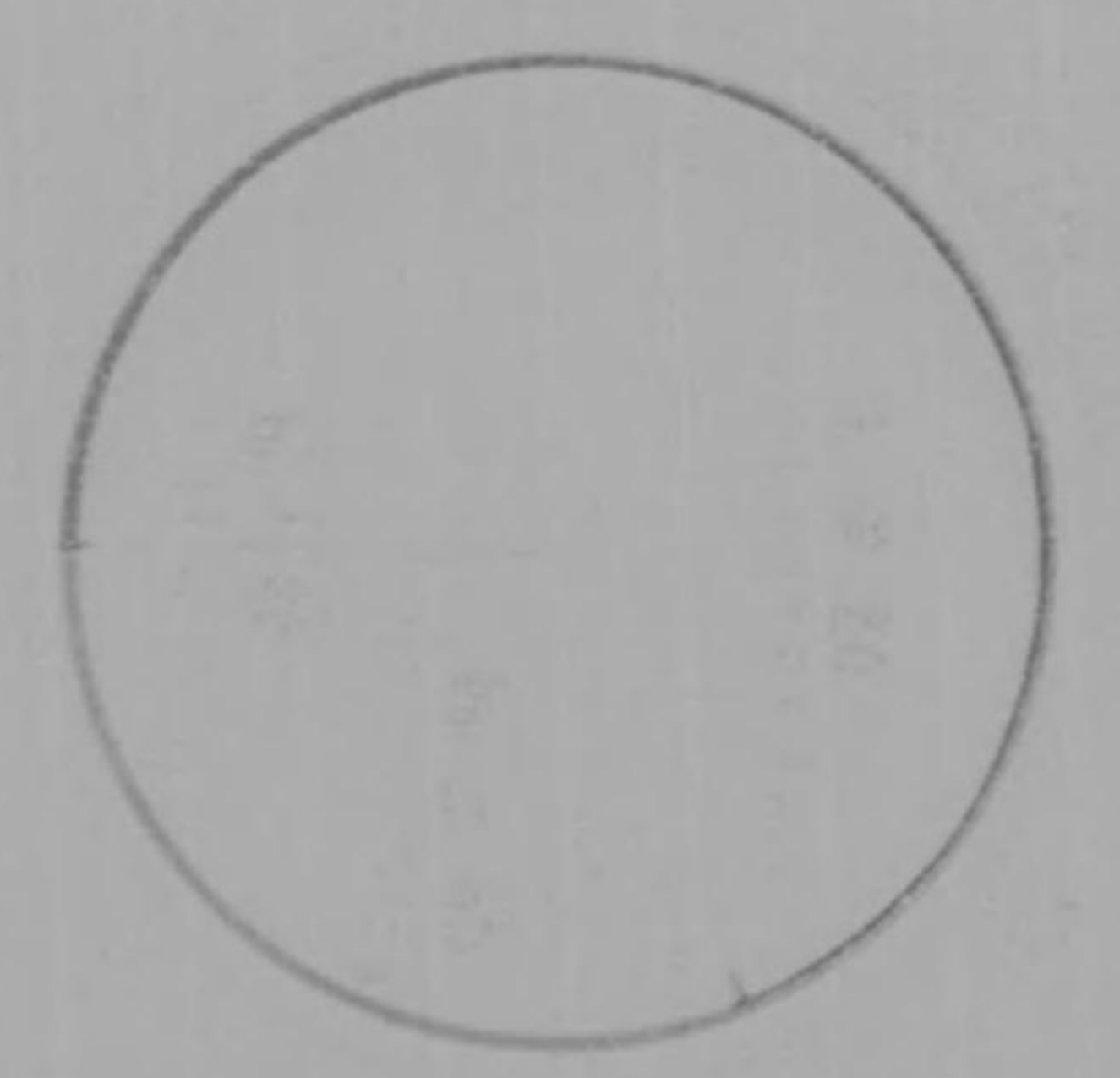
八、各縣產額之輸入

九、各縣產額之貯藏

十、各縣產額之消費

昭和三年綿織物產額

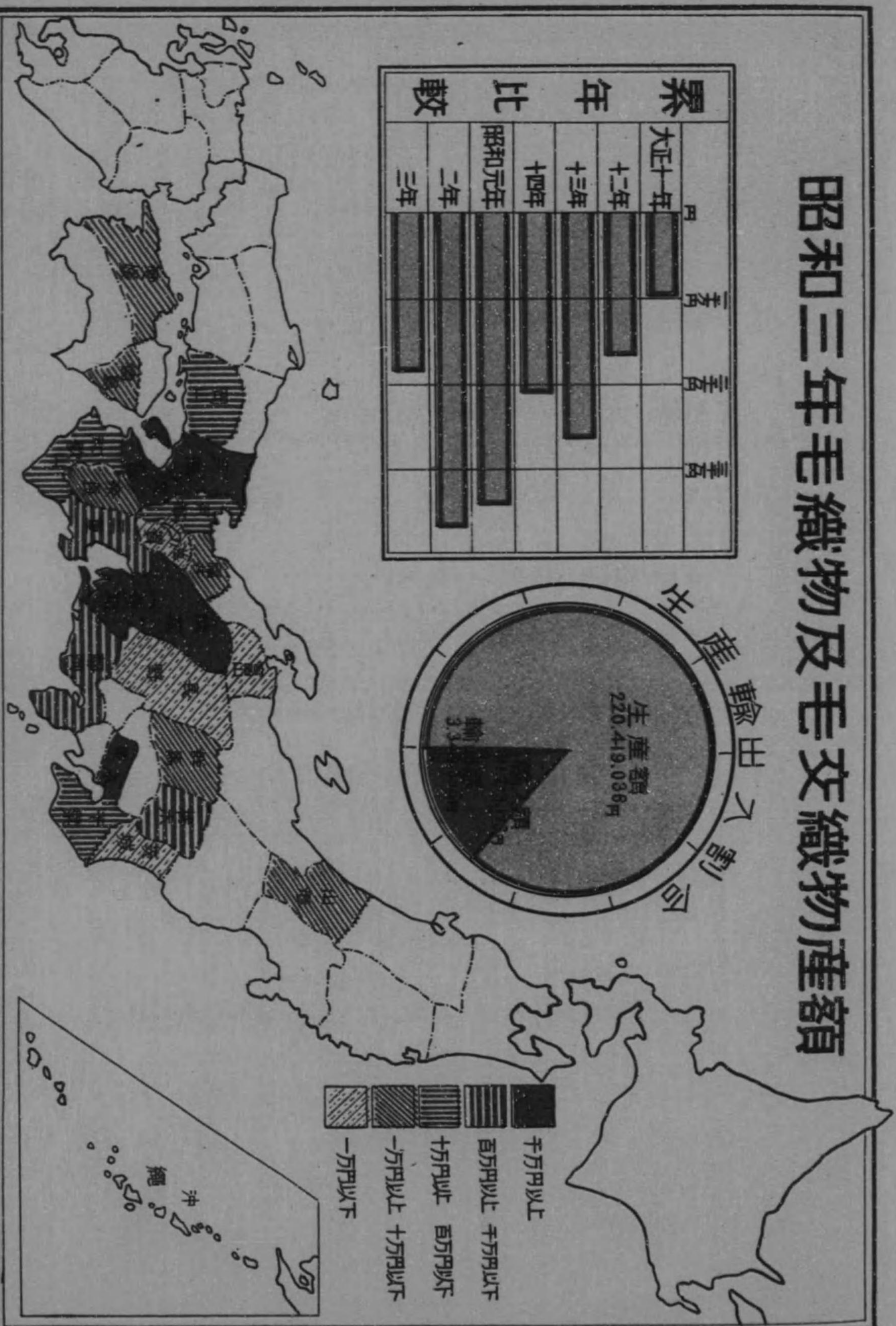
昭和三年綿織物產額



昭和三年毛織物及毛交織物産額

毛織物及毛交織物は、絹織交織や、麻織交織の工業よりも、一般に知られ互らぬ事業の一つであつて、かういふ圖表以外には殆ど常識化するべき資料が無いのである。昭和三年度に於ける産額を見すると、先づ右申した二つの織工業の、多少は全国的に遍くなつて在るとは異り、一部の生産地を除いた外は、至り寂寥たる地方の少くないことを知るのは、我々の第一に稽考せねばならぬ點であつた。たとへば綾通や由多加織、その他の毛交織も益々使用が盛じつゝあるのに、山形を中心とする北越の一部及び東北、北海道にこの工業の無いのは、元來必須品の赴くべき地方だけに、尠からず寒心に堪へぬものがある。この原料が悉く外國から輸入を仰ぎさうして國內の養殖原料が確立せず、それに資本の偏在、土地氣候の關係等から遂に關東及關西に獨占せられるのであらうと思ふ。大正十一年以來の産額を知り、且つ年産額とこれに配する輸出入状況を考察すると國産費用時節が大に考させらるゝ。

昭和三年毛織物及毛交織物産額



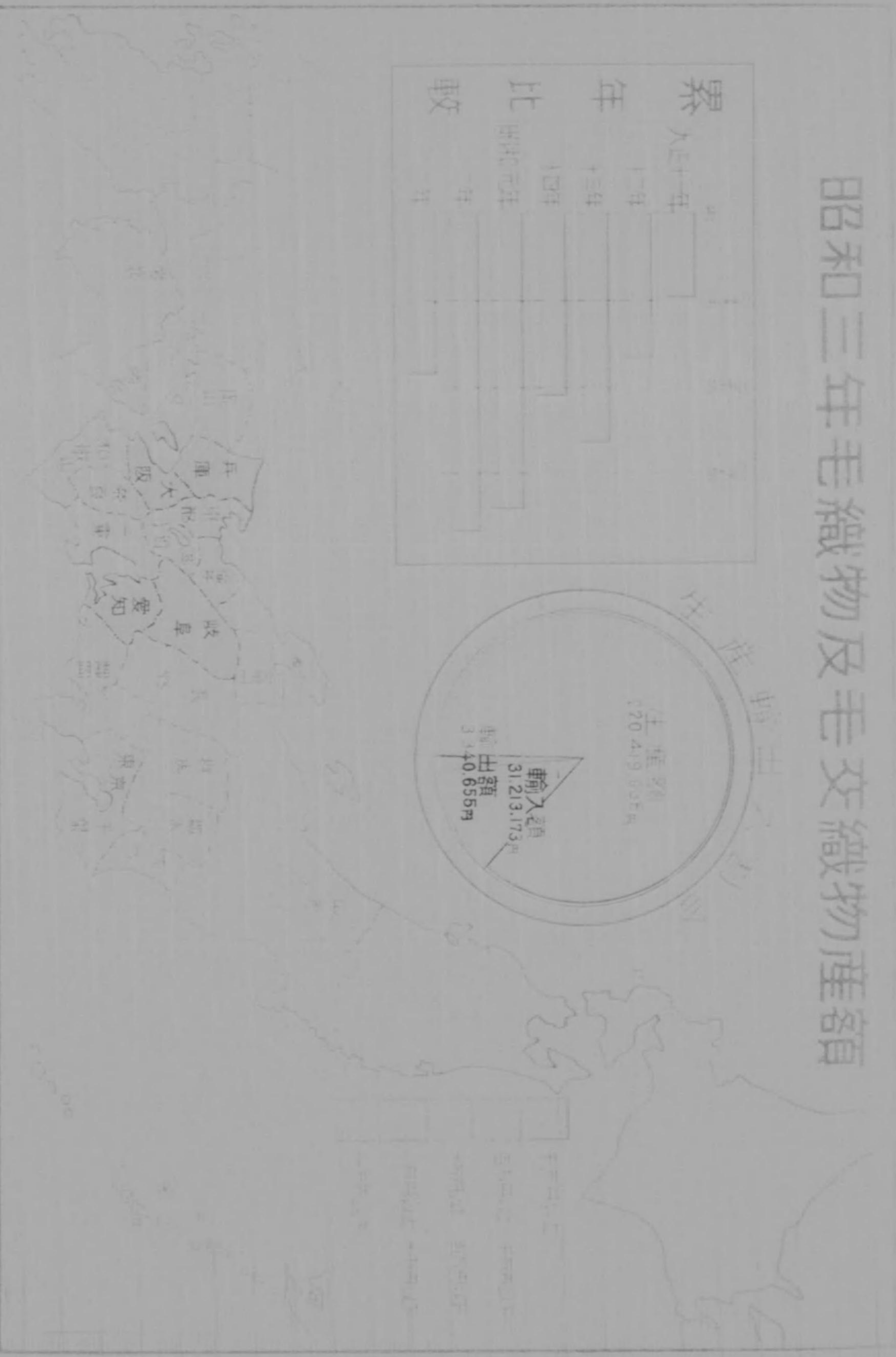
昭和三年毛織物及毛交織物產額

（一）

昭和三年毛織物及毛交織物產額，根據統計局之報告，其總產額為一千四百零六萬五千七百九十元。其中毛織物產額為一千零九十二萬九千八百九十元，毛交織物產額為三百一十三萬六千九百元。此項產額，較昭和二年增加百分之三十四點九。其增加之原因，在於原料之增加，及加工之進步。原料方面，羊毛之產量，較昭和二年增加百分之三十四點九。加工方面，毛織物之加工率，較昭和二年提高百分之三十四點九。毛交織物之加工率，較昭和二年提高百分之三十四點九。此項產額，對於我國毛織工業之發展，具有極大之貢獻。我國毛織工業，自昭和三年起，開始進入發展階段。此項產額之增加，不僅顯示了我國毛織工業之進步，也顯示了我國毛織工業之潛力。我國毛織工業，應進一步提高加工率，增加產額，以適應市場之需要。

昭和三年毛織物及毛交織物產額

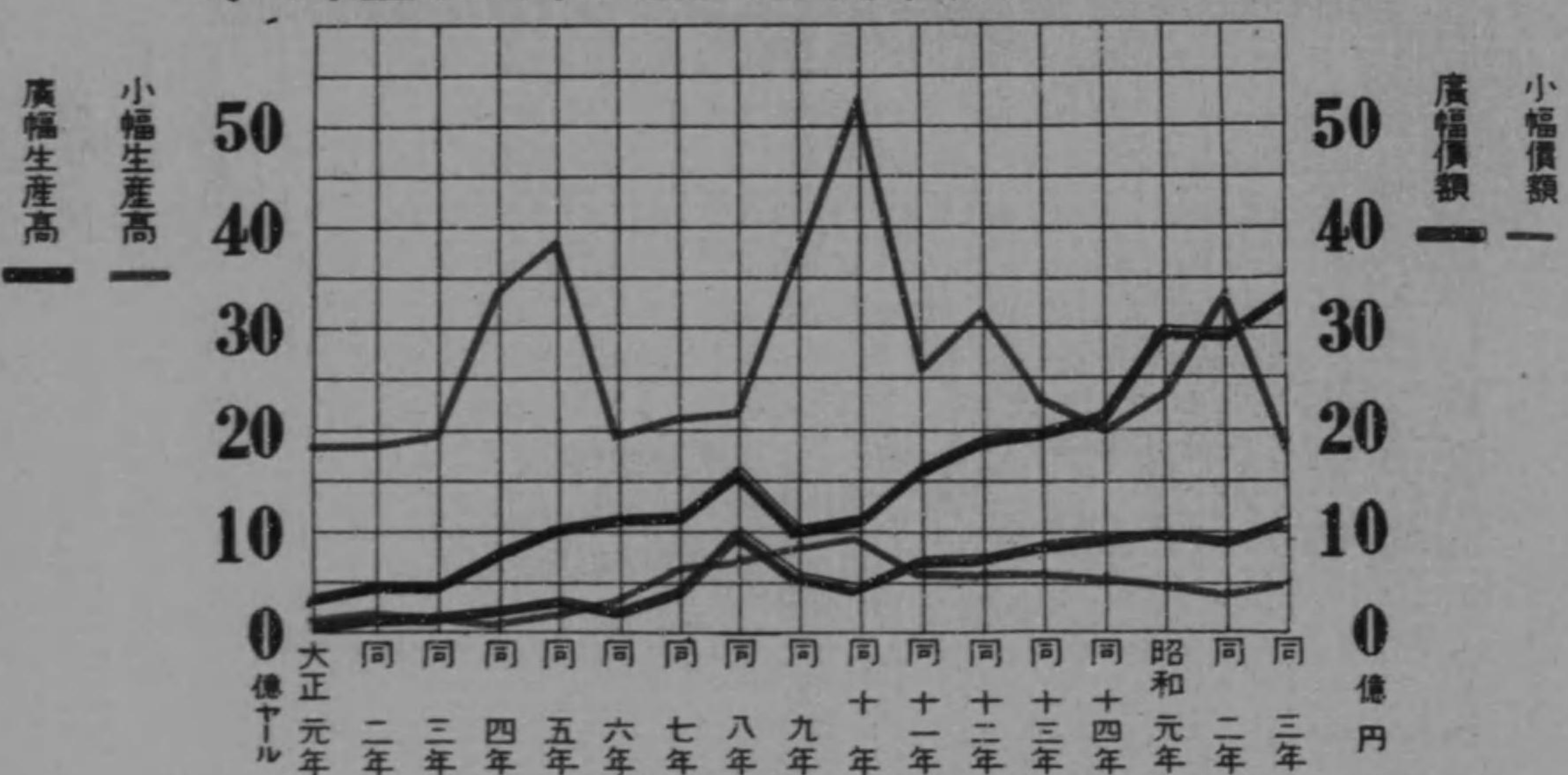
昭和三年毛織物及毛交織物產額



廣幅織物生産額累年比較

廣幅物は普通綿織物に一番多く製せられて居るが、此の生産高を大正元年より昭和三年に至る間の累年計に見ると、これとても工業の世相的零落氣に左右せられるところから、本圖の如き非常なる浮沈が出現したのである。小幅物は種目こそ少ないがなか／＼の生産であつた。一方は大正八年に、一方は大正十年に上騰を示して居る、又大正五年にも一度同じい形が表はれた。かういふ變動は單に必需品としての供給を増加せねばならなかつたからと云ふよりは、茲に至る間の割合長い伏線が、曾て頭を現はさずに匿れてあつた事を、考へねばならぬ。綿繻子・綾綿布・金巾・粗布・天竺木綿・綿縮・綿帆布などは何れも廣幅物であるが、金巾などは生産の量の多き割合には、綿小倉よりも金額が劣つた。多量必ずしも多い金額を産むといふでもない。之は小幅物にも當てはあることが出来る。全國細別の生産高が此の次に補はねばならぬ。三年以後は些か減少の傾向を現はして居る。

廣幅織物生産額累年比較

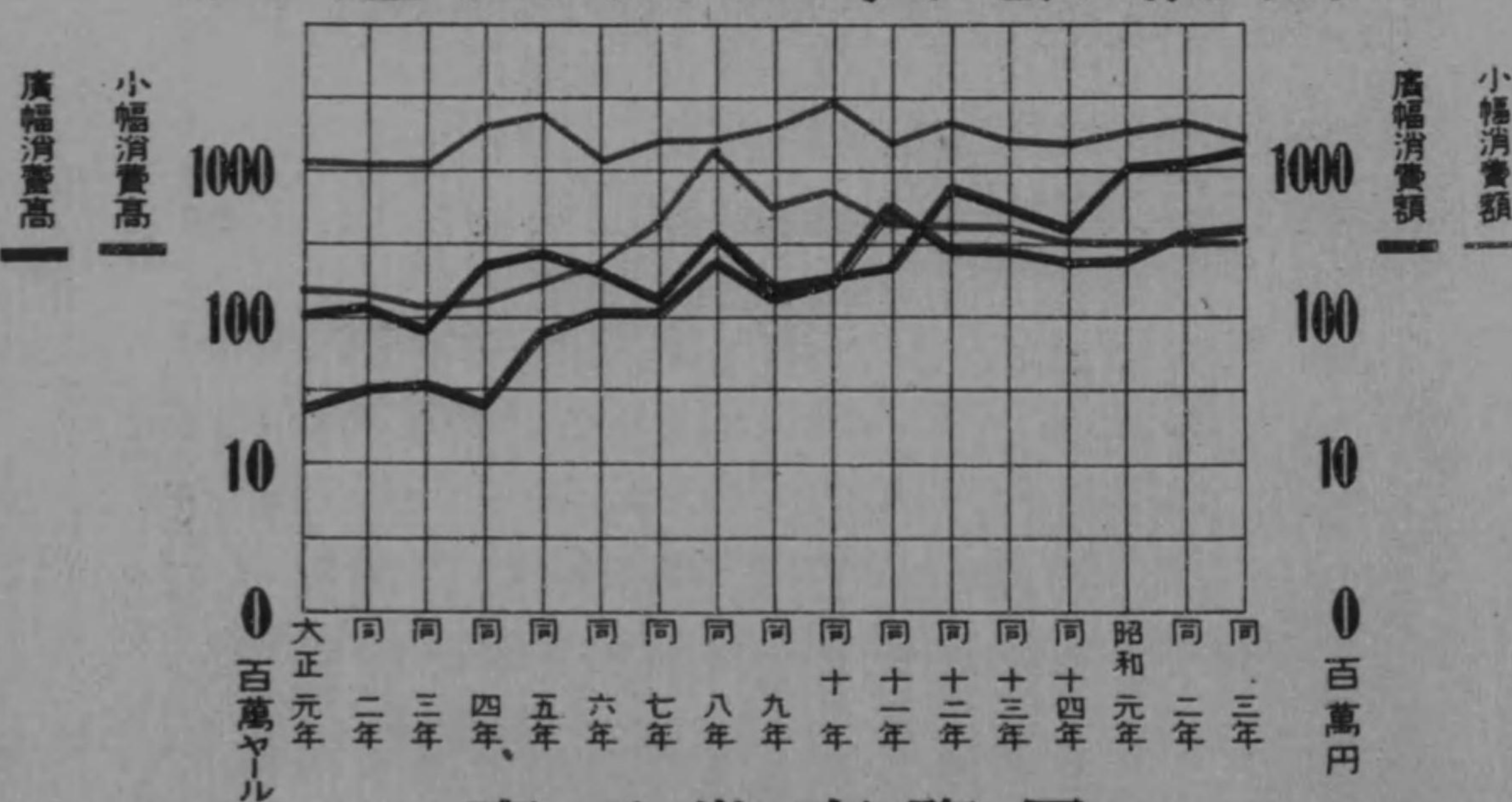


商工省商務局

廣幅織物消費額累計

次に廣幅織物の消費を、同じく大正元年から昭和三年までの間に見ることにする。稀に甚しい消長はあつても概して金高の上にてはこれは、ミ思ふ程の消費變遷は見ないのであつた。前に申した如く金巾などは綿繻子の五倍の生産額であるのに金額はこれの四分一に過ぎ無い。金高の上から言ふと、概して數量のよけいに出ない小幅物の額が、金になる高が多いのである。即ち廣幅の性質に依るのでこれは誠に止むを得ない。紺木綿などは巨額な消費であるから、但し年序を追うて或は廣幅全盛の時代の來るべきかとも思ふ。小幅物の消費は意外にも減少して居らず、大正年代に入つてから却てよい賣行きを示して居るのは、正に廣幅の脅威ともいふべきものであつた。廣幅の原料轉入に關する計算が、今日あまり明ではないから、従つてこれより以上判然と掲げることの出來ぬのは少々遺憾な話である。

廣幅織物消費額統計



商工省商務局

樟樹の分布は一見して暖流の波洗ふ國の特産たるを思はしめるもので日本海に面

した方面でも、山陰より以北は皆無であつて、老城以北の太平洋沿岸の國々と同

様、芳香には恵れぬ寂しさがあつた。南海道から四國の南部にかけ、更に九州一

圓には鬱然として茂りを見せ、沖縄の諸島を飛石に踏んで南下すれば臺灣は恐ら

く日本領土中に於ける唯一の本場とも言ふべき地ではあつた。鹿児島、鹿嶋、和

四年産が六一、四五三延、長崎の一七、三七一六延、熊本の一七、五〇八延とい

ひ、是等を巨多の産として内地合計一、五七四、一〇五延となるのに、臺灣一島が

三、八一、九三三七延と計上せられるのは、比較していかに豊饒であるかを、明ら

かに知るべきであらう。沖縄の狭陸を以て尙四、四〇延の産額を見たのであつ

た。天産の分配は國を長へに南北に分別して、江南の橋もなかく、に北國の積穀

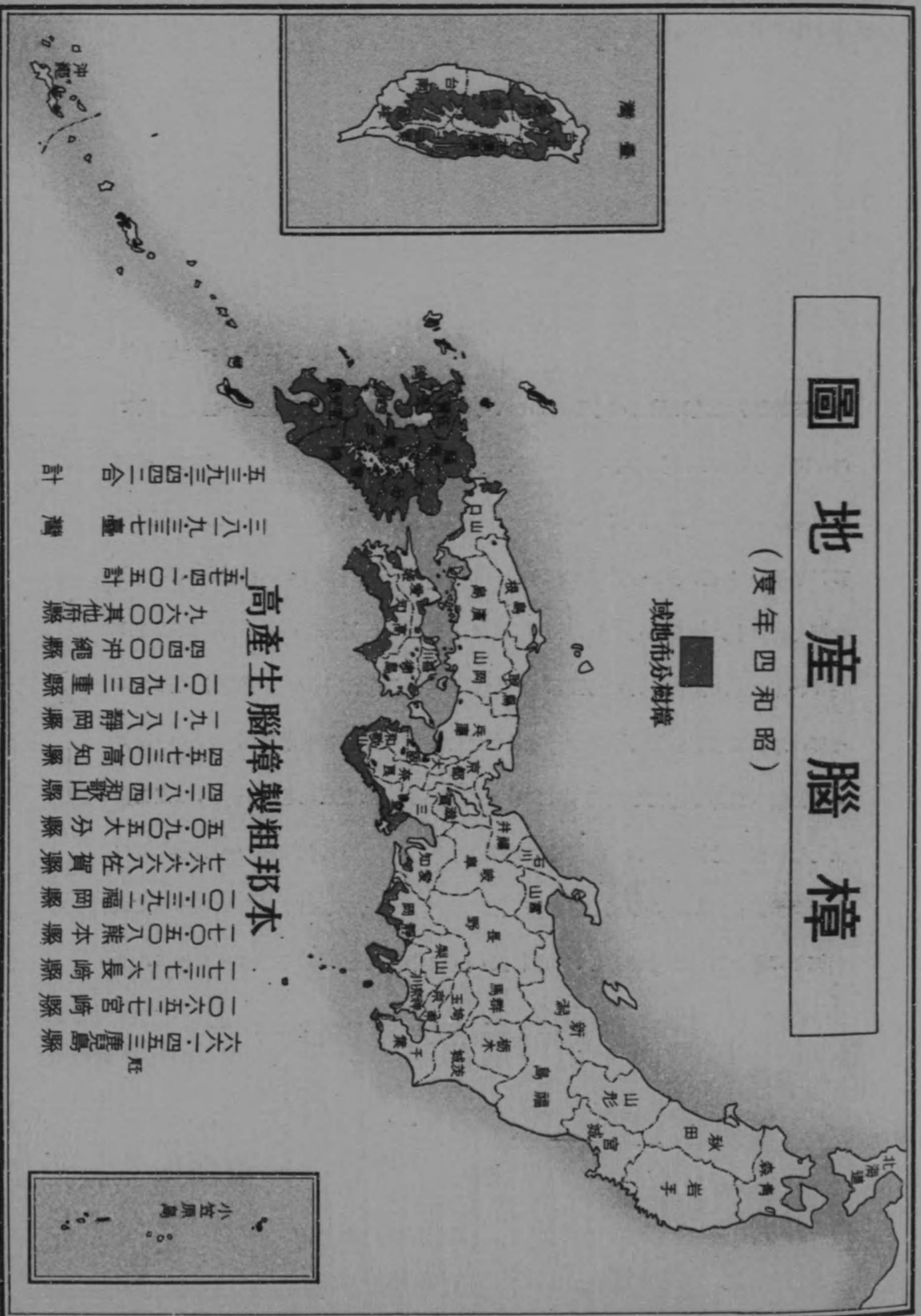
とはならぬのである。樟腦の精製は今や本邦に於ける特殊な工業的むじを發して

居るのである。

樟腦產地圖

樟腦產地圖

(昭和四年度)



樟腦產地圖

樟腦は、樟科の樹皮を蒸留して得られる。その主成分は、 $C_{15}H_{24}O$ のモノテルペンである。樟腦は、清涼感があり、皮膚に塗ると、かゆみや炎症を抑える効果がある。また、蚊や虫を寄せ付けないという性質も持っている。樟腦の産地は、主に東南アジアの山岳地帯に集中している。その中でも、台湾の阿里山や、中国の雲南省、インドネシアのスマタラ山などが有名である。樟腦の採取は、古くから行われており、その歴史は長い。現代では、天然の樟腦だけでなく、合成樟腦も生産されている。樟腦は、日常生活でも幅広く利用されており、その用途は多岐にわたる。

樟腦產地圖



日本樟腦輸出圖

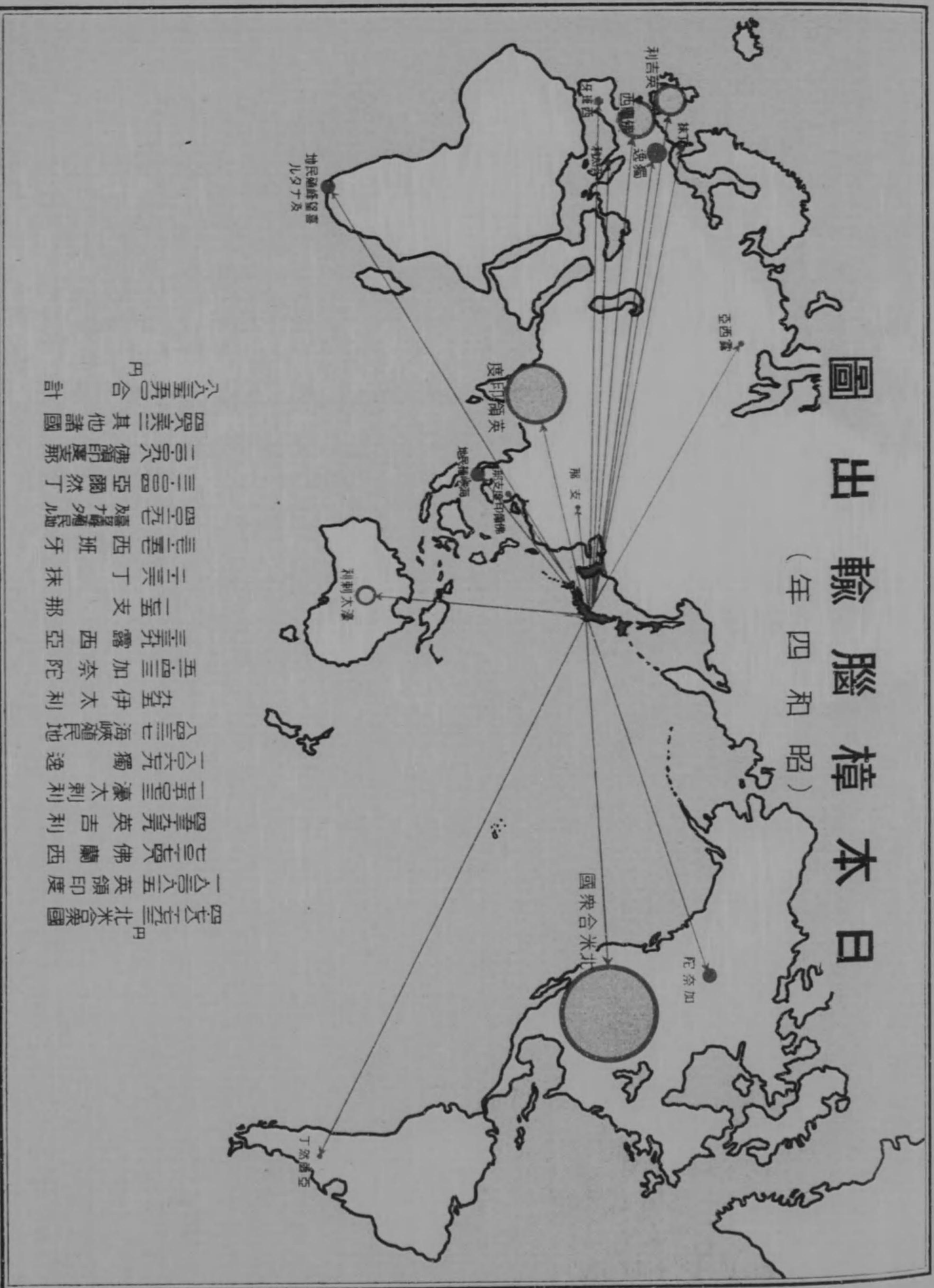
本邦に於ける樟樹の分布圖を一見してから、更にこの樟腦がいかなる勢ひを以て香氣を遠く外に傳へるかを、知つて置かねばならぬのである。精製樟腦は直ちにこれを藥品として使用せられ、或は又純粹なる合成化學品とも成つて居るが、工業用原料としては却て粗製品が多く所製せられた。樟腦の用途の次第に擴大せら

れたことは、近世科學の進歩を語る一つの題材であるが、昭和四年度に於てはやはり米國への輸出が第一位を占め、價格も従つて四七、八二、七九三圓を示した。

英領印度は數に於ては米國より遙かに劣るが第二位の一、八三〇、八五四、即ち第二位となつて居る。佛國の第三位は更に印度より少額であつた。近い將來には歐洲中先づ以て獨逸が夥多の注文を試みるであらうと思ふ。南米地方は現在亞爾

然丁の三、〇〇四圓が唯一の物であるが、之は恐らく今日以上に交通が頻繁となれば、智利も伯刺西濱も供給を喜んで來ることであつて、濠太刺利への輸出はこ

の先驅とも見られるのである。



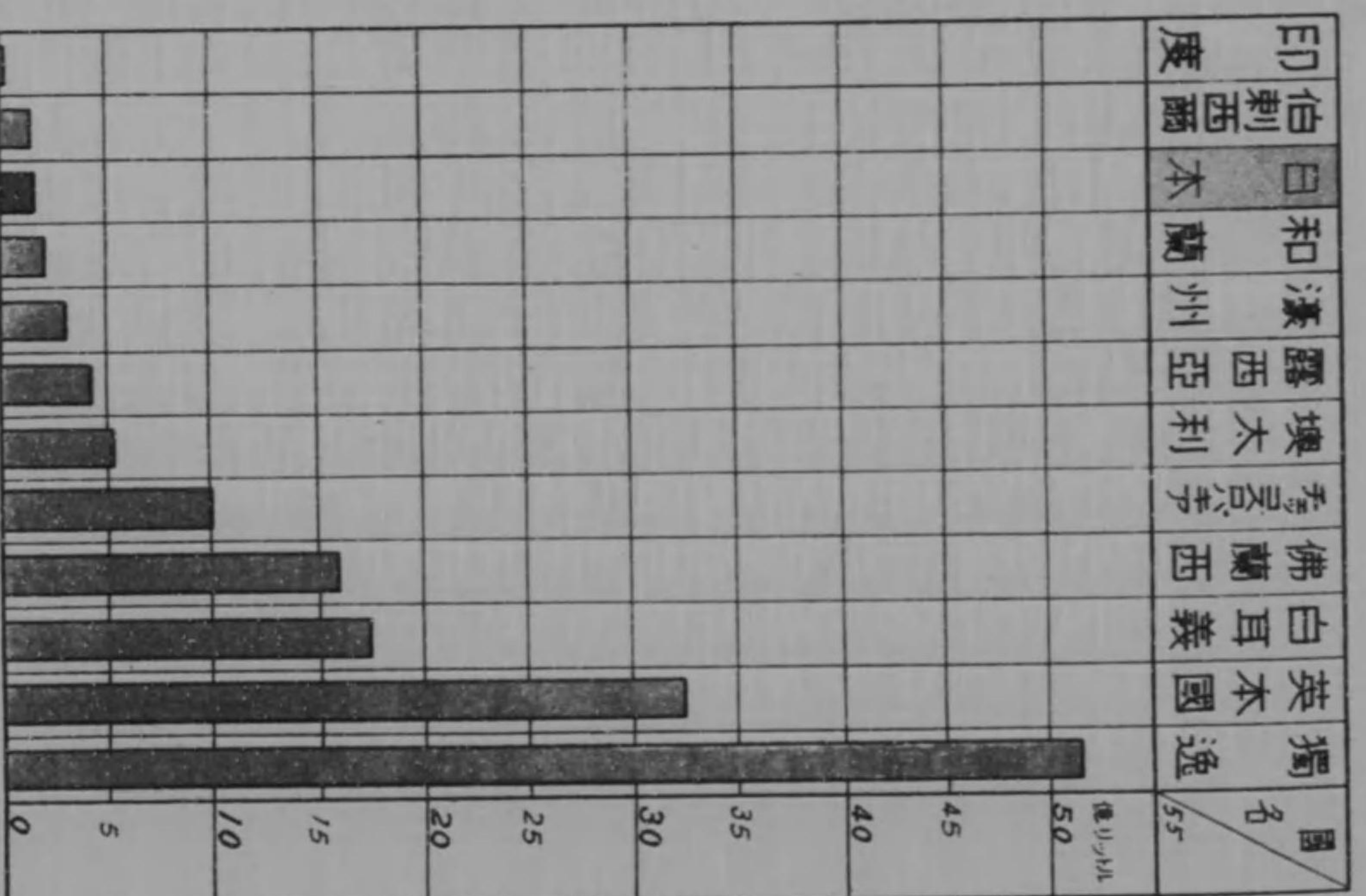
世界各國麥酒釀造高

一九二七年度の世界各國ビール釀造高を見ると、言ふまでも無いが獨逸はビールの傳統があつて首位の五一、六〇八ヘクタール、流石にあらゆる階級を通じての飲料たるを改めて思はせるものがある。英國は之に次ぐ三一、五五二ヘクタールで、是れは本國の量であつた。自義の佛國よりも多いのは、近來の輸出的工業が飛躍してゐる餘米に外ならぬであつて、これは新興國チエコとともに近き將來が懸望せられる。日本は本來の日本酒があるから、各國と比較してはビールが一、六五〇ヘクタールで、勿論和蘭よりも劣つて居る。然し近頃では次第にビールの嗜好が需要の増加を促し此の釀造の爲には外麥、ホップなどの原料品の輸入があるが、三四萬石はやはり海外へも輸出するといふ程に溢漕付て居る。日本の麥酒釀造にもかなり久しい傳統があつて、サボロ、エビスの名がキリンなどと一緒に頭を並べて、尙醉狂なる名目の醸出するのを待つて居るのは、いかにも意精のよい觀がある。

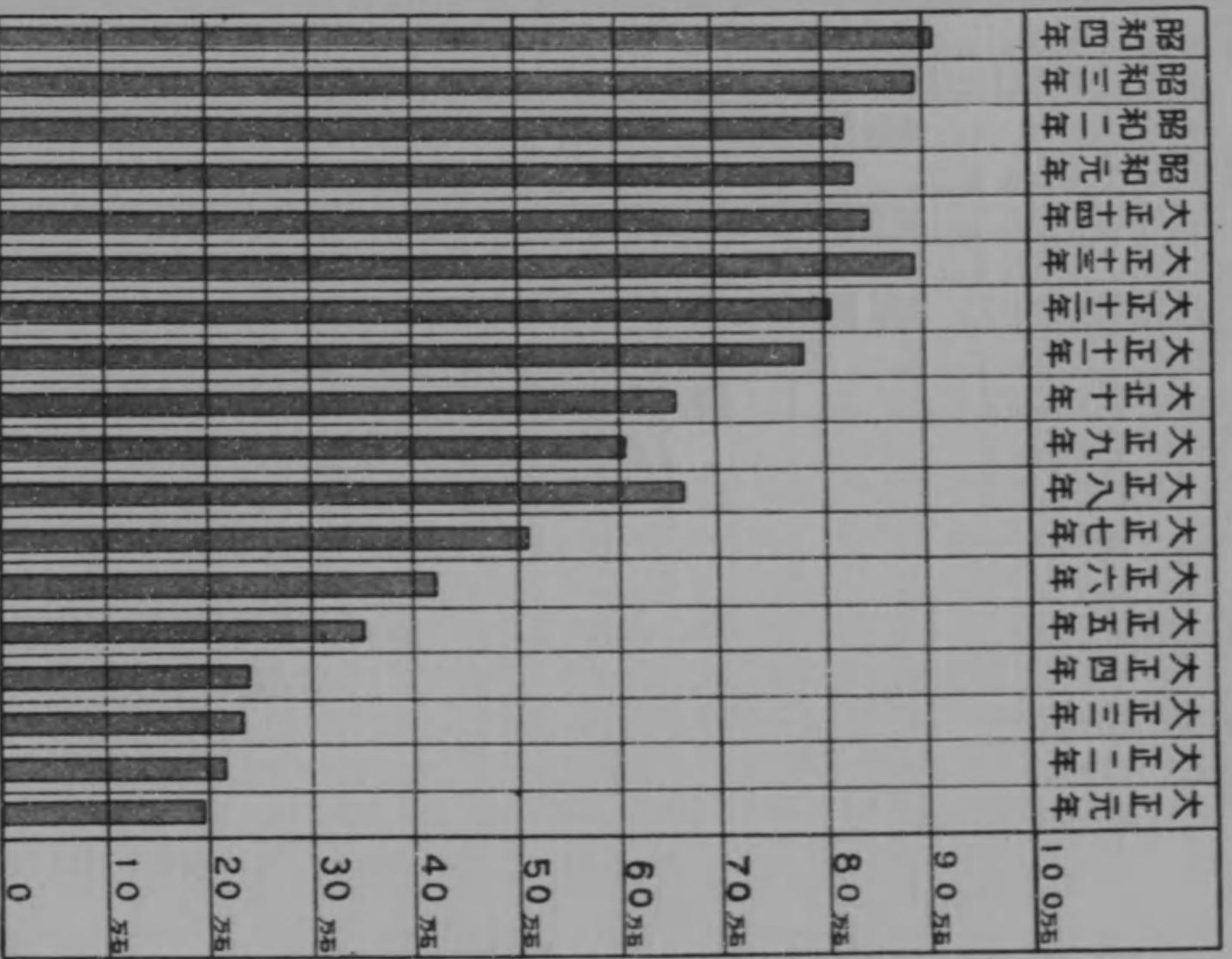
本邦釀造高

米と櫻と日本酒の無い土地には、日本人が住み得ないと皮肉な言を試みる人もあるが、近頃ではなかなかさうでもなくなつた。東西文化の交響樂には大に麥酒の重要さを感ずるのである、現に麥酒の需要も年と共に増加の趨勢を劇成して居る即ち日本酒の釀造増加率は日露戰爭當時に比し、四割であるが麥酒は約三十五割の増加率を示し、其進出振りには大に陶醉させられる。昭和四年の釀造高は九十五萬五千五百九十九石に上つて居る、追々と獎勵して更に逐年増石を示すのである。大正九年以來の釀造高を一見しても元年一九九、四六七石が、十年には六四七、三八一石、此の間には例の戰時好況の影響があつた爲に自然に見越して、多く造られ、七年に四九七、九七三石とあつたのが翌八年には六四八、六一五石がなつて居るのである。これが最近の足場となつて不景氣でも構はず、飲むだけには欲び、とばかり飲む。しかし日本酒の釀造高五百三十三萬石に較ぶれば、尙憂々たるの感かする。

世界各國麥酒釀造高 年額



本邦麥酒釀造高



我國製粉界大勢要覽



製粉販賣組合

我國製粉界大勢要覽

小麥粉の最近に於ける内地消費は夥しいもので、たとへば製粉用小麥の使用量が、内地小麥の九九六萬ビクル、外國小麥の一、一六萬ビクルといふのでも其の大勢は窺ふ事が出来るのである。本邦の製粉界は日清製粉の生産二〇、一〇〇パーセントを示した全部の四三、六%、日本製粉が一七、六〇〇パーセントで三八、二%とあり、其の他の産額が一八、二%となつて居る。勿論輸出などは極めて少量で、大半は内地で消費するのである。もとより内地小麥では足らず、加奈陀から輸入するもの六、六四九、六八〇ビクル、これを首位として北米の二、四三九、五八七ビクルを二位、濠洲からも稍これに近い額が輸入せられる關東州からも支那からも夫々年々の移入を見るのである。翻つて内地に於ける小麥の生産は、多年の懸案ではありながら、良い結果を得られない。小麥畑の耕地擴張も今や全国的に高唱せられるから、自然には増産もあらうが、製粉の輸出は尙考究が必要である。

我國製粉界大勢要覽



我國製粉界大勢要覽

我國製粉界之發展，於最近數年，已有顯著之進步。其所以進步者，由於原料之改良，及製粉技術之提高。我國之製粉業，向以手工業為主，其產量有限，且品質不一。近來，由於機械化之普及，產量大增，品質亦趨於穩定。

我國製粉業之原料，主要來自小麥。小麥之產量，近年來有顯著之增加。其所以增加者，由於種植面積之擴大，及單位產量之提高。我國之小麥，向以冬小麥為主，其收穫期較晚，且易受霜害。近來，由於品種之改良，收穫期已趨於提前，且抗寒能力亦有所提高。

我國製粉業之技術，近年來亦有顯著之提高。其所以提高者，由於機械化之普及，及製粉技術之改良。我國之製粉業，向以手工業為主，其製粉過程簡單，且品質不一。近來，由於機械化之普及，製粉過程已趨於複雜化，且品質亦趨於穩定。

我國製粉業之發展，雖然取得了一些成就，但仍面臨一些問題。其所以面臨問題者，由於原料之品質不穩定，及製粉技術之水平仍有待提高。我國之製粉業，應進一步加強原料之改良，及製粉技術之提高，以適應市場之需要。

日本は世界進出を大なる目標として、近年愈々固定の努力を続けられて来たが、

従来の對外國に加へて更に露國をも華容に陳ねることの出来るやうになつた。此

の國では緑茶の養分中から若がへりの要素なる物を抽出したといふ事で、日本茶

が支那を超えて一躍歐露入りを企てるに至つたのである。國內の製茶は今や静岡

が極めて優秀第一の位置に在り、年額五百萬圓以上を出して昔の傳統を有する京

都を斷然脚下に見せつけた。京都は三十萬圓以上の部に居し、鹿児島と共に靜

岡に強ぐが、熊本、岐阜、滋賀などは此の頃頗りに地勢を利用して茶樹栽培を奨励

した結果、共に二十萬圓以上は出して居る。青森などは寒國の故を以て些少の産

も見ぬが、昔はやはり茶を養へて大に名品を出した歴史をも有して居る。日本茶

の海外に輸出せられる状況は、大略米國を以て巨大なる顧客とし、中央亞細亞を

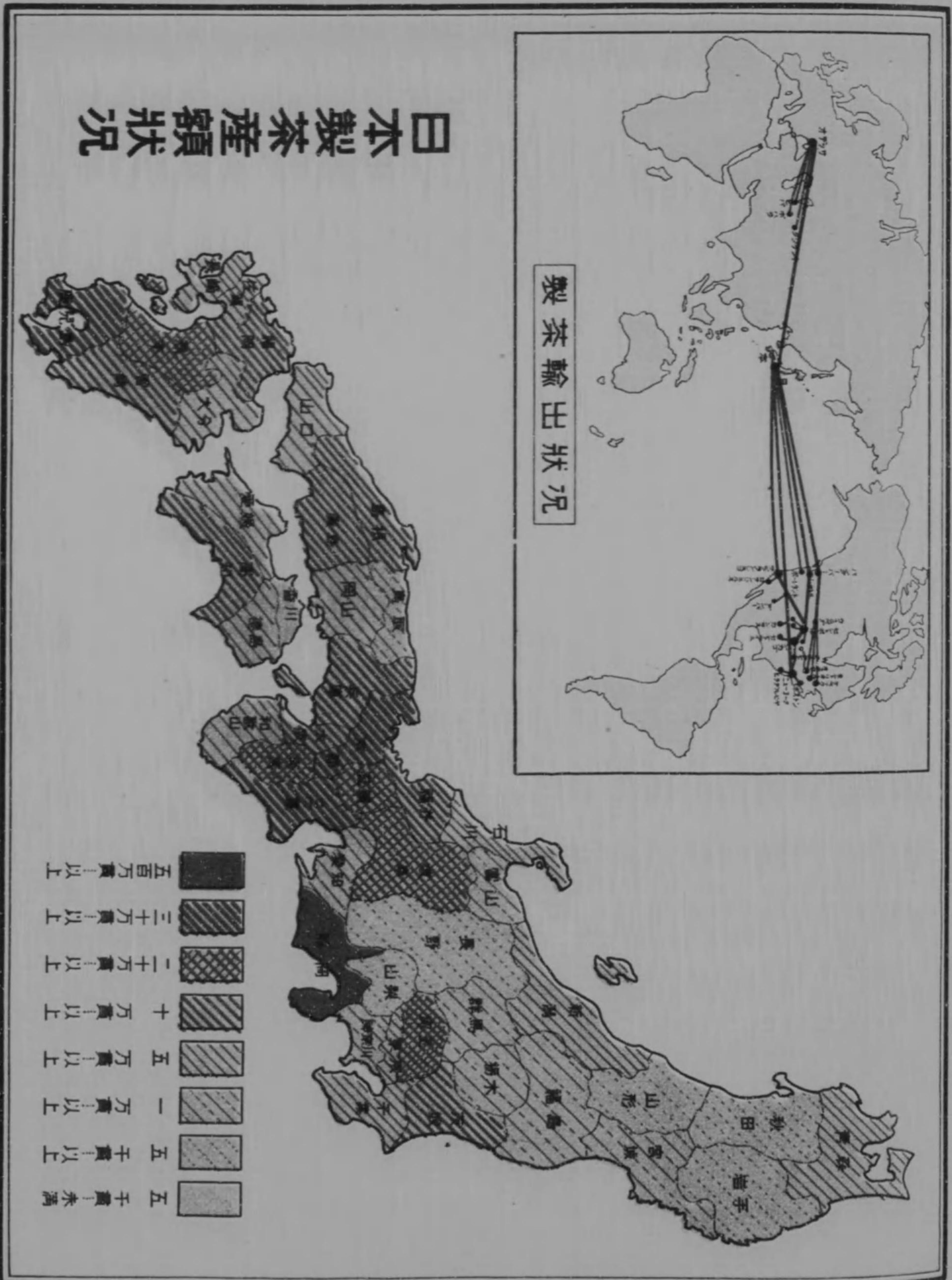
横断して今や漸く佛國の全部に及ばんとして居る。然し四方に強敵のあるは否め

ない。

日本製茶産額並輸出状況



製茶輸出状況



日本製茶産額状況

日本茶產額並輸出額

一、茶產額

二、茶輸出額

三、茶產額與輸出額之比較

四、茶產額之區域別

五、茶輸出額之區域別

六、茶產額之增減

七、茶輸出額之增減

八、茶產額與輸出額之趨勢

九、茶產額與輸出額之關係

十、茶產額與輸出額之預測

日本茶產額並輸出額



日本製茶產額狀況

各飲食物中ザイタミシ含量料比較

ザイタミシ含有量の多少を以て、食品の栄養価値を計るこの流行も、大正年代に入つてから一きわ濃厚になつた。栄養科學と語さへ常識語化して居るのである。A B C D E と發見せられたから、愈らくアルファベットの文字が全部に充當せられる理想が營養學者の中には抱かれて居るかも知れぬ。大根のザイタミシ含有量を一として、いろ／＼なる食物中にある量を見たものであるが、日本綠茶には貯蔵したものに迄第一位の三、〇〇を有するといふのは茶の功德を説く人には持つて來いの調査である。これを昔の喫茶養生記を書いた人に見せたなら何と言ふであらうか。九泉の下に笑つて居るかも知れない。〇は熱におひば至て崩壊し易いといふから、茶の湯の頃含な加減も誠に打つけの所作なのであつた。〇が缺乏すると何僅病や敗血症になり易い、ハツレ草などともにかうして容易に〇量を得られるならば、これに越した手癖さは無い。其の他茲に列ねた食品中には、常識を裏切る物もある。

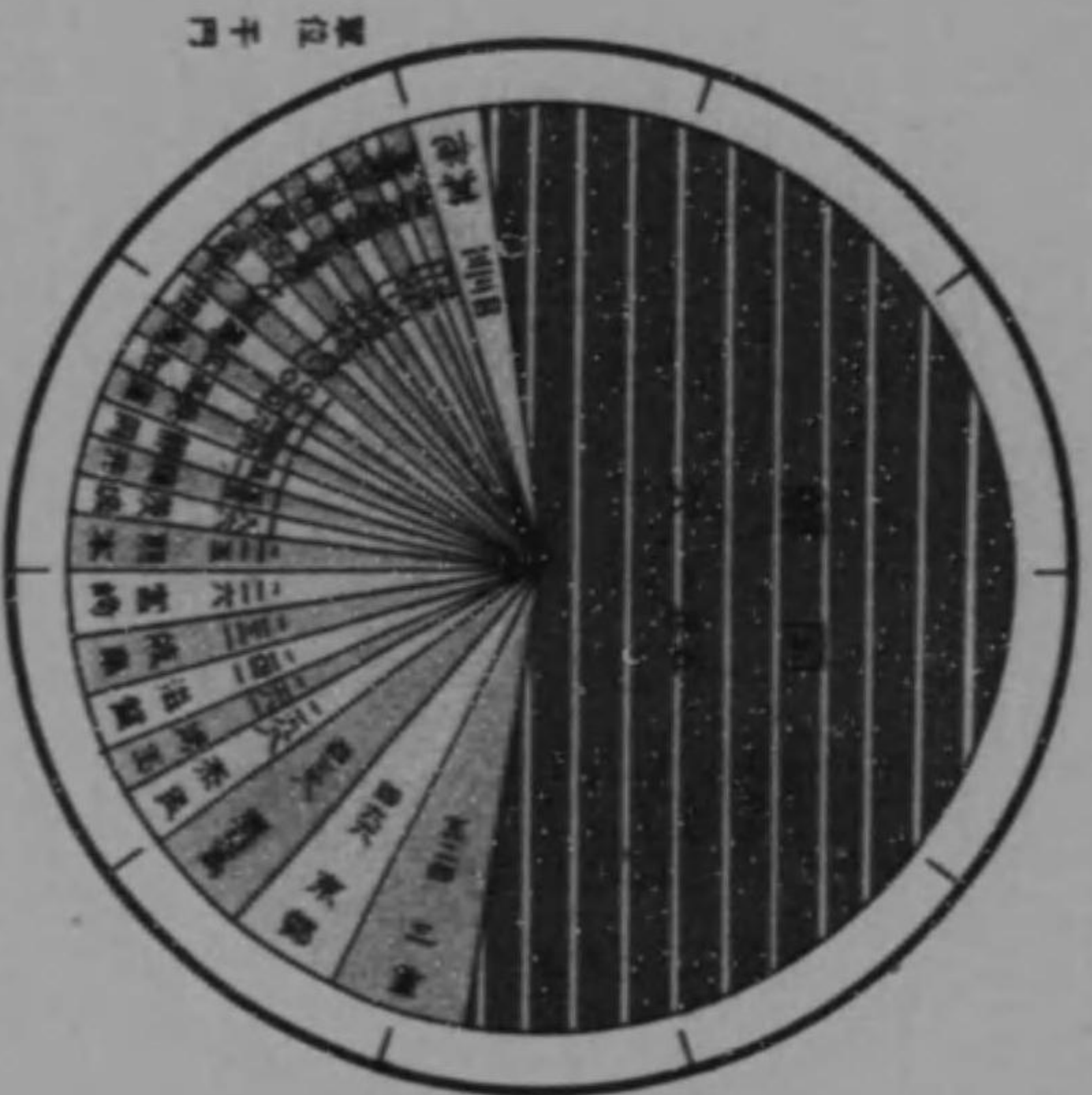
全國製茶總產額

昔は本茶を宇治、非茶とあるのを梅尾の茶とした。然るに全國の茶の生産から見ると宇治も梅尾も悉く非茶の位置になり、静岡ばかりは本茶の堂々たる王座を獲得するやうになつた。本茶も非茶も味感から來て、次第に産地の正屬を云つた言葉らしいが、茶樹栽培の獎勵と改良とでは、静岡はさの大規模なものもなく、又これ程の生産も曾てなかつたのである。全國總產額が臺灣茶を除いて一、二二九、〇〇〇貫といふに、其の内静岡が六、一五五千貫となり、即ち全國の二分の一強を産して居るのである。京都の如きは四四六千貫、名のみにして少なきとは、三重の五二四千貫よりも劣つて居るのである。鹿児島近來の活躍は目覺しく遂に四三、八千貫と漸付けた。其他はこれらと比しては同日の談ではなく、是れを最近二十五ヶ年間の輸出状況に見ても、大正六七年の交の一大飛躍を以て日本の茶の威力を世界の市場に顯はしたことは疑い。又近頃は露西亞へ盛んに輸出せられる機になつた。

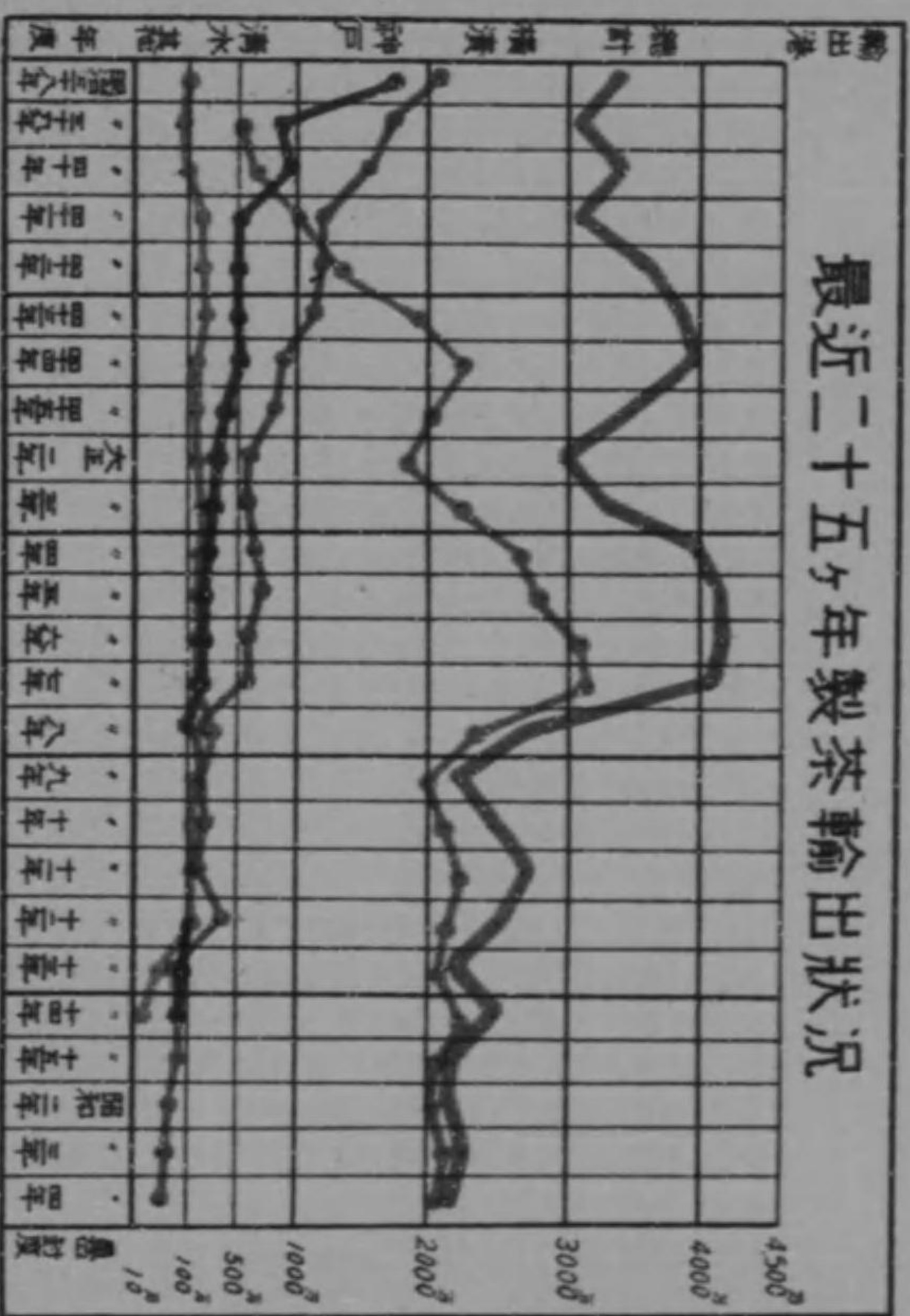
昔は本茶を宇治、非茶とあるのを梅尾の茶とした。然るに全國の茶の生産から見ると宇治も梅尾も悉く非茶の位置になり、静岡ばかりは本茶の堂々たる王座を獲得するやうになつた。本茶も非茶も味感から來て、次第に産地の正屬を云つた言葉らしいが、茶樹栽培の獎勵と改良とでは、静岡はさの大規模なものもなく、又これ程の生産も曾てなかつたのである。全國總產額が臺灣茶を除いて一、二二九、〇〇〇貫といふに、其の内静岡が六、一五五千貫となり、即ち全國の二分の一強を産して居るのである。京都の如きは四四六千貫、名のみにして少なきとは、三重の五二四千貫よりも劣つて居るのである。鹿児島近來の活躍は目覺しく遂に四三、八千貫と漸付けた。其他はこれらと比しては同日の談ではなく、是れを最近二十五ヶ年間の輸出状況に見ても、大正六七年の交の一大飛躍を以て日本の茶の威力を世界の市場に顯はしたことは疑い。又近頃は露西亞へ盛んに輸出せられる機になつた。

全國製茶總產額(臺灣ヲ除ク)

11,229,000 貫

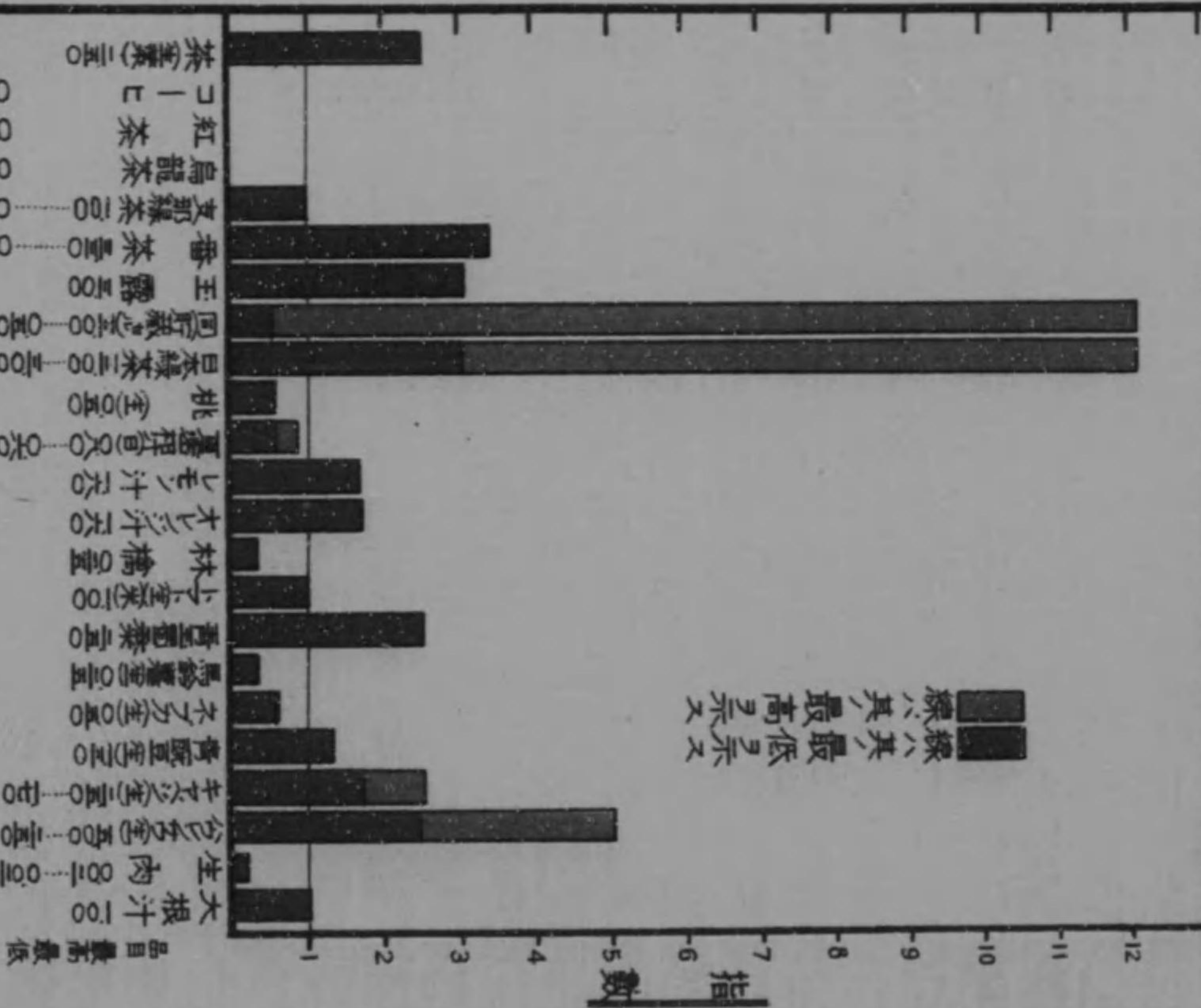


最近二十五ヶ年製茶輸出状況



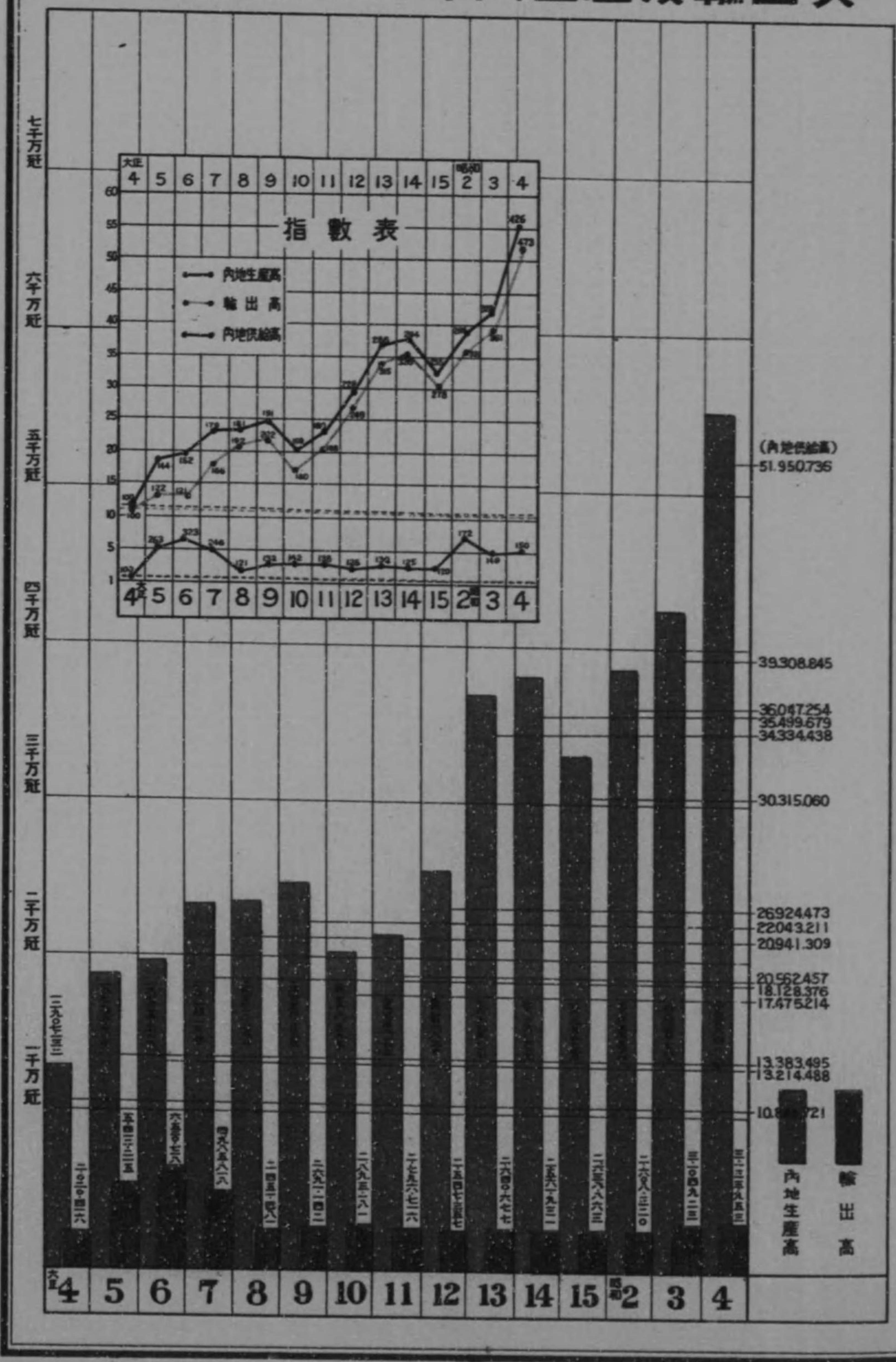
(茶業組合)

大根汁中ニ含有スルザイタミシC量ヲ一トシタル各種飲食物中ノザイタミシC含有量比較表



■ 線ハ其最低ヲ示ス
 ■ 線ハ其最高ヲ示ス

晒粉最近十五年間生産及輸出表

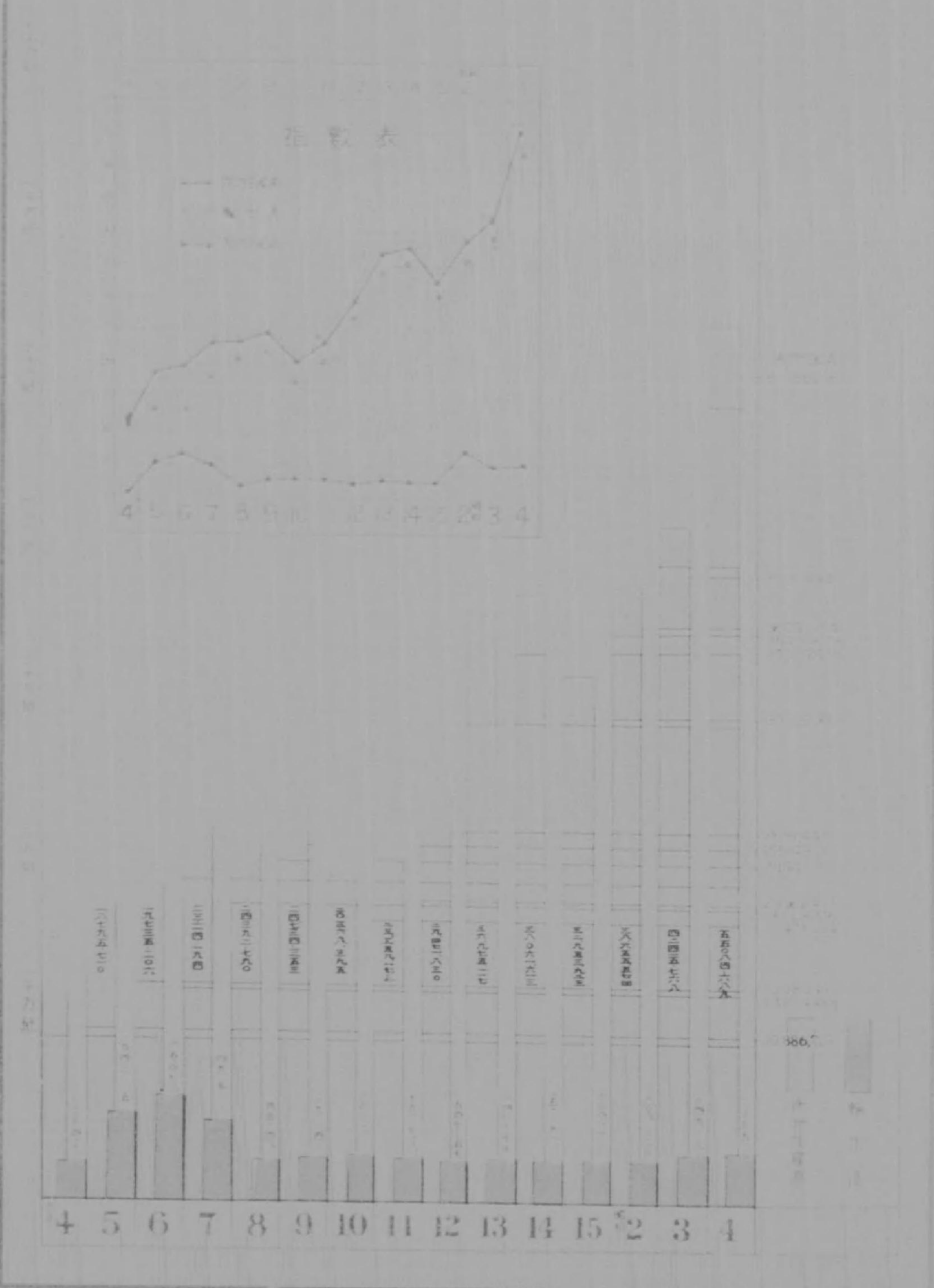


(曹達晒粉聯合會)

晒粉最近十五年間生産及輸出

世間ではあまり注意を拂はぬ生産に晒粉があつた。輸出の額は内地の供給に比しては至て少ないのであるが、それでも東洋及近東方面に向けて年々若干の輸出を見て居るのは一寸意外に思はれるであらう。生産は需用に任せて逐年順次に多くなつた。此の圖は大正四年以後の生産高と輸出高を示して居るが、四年の生産一、九〇七、一三二、九〇七、〇二〇、四一六、九〇七の輸出以外は國內の消費に充てられるのであるが、五・六年になると晒粉の軽い品にも世界的影響が來て、近年殆ど並びない輸出額を見たのである。八年以後は又平調に沈んでこればかりは變化が無かつた。但し國內の供給は多々益々盛んで、大正十四年には大正期を通じて第一の産額を示し、昭和四年に至つては實に五五、〇八四、六八九の供給額となつた。大正四年の指数を一〇〇とすると、十五年後の昭和四年は正に四七〇の生産、四二六の内地供給とはなつたのである。これから推すと輸出の指数僅に一五〇とは誠に微々たるものである。

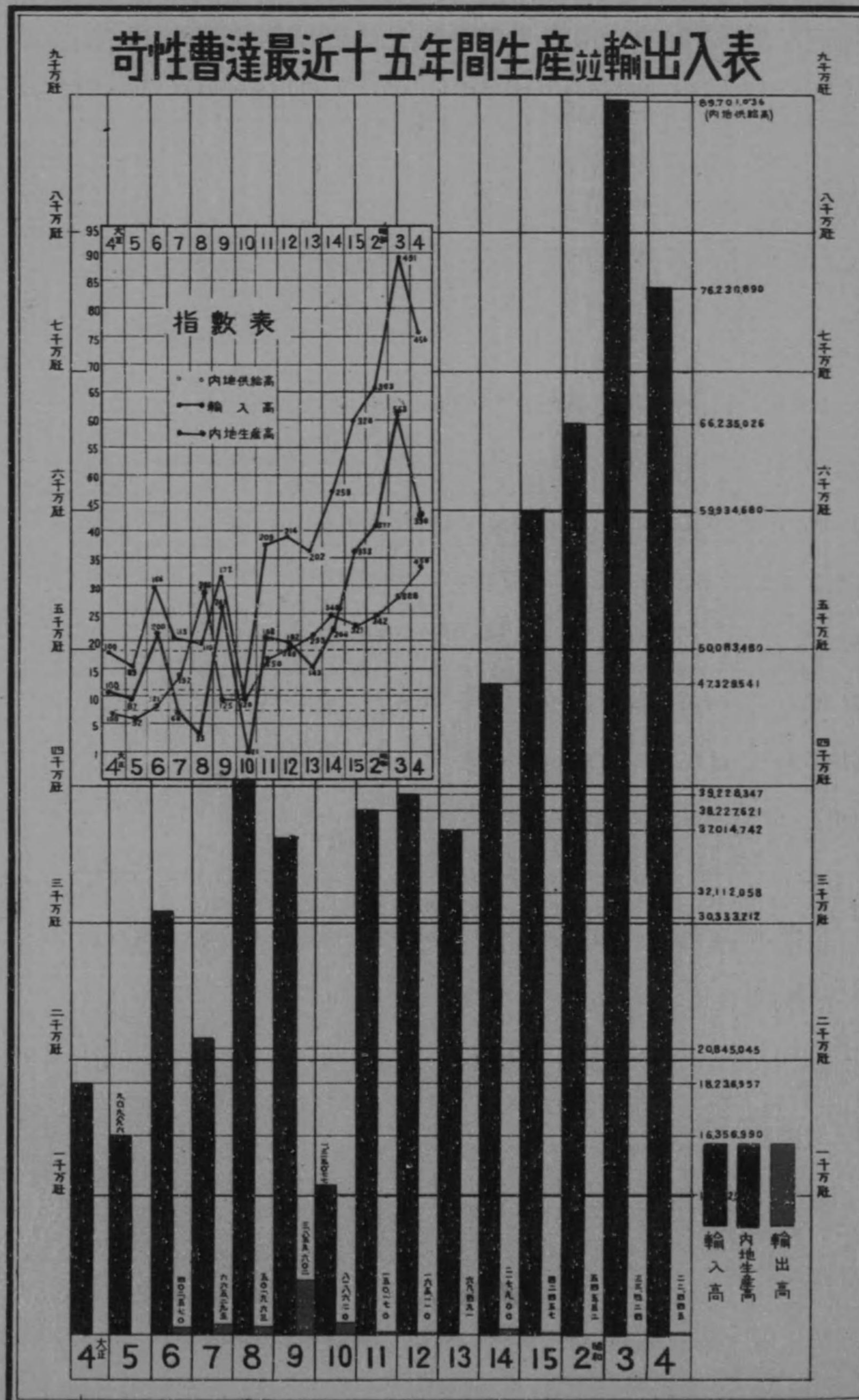
晒粉最近十五年間生産及輸出表



資料提供元

晒粉最近十五年間生産及輸出

晒粉は、我が国産小麦の主要な加工品の一つとして、戦前戦後を通じて重要な地位を占めてきた。最近十五年間の生産及輸出の動向を考察するに、戦前戦後を通じて晒粉の生産が著しく増加したことが認められる。これは、戦時中における食糧増産政策の一環として、小麦の生産が奨励されたこと、および戦後における食糧増産政策の一環として、小麦の生産が奨励されたことによるものと見られる。また、晒粉の輸出も著しく増加したことが認められる。これは、戦時中における食糧増産政策の一環として、小麦の生産が奨励されたこと、および戦後における食糧増産政策の一環として、小麦の生産が奨励されたことによるものと見られる。



(晒粉联合会)

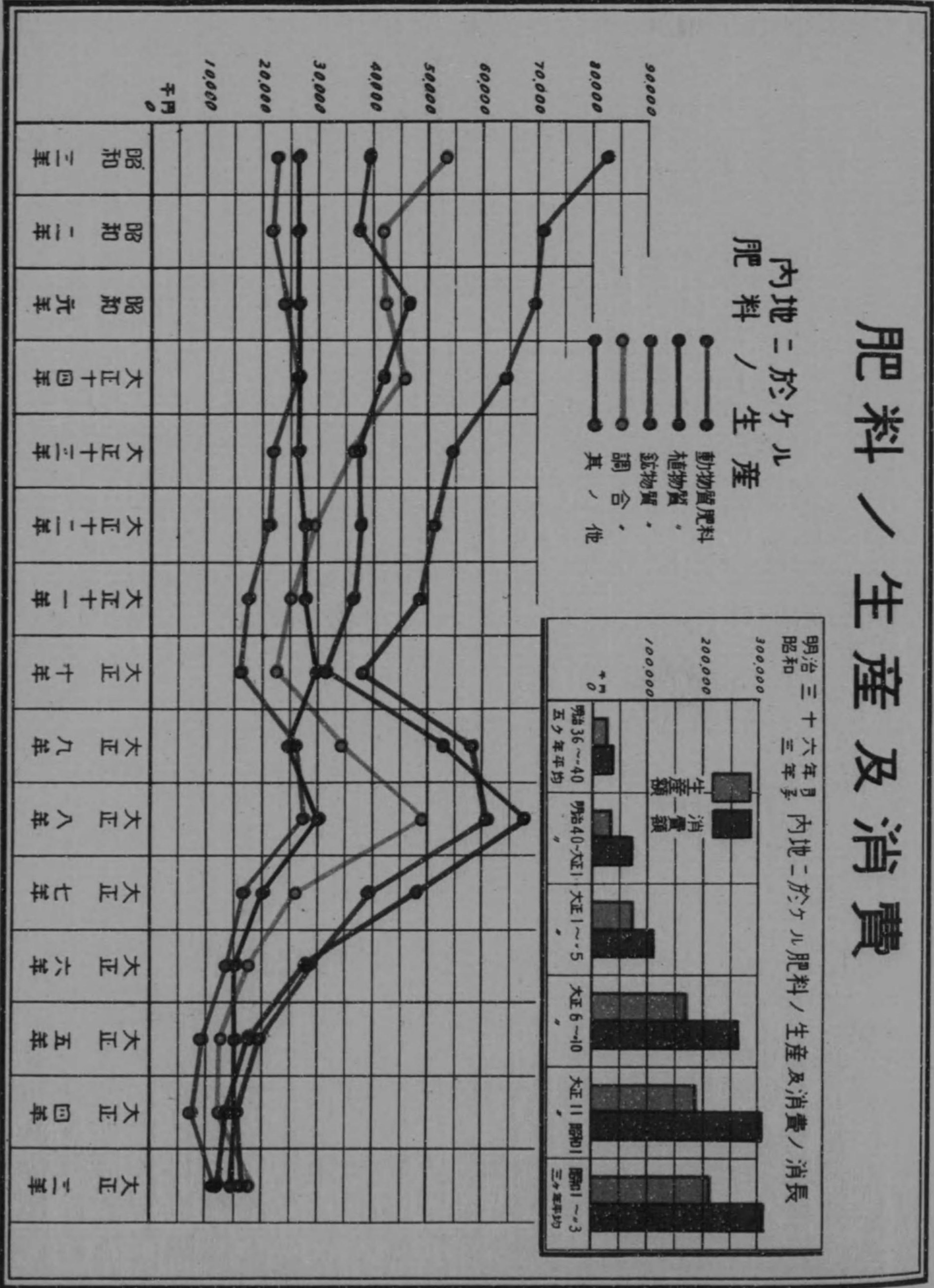
苛性曹達最近十五年間生産並輸出入

苛性曹達は、硝酸曹達とともに年々國內の需要が増して行くのに、内地に於ける生産が間に合はず、是非なく外國からの供給を仰がねばならず、此の圖に見えるが如き大勢を今に持續して來たのであつた。内地の生産なきは、輸入の額に比較すると同日の該ではなく、日本から海外へ出すものにしても微量であつて、寧ろ出荷することさへ不審の第一とせられる程である、是れは甚だ心細いことで、何れ其發達を將來に擊き斯業關係者の奮發を冀ふより外は無からう。獨逸は近來化學工業が非常に展開し出したから、恐らく日本が將來目標にする近東並に支那なきも獨の製品に押される時がもう目睫に迫つたと考へねばなるまい。大正四年より十五ケ年に亘る輸入の趨勢を見ても、大正四年指數一〇〇として年次踏躍的暴進を示し昭和四年は急落を現したが、昭和三年の如きは五六三と昂騰したのである。而もこの年の供給高は四九一と上奔し内地生産高も、漸次累増の趨勢を辿りつゝあるは本製品の爲悦ばしい事である。

肥料の生産及消費額

大正三年以來内地に於ける肥料の生産額を見すると、雑多の肥料を合計して三年の七一・三八〇千圓が、大正八年には一躍して三四、一四〇千圓となつた。世界的影響に由る多産ではあるが、日本としては珍しい事で、昭和三年迄は遂に再び此の數には上らなかつた。故に掲げた種々の肥料に依て其の額の消長を觀るべきであるが、一方消費の額にあつても、明治三十六年以來の五ヶ年平均數比較では、本圖の如く極めて大なる増加を示したのである。明治四十年代の消費指數を一〇〇として見るに、大正元年迄の一七二が、大正五年迄二七一、飛んで昭和元年七三四となり、今や實に七八二の高指數とは成つて居るのであつた。本邦の農業に要する肥料は先づ五六億圓と算せられ、過半は即ち食肥といふことで、食肥の原料中内地生産が一億五千萬圓、餘は外國から二億圓外の輸入を仰ぎ、硫酸アンモニア、磷酸普通硫酸加里豆糞その他の品種を招くといふのは、中々骨の折る事である。

内地ニ於ケル肥料ノ生産及消費

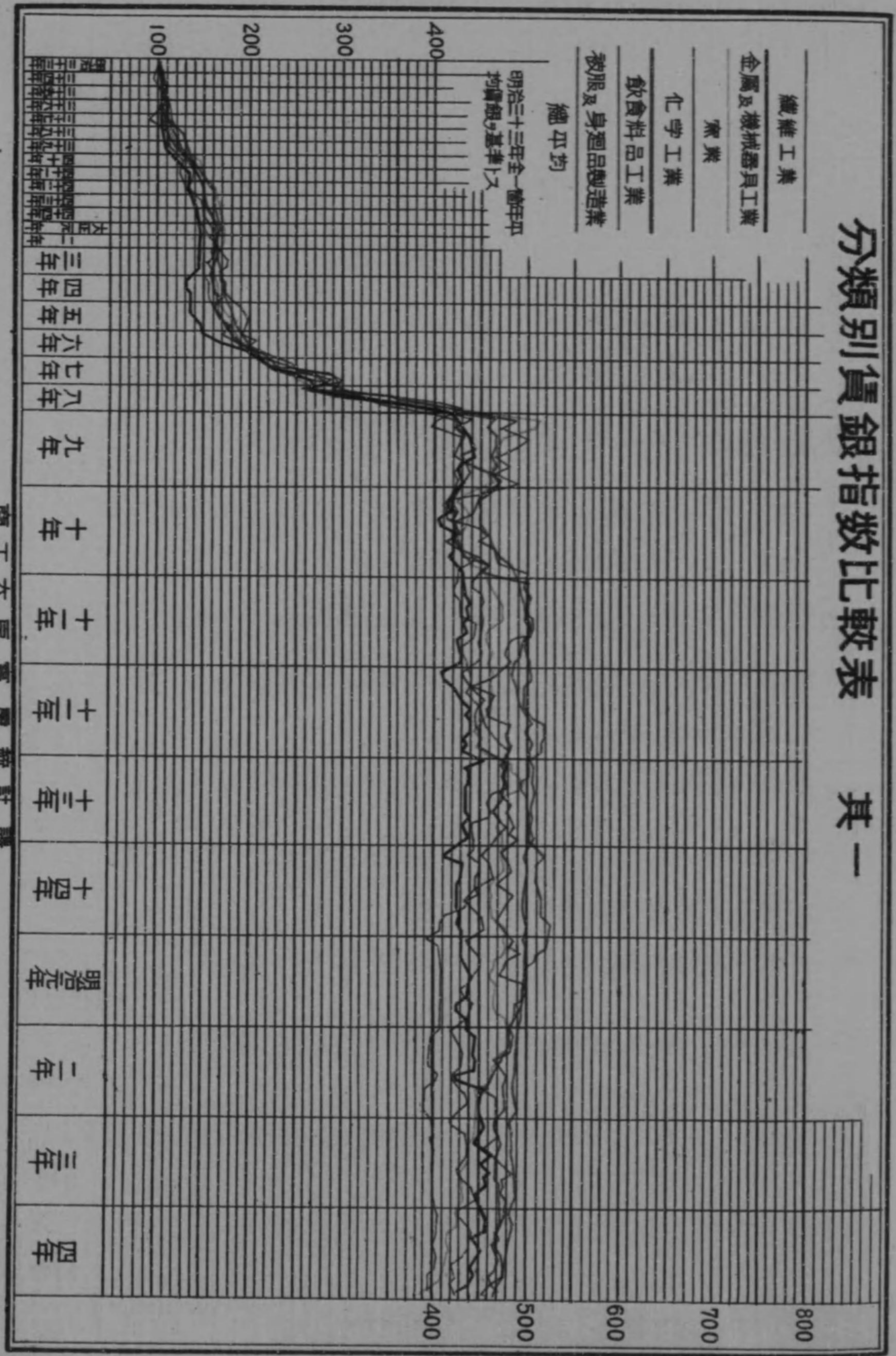


(農林省)

分類別賃銀指数比較 (其二)

明治三十三年の賃銀指数を一〇とする極めて珍希なる調査に屬し、それだけ又重要な歴史的表现ともいへ。築業の一七〇を最頂點として明治年間を終り愈々一大飛躍の大正期に入るや、俄然として賃銀は奔放に上り始めた。他の圖表にも屢々附言した事ではあるが、大正三年歐洲大戰の發芽あつて以來初國の戰雲遠く極東の島帝國に影を落して、八年より九年に伸びると近世稀有の賃銀率を顯はすやうになつた。賃銀は此の好況に依て大に幾々と増加せられ、九年の築業既に五〇圏内を上すると、織維工業亦五〇〇から四九〇邊を遊進し、飲食料品工業も會て高さを示す。十年を一境として十二年織維が上位となり、十二年には飲食料が一飛して居るのは、即ち國內購買力の増進が此の産業一般を煽つた結果であつて、此の情性は遂に昭和元年の初頭にまで続いたのである。この裏面を行くものに化學工業がある。實質なる過程を通じて他の如き波瀾を見せない。

分類別賃銀指数比較表 其一

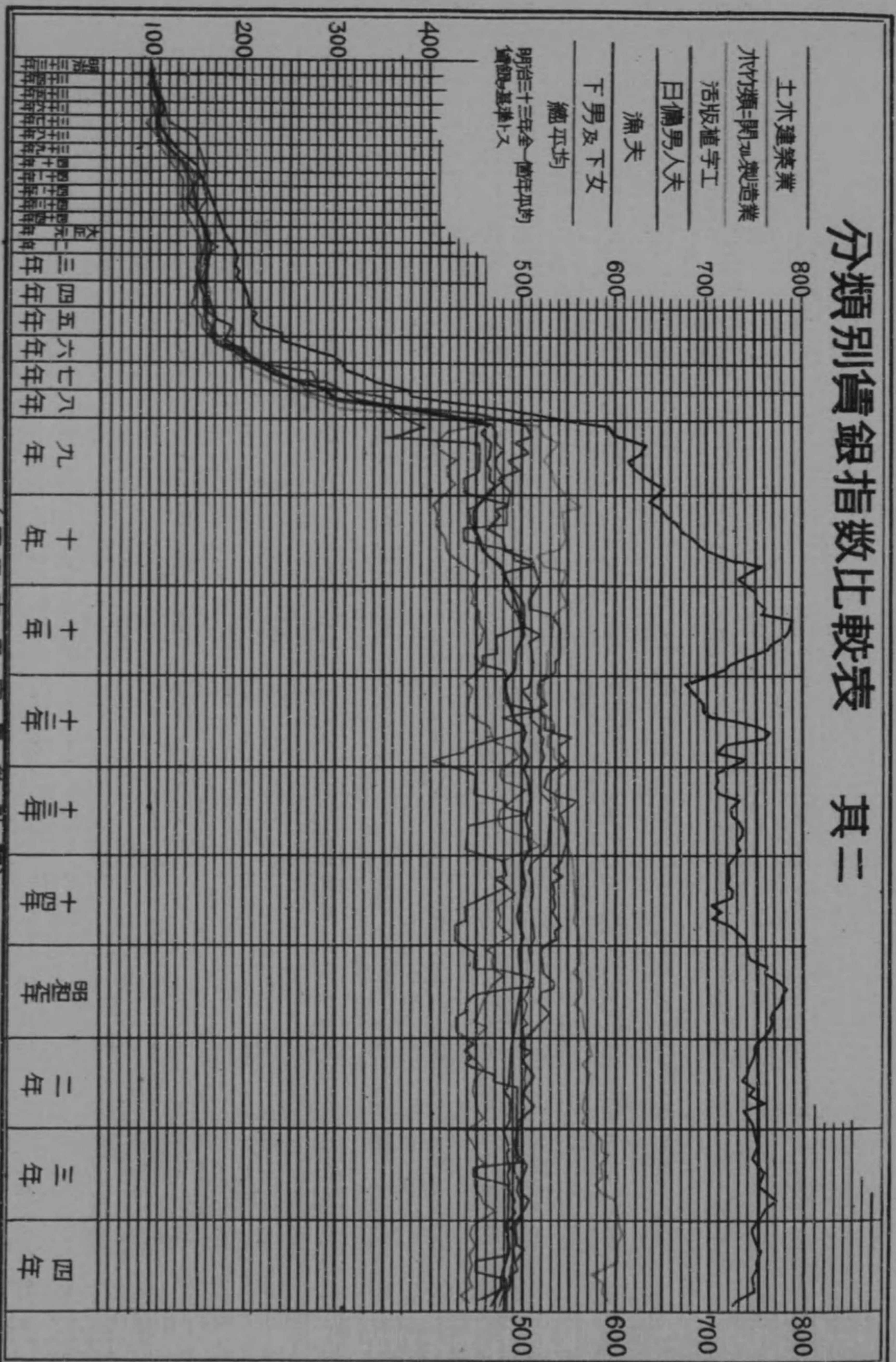


備考 明治三十三年より大正九年迄の調査は、全回調査を、調査毎月調査を

分類別賃銀指数比較 (其二)

下男及下女の賃銀は、工場工業や家内工業等に全然關與せぬ性質のものであるから、時の勢ひに伴つてさうしても低下せぬのを通則とするらしい。又それが時世の進むに従ふ方法とも見られるのである。理にこればかりは大正十一年の七九〇を指示して居り、十二年六七五位を彷彿しても再び同年内に七六〇に至り爾後多少の増減があつても昭和元年七八〇を破つて遂に諸多の賃銀を遂に尻目にかけてしまつた。人間直接の雇用故に仕方もない。活版植字工は仕事さへ充分あれば斯ういふ活況ある賃銀を得ること、これ亦速く他の及ばぬ特質がある。昭和四年の頂點六〇を抑へて一旦下り、更に及身るべき氣配あつたこと、日傭男人夫のさの到底及ぶところではなかつた漁夫の賃銀に至ては實に激しい指數を示して居る。よし大正九年以來の慣習的浮沈であらうとも、これは餘りに非常な現象であつた。天然利用も考へさせられる。

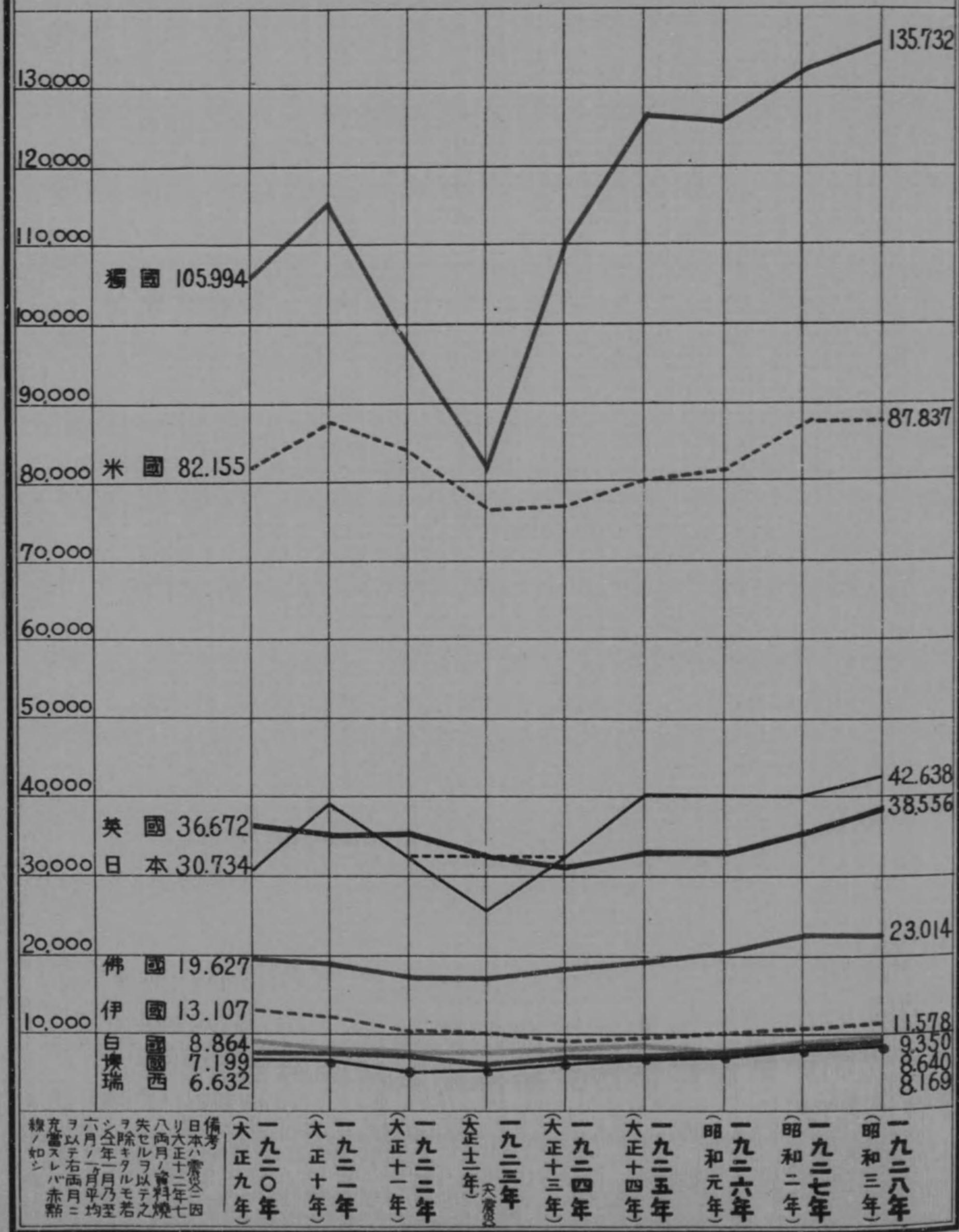
分類別賃銀指数比較表 其二



(團工大里區雇統計課)

昭和三十三年大正元年を基期として賃銀指数を算出

自一九二〇年 各國特許及實用新案登録出願件數比較
至一九二八年



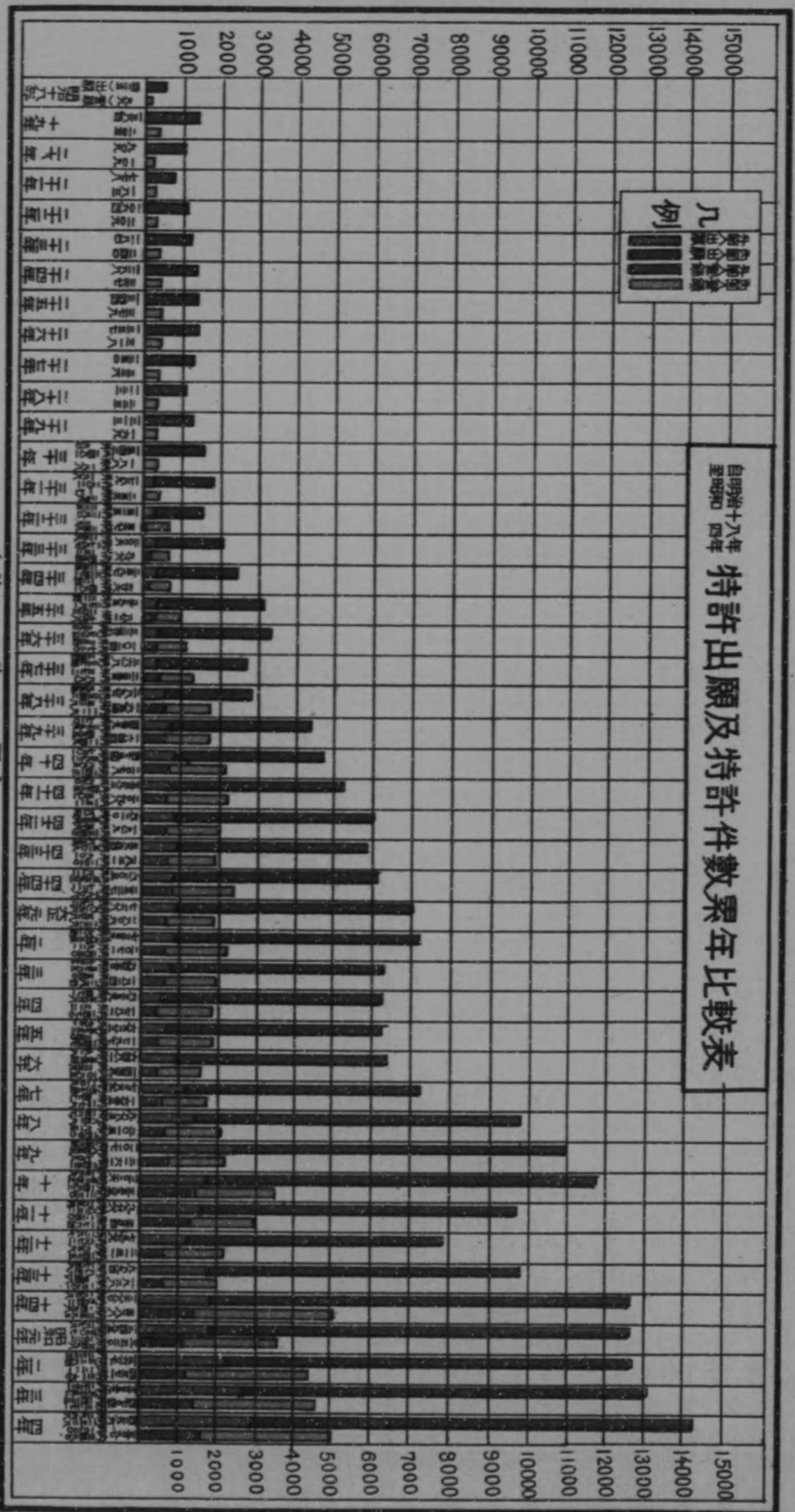
局許特

各國特許及實用新案登録出願件數比較

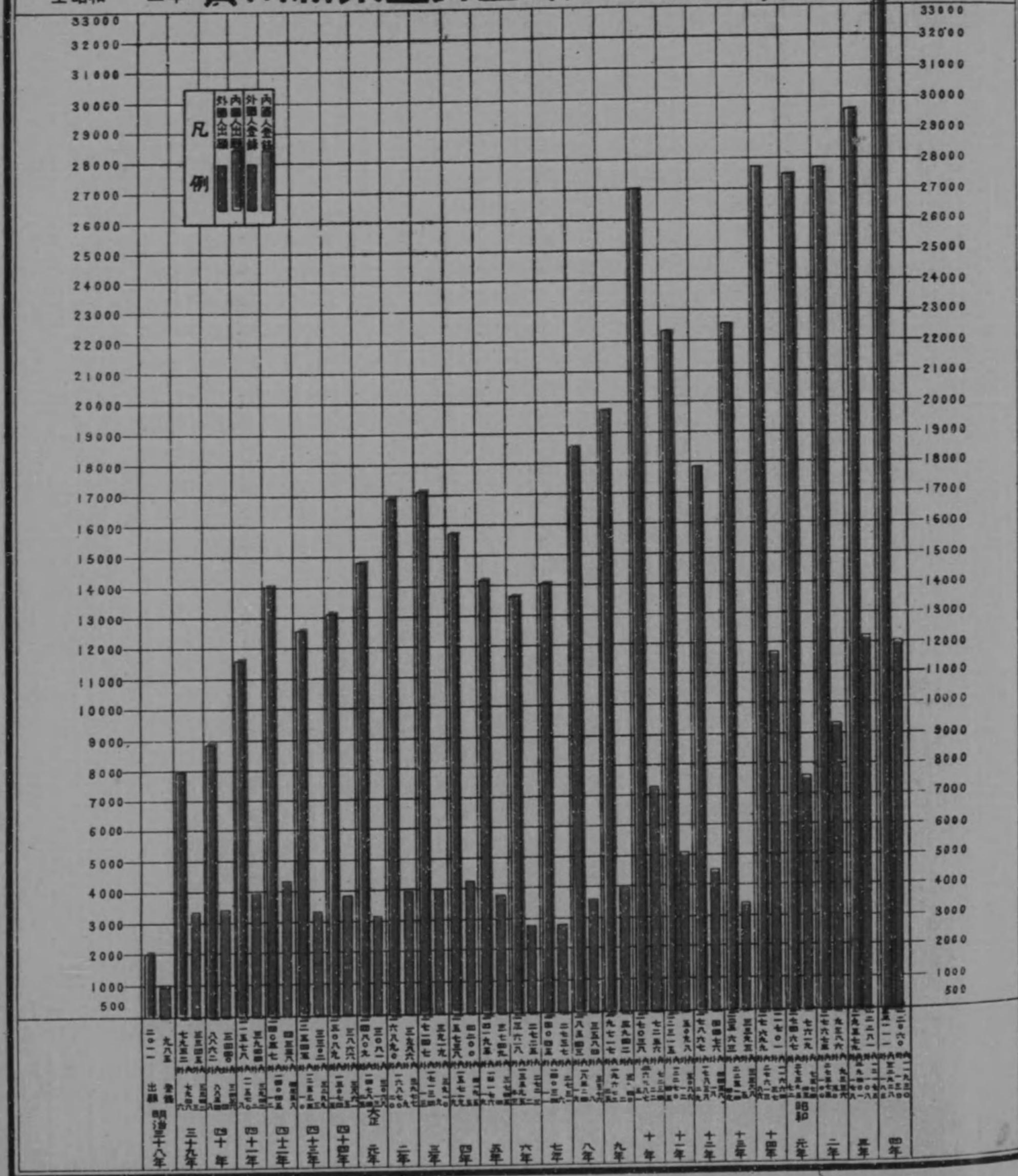
獨逸の合成化學上に於ける發明は、刻々として全世界の特許局を動かし、出願件數も戦前よりは寧ろ多かつた。日本なきの發明界は、近頃になつてこそ、稍々朝野の所謂獎勵を見たれ、實の處は尙未だ窮境を打破しつゝ進まねばならぬといふ苦悶が常に伴ふのである。之に反して世界の各國は、發明發見者に對する保證と保護が、充分に行届き後顧の憂を無くして居る。そこで獨逸の如きは一九二〇年既に一〇五、九九四件の登録出願あり、十年たゝぬ間に一三五、七三二件に昂騰して居り、更に以上に進捗せんとする勢を見せて居る。米國は件數に於て獨に劣るも堅實なる研究の此の國民に介在するのは却て不審で、電氣王の如きは獨り米のみならず全世界の國實とも言ふべき人であつた。英國と日本とは國情が近似して居る故か、此の消息も亦頗る相聯絡する形を表はし、日本が次第に數が多くなつた。佛・伊の上にあつて東洋の發明權を一手に翕集せんとする意氣込みを示して居る。

日本の特許権登録に關する列國中の位置はすでに明白となつた。今試みに我國に於ける明治十八年以來昭和四年に亘る間の大勢を一見すると、これ亦世相の變轉にかゝり合を持つて居る。十八年の登録九、出願四五であつたのが明治の終りには登録件數三三七、出願六二〇五となれるのは、奈何に進んだ變遷を體感するかを如實に語るのである。此に見逃せないのは外人の出願を請ふものも熾然として互數となつた事である。世界の消長も踵を接して日本を襲ひ此の境界にも亦九年、十年の如き大數を表現したのであつた。昭和の新世には恐らく互數の出願を見るに至るであらうが、要するに新たなる發明を以て、國運の機軸に牽制することはとりも直さず文明の大なる恩澤に浴するものであるが、實質の如何にすれば特許の名必すしも特許全部を表はさぬ物も多い。

特許出願及特許件數累年比較



自明治三十八年
至昭和四年
實用新案登録出願及登録件數累年比較



(特許局)

實用新案登録出願及登録件數累年比較

實用新案の品目は、恐らく特許品よりは多いのが普通である。先づ手早く新案を以て自家の権利を擁護せんとする傾向が、明治三十八九年即ち日露役を堺として濃厚となつた。大正二、三年の交はいはこの傾向を正面に享けて指示したやうな物で、特許出願の七、八、九年饒多になつたに反して、此の方は寧ろ意外に少なかつた。ところが十年の反撥を催促して、遂に従來の數を蹴破るやうになり、正に來るべき十四年以後の機運をこゝに蘊釀するに至つた。内國人の新案もさることながら外人の出願も亦決して見逃がせなかつた。外人の新案は邦人が單に形式施法を變更して、以て得たりとする甘心とは聯か差異があるやうに思れる。之は獨り此の世界のみのことではないこゝうした感じのする事柄は少くない。昭和四年度の件數既に異數に屬して居り、次第に深刻化する經濟戰の眞只中に獨占的地歩を占領せんとするには發明工夫の特權が認められる事は寔に望ましい事である。

工業品規格統一に關する概要

(商工省産業合理局)

一、緒言

工業品の規格統一といふことは橋梁、家屋、船舶、航空機、機關車、電車、機械器具などに用うる金屬材料、木材、煉瓦、セメントのやうなものや、機械の一部分となる ねぢ、ボルト、車軸、調車や、機械類の工作に用うる さり又はやすりのやうな工具などの品質や形や寸法や試験方法などを理論と實際より研究して良くて而もなるべく小數の種類に統一することであるこの事は銘々の工場や同じものを造る工場の組合でもやれるが、右の例のやうな各方面にて廣く用ゐられるものは日本國中共通になるやうにきめるのでなければ、利益が少いから國の標準規格を制定し各工場は國の規格にある事柄は之に従ひ此の規格にならざる事柄は銘々の工場や組合などの取極でなるべく一定したものに、製品の種類をなるべく減する様にすれば効果が大きいであらう。

規格統一の利益は色々あるが今極く手近な例でいふと電球、電話機、時計などの比較的安價なのは規格が統一され同じものが多量に作られるからである、若し之に統一がなかつたなら非常に高いものとなるであらう、米國で自動車以前に比べて大へんに安くならぬ階級の人に使はれるやうになつたのも規格統一の結果同じ物を澤山作るやうになつたからである、規格統一は平時に於ては工業品の品位を高め生産費を減じ且其の販賣費も少くなり市價が下つて需要が増すことになるから工業を進めるために是非爲さなければならぬことであるが、天災のあつた時や戦争などで一時に多量の物資を急速に集める必要がある場合には特に必要である規格が統一されて居れば各地方の製品を彼此融通することも出来便利が甚だ多いのである先年の歐洲大戰の時の經驗によりて規格統一が工業の進歩に大なる効果があることを確信した歐米諸國では此の仕事に力を盡す様になつた。

殊に戦争で大なる經驗上の打撃を受けた獨逸や新興のチエッコスロバキアは此の事業に甚だ熱心でありソビエト聯邦の最近に於ける規格統一の進捗振は亦目ざましいものである。

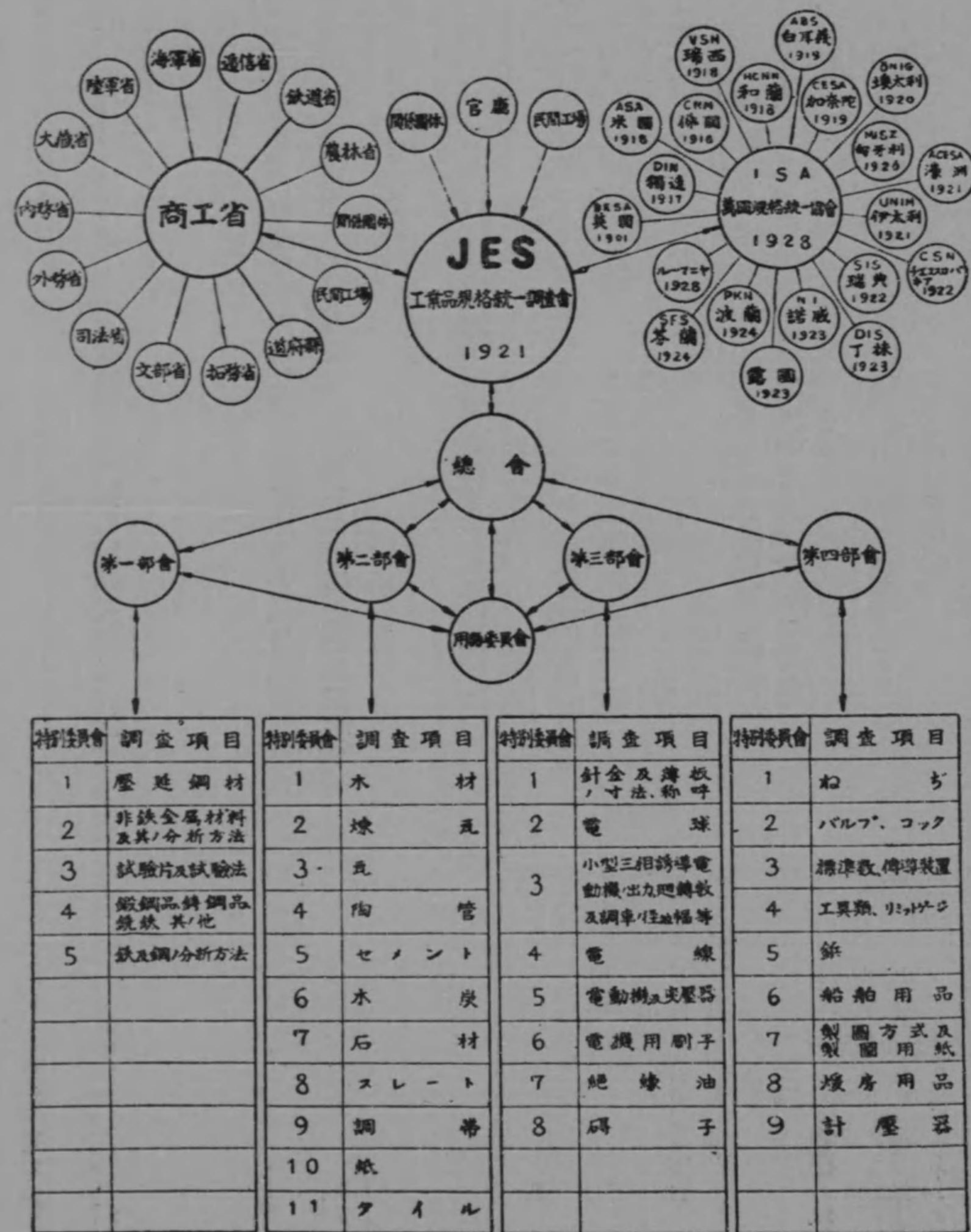
我國では大正十年から工業品規格統一調査會といふものを設けて規格統一の事務をやつて居る此の會は商工大臣の監督をうけて規格の調査審議をするもので會長は商工大臣で副會長一人委員七十人を定員とし今日迄に決定した規格は一〇九件であり、規格の實行方法の一として政府で使ふものや、製造するものや、政府の註文する工事に用ふるものは、この規格によることにして、この旨を各省大臣の名を列べて商工省告示で公表するのである。今日迄に日本標準規格といふて告示した規格の數は八三である。

日本標準規格は政府や府縣や市や主なる工場などで相當使用されて居るがまだ充分でない、規格を定めたいものは澤山あるから今後も必要のものから續々審議決定する見込であるが、折角規格を定めても實行普及が進まぬ様では甚だ遺憾な事と考へる、獨逸などでは決定規格は關係の各方面で使はれて居るが就中事業合理化の一として工業會社がカルナル其の他の組合を作り其の仲間内で仕事の分野を定め各工場は其の仕事を狭い範圍に限り製品又はその材料や部分品の規格は徹底的に統一して生産費や販賣費を下げ内外の市場で外國品と競争し良い成績を擧げて居る、斯様な次第であるから我國でもそれぞれの規格に關係ある生産者と販賣者と消費者とが互に助けあひ規格統一を實施して經濟難局を打解し各種工業の振興に資したいものである。

二、本會の組織、調査の方法と決定事情

本會は商工大臣の監督に屬し工業品の規格統一に關する事項を調査審議するもので關係各大臣の諮問に應じ意見を開申し又關係各大臣に建議することを得るのである、會長は商工大臣で副會長一人委員七十人以内を以て組織

工業品規格統一調査會ノ組織及事務系統圖表



し必要に應じ臨時委員を置くことが出来得ることになつて居る、現在の副會長は商工次官で委員及臨時委員は政府七省の技監、部長、高級技師、十五ノ學會、協會及關係の團體並主なる工場の幹部等七十名で此外幹事六名書記十名任命されて居る本會は之を四部に分ち通計三十三の委員會と各部共通の用語委員會とがある。

工業品規格の調査審議の順序方法は各部會に於て速に統一する必要ありと認められたものより順次調査に着手し委員又は關係ある團體より提出した原案に付部會に於て一般的審議を爲し之を委員會に付託し又は直に委員會に於て審議し必要に應じ更に小委員會に付託することは一般の會議と同じである委員會には關係委員より材料を持寄り或ものは關係官廳又は工場に依頼して資料の提出を求め必要に應じて官民工場に實驗を依頼し其の成績を得て審議の資料とするのである、委員會に於て決議したるものは部長名を以て關係ある官廳、工場、學會等に照會して之に對する意見を求め之を精細に審議して取捨し原案を修正したるものを部會に提出し其の成案を總會に附議し其の決議を経て商工大臣に答申するのである。

尙本會は歐米各國に於ける工業品規格統一の中央機關と連絡を取り事業の報告資料の交換を爲し萬國規格統一の準備に資し又萬國規格統一協會に加入し萬國規格の調査研究に参加して居る。

商工省に於ては調査會より答申のあつた諸規格に付ては其の都度各省と協議し商工省告示(各省大臣連署)として政府で製造したり使用したり又政府の註文する工事に用ゐるものには已むを得ざる場合の外この規格に依るべき旨を公示して居る。

斯様に事の官廳に關係あるものは商工省告示で其の使用を規定して居るが工業の保護獎勵又は取締等に關する法規中の關係事項にも漸次標準規格の規程を引用することとなり之に依つて官廳用品以外の民間工場の製品にも關

係を及ぼすこととなるが官民を通じた一般の普及方法としては決定規格を一定の様式を具へた一枚刷のものに印刷して關係の官廳、學會、協會、學校、組合、工場等各方面に配りて規格の周知と其の利用に便にして居る。前表は調査會と關係各省民間工場及諸團體並外國の同種團體との連絡關係及本會の部會委員會の系統を表示したものである。

三、決定規格

本會は大正十年十月第一回總會を開催し以來昭和四年十二月末日迄約八ヶ年に總會を開催したこゝ八回、部會及委員會を開きたること七二回(八四四日)であつて決定した規格は一〇九件である尙目下調査中のもの及調査に着手豫定のもの非常に多數に上つて居る。

工業品規格統一調査會決定規格

規格番號	名	規格番號	名	規格番號	名
第一號	金屬材料抗張試驗片	第二號	針金ノ徑薄板ノ厚及其ノ稱呼	第三號	寸法標準數
第四號	等比標準數	第五號	鐵鋼品	第六號	鐵鋼品
第七號	鑄物用鐵鋼	第八號	普及煉瓦	第九號	空洞煉瓦
第一〇號	耐火煉瓦	第一一號	電氣用鋼線	第一二號	電球用ねじ型口金及承口
第一三號	メートルねじ第一號	第一四號	鐵鋼品	第一五號	水管用ねじ目無鋼管
第一六號	圓錐用ねじ目無鋼管	第一七號	鐵鋼品用ねじ目無鋼管	第一八號	一般用鐵鋼管
第一九號	瓦 新管	第二〇號	構造(橋梁)用壓延鋼材	第二一號	造船用壓延鋼材
第二二號	船用壓延鋼材	第二三號	鐵道車輛用壓延鋼材	第二四號	壓延鋼材ノ寸法及重量ノ公差
第二五號	標準鋼線	第二六號	標準形鋼	第二七號	木 材
第二八號	ボルトランドセメント	第二九號	高爐セメント	第三〇號	瓦
第三一號	小型單相油入變壓器	第三二號	電機用刷子	第三三號	モルスターパーシヤンク鐵鋼
第三四號	ストレートシヤンク鐵鋼	第三五號	モルスターパーシヤンク及ソケット	第三六號	管用ねじ
第三七號	管接手ねじ	第三八號	瓦新管ノ寸法	第三九號	紙

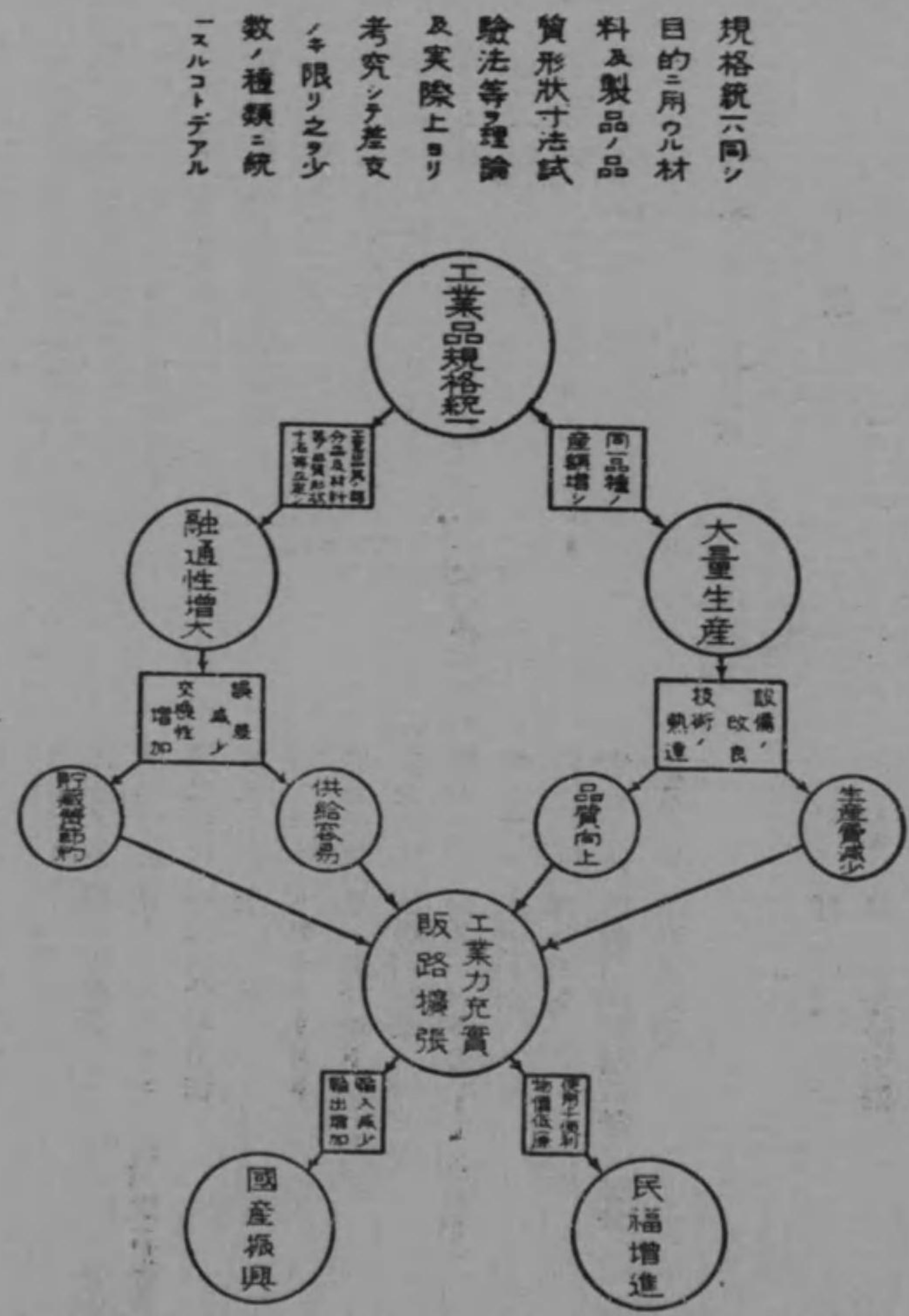
第四〇號	板	第四一號	黃銅板	第四二號	アルミニウム板
第四三號	棒	第四四號	ネーベル黃銅棒	第四五號	高力黃銅棒
第四六號	火延黃銅棒	第四七號	挽物用黃銅棒	第四八號	鐵鋼品
第四九號	機關車用ねじ目無黃銅管	第五〇號	復水器用ねじ目無黃銅管	第五一號	復水器パツキン用ねじ目無黃銅管
第五二號	一般用鐵鋼管	第五三號	鐵鋼品	第五四號	鐵鋼品分析用方法
第五五號	鐵及鋼炭素分析方法	第五六號	鐵及鋼珪素分析方法	第五七號	木 炭
第五八號	石 材	第五九號	陶 管	第六〇號	ハツチクリート
第六一號	アイプレート	第六二號	リングプレート	第六三號	リングホルト
第六四號	火床棧(船用)	第六五號	小型三相誘導電動機	第六六號	傳導用鋼車
第六七號	革 調帶	第六八號	ワイットウォースねじ第一號(丸山)	第六九號	六角ナット(メートルねじ)
第七〇號	六角ナット(ワイットウォールねじ)	第七一號	キ ー	第七二號	鐵 鎖
第七三號	ムアインクパイプ	第七四號	クロズドフエアブライダ	第七五號	スレート
第七六號	燈煙用放熱器	第七七號	船用ねじ目無鋼管ノ寸法	第七八號	一般用ねじ目無鋼管ノ寸法
第七九號	可鍛鐵製品	第八〇號	水道用鐵鋼管	第八一號	水道用鉛管
第八二號	亞鉛地金	第八三號	亞鉛地金分析方法		

乙形鋼	平 鋼	厚鋼板
炭素鋼軌條	錫地金	錫地金分析方法
鐵及鋼マンガム分析方法	鐵及鋼燒分析方法	ゴム調帶
紙ノ仕上寸法	マイルノ形狀及寸法	變壓器油
開閉器油	低壓碼子	六角ホルト(ワイットウォールねじ)
六角ホルト(メートルねじ)	29梯形ねじ	30梯形ねじ
小ねじ	鋼 索	麻 索
鵝頸通風筒	ボルトランドセメント改正	高爐セメント改正

四、工業品規格統一の效果系統

同一用途に供せらるる工業品にて品質、性能、形状及寸法の區々なるものを一定の標準に統一するときは工業品の種類減少し同種のもの多量に生産することとなるので製造の技術は熟達し且設備の改良等を行ひて生産能率を増進し得べく製品の品位高まり生産費低減す又製品の融通性が增大するから取引大量にて而も簡單となり貯蔵すべき品種減少し資金の利用率高まり販賣區域も擴大して工業力の充實を來し進んで海外の販路を獲得し得ることとなり又工業従業者にとりては季節的繁閑減少し作業永續性となる故其の地位安定し又一般消費者にとりては低廉にて品質の確實なるものを容易に求め得られる斯くして國民福利の増進を來すこととなる本圖表は工業品規格統一の效果を生産と分配との二方面より系統的に圖示したものである。

工業品規格統一効果系統圖



五、規格統一に依り單純化したる實例

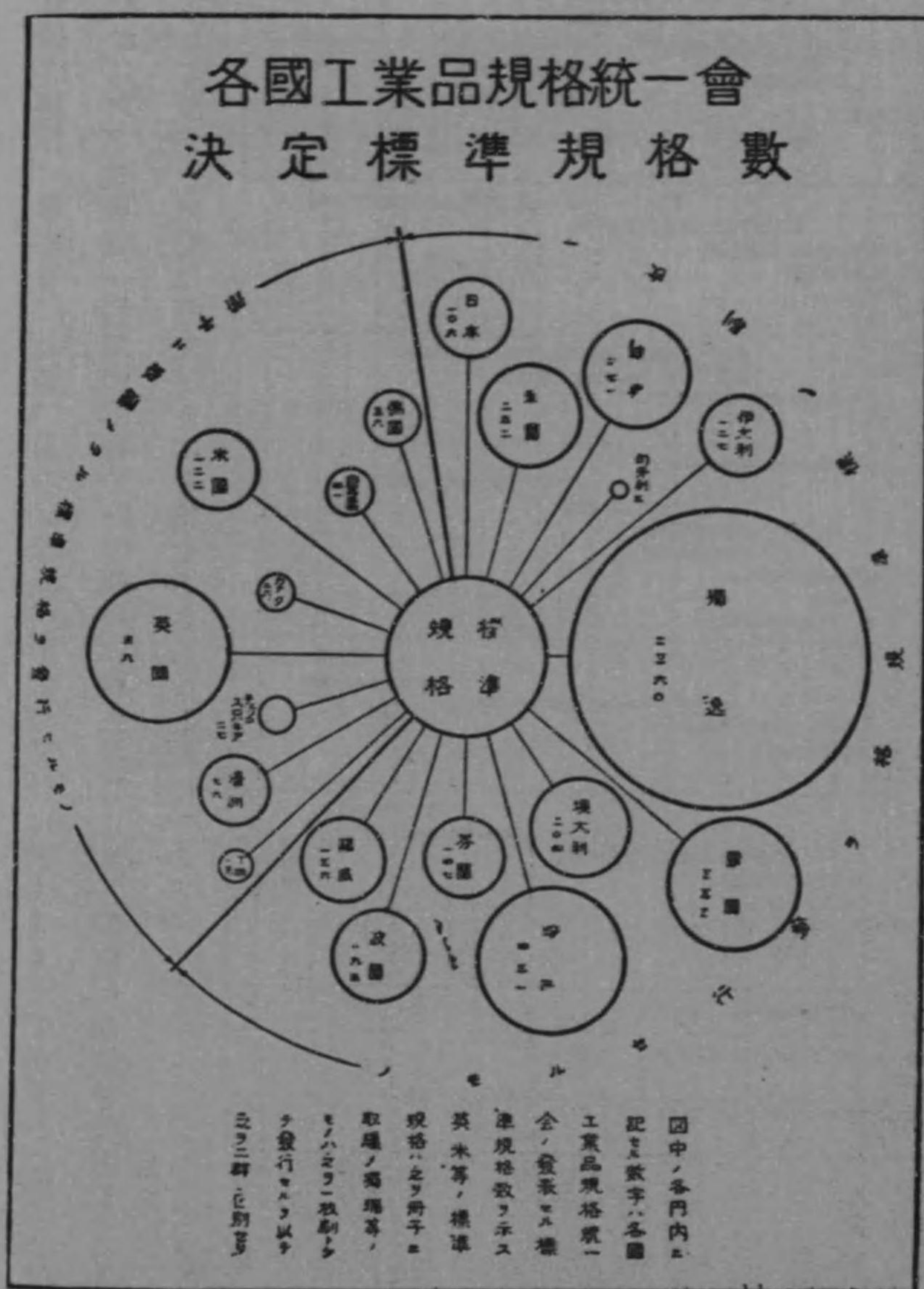
決定規格として發表したのは材料、製品等の品質、其の試験法、形状寸法等に關するものであるが之等は従來統制がなく多種類であつたから之を整理統一したのである此の統一された品目に付て新舊の事情を對照して簡約に説明する爲こゝには主として形状と寸法に關するものを掲ぐることにしたのである。

標準規格制定前本邦=於ケル主ナル鐵鋼品規格/抗張力/範圍、日本標準規格鐵鋼品=掲ケル抗張力/範圍、比較圖表

日本標準規格	抗張力 (kg/cm ²)						
	34	39 40	44 45	49 50	54 55	60	70
航空機							
陸軍省							
鐵道省							
海軍省							
船舶							
機械							
造船							
建築							
一般							
標準規格制定前							
海軍省							
鐵道省							
船舶							
機械							
造船							
建築							
一般							
標準規格制定前							
海軍省							
鐵道省							
船舶							
機械							
造船							
建築							
一般							
標準規格制定前							

六、各國工業品規格統一會決定標準規格數

各國工業品規格統一會決定の標準規格數の比較を見易くする爲規格數の割合を圓の大きさを以て表し且各規格を冊子に取纏めたるものと一枚刷と爲せるものとありて前者には後者に比し内容數倍以上に相當するもの尠からざるを以て兩者を區別して之を示せり。



七、米國に於ける工業品單純化の成績

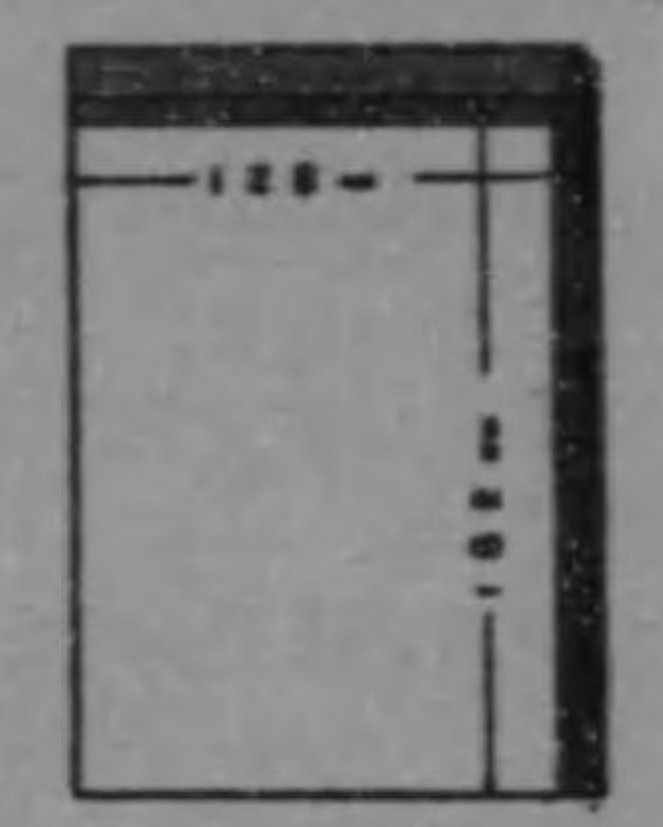
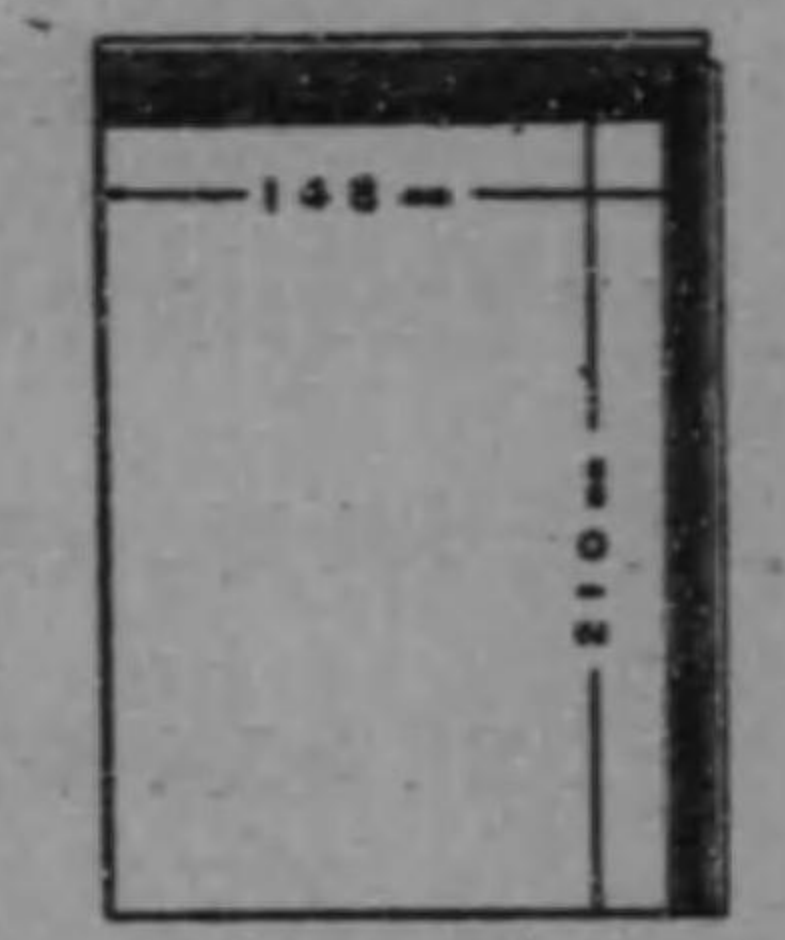
フーバー商務卿が曩に歐洲大戰直後聯合工業界の會長であつた時組織した工業冗費研究會の調査報告が動機となつて大戰後に起つた不景氣を救ふ一つの手段として工業製品の型式を限定し不必要なる裝飾を除き雜費を節約して生産費を低減しやうとして千九百二十一年の秋商務省標準局内に新に工業製品單純課といふ一課を設け工業製品の種類や其の形狀及寸法で實際使用上の必要を超えたものを除く事務を執ることとなつたのである、單純課は生産者、分配者及消費者の連絡を取る中央機關で單純化すべき品目の選定や其の方法等は營業者より提案するので政府は之れが審議決定の世話をなし又決定したるものの實行普及を助成するのである。

工業品規格統一と單純化とは其の結果に於て同一で後者は前者の内に包含せらるるものであるが其の決定方法等に少しく異なる點がある單純化は現在使用せられて居る必要品の構成部分の形狀寸法等のみを考慮し其の中の若干を取つて生産若は要求せらるる品種なりと云ふことに相互に妥協するものである然るに規格統一は科學的、工學的研究をやつて適當な品質や形狀寸法や試験方法を定めるので其の實現に比較的多くの日子を要するが單純化は之に反し速に實行し得る方法である。

標準規格制定前本邦=於ケル主ナル書籍雑誌(毎刊四六判ト稱スルモノ)
ト日本標準規格紙ノ仕上寸法=掲グルA列5番B列6番ノ比較圖

毎刊ト稱スルモノA列5番ノ比較

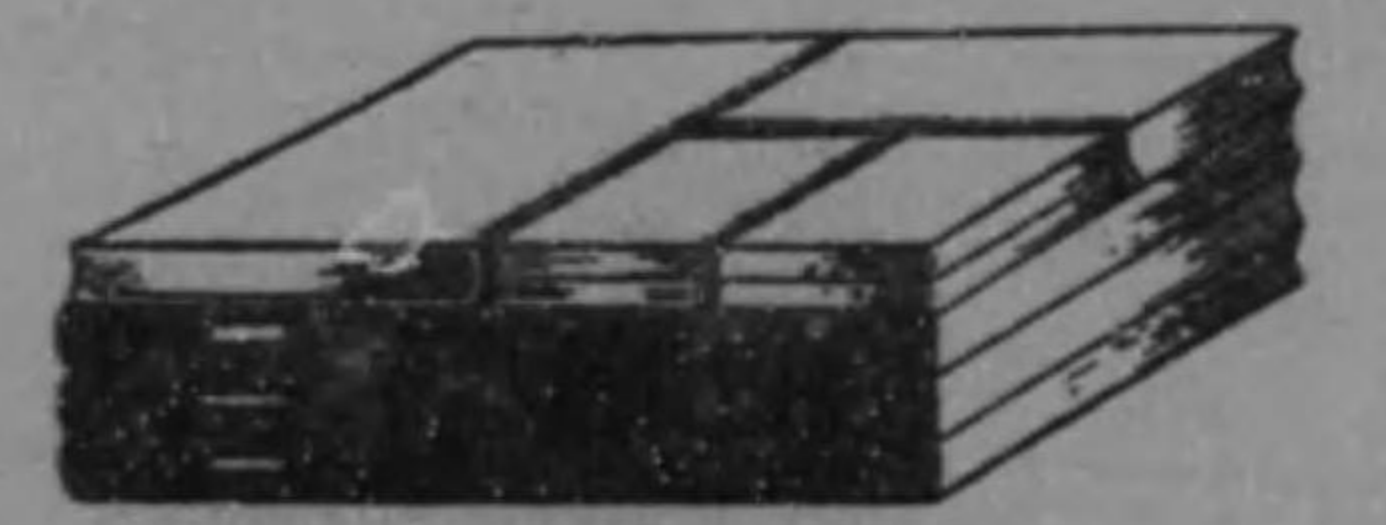
四六判ト稱スルモノB列6番ノ比較



文線=9センチメートルハ A列5番
細線=9センチメートルハ 毎刊ト稱スルモノ

文線=9センチメートルハ B列6番
細線=9センチメートルハ 四六判ト稱スルモノ

標準規格=統一ノ效果ノ事例



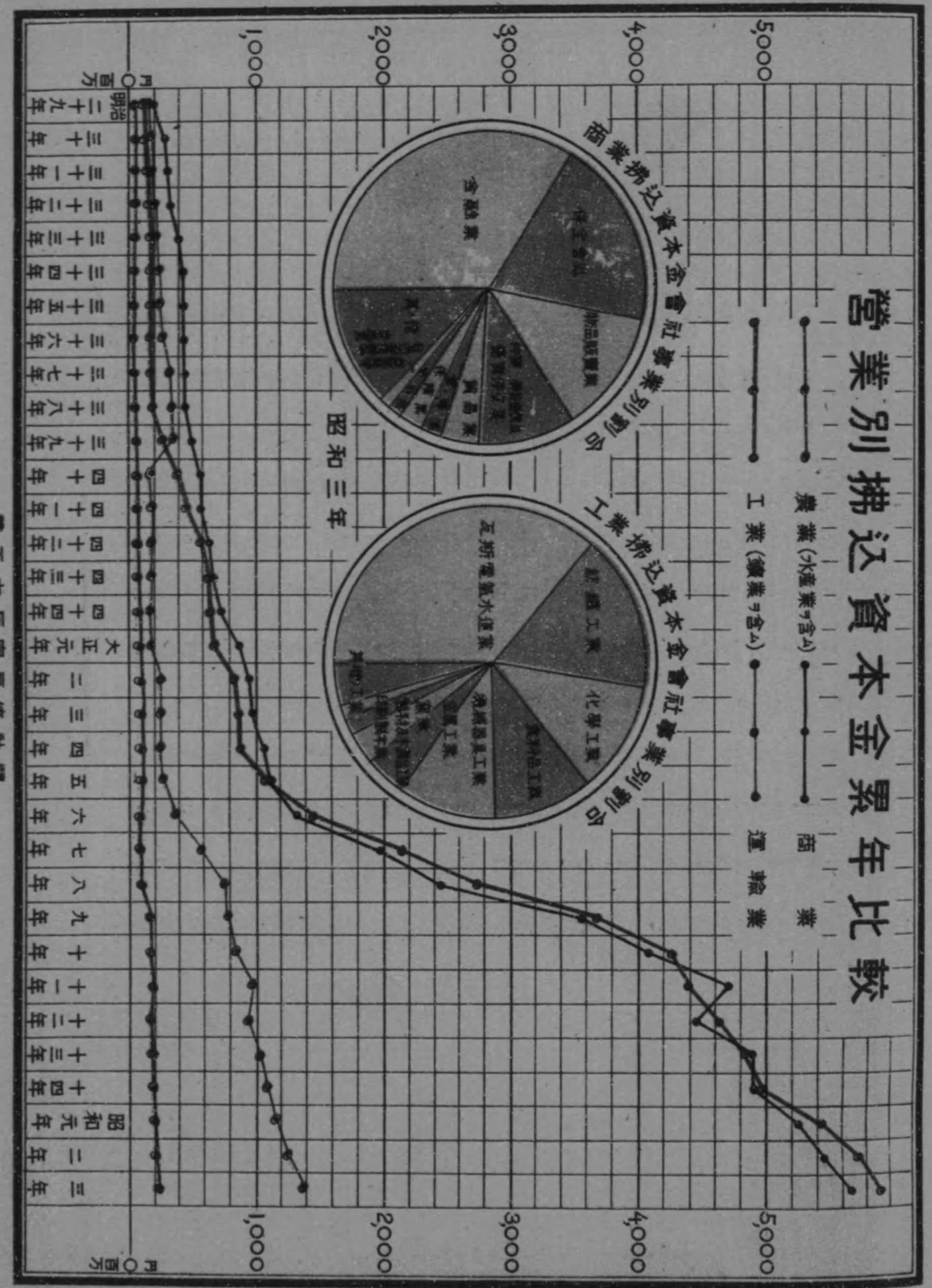
紙ノ仕上寸法規格=依ル書籍ノ大小種々ノモノヲ推ヘテ包
ム様ノ場合=圖面ノ示ス通り小ノサイズヲ2箇以上列ベテモノガ
大ノサイズト一致シテ線ノ出入リヲ具備セザルモノナル又之ヲ持
箱ニ詰ル場合=一定寸法ノ持箱ヲ製シテ間ニ合フ様ニナル尚
本箱ニ本ノ種類=依リテ無駄ノ無キ統一シテ寸法ノモノヲ
製造スル使用ニ便利ナル

米國ニ於ケル工業製品單一化ノ成績

Table with 4 columns: Item Name (品名), Unit (単位), Quantity (数量), and Price (価格). The table lists various industrial products such as 'Steel Wire' (鋼線), 'Copper Wire' (銅線), 'Aluminum Wire' (アルミ線), etc., with their respective specifications and costs. The items are listed in Japanese on the right side and English on the left side of the table.

商業と工業との二分類として、其の營業實本金拂込状況の多寡を一覽すると、商業にあつては、極めて調子よく且つ額の巨大なるのは金融業であつた。銀行會社の金融を司る一切のものを茲に包含すると、随分の高なることと、さうして實本投下の種を返して利細の伴ふ現象も、金融に優る事業は他に無い。保空會社に至ては成立の精神が元々保全にあるから、同じくは他の事業よりも必ず資本拂込が完全に行はれる。一方工業に於ては、何と言つても先づ瓦斯、電氣、水道等であつた。比較を他に求め得ない程の伸展があり、又この事業は互に收納したものはない。其の各事業の性別並に發展よりは、他の圖にも示してあるから参照せられたい。これから推すと紡績事業の如きは意外の少額である。化學、食料品の方が今これを歐押する時が来るであらう。是等の累年比較を大正年代の初頭から見來ると、やはり時世が略々この線條に觀はれて興味津々たるものがある。

營業別拂込實本金累年比較

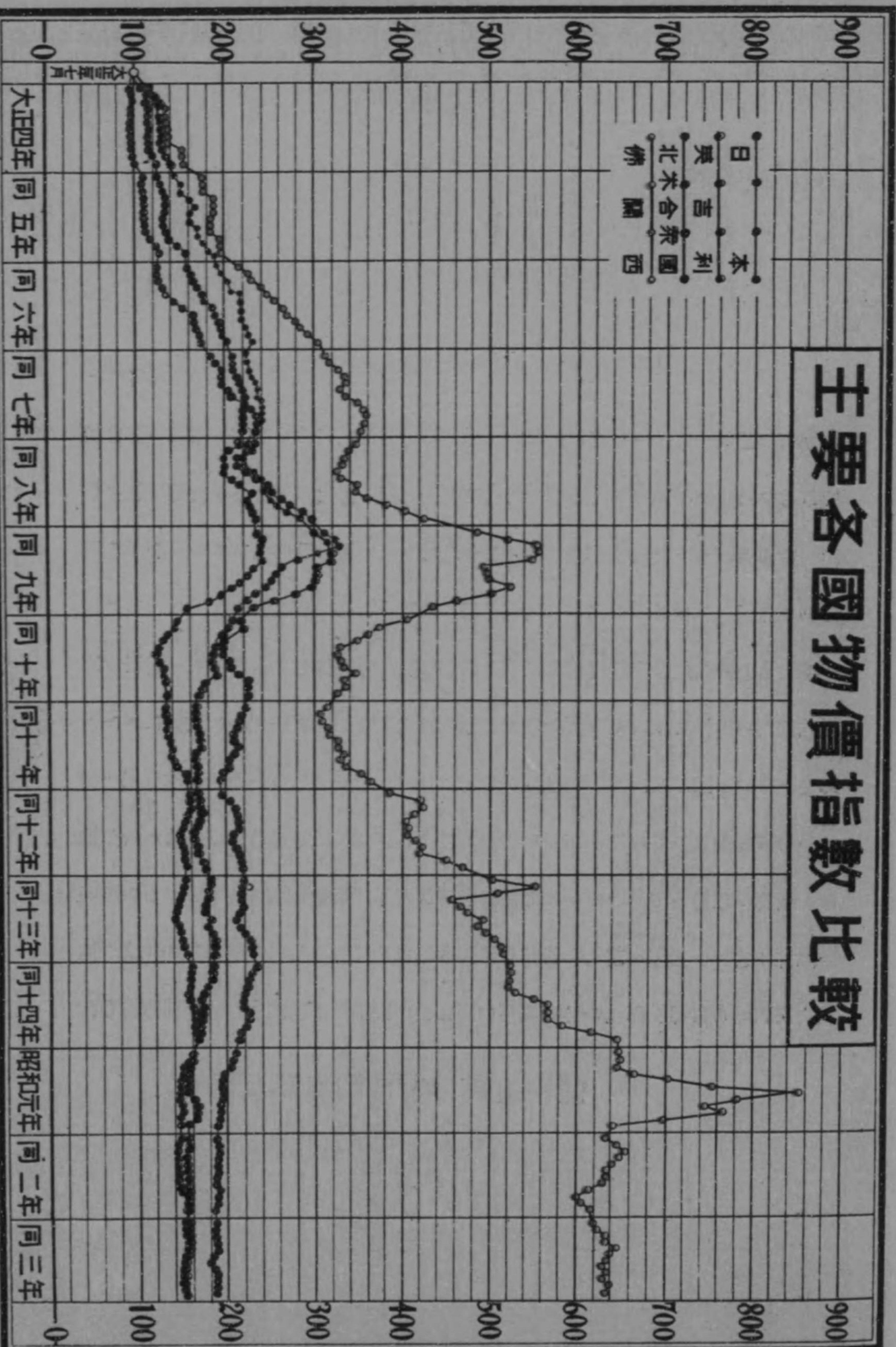


備考 農産ニ依り大正五年八幡奈川兵庫ノ西農分業科獲産之為前年ノ數字ヲ填補セリ

主要各國物價指數比較

大正三年七月の物價指數を100として、世界の主要國たる日本・英吉利・北米合衆國・佛蘭西の四個國を捉へて、其の後の變動を概觀したものであるが、此の一〇と目したる年こそ歐洲大戰の芽が萌えた時であるから、恰も此の經過は世界の生活變轉と、その軌を一途にして居るに過ぎず申しても過言ではなく、而も大戰を劃していかん各國が其の後の苦惱に恫々として居るかゞ分明する。大正八年・九年の漸騰が日英ともに同趣であるのは興が深いが、佛蘭西は最初から獨逸と一戰交へねばならぬ立場に置かれたので既に物價の騰貴を示し、國內の困難が年を遂うて著し、八年の三五〇未満が九年には一躍して五六〇を彷徨した。多少の降下は見だがそれでも他の三國よりは遙かに高く、昭和元年即ち一九二六年には遂に未曾有の八五〇を騰破した。大戰の影響が斯くばかり深い傷痕となつて居ることはよし爲替の下落や金利の騰貴・原料の缺乏等の原因があらうとも、非常なる高指數であつて、之に反して米・日は追々平調になり次の低落を孕んでゐた。

主要各國物價指數比較

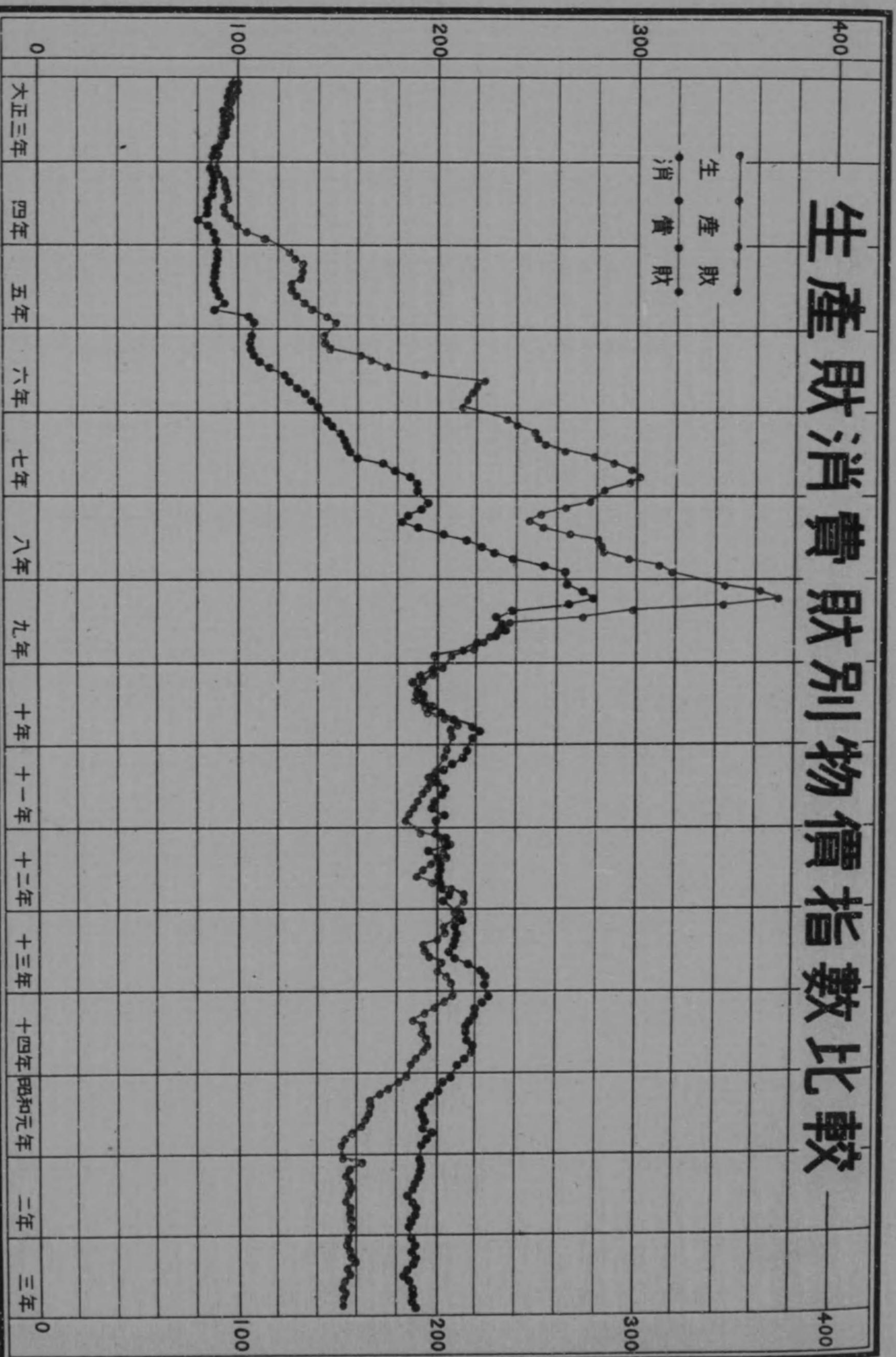


考 却買物價指數、佛蘭西ハ中央統計局調査「パリ」却買物價指數ニヨリ之を作成ス。
 註調査「ロンドン」却買物價指數、北米合衆國「ワシントン」社調査報告
 本表ノ日本ハ商工省調査十三都市平均却買物價指數、英吉利「プロビデンス」

生産財消費財別物價指數比較

此の比較表も他の物價指數の諸表と相照應して居るから、根本ではともに比べて見るべきものであつて、大概は大正三年以來の傾向を、稍々近似した物と示現して居るのである。生産の基礎に於ては世界大戦が日本をして全く動搖と改革とを餘儀なくせしめたのであつた。單に車むべき機運を興へたさいふのみではなく、黙して國外にあることが出来なかつたのである。然し大正九年に至て生産と消費ともに俄然として上騰はしたが、元々天然資源を蔵することの乏しく、國民經濟を左右する處の諸種の生産が、其の原料を海外の供給に待たねばならず、果は衣食住の日常緊要な物資をすら一に外に向つて招いて居るのである。従來の重農國の進み方よりは、生活の向上する力が早いから、農作を専らとする階級は、此の生産と消費との中間に存立して、左を見、右を眺め、長大息をしながら遂に消費の激しい勢に蹴押されて、所謂村の疲弊を表はして居ることは、裏面の事實として見逃せぬ。

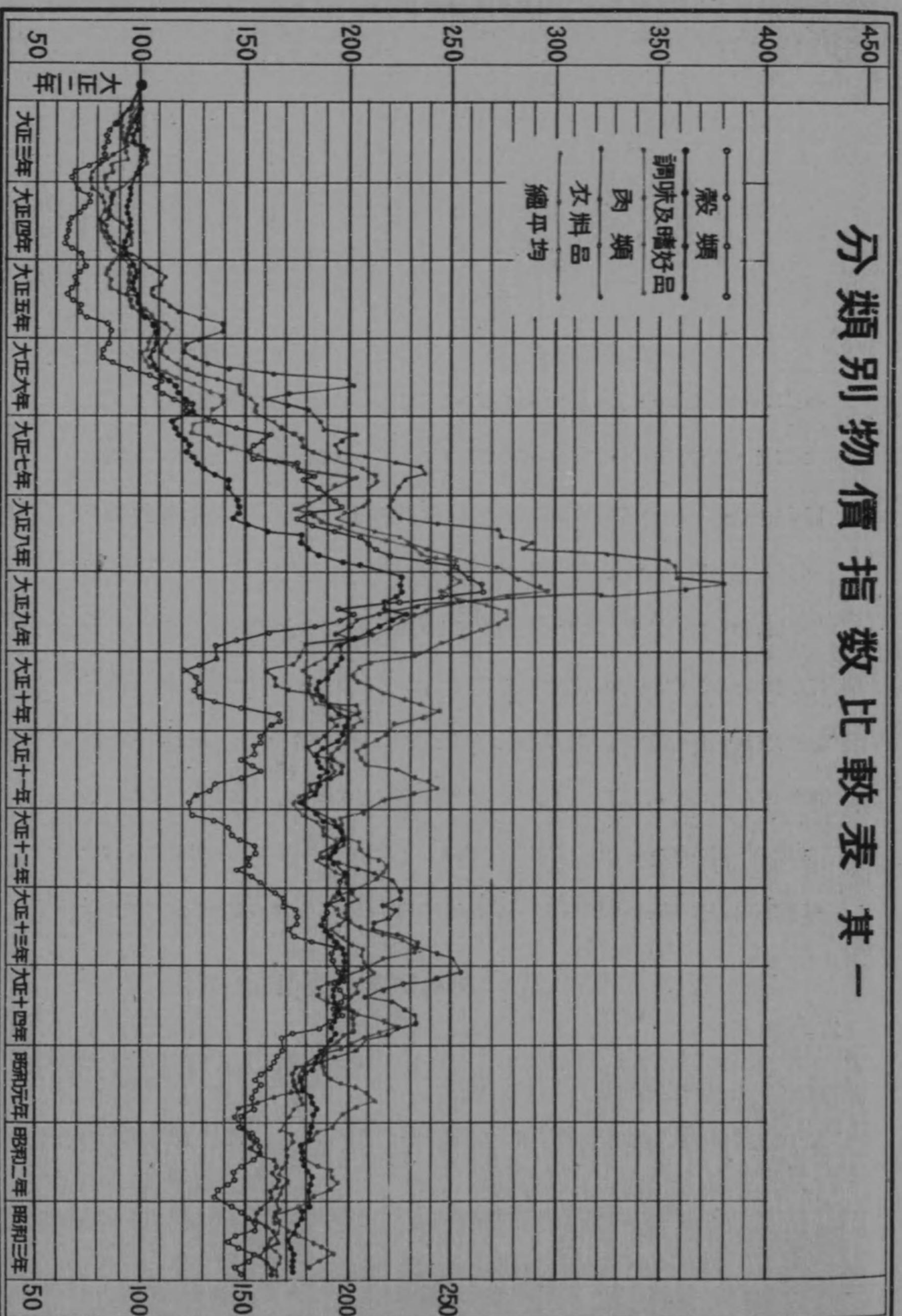
生産財消費財別物價指數比較



大正二年の物價指數を一〇〇とする基準に依り、其の後昭和三年までの四種類の消費を概観すると、確かに購買力の旺盛なる一期を、彼の歐洲戰亂が齎らしたことは否めない。三年の勃發以後いふまでもなく貿易の世界は一時の好況を獨占し、大正五年の物價は見る／＼間に奔騰し始めた。穀類の重要必需品が九年の上半期に六五を上下するのを唯一頂點とすると、而も肉類の同年に於ては更に上位に在つた事、是れも亦肉類の盛んなる海外輸出に據る故と解するが、衣料品の同年三八〇を示現したのは、實に俸給券銀の一般的増加に伴ひ、生活費に餘裕を生じ購買力に活動を表はした事なのである。此の後の十四年間は依然として高位であつた。物價の悉く八、九年兩年を旨指して奔昂の氣勢を示したのは、即ち騰貴を誘ふ素因といふものゝ何れも此の時具備したのを雄辯に語るもので、昭和期の初頭に入ては次第に低落し尙未低下を續けて居る。

分類別物價指數比較 (其二)

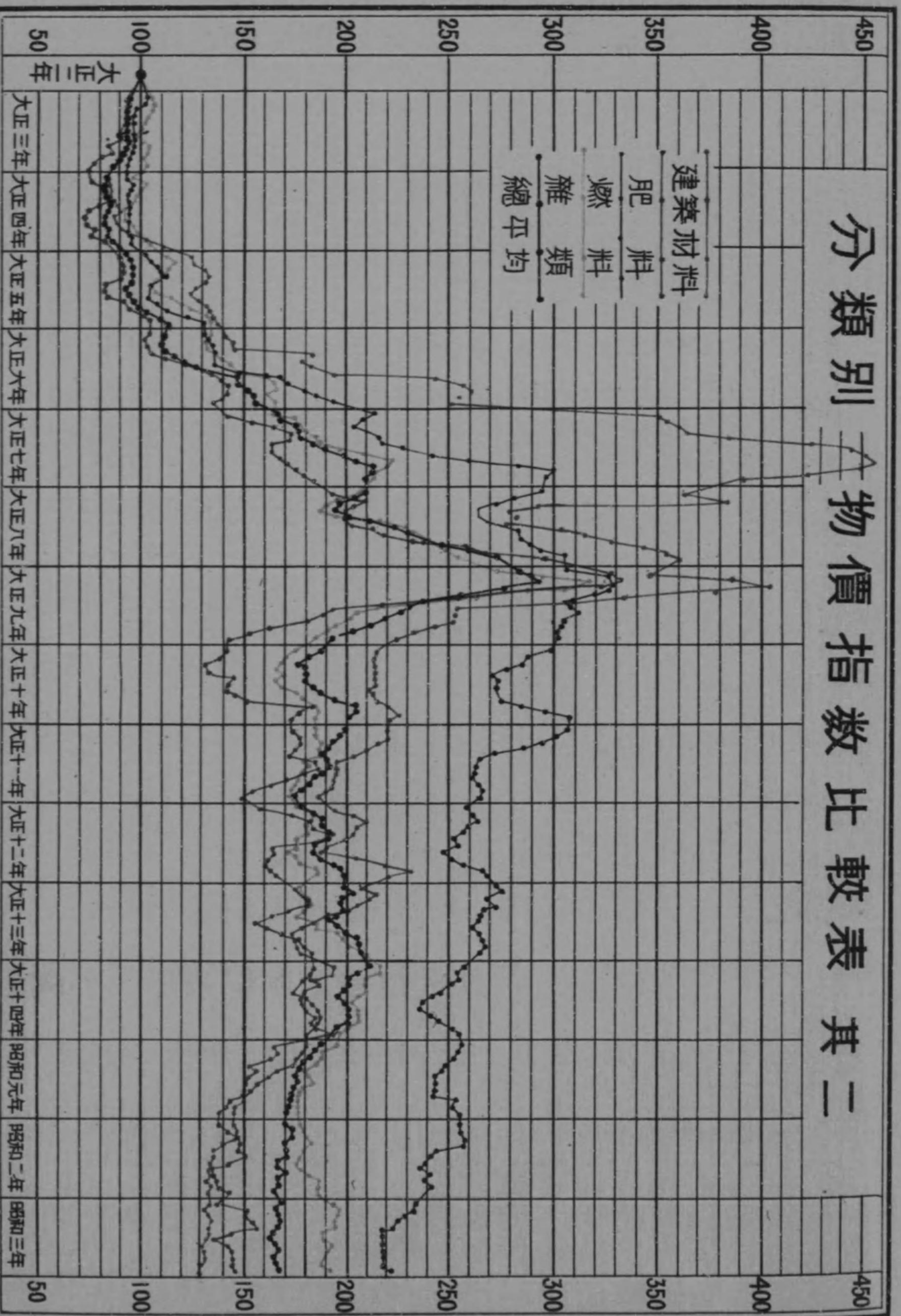
分類別物價指數比較表 其一



分類別物價指數比較 (其二)

衣料品を更に上越すものに建築材料があつた。これは大正七年遂に四五〇の指數を突破したが、八年に二八〇を下り、九年再び四〇〇を超える夢を越して居る。内地の需要増加に伴へる事が出来ぬ程であるのに、却て海外へ流出して反對に建築材料の輸入がなかつた爲であるのは勿論で、之は衣料品とは全く異なる運命なものであつた。肥料も遂に歐洲戰以來久しい間の騰貴を續けて、今以て低下せぬといふのは、最初獨逸から来る確安を始め一切の肥料が國內に影を絶ち、自國生産が割合に高つく結果なのであつて、便益に立つ人々は熟々と合成化學の技に到らぬ歡きを見せられて居つた。肥料よりも激しい昂騰は燃料であつて、大正九年初頭に於ては肥料と互角の勢もあつたが以後は獨り斷然たる高價を維持して居る。たとへ燃料研究會が力を入れて其の調節を圖らうとしても、事實は斯やうに高くなつて居るのである。

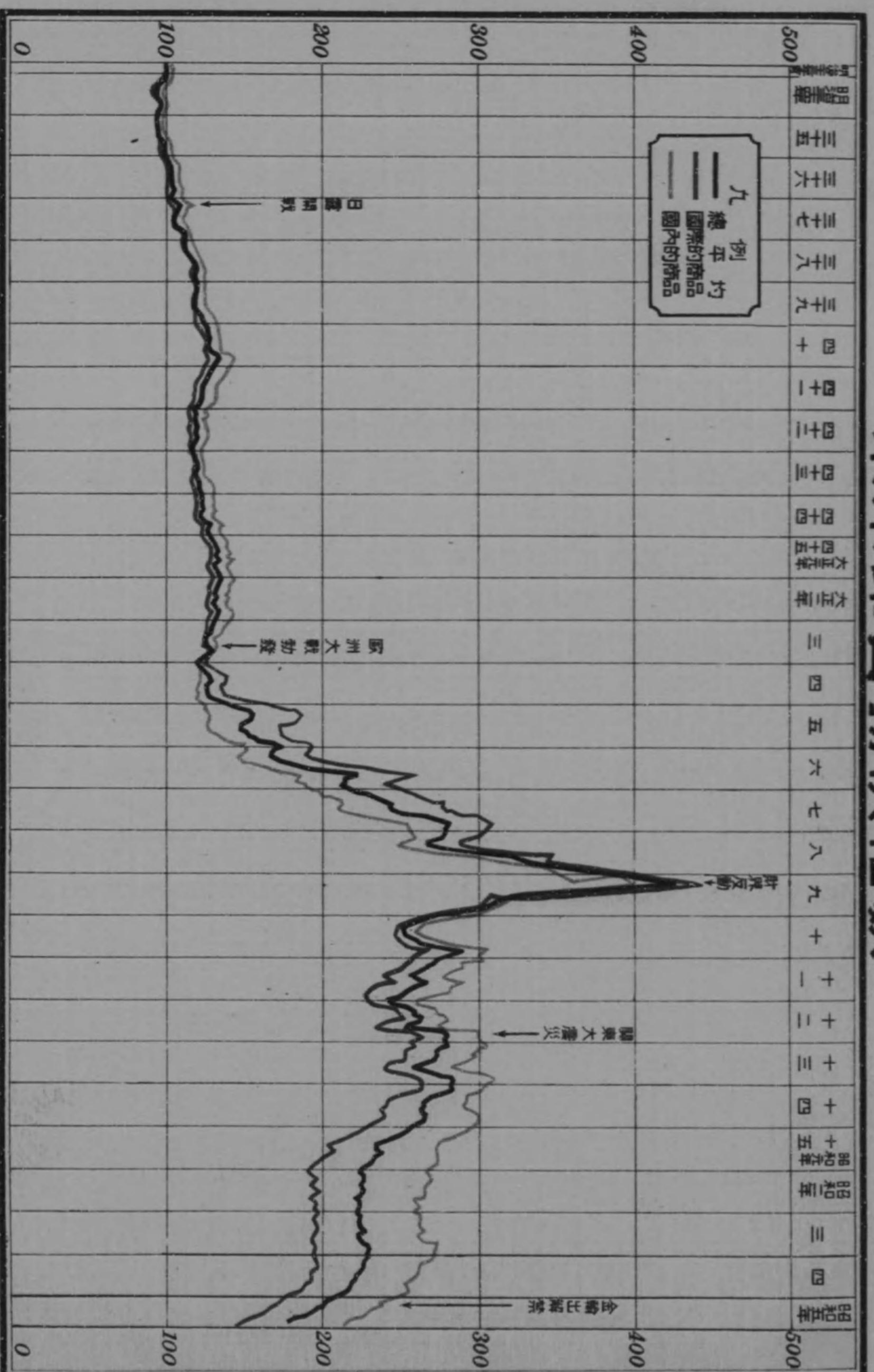
分類別物價指數比較表 其二



東京卸賣物價指數

明治三十三年十月の卸賣相場を100とし、重要な商品より五十六種類を選
び出してそれ以來の指數の變動を回顧したものであるが、國際的商品としてはた
とへば小麦、砂糖、綿糸、洋鐵、木材等の如き主として外國の事情に依て相場の変動
する物を採り、國內商品は自國內に於て消費せられる米、味噌、醬油、炭等の如きも
のを擧げて、即ち右兩者の平均を採算して見たものである。三十三年後の變遷は
勿論の歴史と相俟つて來た。間もなく日露戦争が起り、日本が國際的に認めら
れると、大正三年の歐洲大戰が勃發して未曾有の好況時代を現出した。大正九年
に至て大戰中及びその直後に於ける素晴らしい活躍が遂に一つに綜合して急激に騰
貴したことは、今尙記憶に生々しく印せられるものであつて、翌十年の如きは前
年三月の反動を境界として甚しい低落の淵に沈み、二三の起伏を示す、間に大正
十二年の關東大震災が襲つて來たのである。さうして尙續落の姿とはなつたので
ある。

東京卸賣物價指數

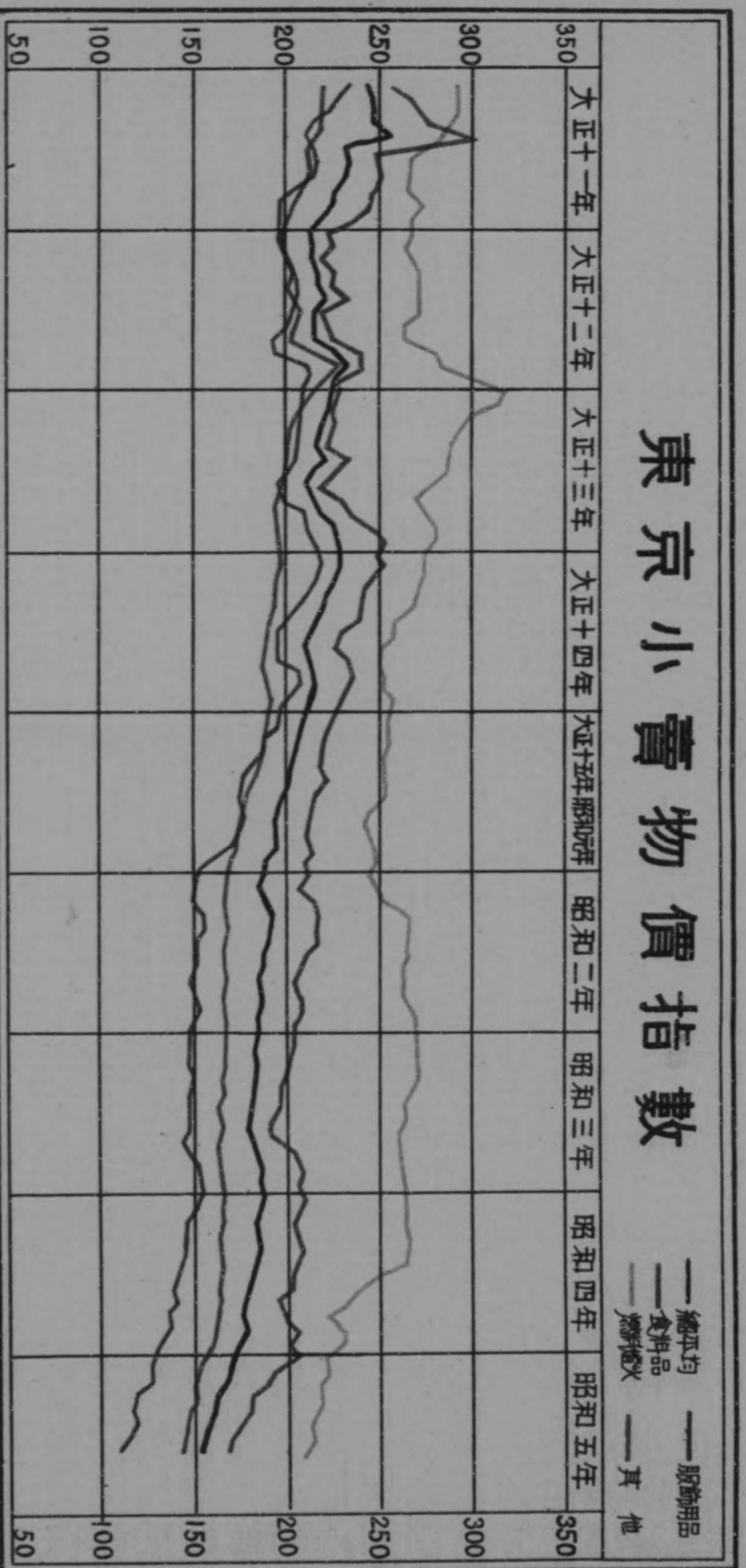


(日本銀行)

東京小賣物價指數

此の指數一〇〇の基點は大正三年の七月に在り、圖表は此の後の大正十一年一月より始まつて居る。前の小賣相場以後の指數外に、尙食料品、燃料費、火、服飾用品、其他と四類に分別して昭和五年七月に至る迄の消長を示してあるから、線條の奔る處をよく注目せられんことを希望する。大正十二年九月の關東震災と、その翌十三年秋の爲替相場低落の時に暴騰したが、最近の區制となつて居り、其の後概して下降の同様な趣を示して居るのである。最近に於ては昨年七月に比して尙一割六分低落といふが、指數基點の大正三年七月に較べては五割三分方の騰貴となつて居る。東京の小賣相場は、恐らく延いて全國の小賣店に影響を及ぼすこと、久しい慣例から見ても疑ふ餘地がなく、服飾用品の如きはたとへ思ふほどの低落を見せぬとしても、第一に騰貴して困ることは、食料品を始めとす一切の日常必需品であつた木炭なきは決して未だ暴落はして居らぬのである。

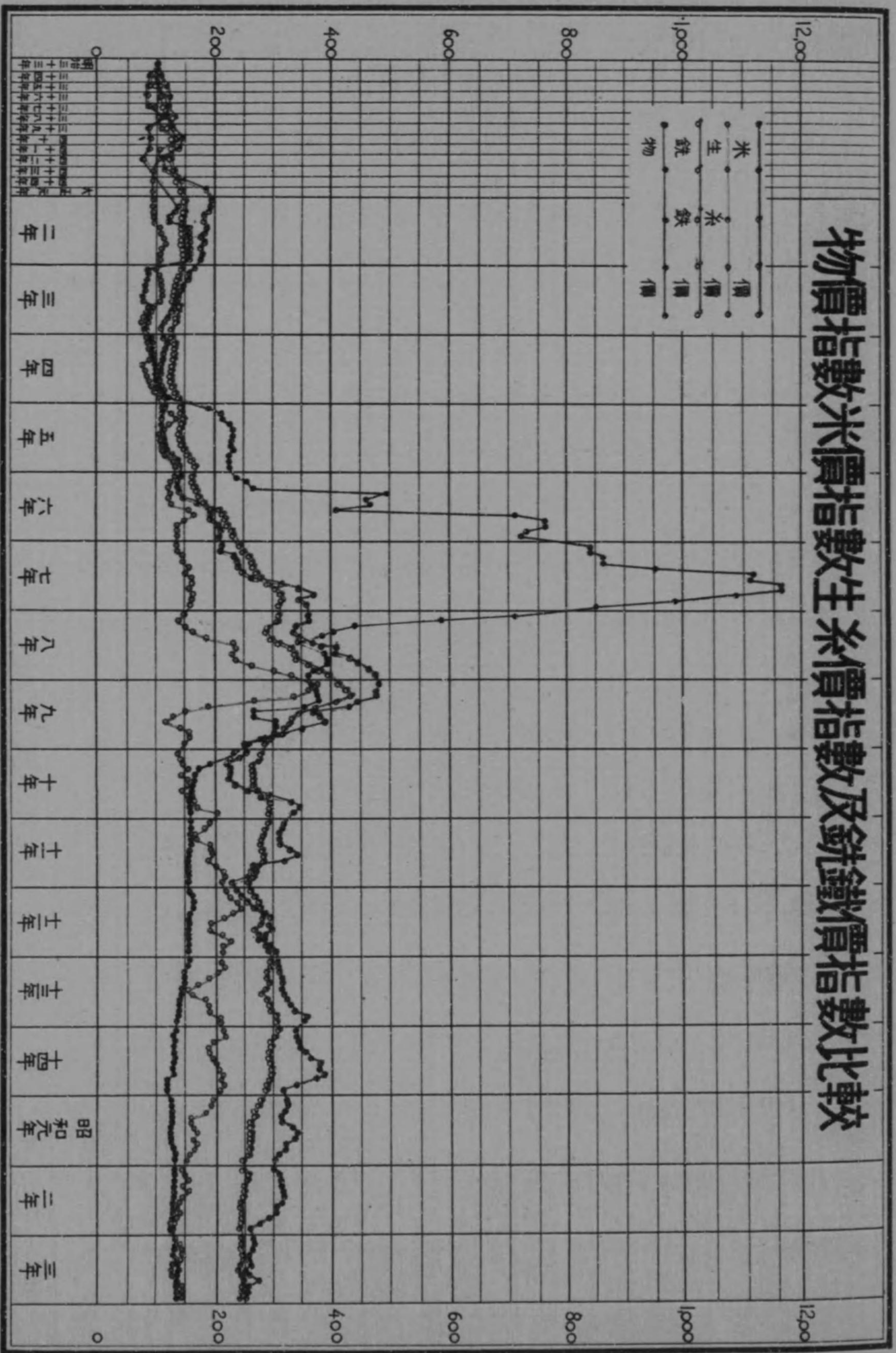
東京小賣物價指數



物價指數米價指數生絲價指數及銑鐵價指數比較

大正元年以來の物價に照應して、稍々運命を共同にして居るものは米で勿論日本は昔から米の値段が總てのものゝ標準になつて居つたのだ。大正八、九年の交には昔から米價指數が、他の諸物價に比して、著しく昂騰し、又十四年から昭和三年に於ける米價指數が、他の諸物價に比して、著しく昂騰し、又十四年から昭和三年迄も之と同様な形を示したが、勿論需給の關係で數位は多少の異りはあるが生絲なごよりは高率を見せたのであつた。最も頂點近くに觸り上げられたのは銑鐵であつて、大正七年の奔騰は曾て夢想もしなかつた數であり、言ふ迄もなく歐州大戰時代の各國需用が、主として軍用品として日本に供給を仰いだ結果であつた。金利が暴騰して爲替が下落し、券銀が高くなれば物價が高くなる。それに大戰中の世界の状況は何れも原料の不足と需要の増加、生産減少を來した。需票増加で資本家が儲けたから利益分配を行ふと株券銀が高くなつて購買力を増した。そこで消費が甚しくなり遂に大正期には何れも物價が騰くなつたといふ事は言ふ迄もない。昭和年代に入つては、此の亂調子をは次第に整調せんとして居る様に、物價が近くなつて來た。

物價指數米價指數生絲價指數及銑鐵價指數比較

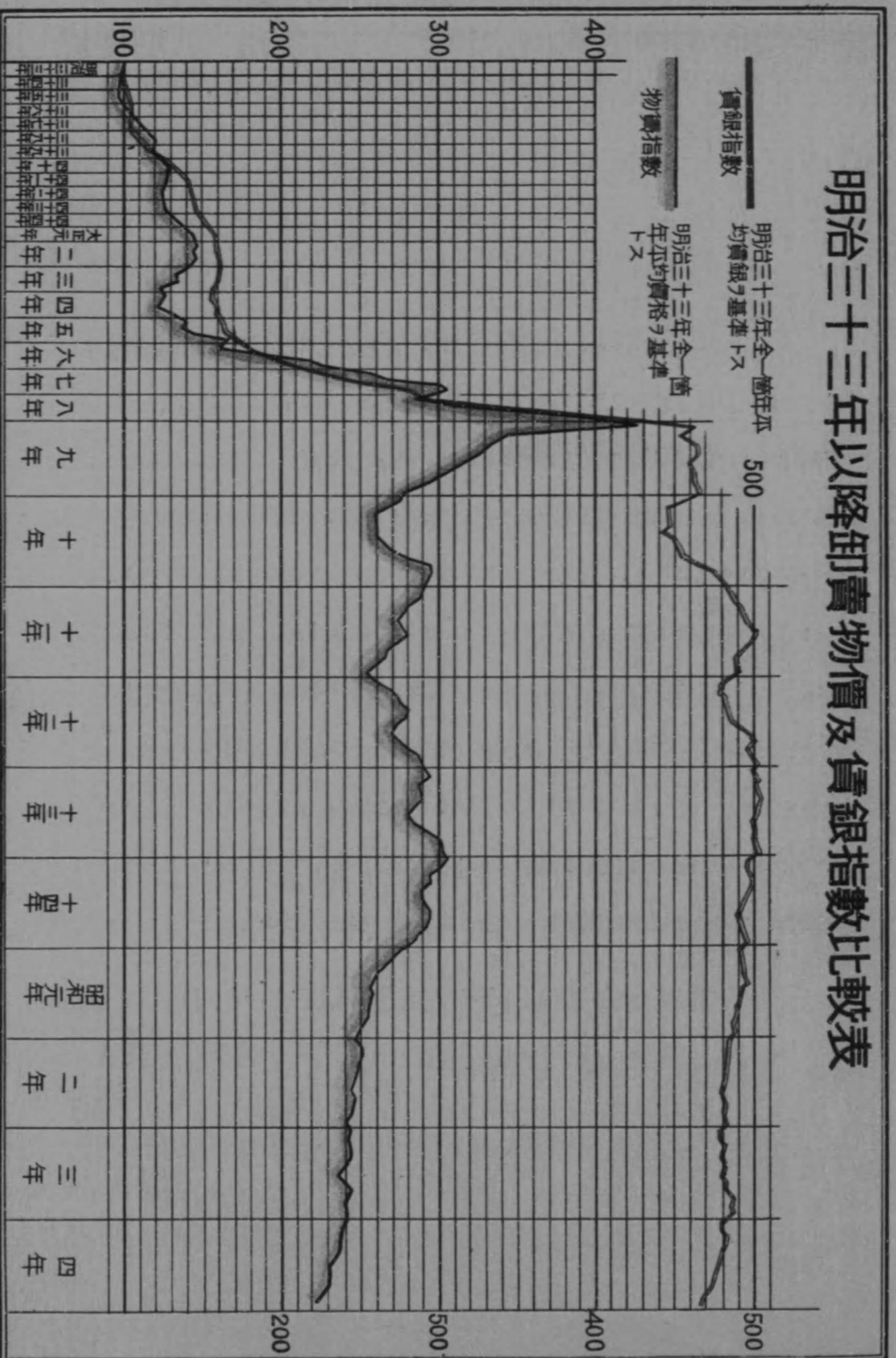


明治三十三年の卸賣物價並に賃銀指數を一〇として、其の後の變轉を昭和四年まで指示したいと珍しい表なのであるが、明治末年迄は大正期に入るの伏線に過ぎず、大正三年に至りて漸く兩者の擡頭の勢を見せ、八年遂に一躍して物價四五を襲ひ、賃銀の如きは四六〇を突破した。時格も世界大戰の波及あつて勞働者の好況時代に化し、際限のない賃銀の暴騰を現はさうかと案ぜられたが、果して賃銀は彌々上昂して昭和年代に及ぶまでは實に下降の氣配を色にも出さなかつた。生産から得た利益の餘滴が勞賃生活者をも潤すと共に一般の購買力は勿論大正三年以前と比して増大した。物價が此所からも觸り立てられたが、これは世界共通の現象であつて、戦後の物價は平調に歸する事日本が最も速いといふに過ぎない。昭和三年後は觸りに低下して居るが、收入と物價が釣合が取れる様になる

と及物價が上るのは自然の經濟原則である。

明治三十三年以降卸賣物價及賃銀指數比較

明治三十三年以降卸賣物價及賃銀指數比較表

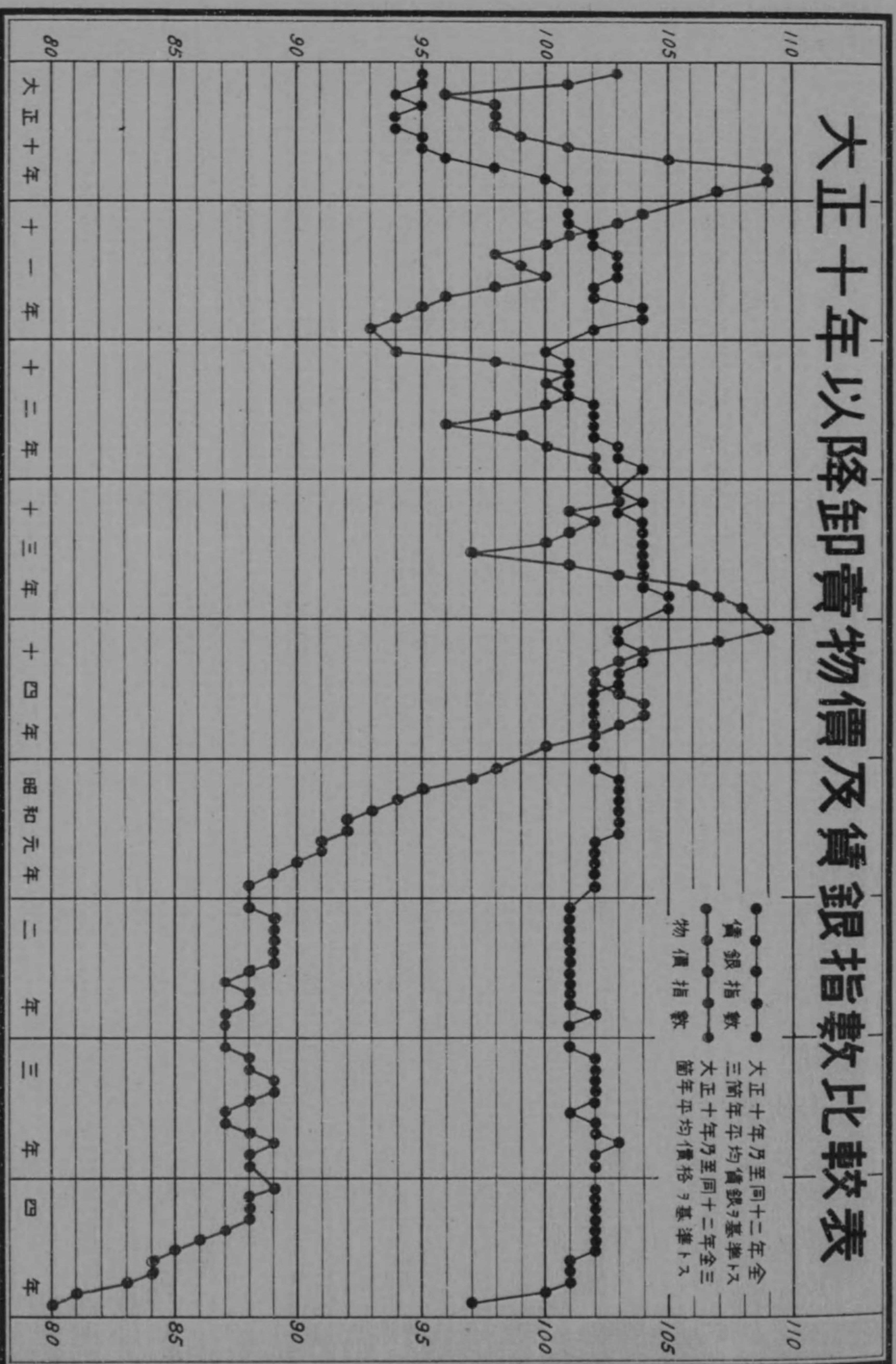


備考 明治三十年は正統年表に於ては明治三十年四月に改元したる事あり

大正十年は、同期の八年、九年の非常なる暴騰を續けたあとであるから、此の以後の變動は即ち經濟世相史の一觀察としても、時期は短いながら重要な意味を有するものと見ねばならぬ。賃銀の如きは八、九年の後尙この十年にも暴騰を示して居るが、殊に變轉の甚しいものは物價であつた。衣料なきは平均して大正七年の三二を最連の大數とするが、これは、明治三十三年の指數を一〇とした算定であつて、引續いて本圖の十年に至て、下半年にはこの通りの奔騰であつた。十一年からは稍平調に赴き、十三年十四年の交再び上つて十年の勢を繰り返した。十四年の中期からは一路降下の傾向をのゝみ示して昭和に移つたのであるが、昭和四年には本圖の如く指數八〇を割り、五年に更に下りて益々下降した。賃銀の方はさして變動を見せなかつたが昭和四年に及んで一〇を割つたのみであつた。即ち價に遅れて賃銀が動くといふ原則を證據立て居る。

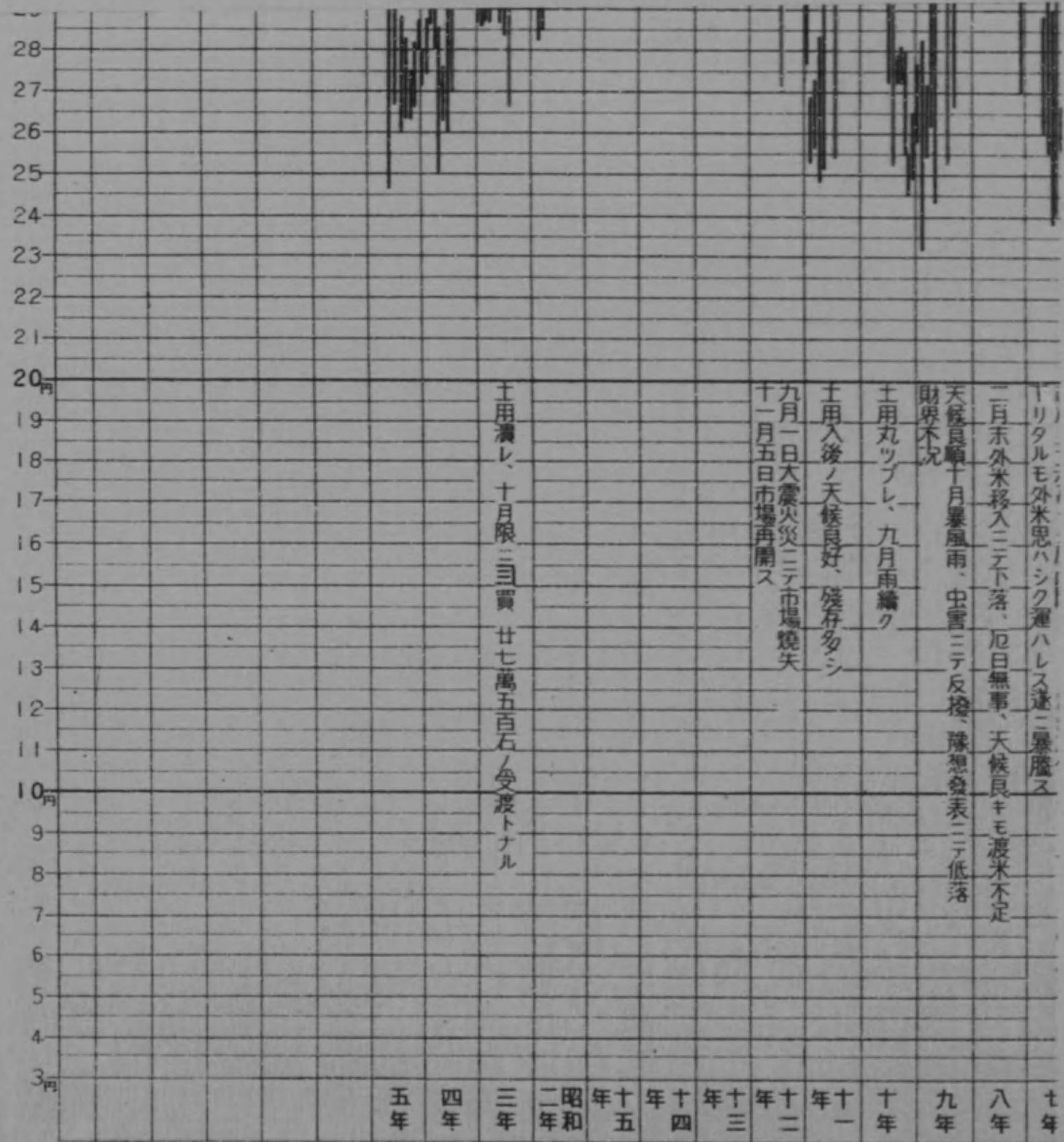
大正十年以降卸賣物價及賃銀指數比較

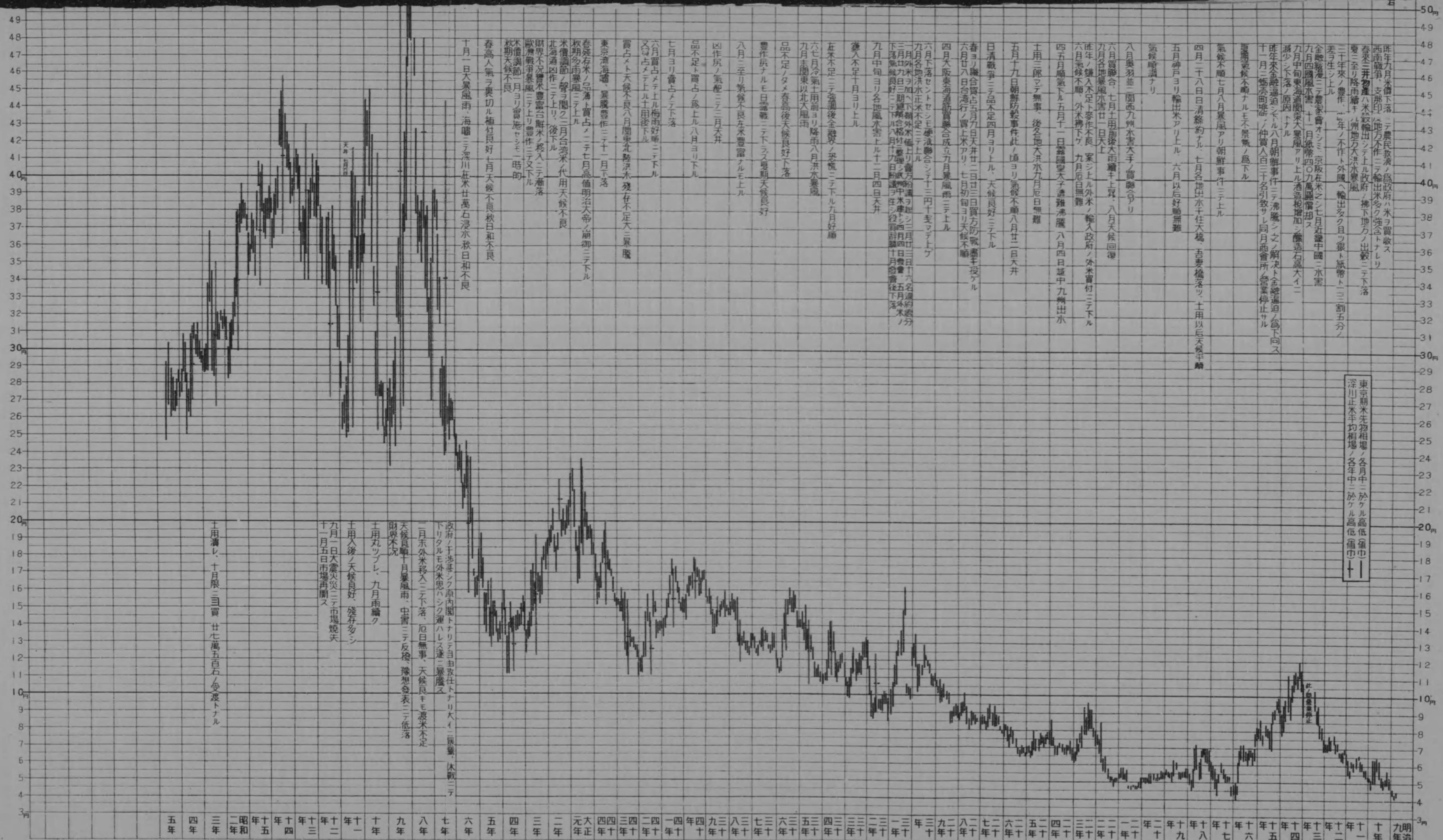
大正十年以降卸賣物價及賃銀指數比較表



自明治九年 東京期米並深川正米相場最高最低比較

標題の比較表を明治九年以來、殆き六十年間の長期に亘つて其の比較を試みたものであるが、相場の上下に一喜一憂する此の變動を構成する素因が、單なる米穀に影響ある天然現象の正常的原因以外に、澤山の人為的所作の偶發的事由が加はつて居ることをも充分に感得するであらうと思ふ。たとへば明治十六年の朝鮮事件が前年の氣候不順に依る下落を引上げ、廿三年露國皇太子の遭難で沸騰し、三十七八年が豐作尻とあつても日露戰爭の爲に下らぬ如きはほんの一例證ながら事實であつて、四十五年七月畏くも明治大帝崩御を一劃として此の震幅はいやが上に昂騰し又低落するの増大を示すやうになつた。大正三年には財界不況と實米豊富に、加へて、朝鮮米移入、歐洲戰勃發で上つたが間もなく下り、八年九年の交に至て前古未曾有の高低を現出した。昭和三年土用潰れ以後の相場建直に關しては短期間の経過であるから、前と併せて大正五年前の氣配には低下せぬ現象を知り得るであらう。





東京米先物相場 各月中に於ける高低値也
 深川止米平均相場 各年中に於ける高低値也

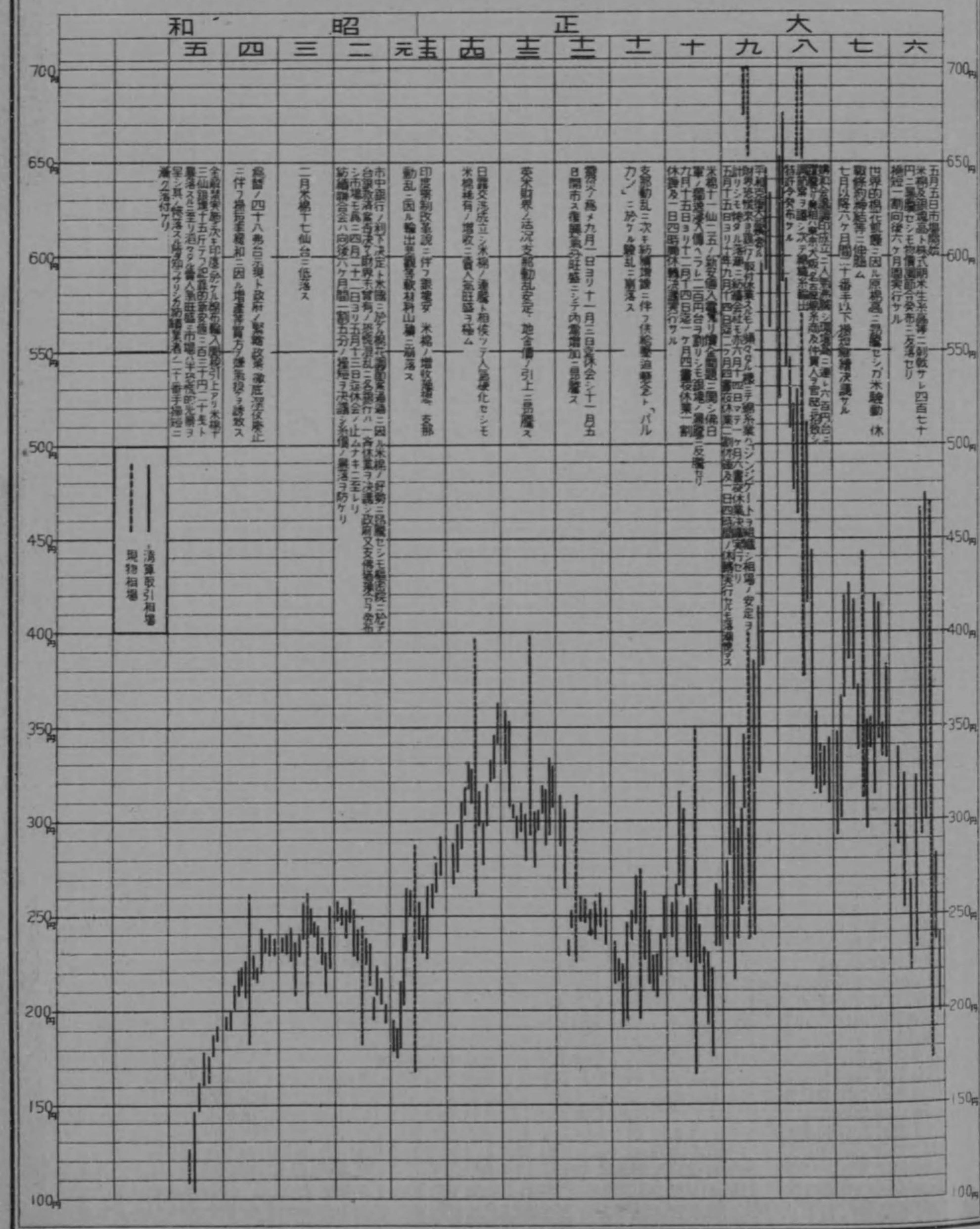
昨年九月米價下落ニテ農民救済ノ爲政府ハ米ヲ買収ス
 西南戦争ニ支那印ハ地方不作ニテ輸出米多ク騰貴トナレリ
 春米ニ并物産ハ米穀輸出シテ上ル政府 拂下地方ノ輸出ニ下落
 二十年來ノ農作ハ年ノ不作ト外國ノ輸出多ク且ツ銀ト紙幣ト三割五分ノ
 差ラシク上ル
 全穀類ニテ農家賣オシメ 京阪在米之シテ七月近畿中國ニ水害
 九月四國風水害 十一月近畿四ノ九萬圓償却ス
 九月中旬東海海潮大暴風アリ上ル酒造増加シ醸造石炭大イニ
 減少シ下落ノ原因トナル
 昨年來金銀通迫シテ八月朝鮮事件ニテ沸騰シ之ノ解決ト全穀通迫ノ爲ト向ス
 十一月二物産向騰貴ノ仲買人百三十名引致サレ同月西會所營業停止ナル
 運搬更候不順ナルモ不景氣ノ爲下ル
 氣候不順七月八月暴風アリ朝鮮事件三上ル
 四月二十八日清條約ヲ以テ七月各地出水干住大場 吾妻橋落ツ 土用以後大旱半晴
 五月神戶ヨリ輸出米アリ上ル 六月以後好轉無難
 氣候順調ナリ
 八月農羽並ニ関西九州水害大手ノ買合アリ
 六月買合 七月土用前後大雨續キ上買 八月天候回復
 九月各地暴風水害廿一日大上
 昨年ノ輸入不足ト麥作不良 案シ上ル外米ノ輸入政府ノ外米買付ニテ下ル
 六月天候不順 外米拂下 九月厄日無難
 四五月順氣下ル五月十一日露國皇太子清雅沸騰 八月四日越中九輪出水
 土用三郎マテ無事、後交地大洪水九月厄日無難
 五月十九日朝鮮防務事件此ノ頃ヨリ急候不順八月廿二日大井
 日清戦争ニテ品不足四月ヨリ上ル 天候良好ニテ下ル
 春ヨリ聯合買合五月九日天井廿二日三日買方防務事件投アル
 六月廿八日台港行ノ買上米アリ 七月初旬ヨリ天候不順
 四月大阪東海海潮買合成立九月暴風雨ニテ上ル
 六月下落セントロシモ海潮買合シテ三四月マテ上テ
 九月各地洪水正米不足ニテ上ル
 三月廿九日三那買合格付ニテ買付中米價五月外米ノ
 下落氣候良好ニテ上ル八月十九日買合成立十月急候下落
 九月中旬ヨリ各地風水害上ル十一月四日大井
 輸入不足十月ヨリ上ル
 正米不足ニテ強復後全穀買合ノ恐慌ニテ下ル九月好轉
 六月七月冷氣土用前ヨリ降雨八月洪水暴風
 九月去關東以北大風雨
 品不足ノタメ春高後天候良好下落
 豐作原ナルモ日清戦争ニテ下ラス豊作天候良好
 八月一至リ氣候不良在米豐富ナルモ上ル
 凶作原ノ氣配ニテ二月天井
 品不足ト騰貴ノ爲上ル八月ヨリ下ル
 七月ヨリ騰貴ノ下下落
 六月買合マテ上ル梅雨好轉ニテ下ル
 又買合マテ上ル土用後下ル
 買合ト大候不良八月關東北陸洪水殘存不足大暴騰
 東京津海潮 暴風雪作ニテ十一月下落
 春麥存米ノ品薄ト騰貴ノ二七日高値明治大帝ノ崩御ニテ下ル
 秋期多雨暴風ニテ上ル
 米價調節ノ聲ヲ聞ク二月台湾米 代用天候不良
 北海潮凶作ニテ上リ、後下ル
 即米不足買水豐富ニテ輸入ニテ騰落
 歐戰争暴風ニテ上リ豐作ニテ又下ル
 米價調節一月ヨリ實施セシメ一時
 秋期天候不良
 春高人氣ヲ衰切ル種付良好七月天候不良秋日和不良
 十月一日大暴風雨、海嘯ニテ深川庄水廿萬石浸水秋日和不良

政府ノ干渉ニシテ原内閣トナリテ自由放任トナリ大イニ騰貴、休戦ニ
 下リタルモ外米懸ハシク漸ハリス達ニ暴騰ス
 二月外米移入ニテ下落、厄日無事、天候良好モ蒸米不足
 天候良好十月暴風雨、中買ニテ反撥、豫想表ニテ低落
 雨降米況
 土用丸ツブレ、九月雨續ク
 土用入後ノ天候良好、殘存多シ
 九月一日大震火災ニテ市場焼失
 十一月五日市場再開ス

土用満レ、十月限三買 廿七萬五百石ノ受渡トナル

所引取品商穀米京東社會式株

東京綿糸清算取引先物並現物相場最高最低比較表



所引取品商綫米京東社會式株

東京綿糸清算取引先物並現物相場最高最低比較

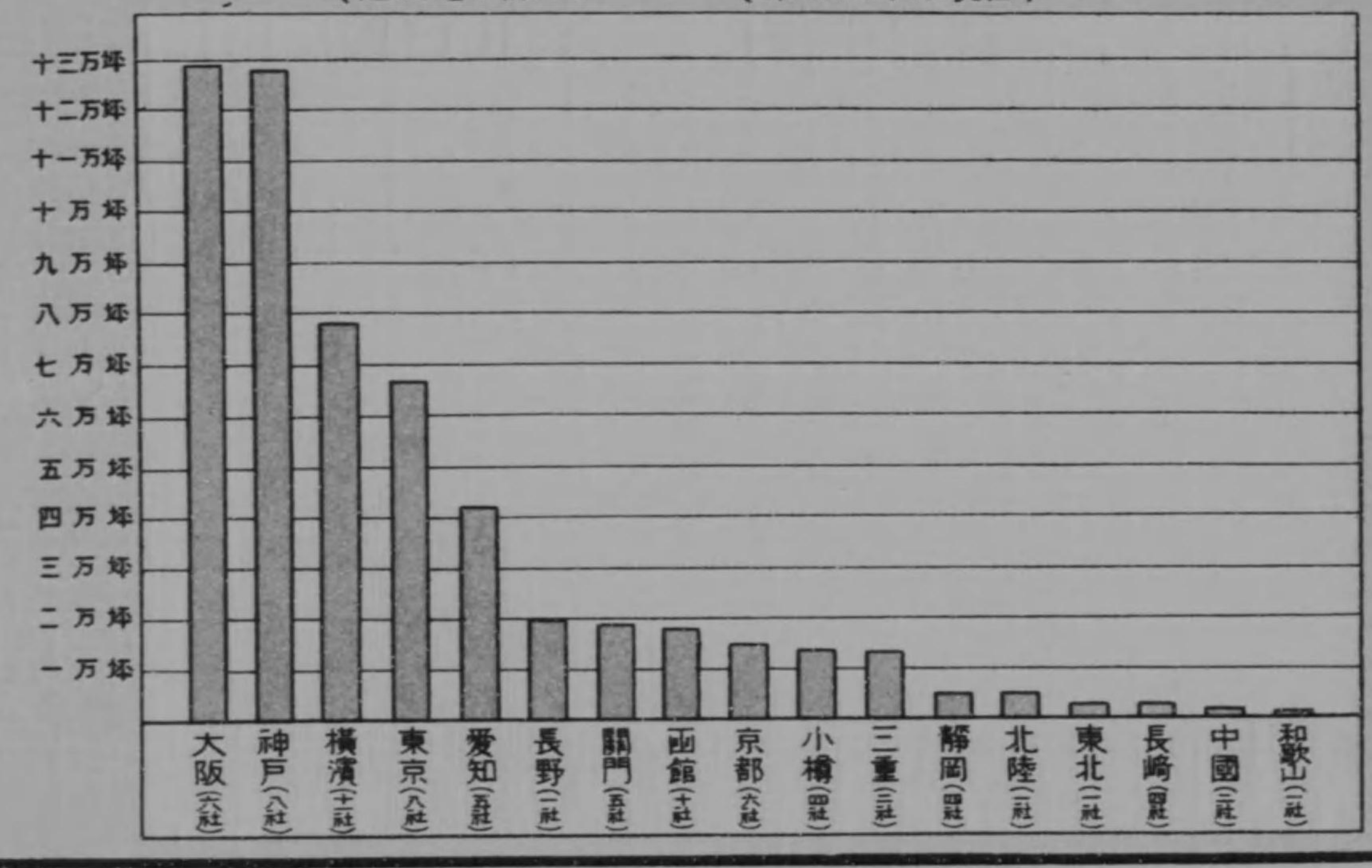
綿糸の先物取引に就ては果して相互の利益ありや否やは、引續き考究せられつゝある大問題であつた。これは英國のランカシアに於ける自由貿易にも必ず討議せられる好題目で、特惠關稅問題と始き同價値を唱へられるものである。今日本に於ける大正六年以來、昭和五年に至る左の取引と現物相場の高低比較を一見しても、恰も深川正米なき、同じくこれも亦時世相に伴ふ昂低が、歴然として存して居ることは、何人も容易に領かれるところであらうと思ふ。大正六年の米棉と銀塊相場並に生糸高値に刺戟されて四百七十圓に暴騰したが、總て物價調節金の爲に反動落を來した。八年の歐洲大戰爆發和會議の調印と人氣の轉換に依り六百圓臺に昂騰したこと、九年の平和克復詔書煥發に依る高低なきは、恐らく大正期以來の遊蕩なもので、昭利五年の金解禁實施以後は、獨り日本のみならず、米、英その他も操短となり、こゝに棉花取引の世界的不況時代を遂に現出してしまつたのであつた。

全國加盟倉庫坪數地方別調

倉庫業といふものも近世の中發達の著しいものの一である、産業改革を背景にして地方物産の保護と、其の融通の有形なる保證を顯はす點に於ては、これより安全なる形式と方法とはないのである。昭和四年末現在の此の圖表が、我々の常識を豊潤にするのみではなく、地方の産業が、いかに激しい融通を致して居るかが分り、或は又反對に是を利用すべきあらゆる物資の、缺乏を來して居るかも、明瞭に察することが出来るのであつて、事實以外の興味と言はねばならぬ。全國加盟中の王者は何と云うても大阪倉庫で、六社の坪數十三萬坪に到らんとし、神戸の八社が些かこれに劣るも、遂に横濱を凌駕して、倉庫の性能を充分に表現することは、國を舉げて健羨せしむべき平時の戦ひである。東京は神戸と同じき八社ではあるが、坪に於ては横濱よりも不足で、長野が小樽港と三重の海岸線多く海産豊かなる土地よりも優れて居る。

全國加盟倉庫坪數地方別調

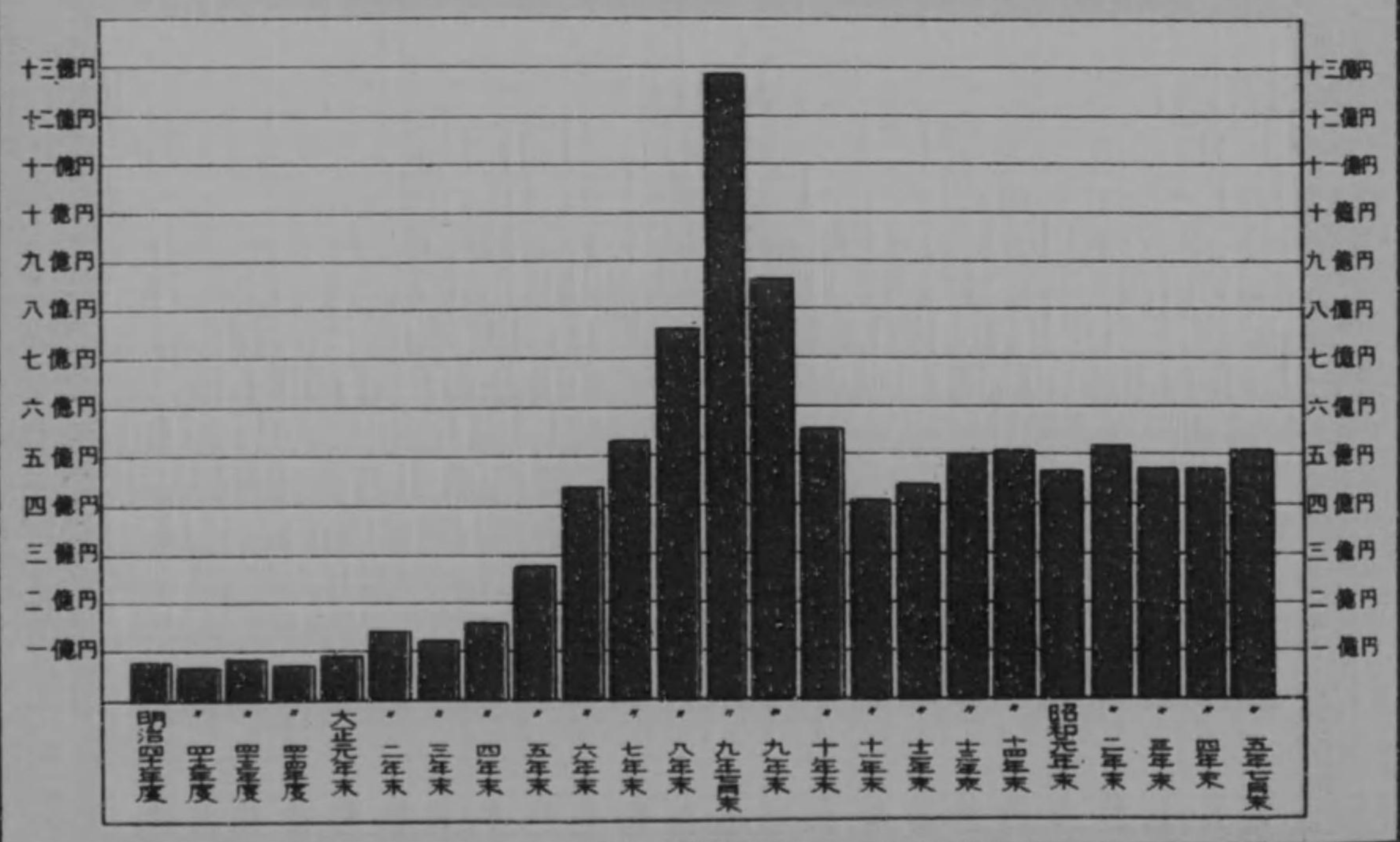
日本倉庫業聯合會
(殖民地ヲ除ク) (昭和四年末現在)



全國主要倉庫保管殘高調

全國加盟倉庫の坪數が分明するとともに、此所に保管した物貨がいかなる計數を以て該當年末に殘高と成つて來たかを知るのも、亦一種の狀態推移を明白にする方術である。此の殘高調査の圖表には、明治四十二年度より昭和五年七月末に至るかなり長期間の實在した歴史を示すものであつて、世人はこれに向つて齊しく注意を一段と深くせられんことを希望する。明治年間にもさより日清日露の二天役があつたが、産業のこれが必要とする程度には至らず、大正期に入つて俄然歐洲戰亂の勃發あり、八年末七億五千萬圓程の殘高を以て翌九年に移り、九年七月末になると實に十三億圓に近き高を提示することが出來た。かういふ好況時代は恐らく將來にも求める事が困難であらうが、島國日本が一躍して正貨の膨脹に眉を開いたさまが、此の倉庫の一面からも充分に觀察せられるものであつて、いはゞ國の一面と始終をともして來たやうなものであつた。

全國主要倉庫保管殘高調



(三菱倉庫株式會社)

地方別産業組合数

産業組合も異数なる発達を來した一種に屬するが最近十ヶ年間の比較に見ても、其の増加の勢は驚くべきものがあつた組合数の最大なるものを示したのは大正十四年で、これは別項にも述べた筈であるがその数一萬四千五百七十七に到達した。これから漸次下り坂となつて、昭和四年には一萬四千〇四十七に減少して居る。この圖表は三年度の一萬四千七百七十組合までを限りとして居るが、事態は右申す如き有様なのであつた。注目すべき現象としては、一方設立が實現するとともに一方では組合の解散が夥しく行はれることである。その解散数一ヶ年約五百前後に達して居るのであるが、明治三十三年以來昭和四年迄に解散したの一萬〇五百三十二組合あつた。是は不良組合の整理斷行の外にも尙幾多の問題、たとへて存在期間、役員之乏少、他組合への轉入その他種多な原因が介在して居る。地方別組合の數に於ける比較分布は下段の表が極めてよく事情を物語つて居るのである。

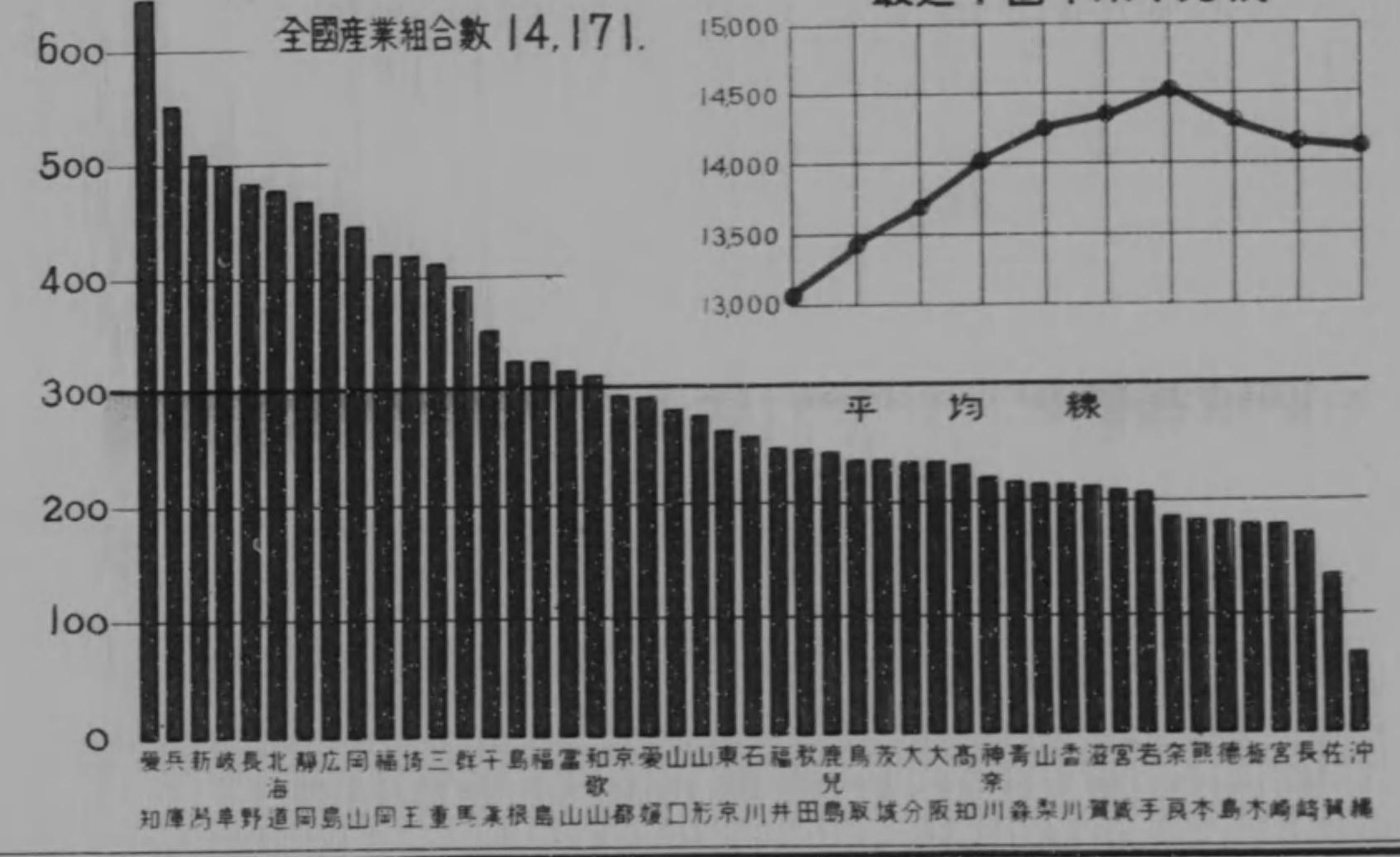
地方別組合員数

地方の組合の狀況が史的に稍々分明すれば次には當然なる欲求として、地方別の産業組合員数を知つて置きたいものである。組合の數量と會員の數とは必ずしも相伴はぬこと、地方別組合數との表とを併せ見れば判然とするであらう長野の組合員が昭和二年度に二十一萬人を突破したことは、全國的の異數であつて、流石組合數を以て誇る愛知でも十四萬餘を算するのみで新潟よりも尙劣つて居るのであつた。静岡は昭和期となつてから頗る増加の趨勢を見るやうになつた。大阪と香川と相齊しく、長崎福島より北海道に多いのは、此の消長が直ちに地方の産業に波及して居る事實を明白に看られるであらう。又昭和二年度に於ける總員數四、一五七、四〇四人とあり、前の元年度よりも更に増加して居るのは、整調せられてから一段の堅實さを加へて、次第にこれを利用する人の多くなつた事を意味するもので、資本運轉の圓滑さへ立派に出來ると、前途はむしろ多幸なのである。

地方別産業組合数

(昭和三年十二月末現在)

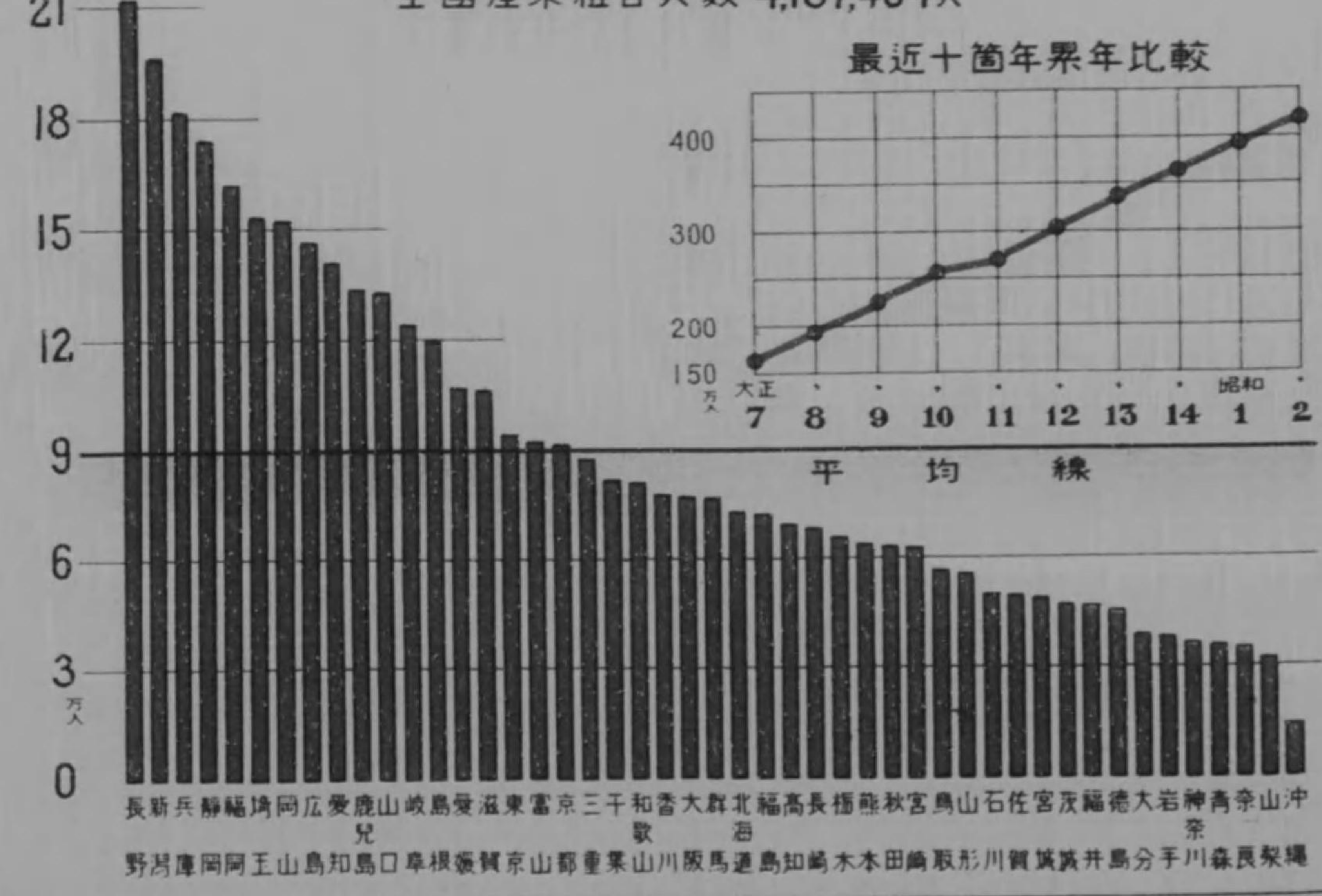
最近十箇年累年比較



地方別組合員数

(昭和二年度末現在)

最近十箇年累年比較



(農林省農務局)

産業組合普及状況

明治三十三年の組合法が制定せられて以来、産業組合が全国の農村に普及し、大正十四年の隆盛最頂時代には其の數一萬四千五百十七組合に達したことは、他の圖

表にも時々記べた筈である。この組合の事業としては、先づ信用的所作の貯蓄が

主題となり、而もこの金が一方購買の資費に有効に用ひられると、一方では共同

に販賣事業をも惹んでその増殖を圖ることに専念するといふ目標がある。そこで

組合員の數と柳込出資金とが共に増加すると、個人の苦勞多き割合には、酬へら

れる點の渺なく、さうして團體の力の強さを知つた農村はすべてを之に一任し

てしまふ方針を取り、走せて組合に加入した。大正十四年後にはいろいろな整理

もあつて年に五六百位は解散もしてあるが、昭和二年の調査ではかういふ割合に

全国農村に普及して居るのである。現在下敷に對する組合員數の比較であるが、

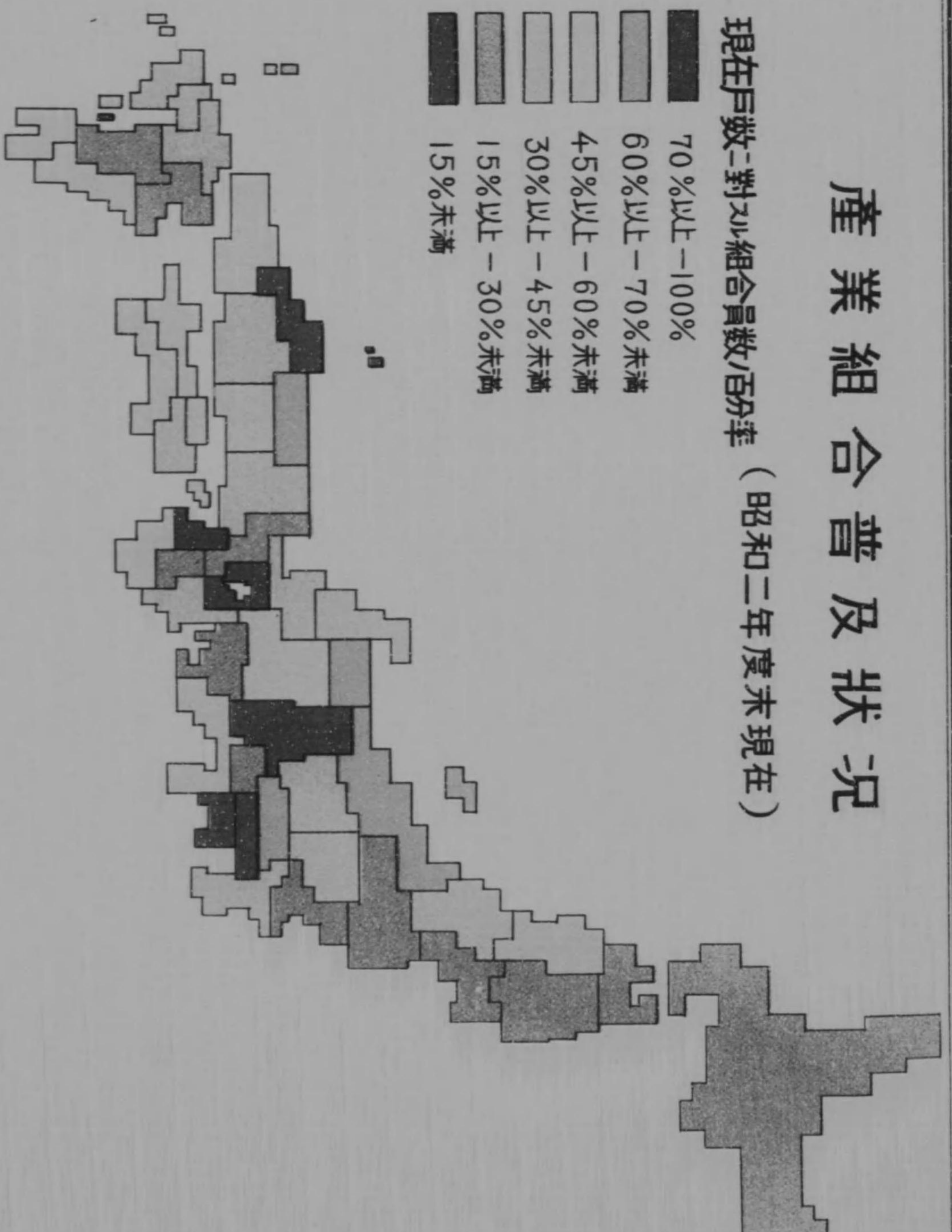
これを一見しても産業組合發達の現況がよく分明するのは圖の齎らすの大なる

感興である。

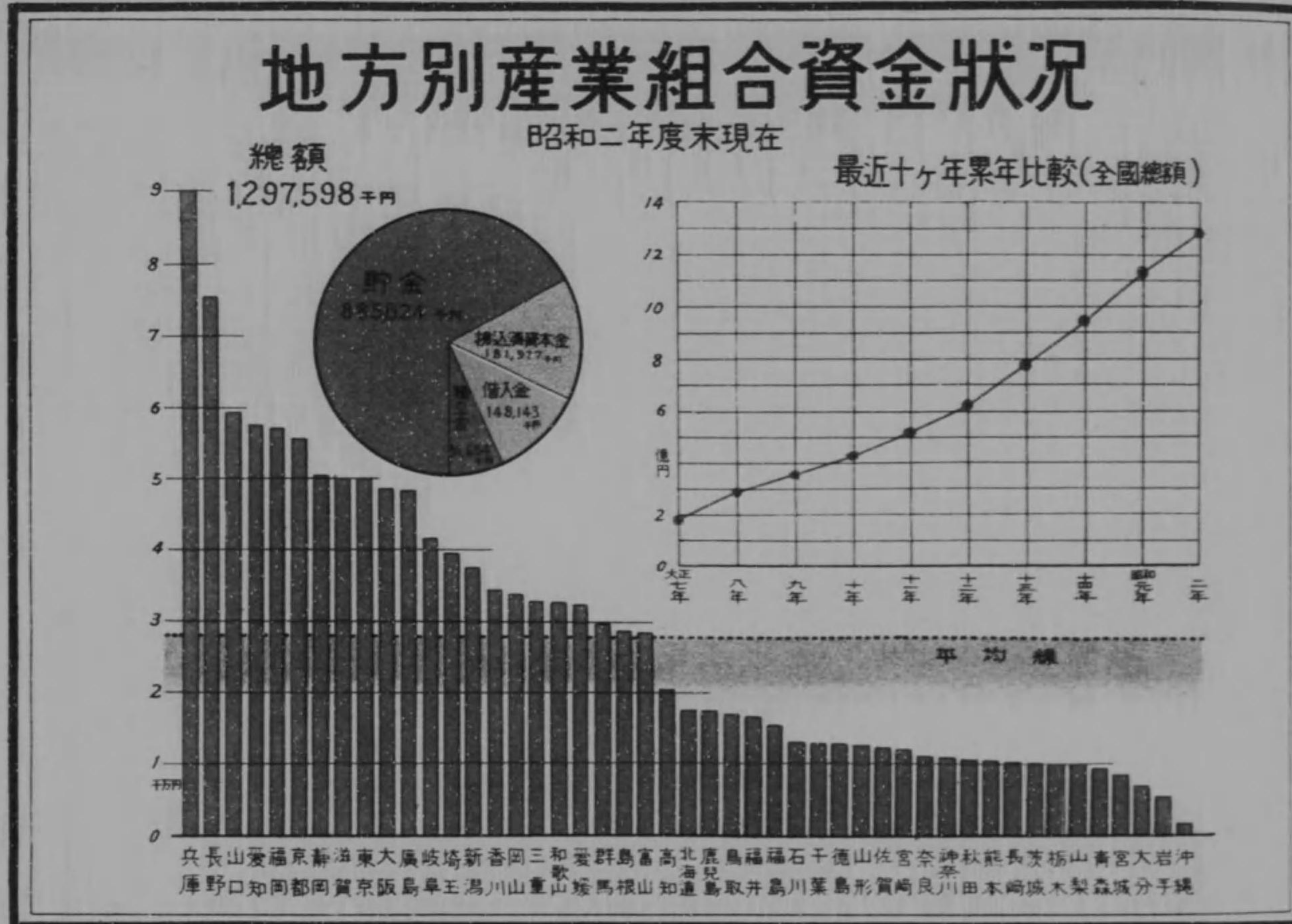
産業組合普及状況

現在戸數に對する組合員數百分率 (昭和二年度末現在)

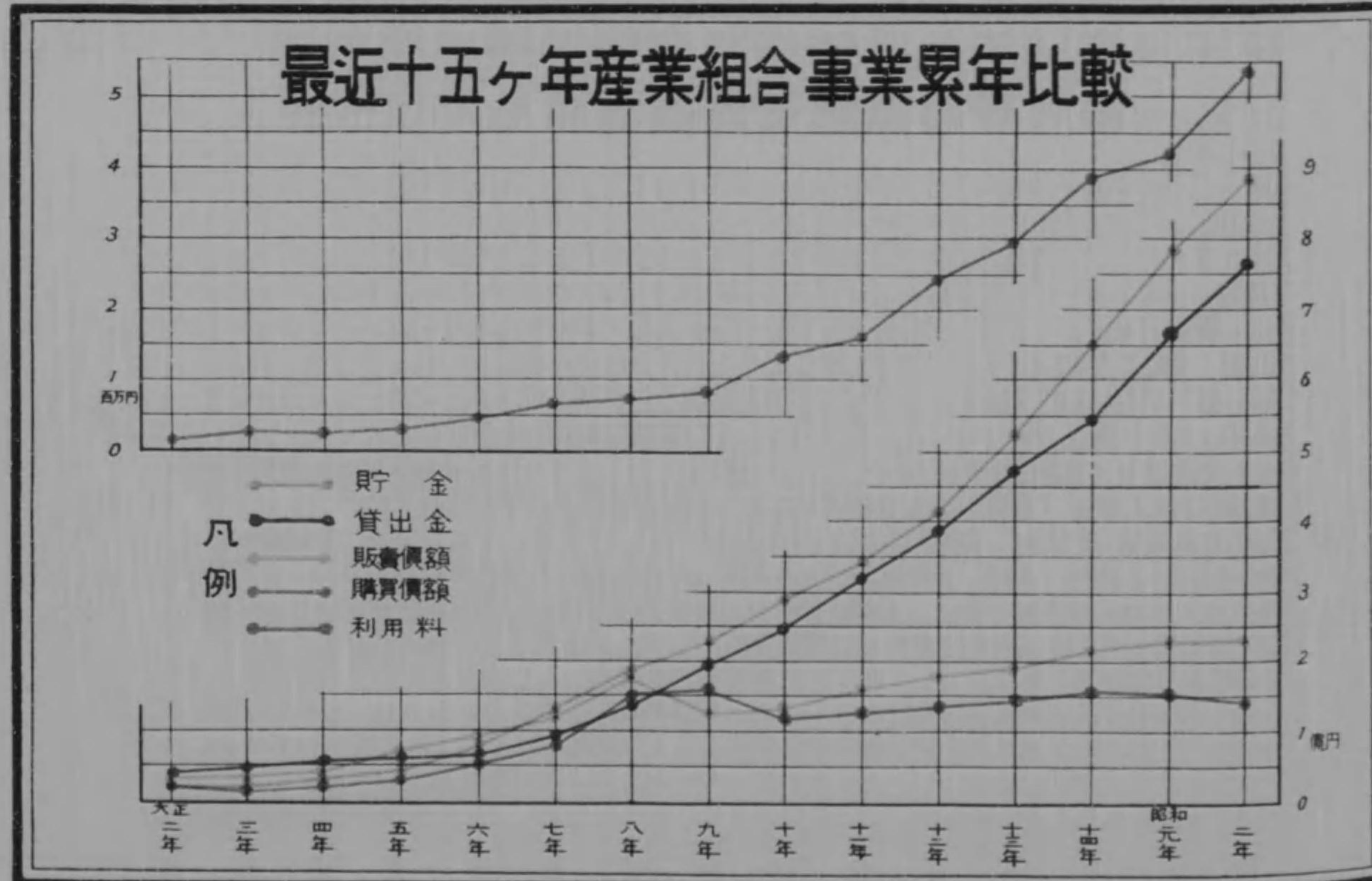
- 70%以上—100%
- 60%以上—70%未満
- 45%以上—60%未満
- 30%以上—45%未満
- 15%以上—30%未満
- 15%未満



地方別産業組合資金状況



最近十五箇年産業組合事業累年比較



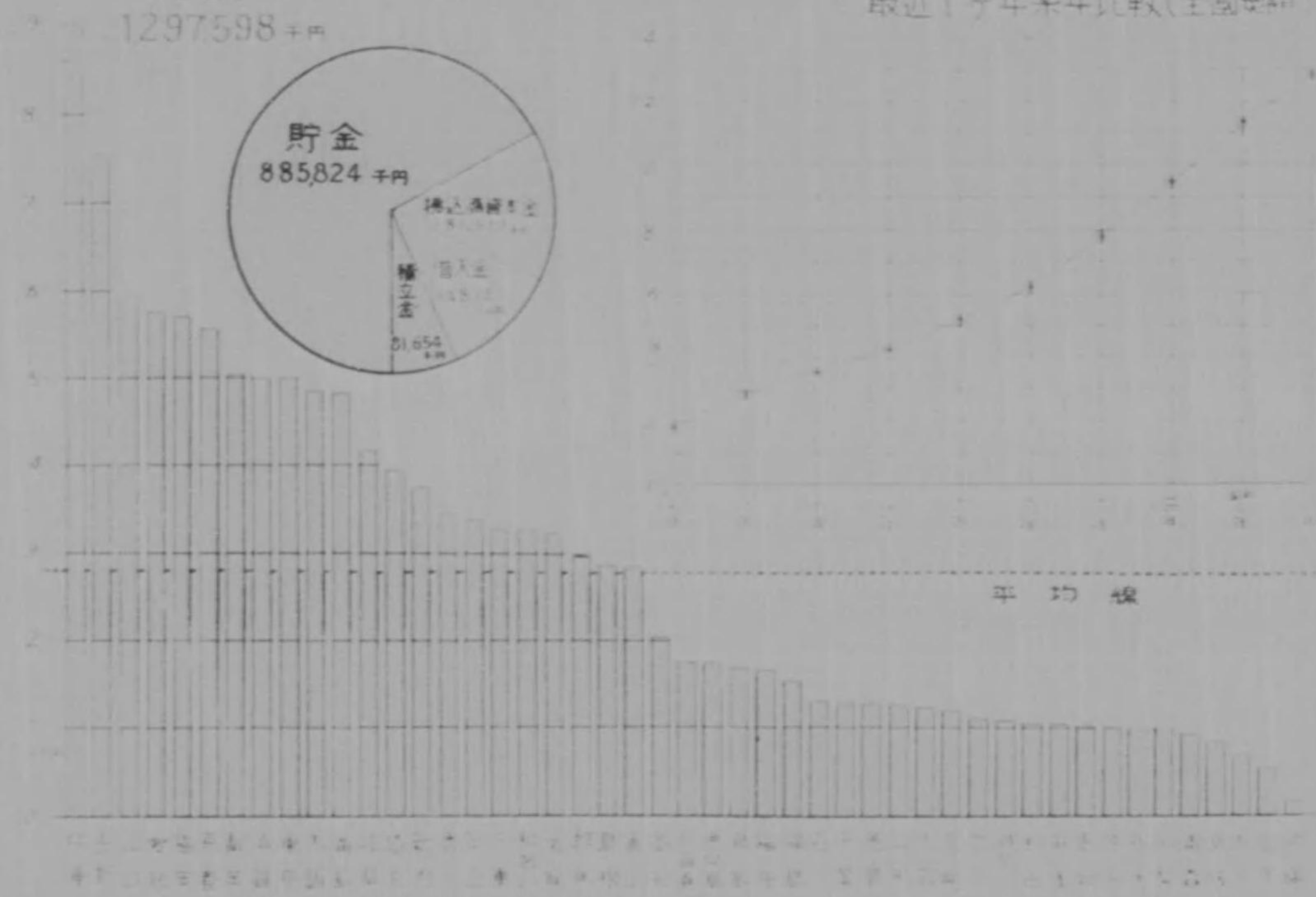
(農林省農務局)

明治三十三年の組合法制定以来、産業組合は全国農村に普及し、大正十四年の調査では其の數實に一萬四千五百七十七組合に達した。然しこれを最高として漸次に減少する傾向を有して居るが、之は時勢の促進といふよりは、昭和元年以来害をなす處の不良組合を、整理する方針から全般の健實方法を強調したにも因るものである。又中には解散するものもあつた。全国産業組合の昭和二年度末現在の所有總額一、二九七、五九八千圓に到達し、其の内譯の算數に至ては貯金その他の種目が茲に示して居るから熟視せらるべきである。兵庫の如きは其の額もはや九千萬圓に及び、當然全国第一となつた。北海道の廣漠たる土地を以て尙高知よりも下るといふのは、新開作付反別の拓殖が多くて、完全なる普及を見ぬ故なのである。恐らく將來に於ては一段の昂騰を見るであらう。最近十ヶ年の總額比較を一見しても容易ならざる覺悟のほきがよく現はれるのであつて、之をも趨勢と見るべきである。

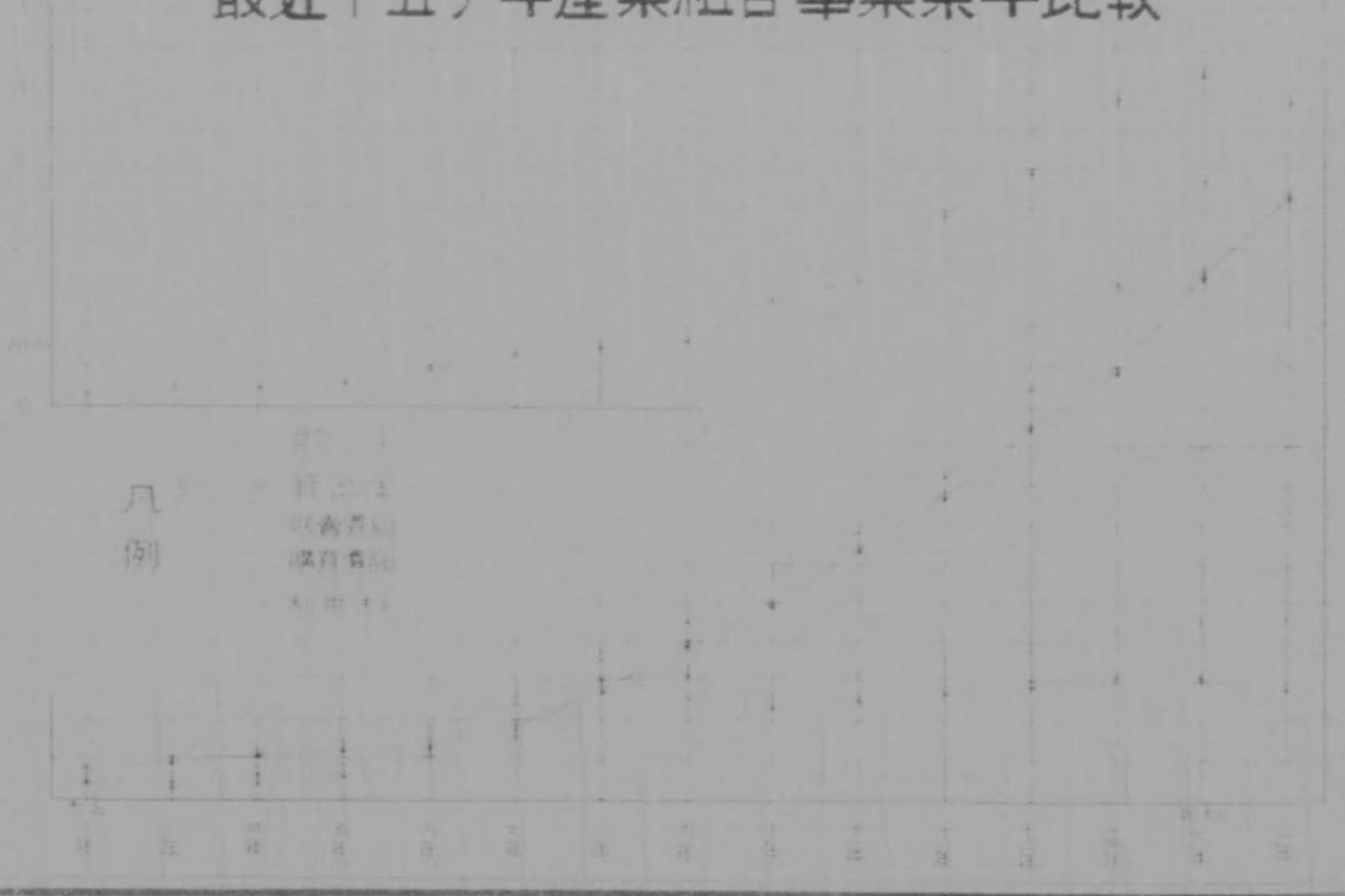
日本に於ける産業革命は、實に日清戦争直後に芽ぐみ、徐々に發達の機を覘つて來たものと見てよろしいやうである。歐洲大戦の勃發する直前、即ち大正の初年頃からしきりに産業組合の組織と協調が考へられ、それ以後目覺むるばかりの進展を示したのである。この背後には他の労働組合の多少激甚なる動搖を、見做ふ點もないではなかつたが、主として計畫が永期間を目ざしてあるから、産業組合の伴ひやすき不安も、次第に薄らぎ始めて貯金も貸付も圖の如くに逐年増加する一方であつた。販賣と購買の手續も、大勢が一團として衝に當ることゝなれば、言ふ迄もなく一種の共同生活體が出現するから、個人の不便にして不利なる賣買では、さうしても圓滑に行かぬといふこととなる。利用料の如きも大正二年以来年を累ねて徴收が増加し、十二年すでに二百五十萬圓の呼聲を聞き、昭和年代に入つては五百五十萬圓に垂んとするに至つた。堅實なる發達を遂げつゝあるものである。

地方別産業組合資金状況

昭和二年度末現在 最近十ヶ年累年比較(全国平均)



最近十五ヶ年産業組合事業累年比較



電報局 電話局

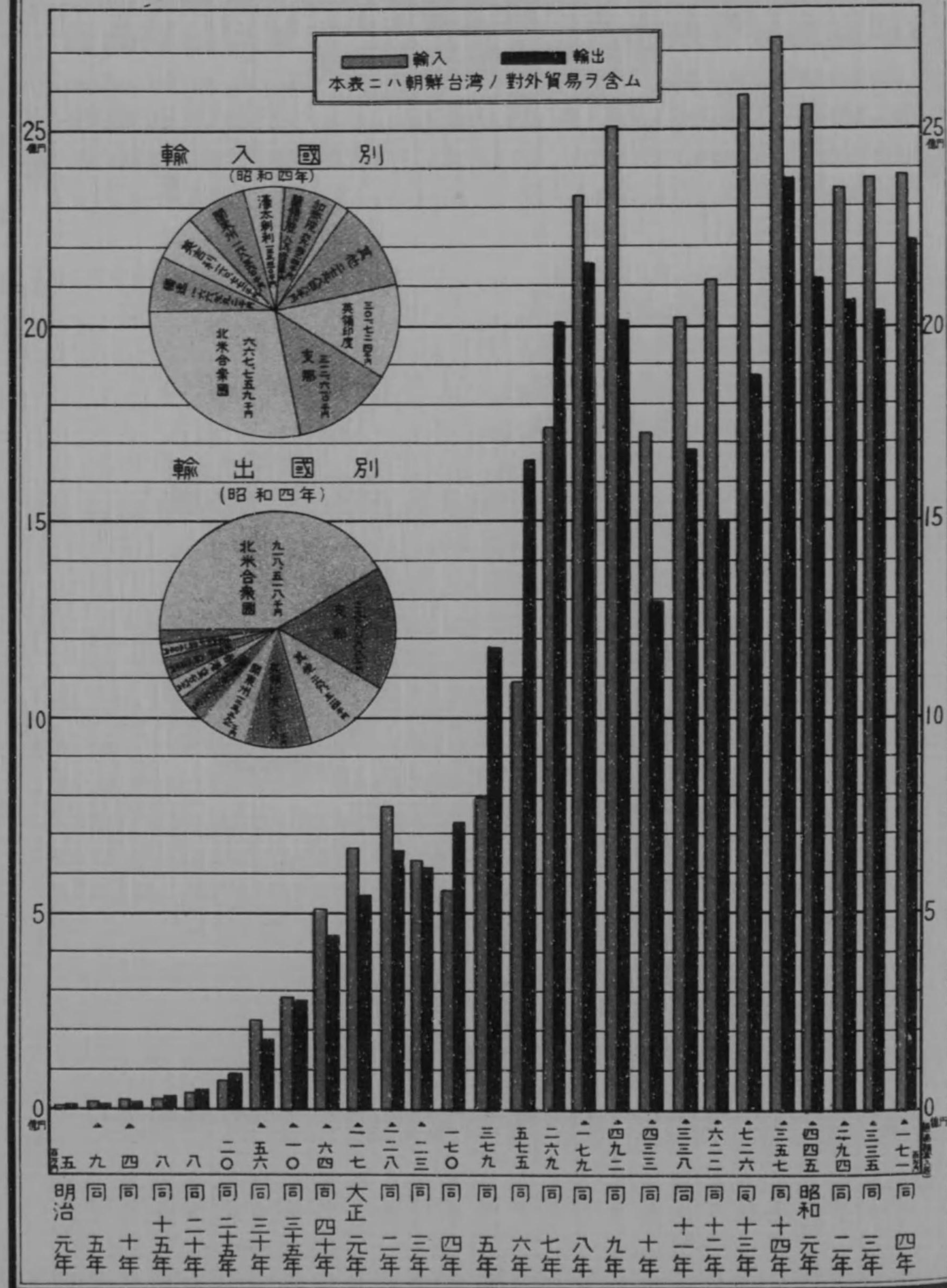
地方別産業組合資金状況

明治三十三年の組合法制定以来、産業組合は全国農村に普及し、大正十四年の調査では其の數百に二萬四千九百七十七組合に達した。然しこれを最高とし、漸次に減少する傾向を有して居るが、之は時勢の變遷といふよりは、昭和元年以来漸次なす農の不良組合の、整理する方針から全般の體質方法を強調したにも因るものがある。又中には解散するものもあつた。全国産業組合の昭和二年度末現在の所有資産一、九七、五九八千圓に對して、其の背割の百分に至っては貯金の種目が終に亦もて居るが、然るにその中心にある。其の中心にあるのは、九十九萬圓に及び、當然全国第一と云つた。此等の廣くたる土地の目で、尙高積り有するといふのは、新開作付別荘の振興が多くて、完全なる資金を見ぬ故なのがある。然し其の中心にあるのは、其の中心にある。最近十ヶ年の増減比較を見ても、容易なるものがある。最近十ヶ年の増減比較を見ても、容易なるものがある。最近十ヶ年の増減比較を見ても、容易なるものがある。

最近十五箇年産業組合事業累年比較

日本における産業革命は、首に日清戦争前後に於てみ、從つて發達の機を捉つて来たものと見て可い。然し、此の間に戦の勃發する直前、即ち大正の初年頃から、漸次に産業組合の組織が協調さるゝが、それ以後日變むるばかりの進展を示したのである。この背後には他の労働組合の多少漲其の動向を、見做さざるを得ない。はなづか、定として計算を長期間を以てしてあるから、産業組合の件は、不安定な、次第に減少する傾向を有する。貸付の種目も、近年増加する一面があつた。貸付の種目も、近年増加する一面があつた。貸付の種目も、近年増加する一面があつた。貸付の種目も、近年増加する一面があつた。

本邦對外國貿易ノ趨勢

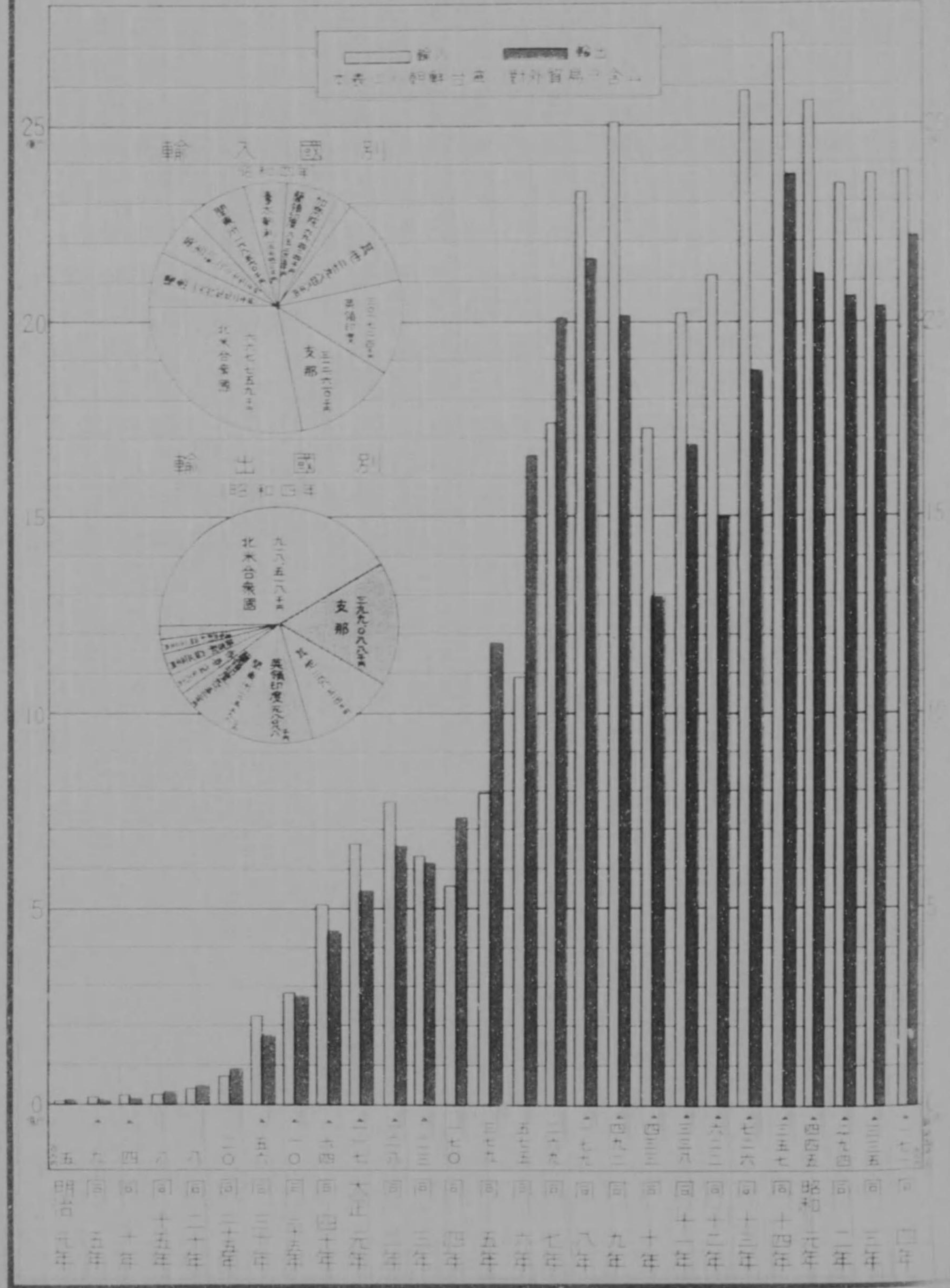


(大 藏 省)

本邦對外國貿易の趨勢

言ひ古された事ではあるが、日本の對外貿易は年を逐うて隆盛に赴き、五十年前の當該者の夢想だもしなかつた額を示すやうになつて、國運のいやが上にも擴張することを儼として表はして居る。試みに明治元年より大正を通じて昭和四年に亘る六十餘年間、此の趨勢を徐ろに見來ると、大正期に入るや例の歐洲大戰の勃發すると同時に、日本は次第に好況を呈して來た。其の後の消長は正に圖の如くであるが、輸入國別としては何としても米國が第一位で昭和四年の額六六七、七五九千圓の物品を買入て居る之を輸出の米國九一八、五一八千圓に比較すると日本も洵に進出したもので、隣國支那も之に亞ぎ、招く輸入が三二二、六一〇千圓、輸出が三九九、〇八八千圓を示して居る。昭和四年の貿易總額に對する米國との關係を一瞥すると米國よりの輸入二四、九%、米國への輸出が大體四三、六%といふまことによい歩調を示して居る。然し此の好調を持続するには細心の注意の必要があらうと思ふ。關東州などは實はより以上の額に達せねばならぬ位置にあるのである。

本邦對外國貿易ノ趨勢



本邦對外國貿易の趨勢

言ひ古された事ではあるが、日本の對外貿易は年を逐つて隆盛に赴き、五十年以前の當該者の夢想だもしなかつた額を示すやうになつて、國産のいやが上にも増進することゝ假して表はして居る。試みに明治九年より大正を通じ昭和四年に亘り六十餘年間、此の趨勢を逐つて見ると、大正期に入るや何の歐洲大戦の勃發すると同時に、日本は次第に好況を呈して來る。其の後の消長は正に國の細くであるが、輸入國別としては何として米國が第一位で昭和四年の額六六七・七五九千圓の物品を買入して居る之を以て輸出九一八・五一八千圓に比對すると日本は海に世出したもので、萬國支那も之に亞ぎ、早く輸入が二二六・二二七千圓で、輸出は二五九・〇八八千圓を示して居る。昭和四年の貿易總額に對する米國との關係は輸出二億四千九百九十九萬圓、輸入一億四千九百九十九萬圓、輸出が輸入の倍餘に達して居る。然し此の好況を持續するには關心の注意の必要があらうと思ふ。山東州などは實はより以上の額に達せねばならぬ位であるのである。

日本の貿易總額

言はゞ大風一過後の貿易である。世界大亂の如きは再び起り得ない、従て之に影響せられての世界運出も、日本には再び起らぬことも當然ではあらうが、然しながら貿易の國際的地位が單に對外國の

擴大や品種の増幅に依るのみではなく、概しての趨勢からいへば額の多寡を以て直ちに國勢の浮沈を考へるやうになつた事は、確かに大なる收獲である。總額と品目とに注意を要するのは、此の點が

も蓋し適切な觀察の仕方なのである。貿易の大勢から申しても大正九年以後の大正期はとかく一強一弛であつたが、昭和期に及んでは棉糸類の輸入が次第に濃厚の色を帯びて來た。又たとへば出入品

の品たる絲織繩索と材料が、輸入よりも細多く海外へ赴くのは、やはり世界の貿易が稍々平調になりかけてさうして平時戰に據頭しつゝある事を裏面から示すもので、飲食及煙草並に衣類と其の附屬

の次第に増して輸出するものも、事實はさうした安定があつたからで輸出貿易の大勢たる生絲の使命、前途に憂懼すべきものがある。

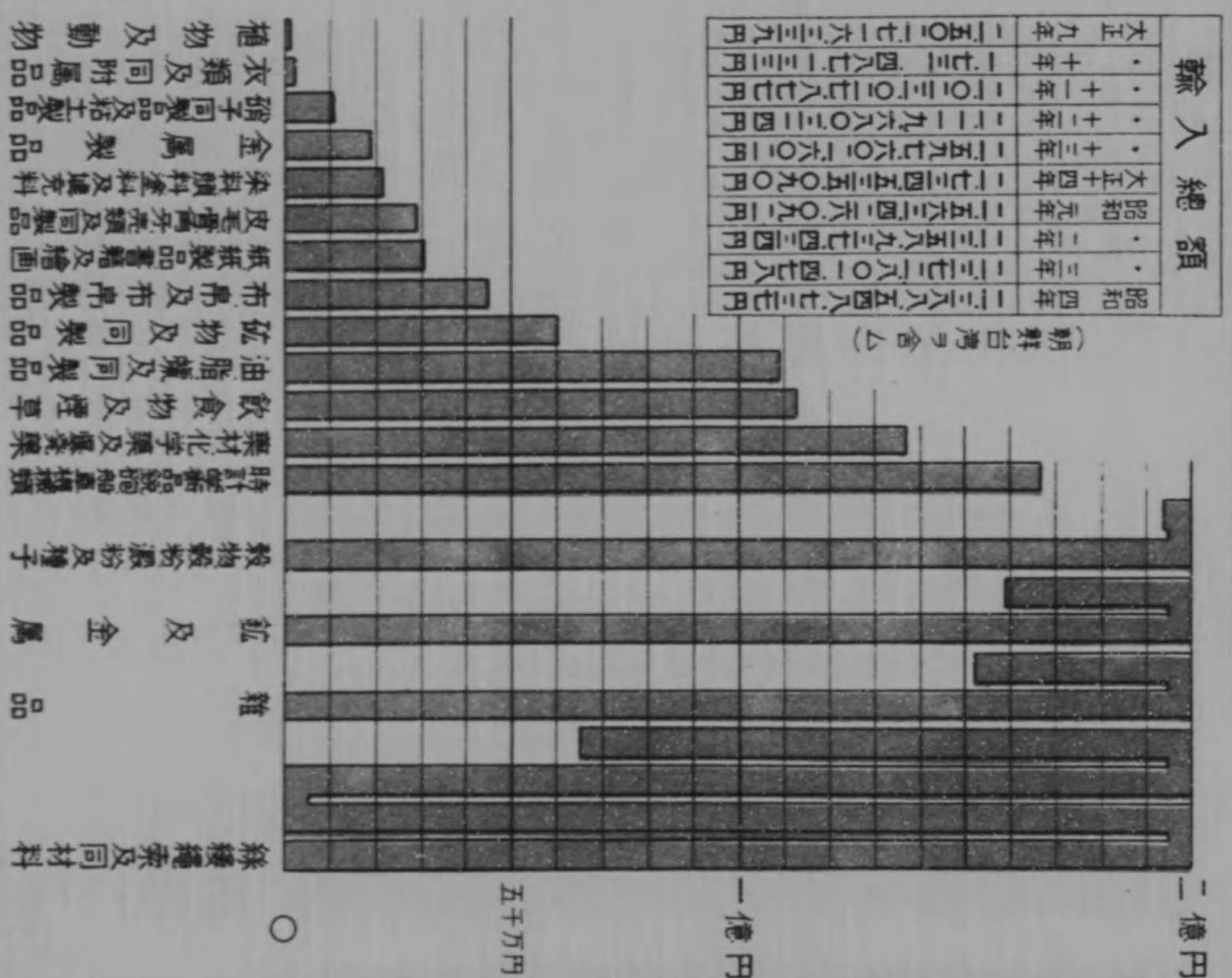
日本ノ貿易總額

昭和四年

輸入

年	總額
昭和四年	一三、八八五、四八七、三三三円
三年	一三、三二八、〇一七、四八八円
二年	一三、五八九、三二七、四三三円
昭和元年	一五、六三三、四二六、〇九二円
大正十四年	一七、三三四、五五〇、九〇〇円
十三年	一五、七六〇、一七〇、一〇〇円
十二年	一三、九六〇、三〇三、四〇〇円
十一年	一三、〇三〇、三二七、七三三円
十年	一三、三〇三、三二七、七三三円
大正九年	一五、〇二七、六三三、五九二円

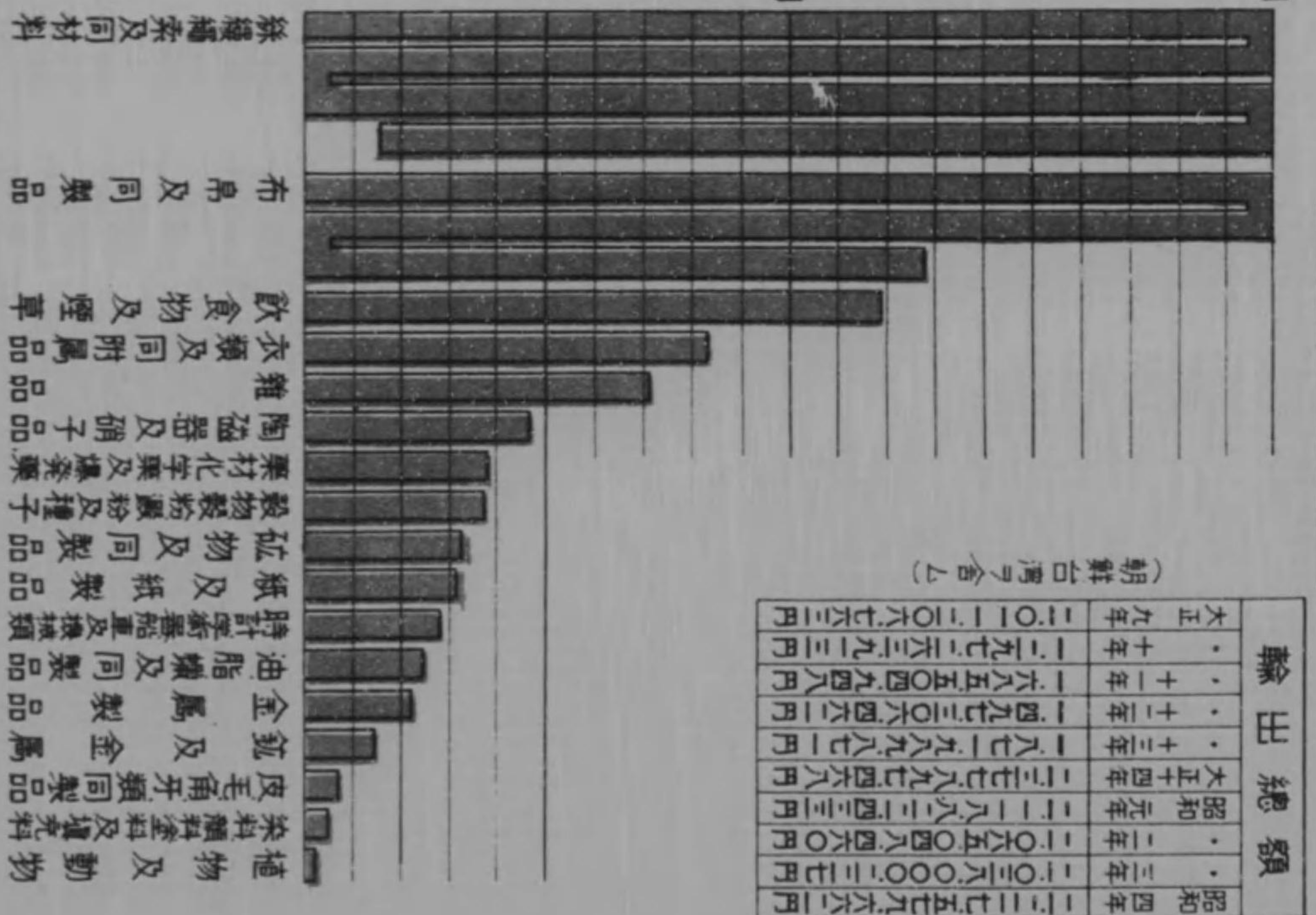
(朝鮮台灣を含む)



輸出

年	總額
昭和四年	一三、七五五、九七六、八二〇円
三年	一〇、八〇〇、三二七、四三三円
二年	一〇、五〇〇、八四八、四〇〇円
昭和元年	一三、八八三、三二七、四三三円
大正十四年	一三、七九八、七四六、八二〇円
十三年	一八、七一九、九八七、一〇〇円
十二年	一四、九三三、三六四、六〇〇円
十一年	一六、八五〇、四九八、八二〇円
十年	一六、八五〇、四九八、八二〇円
大正九年	一〇、二一〇、七三三、三三三円

(朝鮮台灣を含む)



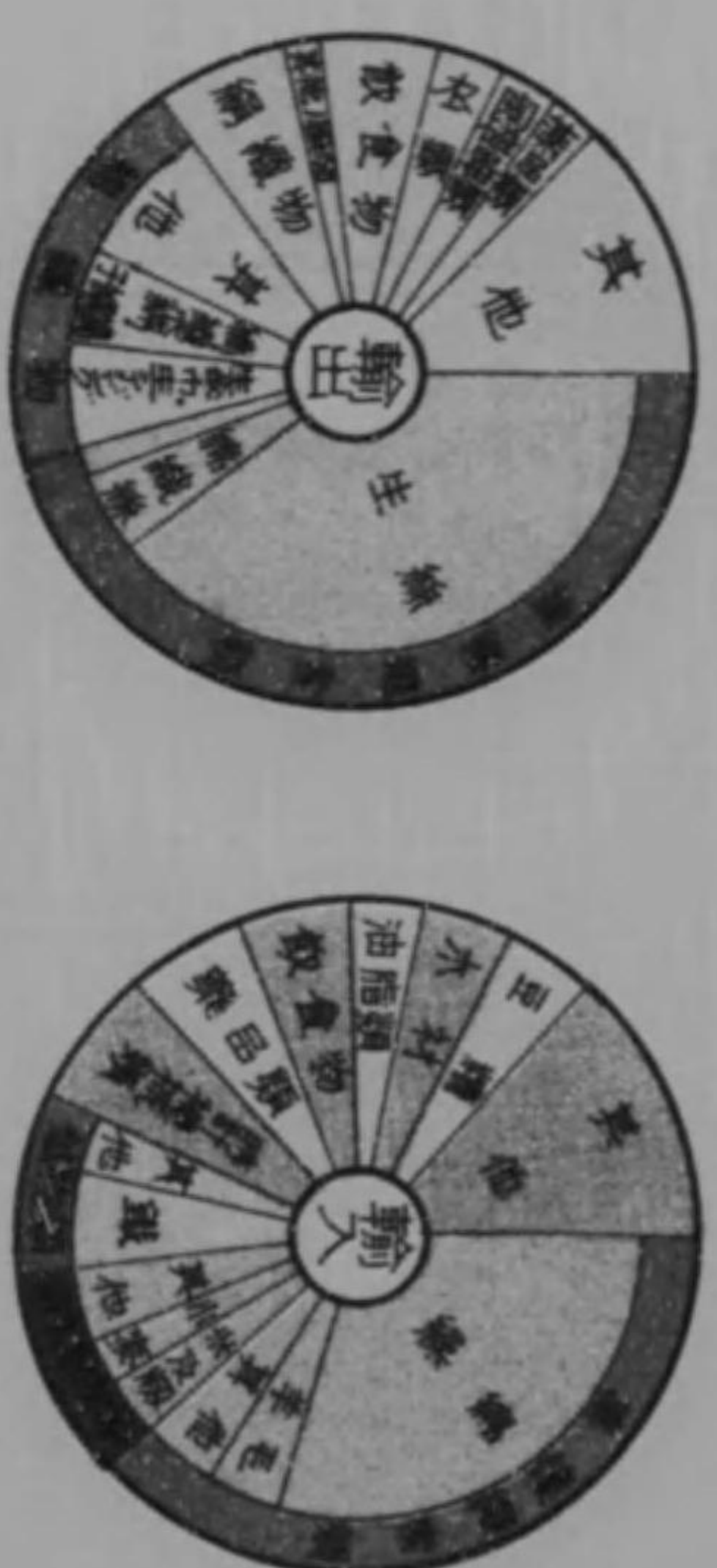
(大藏省)

我國外國貿易の大勢

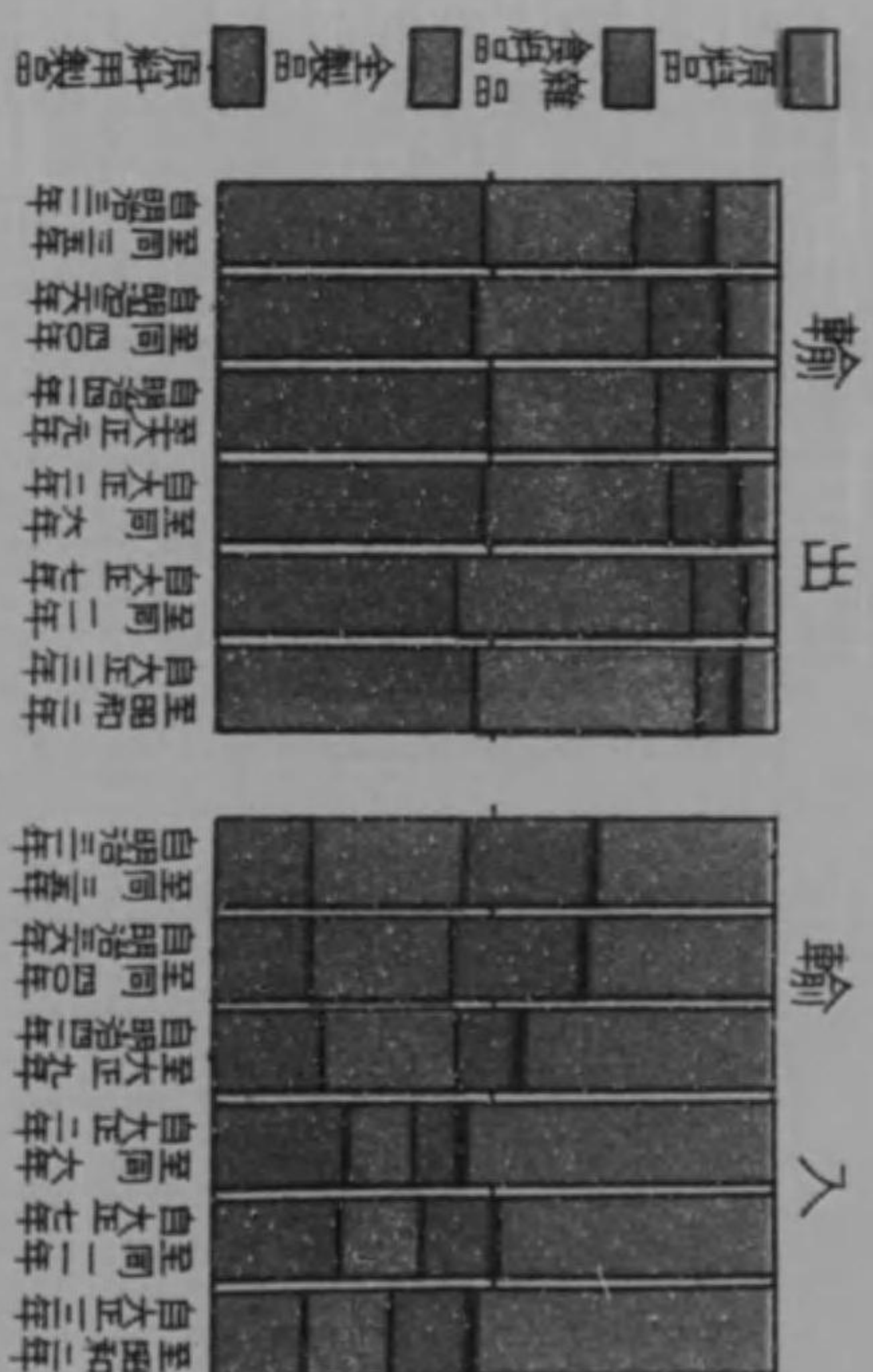
終には大正十二年より昭和二年迄の五々ともい年間に亘る品目別輸出入の大觀を掲げ、次に明治三十一年以來の出入大勢を、極めて端的に概観したもので、これは何人も一度は心を潜むべき必要があらうと思ふ。明治年間の傾向はいはゞ大正年代を誘導する一つの原因とも見るべく、即ち驚天動地の空前なる好況を、この故に大正八年及十四年に教えた伏線ともなつたのである。歐洲大戦が偶々日本をして一躍債權國に仕上げたことが、此の國の運程に關する大なる所産であり、又根本の目的でもあつた。勿論生糸は久しき歴史を有するもので、大正末年の機勢はともかくとするも、原料用製品の常に海外に輸送される有様は壯觀であつた。世界中の貿易を計算して見ても輸入がいつも多くてその差は輸出の七分内外であるが、運賃、保險料その他の雜費用が輸入額にのみ混じて居ることを忘れてはならぬのである。もし外債が益々増すとせば、貿易外支出も多くなるものと覺悟を要する。

我國外國貿易の大勢

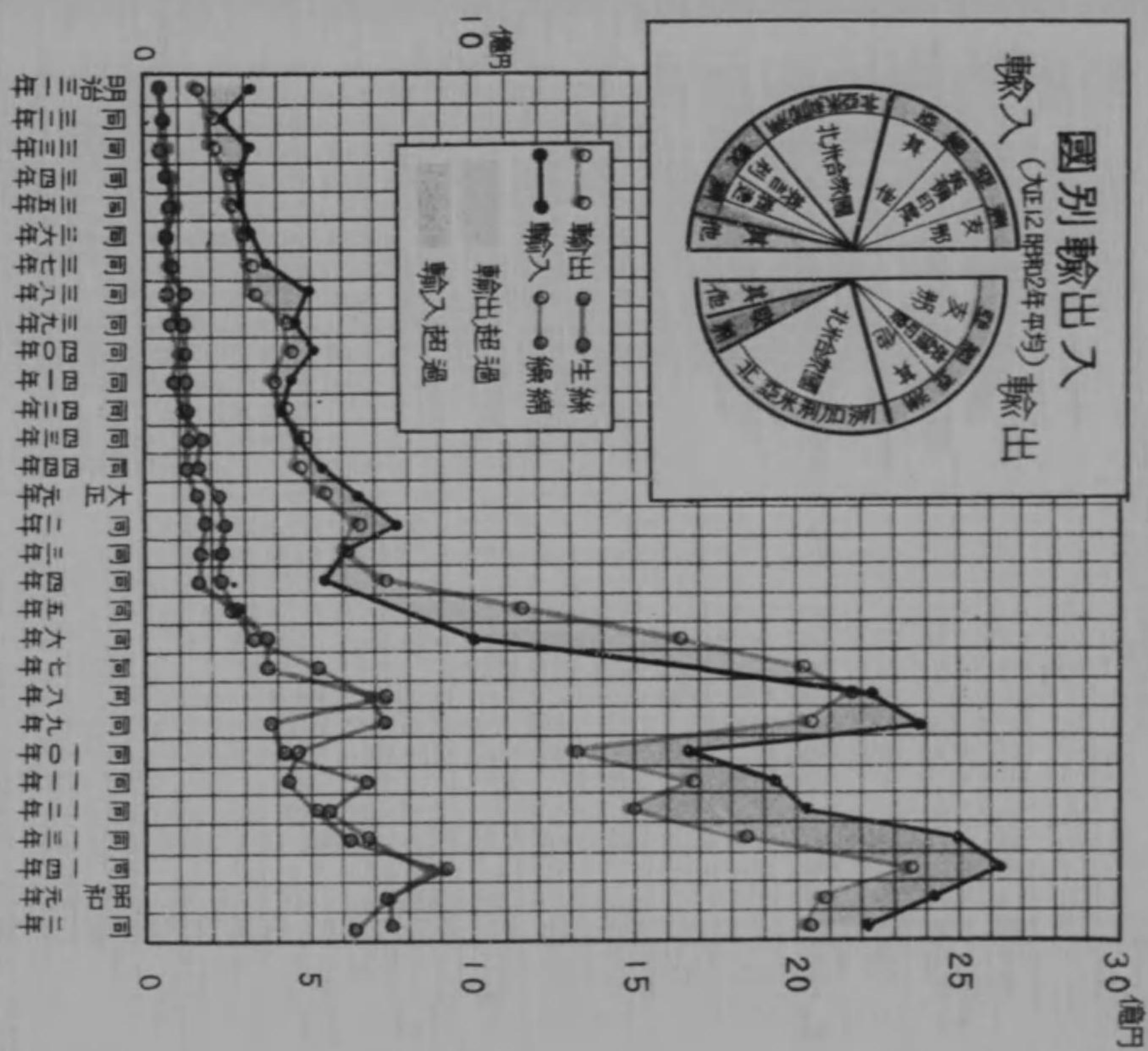
品目別輸出入 大正12年-昭和2年 五ヶ年平均



種類別輸出入 百分比 每五年平均



輸出入總額



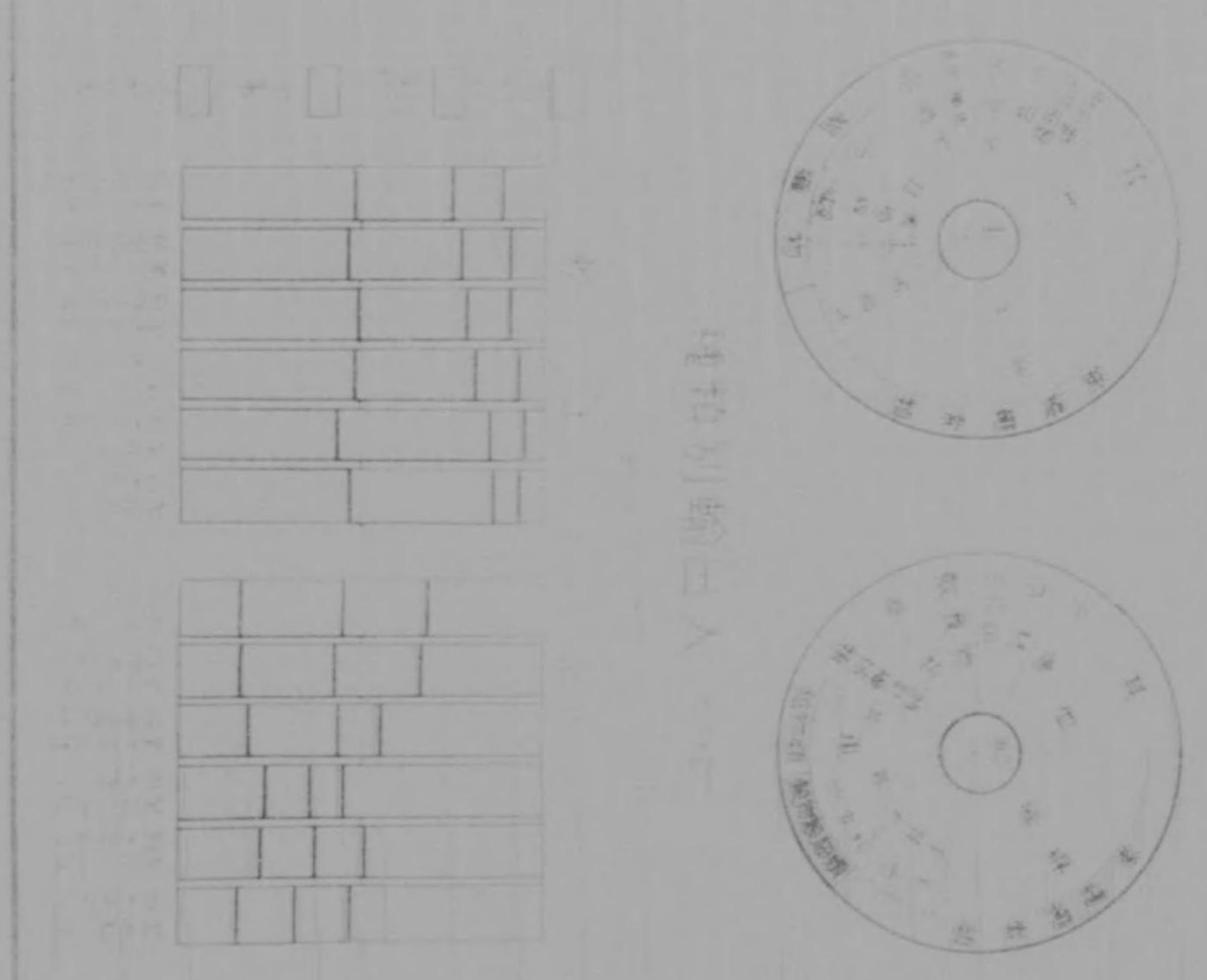
(内 關 稅 計 入)

我國外國貿易の大勢

輸出輸入総額



品目別輸出入



我が國の貿易は、明治維新以來、漸次開港場を増し、貿易の盛衰は、世界情勢に依りて変動する。然るに、大體として、貿易の額は、年々増加の傾向にある。これは、我が國の工業が發達し、生産力が増進したる結果である。特に、絹織物、茶、生絲、紙、鐵製品、機械品等の輸出は、著しく増加した。一方、輸入は、穀類、棉花、羊毛、糖、油、紙、鐵製品、機械品等である。貿易の増進は、我が國の経済を益し、生活水準を向上させた。然るに、貿易の増進は、同時に、外國の競争力も強めた。これは、我が國の産業に對して、大きな脅威となつた。従つて、我が國は、貿易の増進を維持し、産業の競争力を向上させるべく、努力を怠らなかつた。

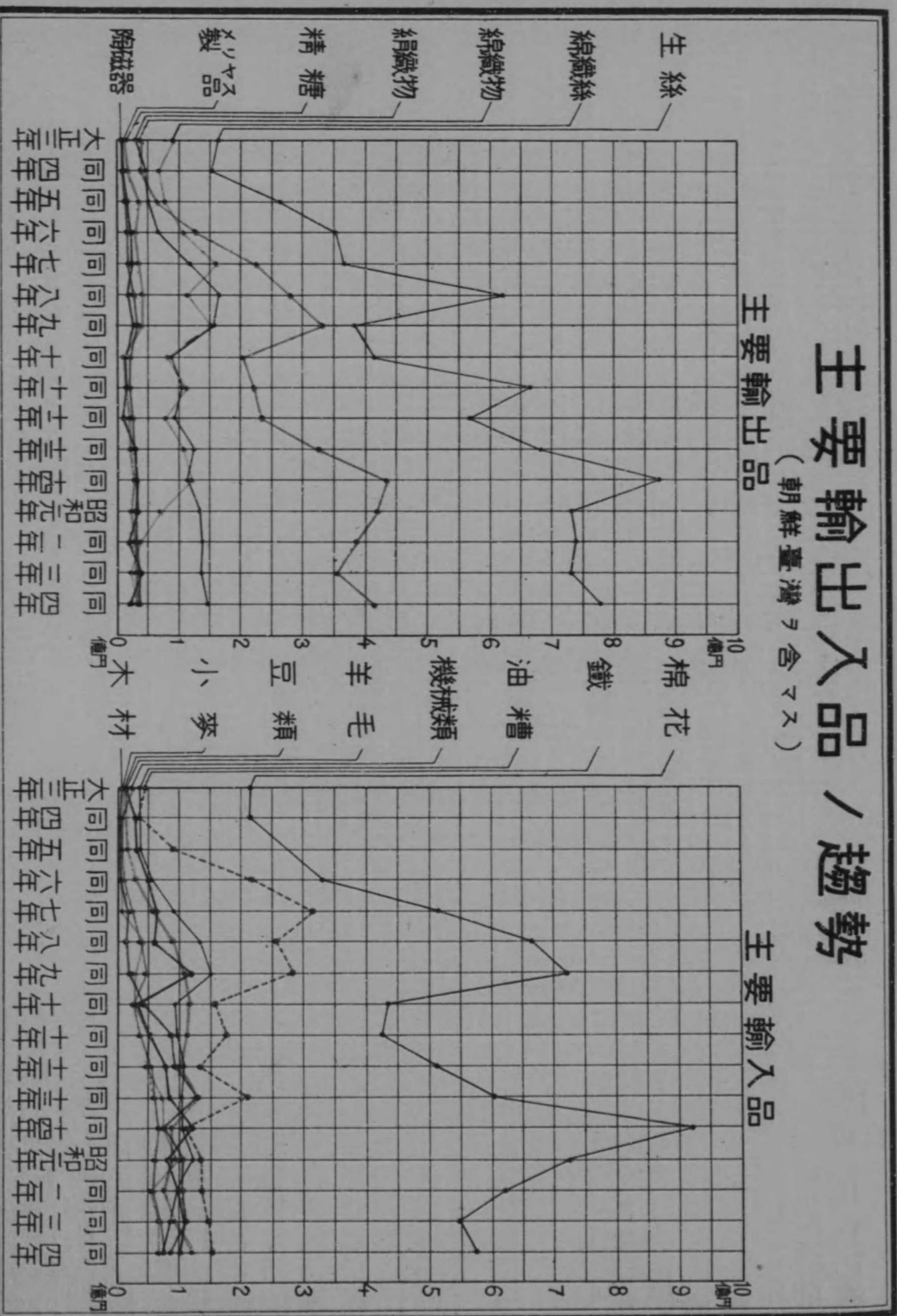
我が國貿易の大勢

主要輸出入品の趨勢

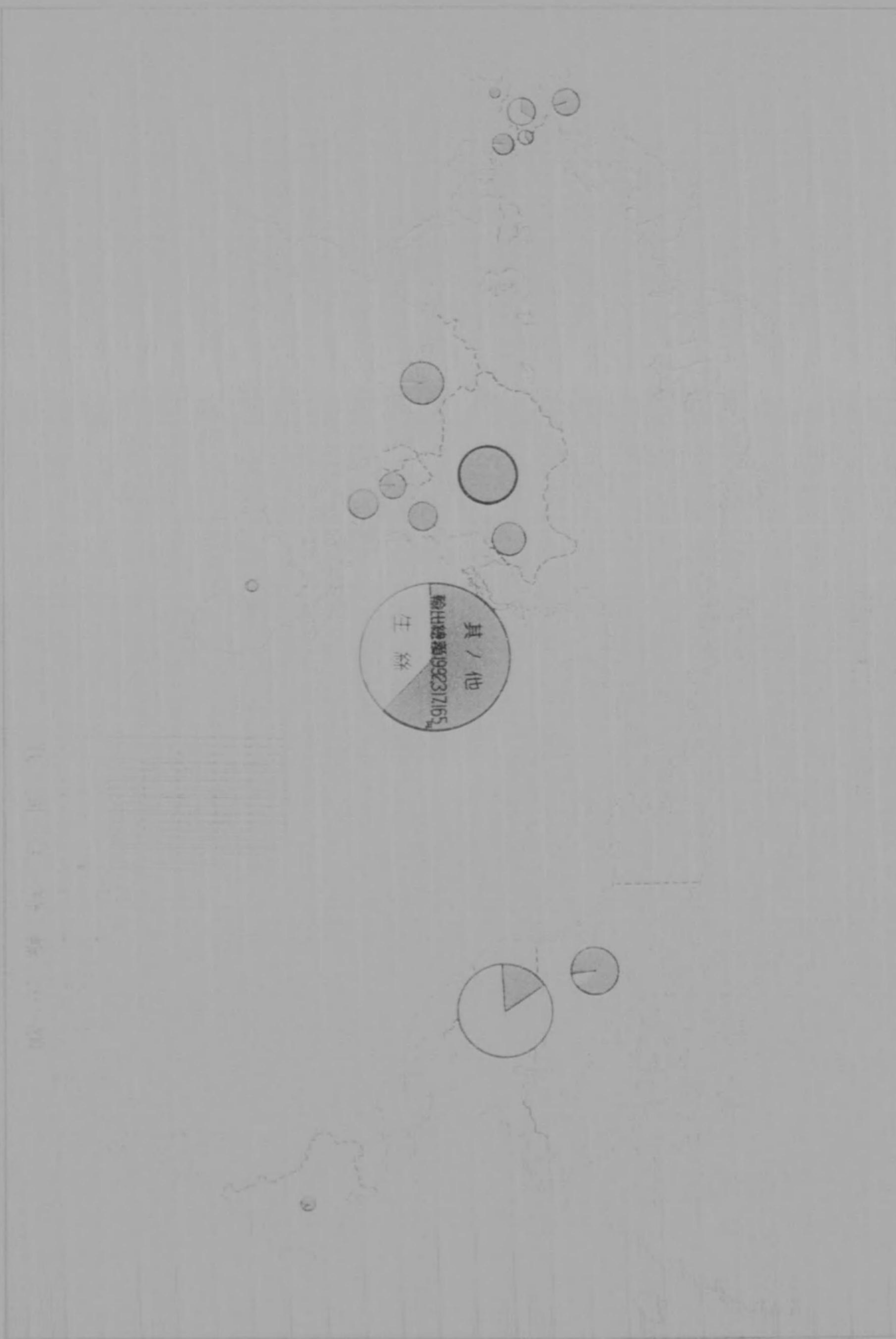
大正及昭和期の輸出入品を見るのは、既に漫山の情景を眺めた後の最後の興味といふべきで、棉花の原料品を他より仰がねば、本邦の綿織物及交織なぎの一切が動かす、日本から出す綿織物がこの輸入に及ばぬのは、單に價格の相違といふよりは、原料の供給を他から受入れる悲しむべき結果で、之を打開するには支那より印度なりへ進出するより外はない。生糸の輸出は大正十四年を以て最高とした。この年は精織物及屑糸真綿もよく出て總額十億圓に上つて居るのであつた。棉花の生産は米國が第一、印度が第二となつて居るのに、産せぬ日本が米と英に對いで大なる消費國となつて居るのは、此の工業が國權に合つた事を示すもので、二百五十萬俵の棉花が一々に消費せられて居る。製品として他出するのが此の量の何分一位であるかは今の處確数はないが、内地に棉花が減少してから朝鮮に栽培しようとする計畫もあつた。從來の朝鮮産は八萬二千七百十三噸位に過ぎない。

主要輸出入品ノ趨勢

(朝鮮 臺灣 フランス 含ラス)



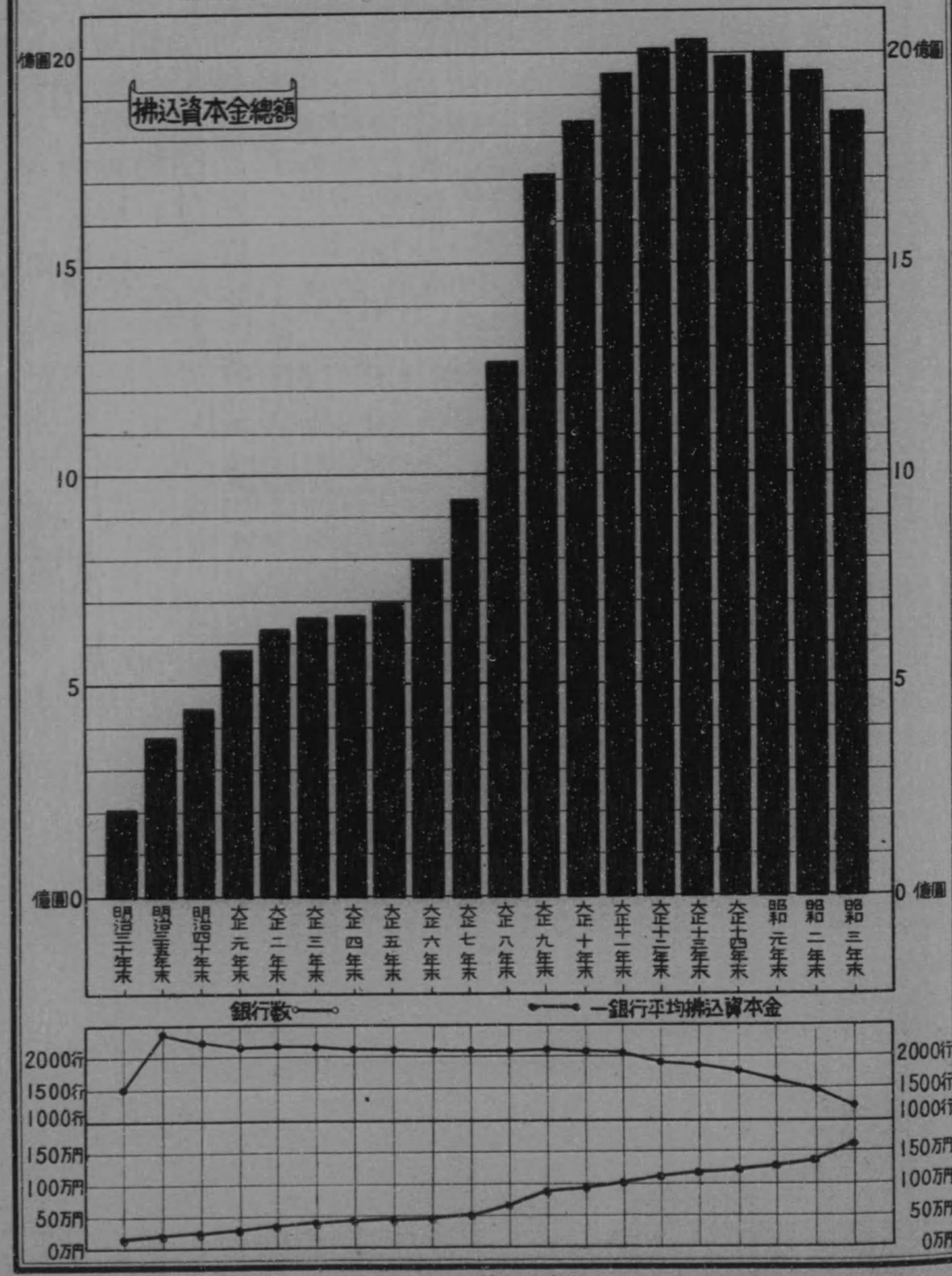
生絲ノ我輸出貿易上ニ於ケル地位



欠

MISSING

全國銀行行數及拂込資本金



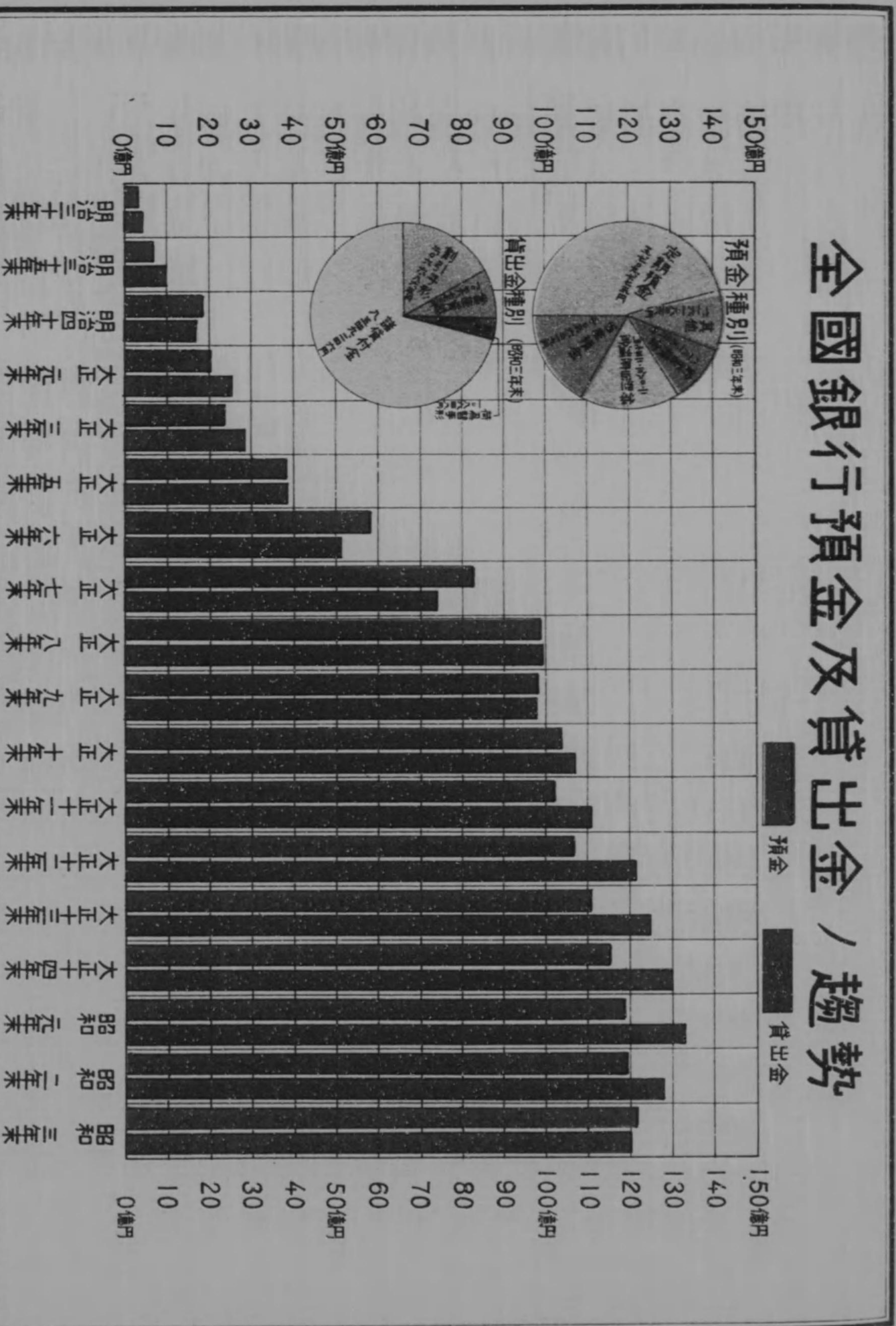
全國銀行行數及拂込資本金

大藏省の方針として近時しきりに小銀行合併が唱導且つ實行せられて居るが、これは基礎を固くし疎通をよくする爲大體に於て結構な企圖であるが、若し支店幹部に地方經濟に精通せぬ者が執掌するとせば、却て疎通を悪くする。ともかくこれが故に行數は減少した。今茲に明治三十年末の行數と、並に拂込資本金の増加とを比較すると大略本圖の如くには形態を作り得るのである。資本金額も大正六年頃から次第に擡頭の傾向を示し、七年より八年に至ては見上げるばかりの數となり、九年遂十五億四千萬圓臺を現はし、十二年末には二十億圓を超え、これを境界として次第に些少宛の減を見たが、是れは十四年後の財界反動にも關する事、然しながら一行資本金拂込額の趨勢に見ても確に増加をして居るのである。昭和二年に於ける財界未曾有の恐慌は今尙吾人の記憶に新たなる所である。

全國銀行預金及貸出金の趨勢

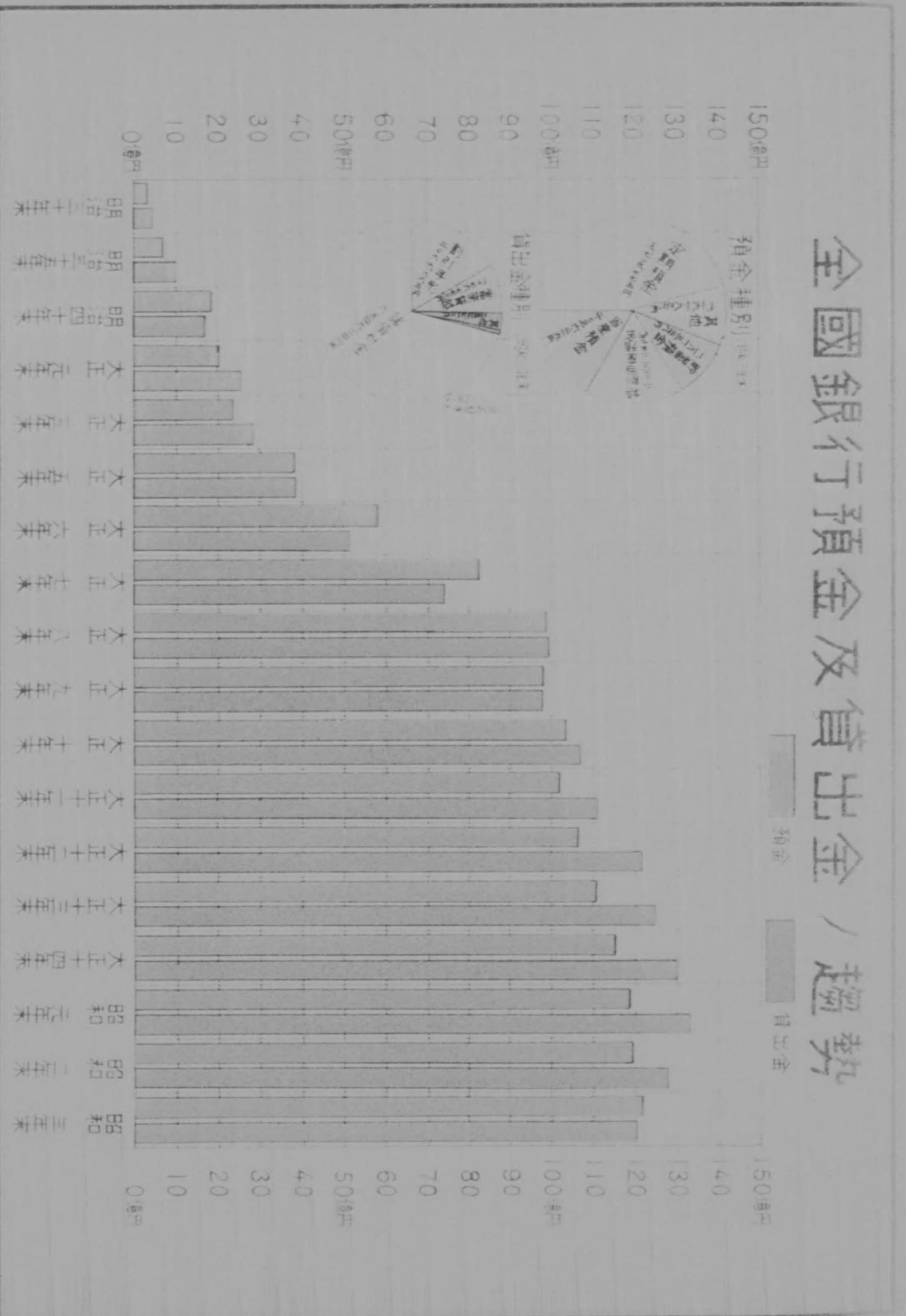
明治三十年時代よりの興味ある調査である。この現象とても道筋には世相と苦樂を共にする經歷があつた。大正年間の動態は、銀行事業の非常に大なる經驗であつて、金融機關が極端なる性能を表はしたことも、この時代の一特色であつた。大正八年末預金貸出も一〇〇億圓に近く、彼然と進歩の跡を示したのであるが、十四年末に至ては實に貸出金一三〇億圓と上つて、昭和期に入ての昂勝を、既にいで争んでゐたのは、一方財界に於ける遊金の非常に豊潤であつた事をも併せて記念する物であつて、此の平而なる反動は恐らく昭和三年以後に甚しく表はれるだらうとも思はれる。預金種別としては、定期預金が最高額で、貯蓄預金は賑やかではあるが、時に流通が激しいから、比率の上からでは勿論特別高懸金の高よりも少ない。

全國銀行預金及貸出金の趨勢



明治十一年時代は、大規模な貯蓄が、一般に流行した。この時代には、世相が安んじ、貯蓄の機会が多くなり、銀行も貯蓄の便を計り、各種の貯蓄方法を創出し、貯蓄の普及を期した。この時代は、貯蓄の普及と共に、銀行の貯蓄業務も大いに発達した。この時代は、貯蓄の普及と共に、銀行の貯蓄業務も大いに発達した。この時代は、貯蓄の普及と共に、銀行の貯蓄業務も大いに発達した。

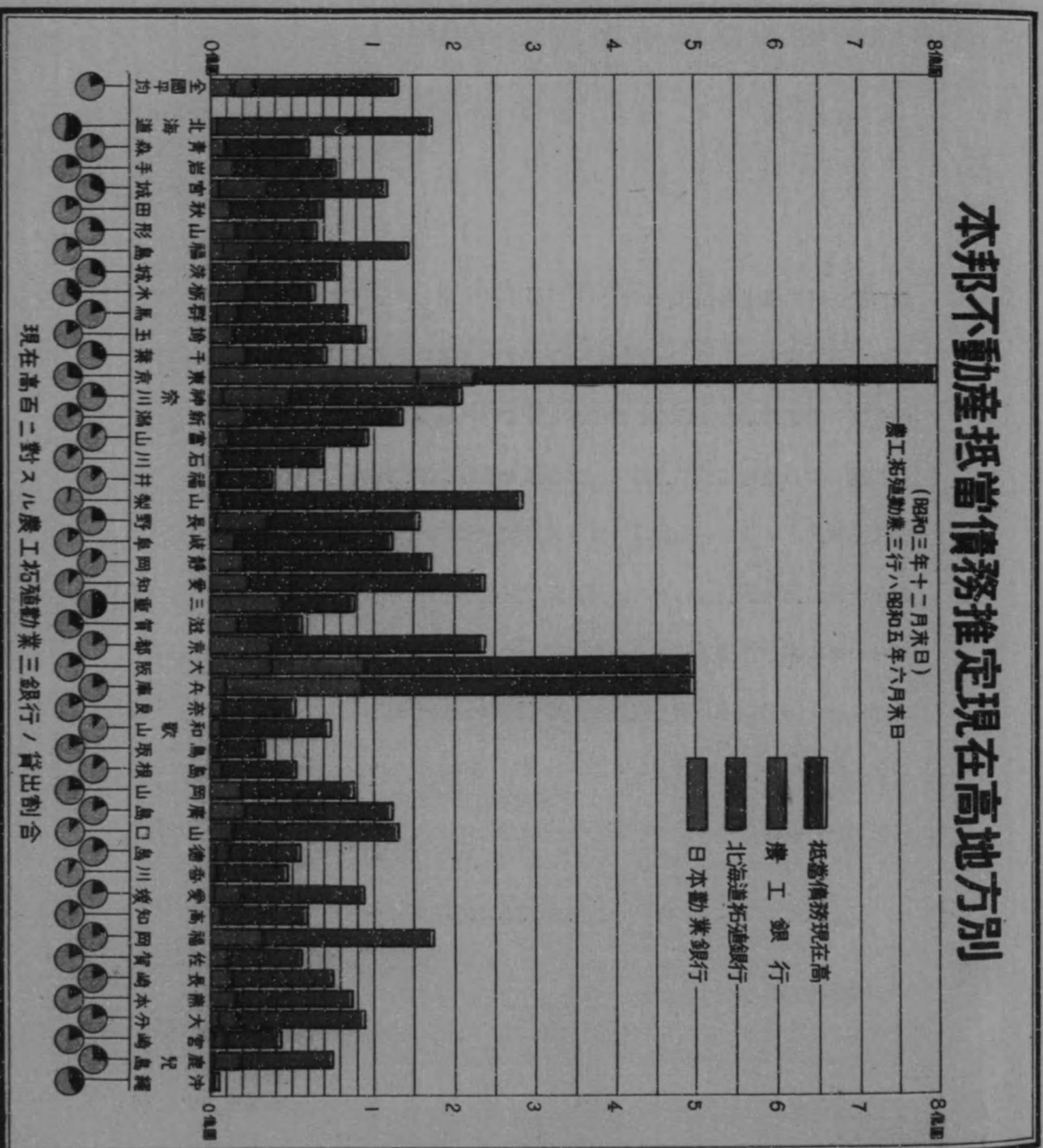
全國銀行預金及貸出金の趨勢



本邦不動産抵當債務推定現在高地方別

昭和三年十一月末日の不動産經常貸出高のうち、こゝに表はす農工、北海拓殖、勸業の三大銀行が、同じく不動産抵當の債務を、いかに各地に生ぜしめて居るものかを、昭和五年六月末日現在調査に依り、これを推定したものである。現在高百に對する三行合同の貸出割合を見ても、直ちに充弁なる懸念のつくやうに、北海道と三重とは極めてよく貸付られて居るのであつた。三重は近來貸付海百五十餘里に亘る漁業權の擴大と、灣内養殖業の進歩とから莫大なる金額の融通を必要とするが、主として此等の銀行より低利資金を仰いたからで、北海道も勿論殆ど同様の企圖に外ならぬ。東京の如きも既に全部の債務高實に八億圓に上り、大阪兵庫の各五億圓を遙に脚下に見て居ることは、これとても大正十二年の大災殃がすべての方面に支障を來したからの結果で、いづれは剩る遺産をともにかうして費用するが互によいことなのであるから、大にのみ立つ基礎がある。

本邦不動産抵當債務推定現在高地方別

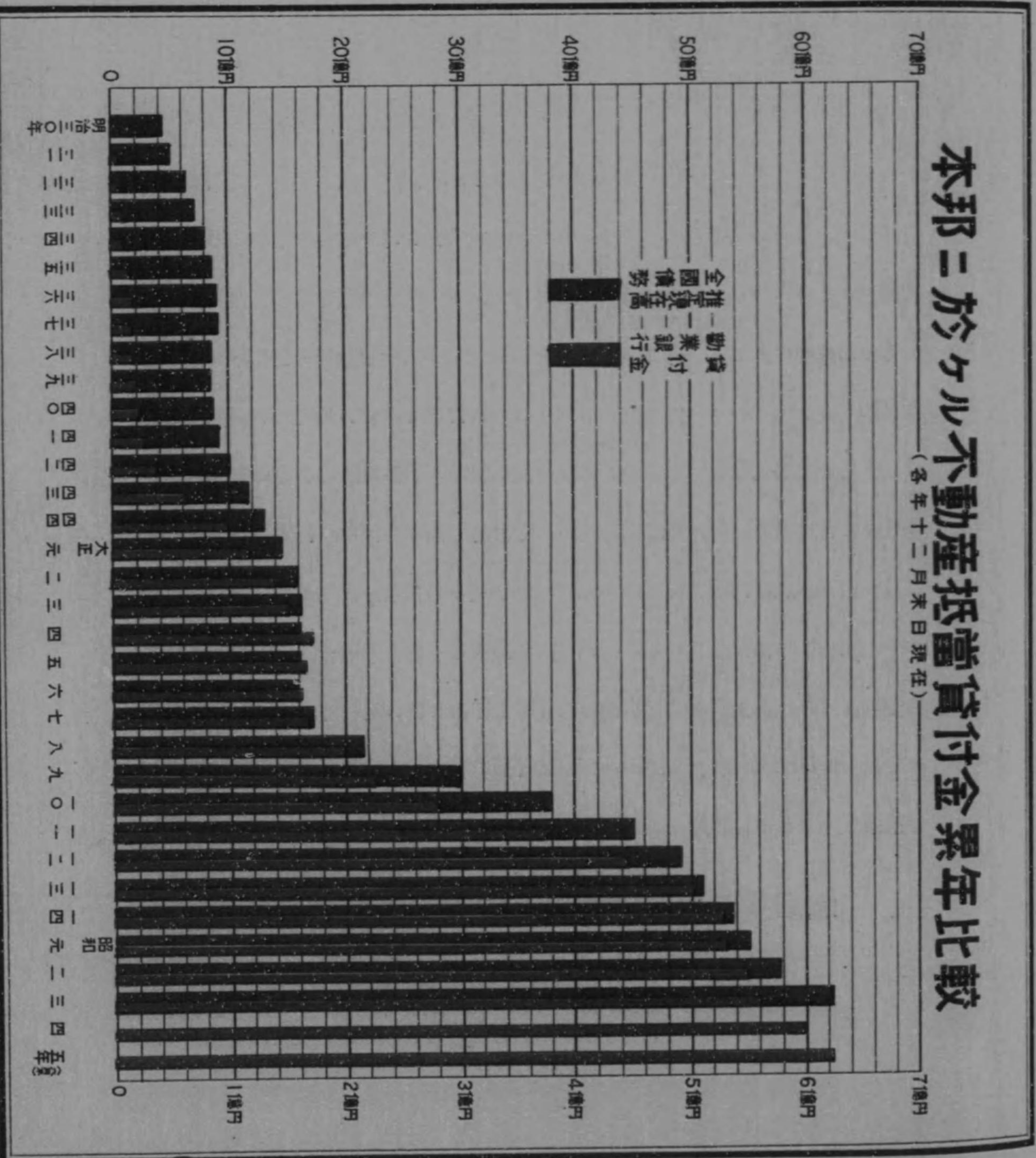


本邦に於ける不動産抵當貸付金累年比較

不動産を抵當とする債務の現在高が、概略でも分明になつたから次にこの抵當貸付金が、年次を逐うて左邊に迄上つて居るものかを、茲に一見しようと考へる確實なる見込と、其れに相應する不動産が實在すれば、即ち擔保抵當として貸付るのであるが、それは圖表に示すが如く、何といつても勸業銀行の貸付金なさは最も多く常に昂上して居る。全國債務高の推定現在よりは、勿論大抵は低下の位置にそわれ、其の實數に於ては見上けるばかりの好成績であつた。大正元年勸業銀行のみでも既に一億圓超過の大勢を現出して、順次に氣勢が熾られ、遂に昭和初期に入つては五億五千萬圓臺となつた。元年後の貸付高も亦前同様に巨額となつた。償還方法を毎年年末の近づくと共に各地方に發達し、さうして又新規なる貸付をも獎勵するのであるから、たとへ一時は普應しても勸業を相手にする側にあることは實は亦便利の譯である。

本邦ニ於ケル不動産抵當貸付金累年比較

(各年十二月末日現在)



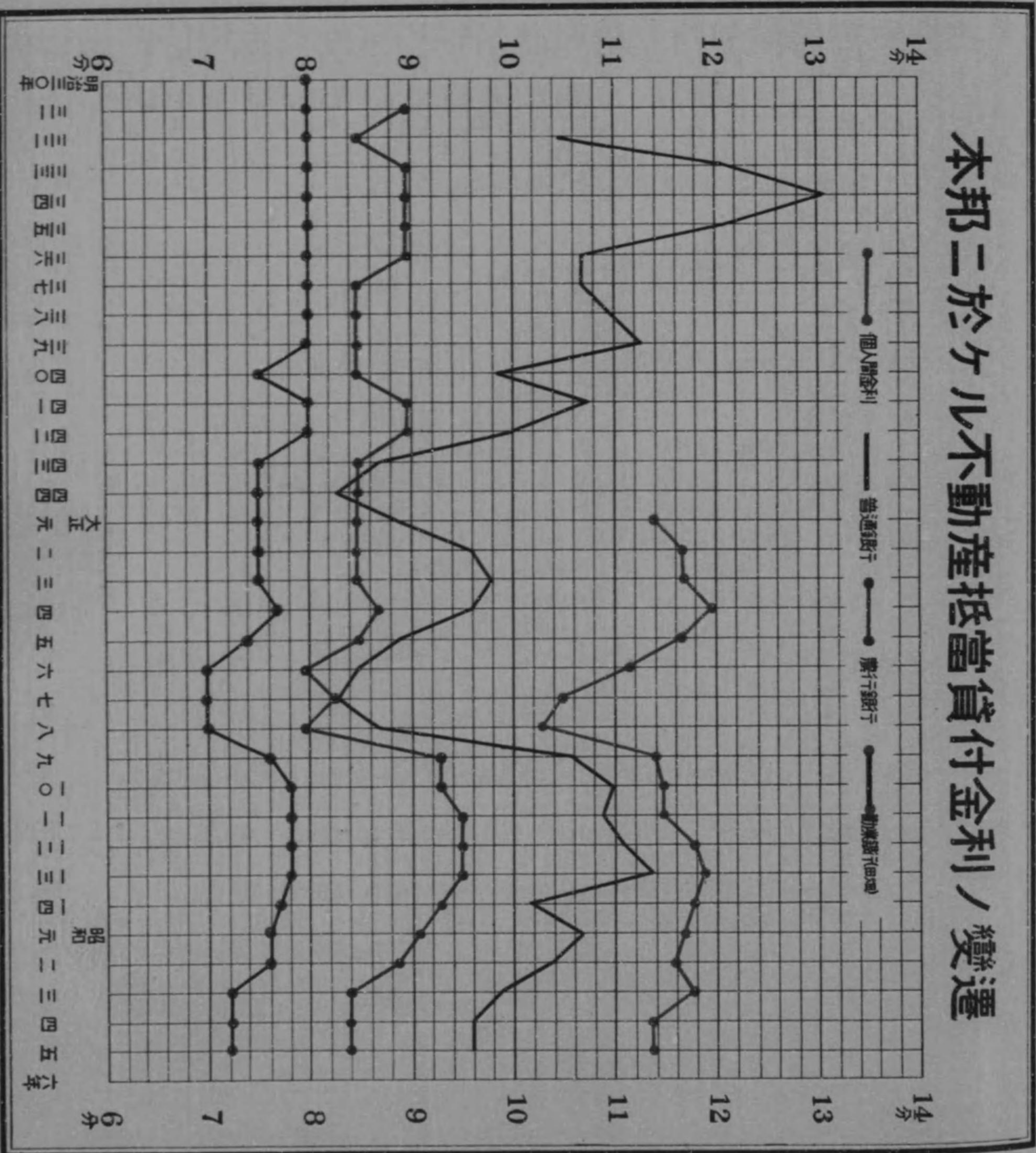
(日本勸業銀行)

本邦に於ける不動産抵當貸付金利の變遷

貸付金に關しての累年の景況が大體明白になつたから、次にはその金利の變遷を概覽することゝしよう。本圖の比較は即ち何人も常に關心して居るところの金利低の表であるから、これは格段の興味があらふ。最も低利なるものは勸業銀行である。明治三十年來の利率の變化を見ても、三十九年迄は些かの動搖をも見せぬ八分の通で、四十年に少々下げたが四十一・四十二年には再び昔にかへつた。其の後の變化こそ全く考察の興味がある。大正期に入るや時勢の大なる變りを経ては昔の八分に立直らんと焦り氣味にあるらしかつたが、六、七、八年は七分と低下して、遂に其後の變化はまことに妙味をさ表はすものがある。勸業銀行の如きは最初から難多な利率で、之は大正年間に前者と稍同様な傾向を示すに至つた事は面白い。普通銀行の利率に至つては前後を通じて實にかやうな變轉あるものであつた。借入者にとつても洵に一喜一憂で、單に個人間の久しい情性

に因る高利よりは、割合に淺き易いといふまでである。

本邦ニ於ケル不動産抵當貸付金利ノ變遷



田畑には勿論上中下の位があり、普通上田と評せられる物は、下田の約半額の價格になるものらしいが、畑は其の土地の特質、所謂土壤本來の成立によつて大に相異のあるものである。今大正二年以後の右の賣買價格を一覽しても、田の最高、普通、最低の價格が既にかういふ互合に價格の相違を示し、又時代の推移につれては田と畑と格とを異なれ稍同じき歩みを續けることを察せられるのである。大正八年の物價の高騰した場合は、やはりこの不動産も大に價値つけられて、前後比類なき土地成金出現の夢を如實にしたものである。地方に於ける一段歩の田も場所によつて其値に大なる差異はあるが、大體覺知なきは比較的高く昭和二年の價格九〇五圓、兵庫が八六七圓、福岡の八二〇圓新潟が六六一圓なきといはれ、全國平均七一九圓に當つたが一方畑も亦次第に高くなり、田が大正八年七〇六圓の平均を見る時、畑は四一八圓となつた。大正九年を百とする指數は田畑米價の關係、調金利の交渉此極めて興味多い有益の相關關係を探究すること出来る。

本邦に於ける田畑賣買價格累年比較

